

# 下阿内老町畑遺跡 下阿内前田遺跡

主要地方道前橋玉村線改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 下阿内壺町畑遺跡 下阿内前田遺跡

主要地方道前橋玉村線改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団







下阿内老町知遺跡・下阿内前田遺跡遠景（南上空より）



下阿内老町畑道跡1区微高地（古墳時代）



下阿内老町畑道跡1区  
1号土器集積出土遺物



下阿内老町畑道跡1区  
17号土坑出土遺物

# 序

〔下阿内町畑畑遺跡・下阿内前田遺跡〕は、前橋市新堀町・下阿内町に所在し、県道前橋玉村線改築工事に伴い、平成10・11年度に発掘調査された遺跡です。発掘調査は、群馬県教育委員会の調整により、群馬県土木部から委託を受けた財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施しました。

発掘調査の結果、古墳時代、平安時代、中・近世の遺構を中心に多くの遺物が発見されています。特に古墳時代前期・後期の浅間山・榛名山の火山灰、平安時代の浅間山の火山灰に覆われた水田跡や、江戸時代の天明年間の浅間山の噴火で畑に降った火山灰を除去した「灰掻き穴」は、群馬県平野部での古代からの農業経営の様子や火山の噴火という自然災害と人間とのかかわりを知る上で重要な遺構であります。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団では、発掘に引き続き、平成12年に群馬県土木部から委託を受け、整理作業を実施し、この度、報告書が刊行される運びとなった次第であります。

この報告書は、考古学研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの県民の皆様の研究にも大いに役立つものと確信しております。

最後になりましたが、群馬県土木部、群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査に携わった担当者、作業員の方々の労をねぎらい序といたします。

平成13年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小野 宇三郎



## 例 言

1. 本書は、前橋玉村線改築工事に伴い事前調査された下阿内町畑遺跡、下阿内前田遺跡の発掘調査報告書である。遺跡の名称については、前橋市教育委員会が町名と小字名をとり併せて命名したが、下阿内畑遺跡の「町畑」という小字は、明治以降の文献を調べた結果、「壱町畑」が正しい小字であることが判明し、報告書では、下阿内壱町畑遺跡と遺跡名を変更した。
2. 本遺跡は、群馬県前橋市新堀町・下阿内町に所在する。発掘調査区は、下阿内壱町畑遺跡が新堀町36-1・37・38・39-1~2・40・43-2~3、下阿内町1-1~5・5・6-1・7・8・9-1~2・10-1・86-1、下阿内前田遺跡は下阿内町76・77・78・79-1・81・82・83・84・85-1・92-1・93・94-1~2・95・96・97-1~2・98-1・200・201-2・202-1・203-1・204・205-1・206-1・207・208-1~2・209-1・210-1~2・211-1~3・212-2・213・228-2・229・230-1・224-1・225-1・226-1である。
3. 事業主体 群馬県土木部
4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 平成10年度 平成10年6月1日~平成11年3月31日  
平成11年度 平成11年4月1日~平成11年6月30日  
平成12年2月1日~平成12年3月31日
6. 調査組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 小寺弘之（平成10年6月22日迄）  
菅野 清（平成10年6月23日~平成11年5月31日）  
小野宇三郎（平成11年6月1日~）  
常務理事 菅野 清（平成10年6月22日迄）、赤山容造（平成10年6月23日~）  
事務局長 赤山容造  
管理部長 渡辺 健（平成10年度）、住谷 進（平成11年度）  
調査研究第1部長 赤山容造（平成10年度）、神保脩史（平成11年度）  
総務課長 坂本 敏夫  
調査研究第1課長 平野 進一（平成10年度）  
第2課長 真下 高幸（平成11年度）  
第3課長 小山 友孝（平成11年度）  
事務担当 笠原秀樹、小山健夫、須田朋子、吉田有光、宮崎忠司、片岡徳雄、岡嶋伸昌、柳岡良宏、大澤友治、吉田恵子、並木綾子、今井もと子、内山佳子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、若田 誠、松下次男、浅見宣記、吉田 茂  
調査担当  
下阿内壱町畑遺跡 関根慎二（主幹兼専門員）、今井和久（専門員）、黒澤はるみ（嘱託員）  
下阿内前田遺跡 原 雅信（主幹兼専門員）、山口逸弘（主幹兼専門員）、関根慎二  
児島良昌（専門員）、今井和久、根岸 仁（専門員）、小成田涼子（調査研究員）  
黒澤はるみ、原 眞（嘱託員）
7. 調査面積 36,379㎡（下阿内壱町畑遺跡18,746㎡、下阿内前田遺跡17,633㎡）

8. 整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
9. 整理期間 平成12年4月1日～平成13年3月31日
10. 整理組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- |          |  |
|----------|--|
| 理事長      | 小野宇三郎  |
| 常務理事     | 赤山 容造  |
| 事務局長     | 赤山 容造  |
| 管理部長     | 住谷 進   |
| 調査研究第1部長 | 水田 稔   |
| 総務課長     | 坂本 敏夫  |
| 資料整理課長   | 西田 健彦  |
| 事務担当     | 笠原秀樹、須田朋子、片岡徳雄、小山建夫、吉田有光、柳岡良宏、森下弘美、大澤友治、並木綾子、今井もと子、内山佳子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、若田 誠、松下次男、吉田 茂、藤原正義 |
| 整理担当     | 今井 和久  |
| 整理嘱託員    | 黒澤はるみ  |
| 整理補助員    | 岩淵節子、戸神晴美、馬場信子、高橋優子、小林恵美子、渡辺八千代  |
11. 本報告書作成の担当
- |           |                        |
|-----------|------------------------|
| 編 集       | 今井 和久、黒澤はるみ            |
| 本 文 執 筆   | 今井 和久                  |
| 土師器・須恵器観察 | 黒澤はるみ                  |
| 陶磁器観察     | 大西 雅弘                  |
| 石器観察      | 岩崎 泰一                  |
| 人骨の鑑定     | 檜崎修一郎                  |
| 遺構写真撮影    | 発掘調査担当者                |
| 空中写真撮影    | (株) 測研                 |
| 地上測量      | 技研測量設計株式会社、アコン測量設計株式会社 |
| 遺物写真撮影者   | 佐藤元彦                   |
| 木製品保存処理   | 関 邦一、小村浩一、土橋まり子、高橋初美   |
| 木器実測      | 藤井文江、伊東博子              |
| 機械実測      | 佐藤美代子、田中富子、富沢スミ江、矢島三枝子 |
| 自然科学分析    | 株式会社古環境研究所             |
| 石材鑑定      | 群馬地質研究会 飯島静男           |
| 樹種同定      | バリノ・サーヴェイ株式会社          |
12. 本報告書の本文、観察表の執筆の一部については下記の当事業団職員に協力を依頼した。
- (遺構) 原 雅信、山口逸弘、関根慎二、児島良昌
- (遺物) 大木紳一郎、谷藤保彦、新井 仁
13. 発掘調査資料、出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

14. 発掘調査にあたっては、下記の方々に、発掘作業に従事していただいた。お名前を記して心から感謝の意を表する次第である。(敬称略、五十音順)

朝倉政代、足立信二、青木純子、青木雅代、天田トシ、新井勝治、新井菊江、新井幸子、荒木達雄、有坂秀信、安藤好美、飯塚厚、伊佐悦子、石川真也、石川輝子、井野口久代、植木勲、宇賀美代子、浦野千代子、浦辺章、江原岳志、大井田順子、大澤美千枝、大雷展子、大嶋博、大塚博男、岡田金五、小川照男、小木博、小木良江、奥木清、小田島ふじの、小野木年江、柿沼英、笠井正雄、俣田寿、金井百合子、金沢きみゑ、金子久子、狩野登茂子、狩野基次、狩野直次、狩野賢、加納文代、加納康利、柄沢マサ子、川辺進、北原弘、北村利子、籾淵長、工藤きみよ、久保田光枝、久保初江、栗原静江、栗原保、木村広美、木暮昂二、小杉君代、小林きよ子、小林文吉、小松原傳吉、近藤上、斎藤初美、斎藤花代、佐々木雅子、佐藤和子、佐藤茂夫、佐藤重夫、佐藤ミサヲ、静幸代、設楽清、篠田貞子、篠原徳市、島田八千代、清水孝藏、清水茂、清水次子、清水幸子、神宮香代子、神保君江、須藤満佐子、関口エイ、関口弘子、関清、関端幸子、関根清子、関根英雄、芹沢市子、萱田要、高垣松子、高野辺トリ子、高橋一江、高橋千秋、高橋英夫、高橋春代、高橋三夫、高山日出夫、滝上光代、武井綾子、武井ヒロ子、竹内八重子、竹鼻タキノ、田島美枝子、田中八千代、田中みき江、田中美代子、田邊善三、田野満衛、田村房江、榎田久恵、富所精次、辻みつる、都筑八重子、堤弘、堤静子、手島栄治、富沢成子、富沢宗一、富澤美代子、富澤りき、内藤弘、長井登喜雄、中井英之、永井涼子、永井寛治、中里見友江、中里八郎、中島エイ子、中島タキ子、永町勝子、中山恵美子、成瀬ケイ子、西潟登、中島康男、標島静子、根岸一夫、根岸正一、橋爪真澄、橋元裕児、長谷川ツネ子、原澤満仲、春山米子、平井登、平井恒子、福田利夫、星野悦子、星野ミドリ、本多セツ、前川章、真下次子、町田花子、松井千代藏、松井多喜、松島淳子、松本町子、松本玲子、丸山秀雄、丸山三代子、三木幹枝、水野さかゑ、峰川三七三、向井まさ江、武藤とく江、村磯光子、室清美、森田裕子、矢口いつ子、矢口昇一、山田常治、山田正子、山中朗、山本幸枝、山本芳子、湯浅安代、吉澤繁、吉田むつ、吉田房子、若林トヨ子、渡部富江、渡辺紀子

15. 発掘調査及び本書の作成にあたっては、次の方々にご教示、ご指導をいただいた。記して深甚なる感謝の意を表す次第である。

前橋市教育委員会、前橋土木事務所、地元関係者各位、当事業団職員

## 凡 例

1. 挿入中に使用した方位は、座標北を表している。座標系は、日本平面直角座標系（国家座標）第IX系で、本遺跡の起点座標値は、X=35,800m、Y=-65,100mである。
2. 遺構断面実測図、等高線に記した数値は標高を表し、単位は、mを用いた。
3. 遺構の位置を示すグリッドの表記は、その遺構が掛かるグリッド名をすべて示した。
4. 遺構名称は、下阿内老町畑遺跡では、遺構の種別毎に通し番号を付した。下阿内前田遺跡では、それぞれの調査区毎・遺構の種別毎に通し番号を付した。
5. 遺構・遺物実測図の縮尺率は、原則として下記のとおりとし、各図にスケールを入れた。  
 遺構 円形建物跡・風倒木痕・灰掻き穴・竪穴状遺構 1:60 土坑・井戸・土坑墓 1:40  
 土器集積 1:20 溝・復旧溝・道状遺構 1:100、1:80 水田 1:300、1:200 断面図 1:40  
 その他の遺構、及び概念図・全体図については、逐一縮尺率を示した。  
 遺物 土器・陶磁器 1:3 木器 1:3 古銭 1:1 煙管 1:2 ガラス製品 1:3  
 (石器・石製品) 石製模造品・石鏃・火打ち石 1:1 磁石・擦石・敲石 1:3 板碑・石白 1:6  
 (土製品) 土鍾 1:2 泥面子 1:1  
 同一実測図中に縮尺率の異なる図を併載した場合は、図右下にそれぞれ縮尺率を記載した。  
 遺物実測図の中軸線の一点鎖線は回転実測、実線は直接実測を表す。
6. 写真図版の遺物の縮尺率は概ね 1:1~1:6 であり、遺物図の縮尺図とは必ずしも一致しない。
7. 遺構の方位は、北を基準に傾きを計測した。東に傾いた場合 N-○-E というように表記した。
8. 本書では、テフラの呼称として、下記の略語を用いる。

テフラ等の名称	略 語	年 代
浅間A軽石	A s - A	1783 (天明3) 年
浅間B軽石	A s - B	1108 (天仁元) 年
榛名ニッ岳伊香保テフラ	H r - F P	6世紀中葉
榛名ニッ岳渋川テフラ	H r - F A	6世紀初頭
浅間C軽石	A s - C	4世紀初頭

9. 本書の図版に使用したスクリーントーンは、次のことを示す。下記以外は図版ごとに凡例を示す。

A s - A (断面)		A s - B (断面)		H r - F A (平面)	
擦面 (石器)		吸炭 (土器)		地山 (断面図)	

10. 水田面積の計測は、畦畔の下端で求め、プランメーターで3回計測し、その平均値を採用した。
11. 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。  
 国土地理院 地形図 1:25,000 「高崎」「前橋」「大胡」「伊勢崎」  
 国土地理院 地勢図 1:200,000 「長野」「宇都宮」  
 前橋市都市計画図 (現形図) 1:2,500 「No.76」「No.81」



# 目 次

口絵

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

## 第1章 発掘調査の経過と方法

第1節 発掘調査に至る経緯 ..... 3

第2節 発掘調査の方法

1、調査区の設定 ..... 4

2、グリッドの設定 ..... 4

3、調査の方法 ..... 4

第3節 発掘調査の経過

1、下阿内町町知遺跡 ..... 7

2、下阿内前田遺跡 ..... 8

第4節 基本土層 ..... 9

## 第2章 立地と周辺遺跡

第1節 遺跡の立地 ..... 13

第2節 周辺遺跡と歴史的環境 ..... 14

## 第3章 下阿内町町知遺跡の調査

第1節 調査の概要 ..... 25

第2節 基本土層 ..... 25

第3節 検出された遺構と遺物

1、中・近世の調査 ..... 27

2、平安時代の調査 ..... 42

3、古墳時代の調査 ..... 54

4、遺構外出土遺物 ..... 97

5、計測表 ..... 102

## 第4章 下阿内前田遺跡の調査

第1節 調査の概要 ..... 112

第2節 基本土層 ..... 112

第3節 検出された遺構と遺物

1、中・近世の調査 ..... 114

2、平安時代の調査 ..... 159

3、古墳時代の調査 ..... 189

4、遺構外出土遺物 ..... 212

5、計測表 ..... 216

## 第5章 自然科学分析

第1節 下阿内町町知遺跡1号土坑墓出土人骨  
..... 221

第2節 下阿内町町知遺跡1号土坑墓出土漆片付  
着木質の観察 ..... 226

第3節 下阿内前田遺跡における自然科学分析  
..... 228

## 第6章 まとめ

第1節 As-B下水田と条里制地割りについて  
1、As-B下水田について ..... 240

2、下阿内町町知・下阿内前田遺跡の条里制  
地割りについて ..... 241

第2節 調査のまとめ ..... 244

## 報告書抄録

下阿内町町知 写真図版（遺構、遺物）

下阿内前田 写真図版（遺構、遺物）

# 挿 図 目 次

第 1 図	下阿内老町畑・下阿内前田遺跡の位置図 (1:200,000)	.....	2
第 2 図	下阿内老町畑・下阿内前田遺跡の調査範囲図 (1:4,000)	.....	5
第 3 図	下阿内老町畑・下阿内前田遺跡のグリッド設定図 (1:4,000)	.....	6
第 4 図	下阿内老町畑・下阿内前田遺跡基本土層模式図	.....	10
第 5 図	下阿内老町畑・下阿内前田遺跡の周辺地形分類図 (1:40,000)	.....	12
第 6 図	下阿内老町畑・下阿内前田遺跡の周辺遺跡図 (1:25,000)	.....	17

## 下阿内老町畑遺跡

第 7 図	老町畑遺跡中世近世遺構概念図 (1:1,500)	.....	22
第 8 図	老町畑遺跡平安時代遺構概念図 (1:1,500)	.....	23
第 9 図	老町畑遺跡古墳時代遺構概念図 (1:1,500)	.....	24
第 10 図	老町畑遺跡基本土層図 基本土層作成位置図 (位置図は1:4,000)	.....	26
第 11 図	老町畑 5 区 11号溝実測図	.....	27
第 12 図	老町畑 5 区 11号溝出土遺物実測図	.....	28
第 13 図	老町畑 1~3 区 15・16号溝実測図(1)	.....	29
第 14 図	老町畑 1~3 区 15・16号溝実測図(2)	.....	31
第 15 図	老町畑 1~3 区 15・16号溝実測図(3)	.....	32
第 16 図	老町畑 2・3 区 16号溝出土遺物実測図	.....	33
第 17 図	老町畑 5 区 17号溝実測図	.....	34
第 18 図	老町畑 6 区 18号溝実測図	.....	35
第 19 図	老町畑 7 区 19号溝実測図	.....	36
第 20 図	老町畑 10区 20号溝実測図	.....	37
第 21 図	老町畑 10区 20号溝出土遺物実測図	.....	38
第 22 図	老町畑 10区 21号溝実測図(1)	.....	39
第 23 図	老町畑 10区 21号溝実測図(2)	.....	40
第 24 図	老町畑 7 区 1号~7号仮掘き穴実測図	.....	41
第 25 図	老町畑 2・3 区 7号土坑・出土遺物実測図	.....	42
第 26 図	老町畑 1 区 1号土坑墓実測図	.....	42
第 27 図	老町畑 1 区 1号土坑墓出土遺物実測図	.....	42
第 28 図	老町畑 1 区 As-B 下水田実測図	.....	44
第 29 図	老町畑 2 区 As-B 下水田実測図	.....	45
第 30 図	老町畑 3 区 As-B 下水田実測図	.....	47
第 31 図	老町畑 4 区 As-B 下水田実測図	.....	48
第 32 図	老町畑 5 区 As-B 下水田実測図	.....	49
第 33 図	老町畑 6 区 As-B 下水田実測図	.....	50
第 34 図	老町畑 7 区 As-B 下水田実測図	.....	51
第 35 図	老町畑 8 区 As-B 下水田実測図	.....	52
第 36 図	老町畑 1 区円形建物跡実測図	.....	54
第 37 図	老町畑 1 区 1号土器集積・出土遺物実測図(1)	.....	55
第 38 図	老町畑 1 区 1号土器集積出土遺物実測図(2)	.....	56
第 39 図	老町畑 1 区 1号土器集積出土遺物実測図(3)	.....	57
第 40 図	老町畑 1 区 1号土坑・出土遺物実測図	.....	61
第 41 図	老町畑 1 区 2号土坑・出土遺物実測図	.....	62
第 42 図	老町畑 1 区 2~4号土坑・出土遺物実測図	.....	63
第 43 図	老町畑 1 区 4・5・7号土坑・出土遺物実測図	.....	64
第 44 図	老町畑 1 区 8~11号土坑・出土遺物実測図	.....	65
第 45 図	老町畑 1 区 12・14・15号土坑・出土遺物実測図	.....	66
第 46 図	老町畑 1 区 16・17号土坑・出土遺物実測図	.....	67
第 47 図	老町畑 1 区 17号土坑出土遺物実測図	.....	68
第 48 図	老町畑 1・2 区 18~20号土坑・出土遺物実測図	.....	69
第 49 図	老町畑 1 区 1号井戸実測図	.....	73
第 50 図	老町畑 2 区 2号井戸・出土遺物実測図	.....	74
第 51 図	老町畑 1 区 3号井戸・出土遺物実測図	.....	75
第 52 図	老町畑 6 区 4号井戸実測図	.....	76
第 53 図	老町畑 1 区 1 a・b・c 号溝実測図	.....	77
第 54 図	老町畑 1 区 1 c 号溝・出土遺物実測図	.....	78
第 55 図	老町畑 1 区 2・3 号溝・出土遺物実測図	.....	79
第 56 図	老町畑 1 区 4号溝出土遺物実測図	.....	80
第 57 図	老町畑 2 区 4号溝実測図	.....	81
第 58 図	老町畑 2 区 5号溝実測図	.....	84
第 59 図	老町畑 2 区 6号溝実測図	.....	85
第 60 図	老町畑 2 区 7号溝実測図(1)	.....	86
第 61 図	老町畑 2・3 区 7号溝・出土遺物実測図(2)	.....	87
第 62 図	老町畑 2・3 区 8号溝実測図	.....	88
第 63 図	老町畑 4 区 9号溝実測図	.....	89
第 64 図	老町畑 4 区 10号溝・5 区 12号溝実測図	.....	90
第 65 図	老町畑 6 区 13号溝実測図	.....	91
第 66 図	老町畑 6 区 14・22号溝実測図	.....	92
第 67 図	老町畑 1 区 1号壁伏遺構実測図	.....	93
第 68 図	老町畑 1 区 1号風筒木版実測図	.....	93
第 69 図	老町畑 1 区 2・3号風筒木版実測図	.....	94
第 70 図	老町畑 1 区 4号風筒木版実測図	.....	95
第 71 図	老町畑 2 区 H-F 下水田実測図	.....	96
第 72 図	老町畑遺跡遺構外出土遺物実測図(1)	.....	97
第 73 図	老町畑遺跡遺構外出土遺物実測図(2)	.....	98
第 74 図	老町畑遺跡遺構外出土遺物実測図(3)	.....	98
第 75 図	老町畑遺跡遺構外出土遺物実測図(4)	.....	99
第 76 図	老町畑遺跡遺構外出土遺物実測図(5)	.....	99

## 下阿内前田遺跡

第 77 図	前田遺跡中世近世遺構概念図 (1:2,000)	.....	106
第 78 図	前田遺跡平安時代遺構概念図 (1:2,000)	.....	108
第 79 図	前田遺跡古墳時代遺構概念図 (1:2,000)	.....	110
第 80 図	前田遺跡基本土層図 基本土層作成位置図 (位置図は1:4,000)	.....	113
第 81 図	前田 A 区 2~4号土坑実測図	.....	115
第 82 図	前田 A 区 5~11・13・14号土坑実測図	.....	116
第 83 図	前田 A 区 6~8号溝実測図(1)	.....	118
第 84 図	前田 A 区 6号溝実測図(2)	.....	119
第 85 図	前田 A 区 6号溝・出土遺物実測図(3)	.....	120
第 86 図	前田 A 区 6号溝出土遺物実測図(4)	.....	121
第 87 図	前田 A 区 6号溝出土遺物実測図(5)	.....	122
第 88 図	前田 A 区 6号溝出土遺物実測図(6)	.....	123
第 89 図	前田 A 区 17・18号溝実測図	.....	125
第 90 図	前田 A 区 19・20号溝実測図	.....	125
第 91 図	前田 A 区 22号溝実測図	.....	126
第 92 図	前田 A 区 25号溝実測図	.....	126
第 93 図	前田 A 区 29号溝実測図	.....	127
第 94 図	前田 A 区 31・35号溝実測図	.....	128
第 95 図	前田 A 区 36号溝実測図	.....	129

第 96 図	前田 A 区38号溝実測図	・・・129	第 128 図	前田 A 区As-B 下水田実測図	・・・167
第 97 図	前田 B 区19・20号土坑実測図	・・・130	第 129 図	前田 B 区1号溝実測図	・・・171
第 98 図	前田 B 区1号井戸実測図	・・・131	第 130 図	前田 B 区21号溝実測図	・・・172
第 99 図	前田 B 区3号溝石組敷畑図	・・・133	第 131 図	前田 B-1～4 区As-B 下水田実測図	・・・175
第 100 図	前田 B 区2b・2c・3・4・5a・5b・6 8～10号溝実測図	・・・134	第 132 図	前田 B-5～7 区As-B 下水田実測図	・・・177
第 101 図	前田 B 区2a・2c・3・4・5a・5b・6 8号溝実測図	・・・135	第 133 図	前田 B-8 区As-B 下水田実測図	・・・179
第 102 図	前田 B 区2b・3・4・5b号溝出土遺物実測図	・・・136	第 134 図	前田 B-9・10区As-B 下水田実測図	・・・180
第 103 図	前田 B 区14号溝実測図	・・・138	第 135 図	前田 C-1 区As-B 下水田実測図	・・・182
第 104 図	前田 B 区16～18号溝実測図	・・・139	第 136 図	前田 C-2 区As-B 下水田実測図	・・・183
第 105 図	前田 B 区19・23号溝実測図	・・・142	第 137 図	前田 D-1 区As-B 下水田実測図	・・・185
第 106 図	前田 B 区20号溝実測図	・・・143	第 138 図	前田 D-2 区As-B 下水田実測図	・・・186
第 107 図	前田 B 区22・24・30号溝実測図	・・・144	第 139 図	前田 E 区2・3・5号土坑実測図	・・・187
第 108 図	前田 B 区26・28・29号溝実測図	・・・145	第 140 図	前田 E 区1号溝実測図	・・・188
第 109 図	前田 B 区25号溝実測図	・・・147	第 141 図	前田 E 区2号溝実測図	・・・188
第 110 図	前田 B 区道伏遺構溝実測図	・・・148	第 142 図	前田 A 区12号土坑実測図	・・・189
第 111 図	前田 C 区1・2号溝実測図	・・・149	第 143 図	前田 A 区39～41号溝実測図	・・・190
第 112 図	前田 C 区1・2号溝、2号溝出土遺物実測図	・・・150	第 144 図	前田 A 区42・43号溝実測図	・・・192
第 113 図	前田 C 区1～4号灰振き穴実測図	・・・152	第 145 図	前田 B 区1～6号土坑実測図	・・・194
第 114 図	前田 D 区1・2a・2b号溝実測図	・・・154	第 146 図	前田 B 区7～12号土坑実測図	・・・196
第 115 図	前田 D 区3号溝実測図	・・・156	第 147 図	前田 B 区13～18号土坑実測図	・・・198
第 116 図	前田 D 区1号灰振き穴実測図	・・・156	第 148 図	前田 B 区32号溝実測図	・・・199
第 117 図	前田 E 区1号土坑墓実測図	・・・157	第 149 図	前田 B 区33号溝実測図	・・・200
第 118 図	前田 E 区1号復旧溝実測図	・・・158	第 150 図	前田 B 区34号溝実測図	・・・200
第 119 図	前田 A 区1号土坑実測図	・・・159	第 151 図	前田 B 区35号溝実測図	・・・201
第 120 図	前田 A 区11号溝実測図	・・・160	第 152 図	前田 B 区36・37号溝実測図	・・・203
第 121 図	前田 A 区16号溝実測図	・・・160	第 153 図	前田 B 区38号溝実測図	・・・205
第 122 図	前田 A 区21号溝実測図	・・・161	第 154 図	前田 B 区39・43号溝実測図	・・・206
第 123 図	前田 A 区23・24号溝実測図	・・・161	第 155 図	前田 B 区40・41号溝実測図	・・・208
第 124 図	前田 A 区26～28号溝実測図	・・・162	第 156 図	前田 B 区42号溝実測図	・・・209
第 125 図	前田 A 区26～28号溝実測図	・・・163	第 157 図	前田 E 区4号土坑実測図	・・・210
第 126 図	前田 A 区30号溝実測図	・・・164	第 158 図	前田 E 区As-C 掘土上水田実測図	・・・211
第 127 図	前田 A 区32～34号溝実測図	・・・165	第 159 図	前田遺跡遺構外遺物実測図(1)	・・・212
			第 160 図	前田遺跡遺構外遺物実測図(2)	・・・213
			第 161 図	前田遺跡遺構外遺物実測図(3)	・・・214

## 付 図

付図1 下阿内町町道跡 中近世面全体図

(1:800)

付図2 下阿内町町道跡 As-B下(平安時代)面全体図

(1:400)

付図3 下阿内町町道跡 As-C混(古墳時代)面全体図

(1:800)

付図4 下阿内町町道跡 1区As-C混(古墳時代)面全体図

(1:100)

付図5 下阿内前田遺跡 中近世面全体図

(1:800)

付図6 下阿内前田遺跡 As-B下(平安時代)面全体図

(1:400)

付図7 下阿内前田遺跡 As-C混(古墳時代)面全体図

(1:800)

# 表 目 次

## 第 1 表 周辺遺跡一覧表

..... 18

## 下阿内町畑遺跡

第 2 表	町畑 5 区 11 号溝出土遺物観察表	・・・ 28	第 18 表	町畑 1 区 16 号土坑出土遺物観察表	・・・ 71
第 3 表	町畑 2・3 区 16 号溝出土遺物観察表	・・・ 33	第 19 表	町畑 1 区 17 号土坑出土遺物観察表	・・・ 72
第 4 表	町畑 10 区 20 号溝出土遺物観察表	・・・ 38	第 20 表	町畑 1 区 18 号土坑出土遺物観察表	・・・ 73
第 5 表	町畑 1 区 6 号土坑出土遺物観察表	・・・ 42	第 21 表	町畑 1 区 2 号井戸出土遺物観察表	・・・ 74
第 6 表	町畑 1 区 1 号土坑墓出土遺物観察表	・・・ 43	第 22 表	町畑 1 区 3 号井戸出土遺物観察表	・・・ 75
第 7 表	町畑 1 区 1 号土器集積出土遺物観察表	・・・ 57	第 23 表	町畑 1 区 1 c 号溝出土遺物観察表	・・・ 78
第 8 表	町畑 1 区 1 号土坑出土遺物観察表	・・・ 69	第 24 表	町畑 1 区 2 号溝出土遺物観察表	・・・ 79
第 9 表	町畑 1 区 2 号土坑出土遺物観察表	・・・ 70	第 25 表	町畑 1 区 4 号溝出土遺物観察表	・・・ 80
第 10 表	町畑 1 区 4 号土坑出土遺物観察表	・・・ 70	第 26 表	町畑 2 区 7 号溝出土遺物観察表	・・・ 87
第 11 表	町畑 1 区 5 号土坑出土遺物観察表	・・・ 70	第 27 表	町畑遺跡遺構外（中近世）出土遺物観察表	・・・ 100
第 12 表	町畑 1 区 7 号土坑出土遺物観察表	・・・ 71	第 28 表	町畑遺跡遺構外（平安時代）出土遺物観察表	・・・ 100
第 13 表	町畑 1 区 10 号土坑出土遺物観察表	・・・ 71	第 29 表	町畑遺跡遺構外（古墳時代）出土遺物観察表	・・・ 101
第 14 表	町畑 1 区 11 号土坑出土遺物観察表	・・・ 71	第 30 表	町畑遺跡遺構外（縄文時代）出土遺物観察表	・・・ 101
第 15 表	町畑 1 区 12 号土坑出土遺物観察表	・・・ 71	第 31 表	町畑遺跡 Aa-B 下水田計測表	・・・ 102
第 16 表	町畑 1 区 14 号土坑出土遺物観察表	・・・ 71	第 32 表	町畑遺跡土坑計測表	・・・ 103
第 17 表	町畑 1 区 15 号土坑出土遺物観察表	・・・ 71	第 33 表	町畑遺跡ピット計測表	・・・ 103

## 下阿内前田遺跡

第 34 表	前田 A 区 6 号溝出土遺物観察表	・・・ 121	第 41 表	前田 E 区 5 号土坑出土遺物観察表	・・・ 185
第 35 表	前田 B 区 2 b 号溝出土遺物観察表	・・・ 135	第 42 表	前田遺跡遺構外（中近世）出土遺物観察表	・・・ 214
第 36 表	前田 B 区 3 号溝出土遺物観察表	・・・ 135	第 43 表	前田遺跡遺構外（縄文時代）出土遺物観察表	・・・ 215
第 37 表	前田 B 区 4 号溝出土遺物観察表	・・・ 135	第 44 表	前田遺跡 Aa-B 下水田計測表	・・・ 216
第 38 表	前田 B 区 5 b 号溝出土遺物観察表	・・・ 135	第 45 表	前田遺跡 Aa-C 親土上水田計測表	・・・ 219
第 39 表	前田 C 区 2 号溝出土遺物観察表	・・・ 149	第 46 表	前田遺跡 C 区ピット計測表	・・・ 219
第 40 表	前田 D 区 1 号溝出土遺物観察表	・・・ 152	第 47 表	前田遺跡 D 区ピット計測表	・・・ 219



- P L 27 前田A区35号溝全景 (東より)  
前田A区36号溝全景 (東より)  
前田A区38号溝全景 (東より)
- P L 28 前田B区20号土坑全景 (南より)  
前田B区1号并戸全景 (南より)  
前田B区2号溝全景 (西より)  
前田B区2b・c号溝全景 (西より)  
前田B区3号溝石組全景 (北より)  
前田B区3号溝石組全景 (東より)
- P L 29 前田B区2c・5a・5b・6～8号溝全景 (東より)  
前田B区3・4・9・10号溝全景 (南より)  
前田B区14号溝全景 (東より)  
前田B区16・18号溝全景 (西より)
- P L 30 前田B区17号溝全景 (北より)  
前田B区19・23号溝全景 (北より)  
前田B区19・23号溝全景 (南より)  
前田B区20号溝全景 (南東より)  
前田B区22号溝全景 (西より)  
前田B区24・30号溝全景 (南西より)  
前田B区25号溝全景 (西より)  
前田B区26号溝全景 (西より)
- P L 31 前田B区28号溝全景 (西より)  
前田B区29号溝全景 (東より)  
前田B区道状遺構全景 (西より)  
前田C区1・2号溝、1・2区抜き穴全景 (北西より)
- P L 32 前田D区1・2a・2b号溝全景 (西より)  
前田D区1号溝全景 (東より)  
前田E区1号土坑基盤全景 (南より)  
前田E区1号土坑基盤出土状況 (西より)  
前田E区1号復旧溝セクション
- P L 33 前田A区1号土坑全景 (北より)  
前田A区11号溝全景 (東より)  
前田A区16号溝全景 (南東より)  
前田A区21号溝全景 (東より)  
前田A区23号溝全景 (東より)
- P L 34 前田A区24号溝全景 (北より)  
前田A区26・27・28号溝全景 (南より)  
前田A区30号溝全景 (東より)  
前田A区32・33号溝全景 (東より)  
前田A区34号溝全景 (東より)
- P L 35 前田A区As-B下水田全景 (天・北)  
前田A区As-B下水田全景 (北より)  
前田A-3区As-B下水田1号大畦 (南より)  
前田A-3区As-B下水田水口 (東より)
- P L 36 前田B区1号溝全景 (西より)  
前田B区15号溝全景 (北より)  
前田B区21号溝全景 (西より)  
前田B区As-B下水田全景 (天・北)
- P L 37 前田B区As-B下水田全景 (北より)  
前田B-1区As-B下水田1号大畦 (南より)  
前田B-2区As-B下水田1号大畦 (南より)
- P L 37 前田B-4区As-B下水田 (南より)  
前田B-4区As-B下水田水口・11号溝 (東より)
- P L 38 前田C-1区As-B下水田全景 (天・北)  
前田C-2区As-B下水田全景 (天・北)  
前田D-1区As-B下水田全景 (天・北)  
前田D-2区As-B下水田全景 (天・北)
- P L 39 前田E区2号土坑全景 (西より)  
前田E区3号土坑全景 (東より)  
前田E区5号土坑全景 (東より)  
前田E区1号溝全景 (北より)  
前田E区2号溝全景 (西より)  
前田E区As-B下面全景 (東より)  
前田A区2号土坑全景 (北より)  
前田A区39～41号溝全景 (北より)
- P L 40 前田A区40号溝・12号土坑全景 (東より)  
前田A区39・41号溝全景 (東より)  
前田A区42・43号溝全景 (北より)  
前田B区1号土坑全景 (南より)  
前田B区2号土坑全景 (南より)  
前田B区3号土坑全景 (南より)  
前田B区4号土坑全景 (南より)
- P L 41 前田B区5号土坑全景 (南より)  
前田B区6号土坑全景 (南より)  
前田B区7号土坑全景 (南より)  
前田B区8号土坑全景 (南より)  
前田B区9号土坑全景 (南より)  
前田B区10号土坑全景 (南より)  
前田B区11号土坑全景 (南より)  
前田B区12号土坑全景 (南より)
- P L 42 前田B区13号土坑全景 (南より)  
前田B区14号土坑全景 (南より)  
前田B区15号土坑全景 (南より)  
前田B区16号土坑全景 (南より)  
前田B区17号土坑全景 (南より)  
前田B区32号溝全景 (北西より)  
前田B区33号溝全景 (北東より)  
前田B区34号溝全景 (北東より)
- P L 43 前田B区35号溝全景 (北東より)  
前田B区36号溝全景 (南西より)  
前田B区37号溝全景 (南西より)  
前田B区38号溝全景 (南西より)  
前田B区39号溝・18号土坑全景 (南東より)  
前田B区40・41号溝全景 (東より)  
前田B区42号溝全景 (北西より)  
前田B区43号溝全景 (南東より)
- P L 44 前田E区4号土坑セクション (南より)  
前田E区4号土坑全景 (南より)  
前田E区As-C掘土上水田全景 (南西より)  
前田E区As-C掘土上水田全景 (東より)  
前田E区As-C掘面全景 (北より)
- P L 45 前田A区6号掘出土遺物
- P L 46 前田A区6号溝、B区2b・3・4・5b号掘出土遺物
- P L 47 前田C区2号溝、D区1号溝、E区5号土坑、遺構外出土遺物

# 第 1 章

## 発掘調査の経過と方法



下阿内老町畑遺跡1区 重機による掘削作業風景（南より）





## 第1節 発掘調査に至る経緯

主要地方道前橋玉村線は、県南部を南北に縦貫し、県都前橋市と玉村町を結ぶ都市間連絡道路であり、通勤・通学等地域住民が日常生活に利用する生活基盤路線である。発掘調査対象地区は、現道の同路線とは別に、北関東自動車道前橋南インターチェンジへのアクセス道路として新設が予定されている道路で、バイパス部分（21,729㎡）とインターへの進入路部分（13,607㎡）（以下、進入路部分）によって構成される。

埋蔵文化財については、バイパス部分については市道事業扱いであった平成8年度以前に前橋市教育委員会（以下、市教委）により調整済みとなっており、県道事業扱いとなった平成9年度以降は、当初、進入路部分についてのみ確認と対応について、県に引き継がれるかたちとなった。

そこで、群馬県教育委員会文化財保護課（以下、保護課）が、平成9年12月15日に進入路部分の試掘調査を実施したところ平安時代の水田遺構が確認された。また、平成6年度に市教委によって試掘調査を実施した際には、本調査の必要なと判断されていたバイパス本線部分にも水田遺構が広がっていくことが判明した。そのため、前橋市土木事務所（以下、前橋土木）の依頼により急遽バイパス部分の試掘調査（12月18日～20日）を引き続き実施することになった。その結果、かつて市教委が切り離したバイパス予定地のほぼ全域で発掘調査を実施する必要があることが確認された。

当初、平成10年度の発掘調査計画については、バイパス部分の調査が浮上する以前の予算編成時において進入路部分への対応のみの計画（平成10年9月着手・1班体制7ヶ月）を立てていた。しかし、バイパス部分も発掘調査対象地となり、とても工事計画を満たす状況ではないため、平成10年3月2日に県土木部道路建設課、前橋土木、保護課との3者による協議を行った。その結果、隣接して発掘調査を実施している道路公団事業（北関東自動車道に伴う調査）との兼ね合い、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（以下、事業団）が発掘調査を実施することになった。また、前橋土木側からの要請に基づき、調査着手時期の見直し並びに調査体制の増強措置を検討し、それに基づき工事計画の調整を図ることになった。この間、地元の農協から前橋土木に対し、減反対象地を決定するにあたり、前橋玉村線の発掘調査の着手予定時期と対象箇所に関する問い合わせがあり、3月18日に再度協議を開催し、下記のような調査計画案が決定した。

- ①調査期間 平成10年7月～平成11年3月まで。（当初より2ヶ月前倒し）
- ②調査体制 7月～3月まで1班。更に12月からもう1班追加できる見通しあり。1班延べ13ヶ月。
- ③優先箇所 盛土施行を予定している進入路部分から（道路公団事業地境から順次南方へ）

水路整備を先行させたいバイパス部分南端部から順次北方へ

この協議の後、事業団内の調整により、さらに1ヶ月前倒して、6月から調査に入れることになった。以上の経過を経て、優先箇所の進入路部分の発掘調査は、平成10年6月1日に着手となった。遺跡名は、市教委が命名しており、進入路部分と進入路から続くバイパス部分の南側を下阿内町町畑遺跡、残りのバイパス部分を下阿内前田遺跡とした。

さらに、前橋玉村線とバイパスの交差点部分については、当初計画では調査の対象地にはなっていなかった。しかし、交差点部分の範囲が狭いことから安全確保のため北東コーナーの拡張計画が始まり、保護課と前橋土木と調整の結果、急遽発掘調査を実施することになった。平成11年12月10日より調査の準備を開始し、平成12年2月1日より2ヶ月間の予定で、調査することになった。

## 第2節 発掘調査の方法

### 1 調査区の設定 (第2図参照)

発掘調査区は、前橋市新堀町・下阿内町地内に所在する。下阿内町知遺跡の調査区は、現在の水路・道路・畦畔で分け、進入路部分は、北から南東へ向かって、1・2・3・4・5・6区と、バイパス部分は、南から北へ7・8・9・10区とそれぞれ呼称した。下阿内前田遺跡(バイパス部分)の調査区も、現在の道路・水路で分け、南からA・B・C・D区と呼称した。また、下阿内前田遺跡の調査では、調査区を横切る、農耕車用の出入り口(馬入れ)を確保するため、それぞれの調査区を分割(A区は9分割、B区は10分割、C・D区は2分割)して調査することになった。そのため、A-1区、B-10区、C-1区というように呼称した。なお、A・B区は現道を挟んでの調査のため、東西に調査区が分割されることになった。さらに、現在の前橋玉村線とバイパスの交差点部分の道路幅に伴い、発掘調査を実施することになった部分を下阿内前田遺跡E区と呼称した。E区は、現在の前橋玉村線の南側で、A区の南側に位置する。

### 2 グリッドの設定 (第3図参照)

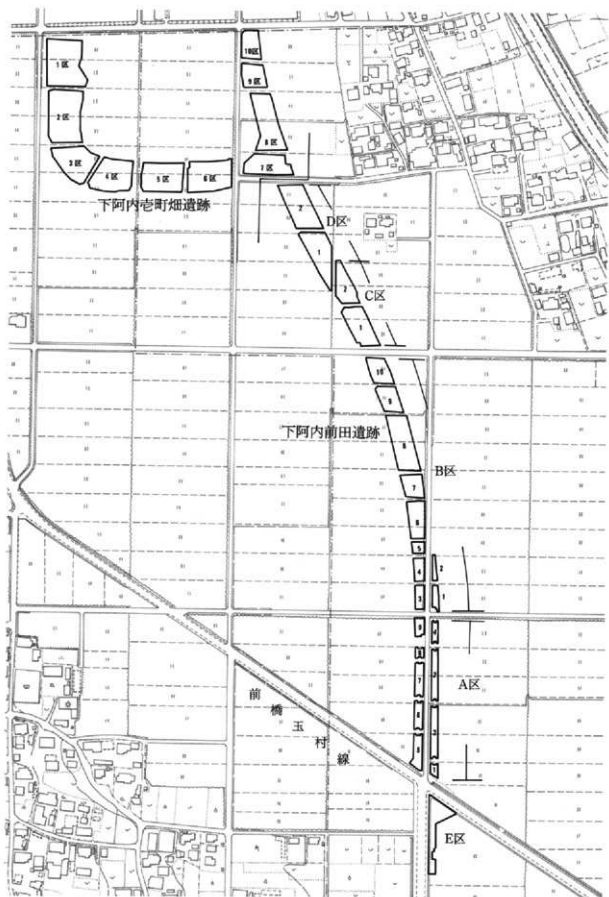
遺構・遺物等に記録については、国家座標第IX系を用いたグリッド設定を行い、測量図化した。国家座標第IX系の原点は、北緯36°00'00"、東経139°50'00" (千葉県野田市)である。本遺跡の起点座標値(26A-1グリッド)は、X=35,800、Y=-65,100である。グリッド杭・水準点杭等の測量・打設は測量会社に委託した。

まず、調査区を一辺100m四方の区画(以下、大区画)で、北から南へ1区画～26区画に分割した。大区画の呼称は、本来なら南東隅から通番を付すわけだが、下阿内町知遺跡から優先して調査に着手したので、北西から通番を付した。さらに、この大区画を一辺5mの小区画で400等分し、この小区画を「グリッド」と呼称した。「大区画」内部の呼称方法は、南東隅を起点としてX軸は南から北へアルファベットを、Y軸は東から西へ算用数字を用いた。すなわち、1つの大区画内部は、X軸がAから始まりTまで、Y軸が1～20まで進んだ後、次の大区画に移ることになる。下阿内町知遺跡は、1～12大区画、下阿内前田遺跡は、13～26大区画に位置する。なお、発掘調査区内に位置する各大区画の起点座標A-1の座標値は、下記の通りである。

下阿内町知遺跡2区	「3A-1 (3大区画のA-1)」	X=36,600	Y=-65,600
下阿内町知遺跡10区	「11A-1 (11大区画のA-1)」	X=36,700	Y=-65,400
下阿内前田遺跡C区	「13A-1 (13大区画のA-1)」	X=36,400	Y=-65,300
下阿内前田遺跡A区	「21A-1 (21大区画のA-1)」	X=36,000	Y=-65,200
下阿内前田遺跡E区	「23A-1 (23大区画のA-1)」	X=35,900	Y=-65,200

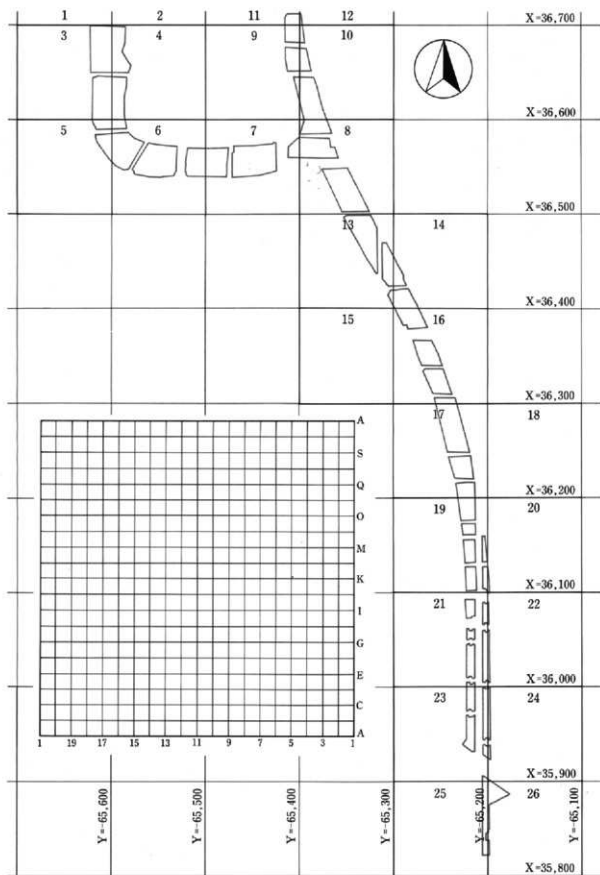
### 3 調査の方法

- (1) 表土掘削及び火山灰・洪水等の遺構面被覆層の除去は、調査の効率を図るため、大型掘削機械で行い、排土の運搬についてはダンプとキャタピラー式のクローラードンプを使用した。排土は、調査区内で運搬し処理することにした。



第2図 下阿内志町畑・下阿内前田遺跡調査区図 (1 : 4,000)

第1章 発掘調査の経過と方法



第3図 下阿内岩町畑・下阿内前田遺跡グリッド設定図(1:4000)

- (2) 遺構名称は、下阿内町畑畑遺跡では、遺構の種類ごとに通し番号を付し、下阿内前田遺跡では、調査区ごと、遺構の種類ごとに通し番号を付した。遺物の取り上げに際しては、遺構単位、グリッド単位を基本とし、現位置をとどめる物については、その都度番号を付し、図面上に記録した。
- (3) 遺物の注記は、遺跡名、調査区名、調査面、遺構名またはグリッド名を記入した。
- (4) 測量については、広範囲な水田遺構が主なため、業者に委託し、ラジコンヘリコプターによる航空測量を実施した。他の遺構の測量については、作業員に指示し、平板測量を行い、1/10、1/20、1/40、1/100縮尺図を作成した。
- (5) 作成した遺構実測図には、遺跡名・実測図名・縮尺・実測者名・レベル高・ベンチマークの高さ・作成年月日を記入し、1枚ごとに通し番号を付し、台帳を作成した。
- (6) 写真撮影には、35mm版と6×7インチ版カメラのモノクロとリバーサルフィルムを使用した。水田跡の全景写真撮影は、高所作業車を使用し、必要に応じてラジコンヘリコプターや気球による空中写真撮影も行った。
- (7) 撮影したフィルムは現像処理し、モノクロはベタ焼きを行った。ベタ焼きはネガ検索台紙に調査面、遺構ごとに貼り付け、撮影対象・撮影方向・撮影日・フィルム番号を記録した。リバーサルフィルムはコマごとに遺跡名・撮影対象・撮影方向・撮影日を記入し、通し番号を付し、台帳を作成した。
- (8) 下阿内町畑畑遺跡1号土坑墓から出土した人骨の鑑定結果・漆器の材同定結果は、それぞれ第5章第1節・第2節に掲載した。下阿内前田遺跡では、自然化学分析を実施し、分析結果を第3節に掲載した。

## 第3節 発掘調査の経過

### 1 下阿内町畑畑遺跡

本遺跡の調査は、平成10年5月下旬から調査準備に入り、6月1日より、調査区の除草作業、重機による表土掘削作業、安全柵設置工事を開始した。調査事務所は、下阿内町畑畑遺跡の進入路部分の調査が終了する(11月末)までは、当事業団の北関東自動車道に伴う事前調査である、村中遺跡調査事務所(鶴光路町)に間借りすることになった。調査は、まず、下阿内町畑畑遺跡より開始し、前橋南インターチェンジ(当事業団が調査した西田遺跡F区)に続く進入路部分より、南東へ向かって調査を進めていくことにした。

そして、6月4日より作業員を入れた、本格的な調査を進入路部分の1～4区から開始した。1～4区の排土は、作業効率を考え5・6区の調査区内に運ぶことにした。また、周辺が水田地帯であり、1～4区の調査期間が梅雨、台風等で雨が多い時期なので、冠水して調査が遅延しないように、周辺地域の土地を止水対策用に借地した。また、調査区の西側～南側端に、湧水対策のための溝を掘削する工事を業者に委託した。

県教委保護課の試掘調査や土層断面観察の結果、平安・古墳時代の2面の水田跡の検出が想定された。そこで、第1面の調査は、現表土を重機で剥ぎ、As-B軽石が見えたら止めるようにし、人力でAs-B軽石を取り除き遺構の確認作業を行った。その結果、1区西側では、As-B下水田に伴う南北方向の畦3本、東西方向の畦7本を検出した。1区東側には、西田遺跡F区より続く、微高地が確認され土器片も多数出土した。2区の北側は、後世の圃場整備による攪乱のため、As-Bの残存度が悪く、畦は確認できなかったが、2区南側では、南北、東西方向に走る畦に区画された水田面、水口も検出した。また、1区からと2区へ東西に走る溝、2区北端からほぼ直角に曲がって東端へ走る溝を確認した。7月上旬に高所作業車からの1・2区のAs-B下水田の全景写真撮影とラジコンヘリコプターによる航空測量・空中写真撮影を実施した。

## 第1章 発掘調査の経過と方法

7月3日より、3・4区のAs-B下水田跡の検出作業を開始した。3区でも、南北、東西方向に走る畦に区画された水田面、水口を検出し、2区東端から続く溝も確認された。7月4日には、橋名町で40.3度の日本最高気温（平成10年）を記録したほどの猛暑だったため、テントを張り日陰で休息をとる等して、作業効率を下げないよう心がけた。7月下旬に、3・4区のAs-B下水田の全景写真撮影と航空測量を実施した。

7月下旬より、1区第2面の調査を開始した。西側では、As-C混水田跡の検出を試みたが、確認できなかった。東側微高地の調査では、土坑2基、土器集積1基、円形建物跡1棟、井戸3基、溝4条等を検出し、土師器・須恵器・石製模造品・ミニチュア土器等が出土した。1区東側の遺構測量は、作業員に指示し、平板測量を行った。1区全景の空中写真撮影は、9月上旬に実施した。

2～4区の第2面の調査は、9月上旬から開始した。平面測量は作業員が行い、10月上旬に、高所作業車からの全景写真撮影を行った。2区では、Hr-FAの残存度が比較的良く、畦で囲まれたHr-FA下水田を検出した。他に、溝4条、土坑2基も確認された。3区第2面南西端でもHr-FAの堆積が確認できたが、水田跡は検出できなかった。3区では溝1条、4区では溝2条が検出された。

10月上旬から、1～4区の埋め戻し作業を開始し、10月下旬には終了した。引き続き、5・6区の表土掘削作業を開始した。1～4区の埋め戻し作業と同時進行で、バイパス部分の9・10区の表土掘削を開始し、排土はクローラードンプで調査区内の下阿内前田遺跡D区へ運んだ。9・10区には、攪乱のためAs-B軽石の残存度が悪く、水田面は検出できなかった。10区では、溝が2条確認された。5・6区では、2～4区と同様に、As-B下水田跡が良好な状態で検出され、畦も確認できた。また、5区では、幅約2mで北東から南西へ続く人の足跡列も確認された。11月下旬に、5・6・9・10区の全景写真撮影と航空測量を実施した。9月下旬には進入路部分の工事が入札され、調査が急がされたため、1～4区は、10月下旬に、前橋土木事務所との立ち会いの元、工事業者へ引き渡した。

11月下旬から、7・8区第1面と5・6・9・10区第2面の調査を開始した。7区と8区南側第1面の調査では、As-B下水田跡が良好な状態で検出された。7区では、As-A軽石の復旧のための土坑（灰抜き穴）も確認された。5・6区第2面の調査では、溝4条、井戸1基が確認された。また、Hr-FAが一部で確認できたが、水田跡は検出できなかった。12月中旬に全景写真撮影と航空測量を実施した。7・8区の第2面の調査では遺構が検出できなかった。下阿内老町畑遺跡の調査は、順調に進み、埋め戻しも含めて12月末で完了した。優先箇所の進入路部分である5・6区は、12月下旬に、前橋土木事務所との立ち会いの元、工事業者へ引き渡した。

### 2 下阿内前田遺跡

下阿内老町畑遺跡の調査が順調に進捗したこともあり、当初の予定通り、調査事務所を下阿内町6-1番地に新たに設置し、12月1日に移転した。また、平成11年1月5日からは、調査事務所を下阿内町209-1番地に新たに設置し、2班体制で、下阿内前田遺跡の調査を開始した。1班（昨年度より継続の班）は下阿内老町畑遺跡との境界から南へ、2班（新規の班）は、現在の前橋玉村線から北へと、調査を進めていくことにした。A・B区は、現道を横切る箇所、現道を挟んで調査する箇所があるので、危険防止用の安全柵を12月下旬に設置した。本遺跡も試掘結果や土層断面観察の結果、平安・古墳時代の2面の水田跡の検出が想定されたので、下阿内老町畑遺跡と同様な方法で調査することにした。また、排土も調査区内で処理することにした。

I班の調査は、C区から開始した。第1面の調査では、畦に区画されたAs-B下水田跡、溝2条が検出され

た。しかし、表土（現耕作土）の堆積が薄く、畦の残存度も悪かった。C-1区からは、As-A軽石の復旧のための灰掻き穴、復旧溝が検出された。1月下旬に、As-B下水田の全景写真撮影と航空測量を実施した。D区第1面の調査は、1月下旬から開始した。D区も、C区同様、攪乱のためAs-B軽石の残りが悪かったので、D-1区の北側、D-2区の南側では、畦も確認できなかった。D-2区からは、溝2条、灰掻き穴が検出された。2月中旬にAs-B下水田の全景写真撮影と航空測量を実施した。C・D区第2面の調査は、2月中旬に開始した。調査では、As-C混水田跡の検出を試みたが、確認できなかった。遺構外遺物として、縄文時代の石鏃が3点出土した。C・D区は、埋め戻しも含め、3月末に総ての調査を終了した。

Ⅱ班の調査は、平成11年1月上旬から3月末にかけて、A区とB区南側（B-1～5区）を調査した。A区の南側は、現在の玉村線の道路工事や後世の攪乱のためAs-B軽石の残りが悪かったが、他の調査区では、As-B下水田跡が良好な状態で検出できた。特に、東西、南北に走る条里制に伴うと考えられる大畦や水田に伴う溝（水路）も含め、多数の溝が確認された。特に、中世に比定される溝からは、2カ所で石組みが発見され、10枚の宋銭と陶磁器片が出土した。

平成11年度の調査は、Ⅰ班体制で4月9日から開始した。そのため、Ⅰ班の調査事務所は、4月中に撤去工事を実施した。B区北側（B-6～10区）第1面の調査では、昨年度と同様、As-B下水田跡が良好な状態で検出でき、5月上旬に全景写真撮影と航空測量を実施した。また、たくさんの溝や井戸1基も確認された。さらに、A・B区第2面の調査では、溝数条、土坑数基が検出されたのみであった。5月下旬に全景写真撮影と航空測量を実施し、調査は終了した。6月1日から作業員40名（担当1名含む）は、前橋長緑線の事前調査に伴う横手早稲田遺跡へ移動した。6月1日～30日までは、残りの作業員で図面・写真等の整理作業を行った。7月中に、遺物・器財等の撤去を行い、調査事務所を撤去した。

E区は、現道とバイパスの交差点部分の道路拡幅に伴い、平成12年2月1日より、発掘調査を実施することになった。試掘トレンチをいれた結果、4面の調査面が想定された。第1面では、As-A軽石の復旧溝が検出された。第2面（As-B混土上面）では、遺構は確認できず、第3面（As-B下面）では、土坑2基、土坑墓1基、溝2条が検出された。第4面では、土坑2基とAs-C混土上水田跡が検出された。E区の調査は、各面毎に、平面図は作業員に作成させ、全景写真は高所作業車から担当が行った。3月末で調査は終了し、器財・遺物を撤去し、事務所を撤去した。

## 第4節 基本土層

本格的な発掘調査に入る前に、土層の堆積状況の観察調査を行った。その結果、本遺跡周辺は開場整備のため、ほとんどの調査区でAs-A軽石は、現耕作土に鈍込まれていた。また、一部の調査区では、As-B軽石も鈍込まれていることがわかった。第4図は、下阿内宍町畑遺跡と下阿内前田遺跡の基本土層をまとめて模式図にしたものである。なお、下阿内宍町畑遺跡、下阿内前田遺跡の基本土層は、それぞれ第3章第2節、第4章第2節に掲載したので、参照されたい。

I層は、現耕作土で暗褐色土あるいは褐色土である。現状は水田である。II層は、褐色土で、現在の水田の床土で鉄分が凝集し、酸化が見られる。III層は、As-A軽石層であるが、層序として確認できたのは、下阿内前田遺跡E区だけである。下阿内宍町畑遺跡7区、下阿内前田遺跡C・D・E区では、III層～VI層を掘り込んで、As-A軽石復旧のための灰掻き穴、復旧溝が検出された。IV層は、黄褐色砂質土で、泥濘砂・As-B軽石を含む。V層は、灰褐色のAs-B軽石層で、下部には、青灰色の火山灰の薄層、粗粒の白色軽石

## 第1章 発掘調査の経過と方法

が見られたことから1次堆積である。下阿内老町畑遺跡1区東側、2区北側、9・10区、下阿内前田遺跡A区南側、E区等では、後世の擾乱等でV層は動込まれており、層序として確認できなかった。VI層は、黒色粘質土のAs-B下水田耕土であり、土質が均質で粘性が強い。VII層は、As-B下水田耕土の床土で鉄分を含む青灰色粘質土である。VIII層は、明黄褐色土で、榛名二ツ岳の噴火に伴う火山噴出物(Hr-FA)であると考えられる。VIII層は、下阿内老町畑遺跡2～5区の一部で確認され、2区では、VIII層下からHr-FA下水田が検出された。IX層は、As-C軽石の混じる、黒褐色粘質土である。下阿内老町畑遺跡2区ではHr-FA下水田耕土に相当する。X層は、As-C軽石の混じる、黒色粘質土である。下阿内前田遺跡E区では、As-C混土上水田耕土に相当する。XI層は、下阿内老町畑遺跡1区微高地のみに堆積が確認された、黄褐色のローム層である。XII層は灰褐色砂質土である。XIII層は白色軽石(約1.3～1.4万年前に浅間山から噴出した浅間板鼻黄色軽石As-YP)を含む灰白色シルト層である。XIV層は、灰白色砂礫層で、この付近の基盤層である前橋泥流層(約2万年前)であると考えられる。

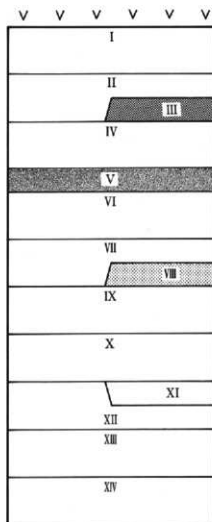
I層 表土 (現耕作土)	VIII層 Hr-FA
II層 水田床土	IX層 As-C混土
III層 As-A軽石	X層 As-C混土
IV層 As-B混土	XI層 黄褐色土 ローム層
V層 As-B軽石	XII層 灰褐色土
VI層 As-B下水田耕土	XIII層 灰白色土
VII層 水田床土	XIV層 灰白色砂礫層



老町畑6区北壁セクション



前田E区北壁セクション



第4図 基本土層模式図



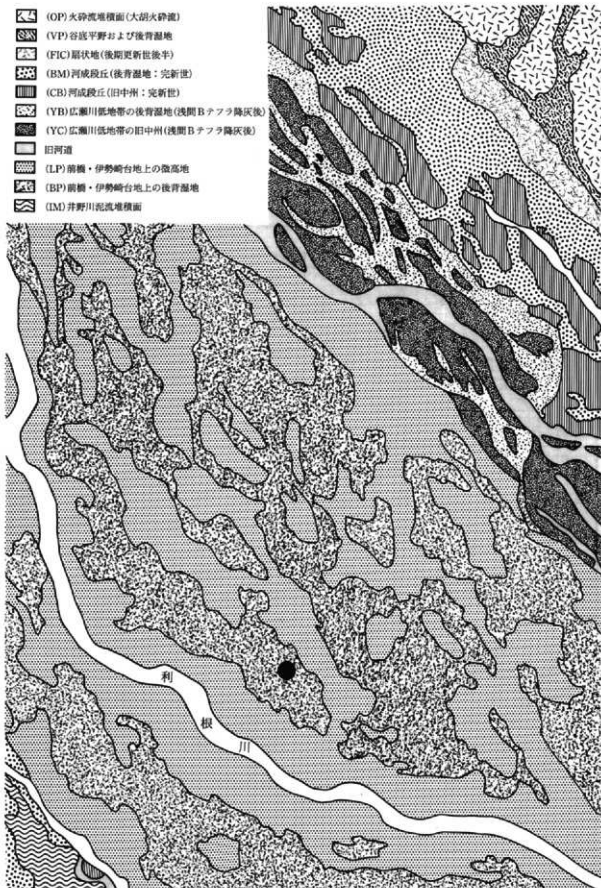
## 第 2 章

# 立地と周辺遺跡



遺跡周辺 南上空より 前橋市街地・赤城山を望む

第2章 立地と周辺遺跡



## 第1節 遺跡の立地

下阿内宅町畑・下阿内前田遺跡の所在する前橋市新堀町・下阿内町は、群馬県の南部にあり、関東平野の北西部に位置する。また、北に赤城山、北西に榛名山、西に妙義山・浅間山を望む利根川流域に広がる沖積平野から榛名山南東麓にかけて位置する。JR前橋駅から遺跡地までは約8kmあり、北1～1.5kmには県道高崎駒形線が東西に走り、これと交差する県道前橋玉村線が西側を南北に走り、すぐ北側には建設中の北関東自動車道が位置する。本調査は、前述の前橋玉村線バイパスと北関東自動車道への進入路建設に伴う事前調査である。遺跡の周辺は、圃場整備により整然と区画された水田地帯が広がり、北西には鶴光路町、南西には新堀町、東には下阿内町の住宅街が形成されている。近年、前橋市の人口増加に伴うドーナツ化現象により、周辺地域は団地ができ宅地化が進み、大型店舗や工業団地の建設が相俵いでいる。

遺跡が立地する前橋台地は、前橋市街地を北端に南方向一帯に広がる沖積平野で、前橋泥流堆積層が形成された洪積世後期の約24,000年前から、利根川に浸食されずに沖積化が進んだ地域である。この泥流層は凝灰角礫岩を含み、浅間山の噴火によるものと推定されている。同層は前橋・高崎・伊勢崎を中心とする県内一帯に広がる扇状地上に、厚さ10～15mも堆積している。それは、岩屑の飛び石やお艶が岩の巨岩が物語っているように、想像に絶する大規模な浅間山の噴火活動があったことを後世に伝えている。

前橋台地上には、利根川を始め幾つかの中小河川が南北に流れ、小規模ながら氾濫原を各所に形成している。台地の東側を流れる利根川は榛名山南東裾野の末端を浸食する形で南流し、前橋市大手町付近～玉村町五料付近の約14kmは、この台地を貫流している。この利根川は過去に3回流路を変えている。前橋泥流堆積層が堆積した後の約24,000年前の利根川は総社町辺りから新前橋～染谷川、滝川付近を流れ井野川に注いでいた。その後、約17,000年前に榛名山で発生した泥流により埋め立てられ、赤城南西麓縁の広瀬川低地帯にその流路を変更している。前橋台地の北東部を南北に流れる桃ノ木川や市街地を流れる広瀬川は、かつての利根川本流の残存河川で、旧利根川流路（広瀬川低地帯）と前橋台地の境を流れる馬場川と広瀬川を結ぶラインは、約3mの河崖を形成している。本遺跡は、現利根川と旧利根川（広瀬川低地帯）に挟まれた前橋台地上を流れる端気川右岸の後背湿地に立地している。

端気川は古代、前橋台地北部の湿地帯を源にもつ自然流路の河川で台地中央部を南北に流れていた。この水源を利用して台地上では古墳時代から徐々に水田開発が行われてきたが、奈良時代以降の条里制地割りの時期には耕地の大規模な再開発計画が行われた。豊富な水資源を手に入れるために、端気川と旧利根川（広瀬川低地帯）を灌漑用水で結ぶことにより、台地上の水田地帯に豊富な水を提供した。このことは、前橋台地における農地開拓と端気川とが古代より密接に関わっていたことを示している。前橋台地にはこの他にも藤川等の幾つかの水路が認められる。

前橋台地における条里制地割り、現在の道路区画からも読み取れ、端気川の台地への流入地点を起点にしてほぼ碁盤目状に配置されており、現在の道路と当時の条里制地割り、ほぼ一致する。このことから前橋台地での条里制地割りによる耕地の再開発が同一の区画でなされていたといえる。このように本遺跡は、前橋台地のほぼ中央に位置し、条里制地割り施行以来、端気川が運んでくる豊富な水資源により、安定した人間生活を営むことができる一大穀倉地帯を作り上げた河川周辺に立地する。

## 第2節 周辺遺跡と歴史的環境

遺跡の立地する前橋台地南部地域は、近年、北関東自動車道や県道前橋長湊線建設に伴う発掘調査が始まり、遺跡数も増加し、徐々に前橋台地の歴史が明らかになりつつある。前橋台地は先述した、地形的・地質的特色から元来、旧石器時代から縄文時代にかけて人間が生活を営むのに適していなかったと言われていた。そのため、旧利根川（現広瀬川）左岸の赤城南面地域では、柳久保遺跡で約21,000年前の石器が出土したのを始め、旧石器時代の遺跡が数カ所で確認されているが、現在までのところ、現利根川と旧利根川に挟まれた前橋台地では旧石器時代の遺跡は発見されていない。そこで、縄文時代以降の周辺遺跡の状況を年代順に概観したい。なお、( ) 内の数字（遺跡名）、ローマ字（古墳名）、カタカナ（中世城館名）は、第6図周辺遺跡図・第1表周辺遺跡一覧表と対応しているので、参照されたい。

## (1) 縄文時代

平成6年に、標島川端遺跡(19)において縄文時代早期に比定される燃糸文土器片が出土した。また、平成9年には、徳丸仲田遺跡(22)の藤川右岸の微高地で草創期にあたる微隆起線文土器の破片等約150点及び有舌尖頭器等の石器類約3000点が出土した。草創期の遺物がまとまって発見されたことにより、これまでの前橋台地上における歴史概念を一変させるものと注目を浴びている。また、草創期に比定される有舌尖頭器が前橋市教委が調査した西田皿遺跡(6)、玉村町の砂町遺跡(39)からも1点ずつ出土している。さらに、横手湯田遺跡(9)では、溝底部から中・後期の土器片、西善尺可遺跡(23)からは前期～中期と思われる石器ブロックが検出されている。

## (2) 弥生時代

本遺跡周辺地域は、弥生時代に入っても環境の変化は訪れず、人々を寄せ付けぬ環境の厳しさは依然続いてきたようである。そのために、弥生時代の遺跡数も少ない。前述の標島川端遺跡で後期の竪穴住居跡5軒、玉村町上福島の一萬田遺跡(42)で後期の再葬墓が確認されている程度である。

## (3) 古墳時代

古墳時代に入ると、遺跡数は、縄文・弥生時代比べて飛躍的に増大する。本遺跡から北へ約5km、前橋市街地の南東に位置する広瀬・朝倉古墳群には、古墳時代の前期から後期にわたる大小約150基の古墳が存在する。その中でも、古墳時代初頭期の前方後方墳（全長130m）としては東国最大の前橋八幡山古墳(A)や三角縁神獣鏡を含めた5面の銅鏡・埴輪の祖形と考えられる底部穿孔壺型土器が出土した、前方後円墳（全長129m）の前橋天神山古墳(B)は中心的な位置を占めている。両古墳とも、この地域では最古段階の築造で、地域を支配した首長の墓と考えられる。前期の遺跡としては、村中遺跡（前橋市教委調査）(26)、東田遺跡(31)で、包含層からS字状口縁付壺等の土器片が出土している。また、前期の竪穴住居跡・周溝墓・溝等が、後閑田遺跡(30)、中内村前遺跡(24)、西善尺可遺跡、徳丸仲田遺跡、横手湯田遺跡、横手早稲田遺跡(13)、標島川端遺跡、公田池尻遺跡(17)、福島曲戸遺跡(43)、福島久保田遺跡(44)、福島大光坊遺跡(45)、福島飯塚遺跡(46)、福島大島遺跡(47)で確認されている。特に、徳丸仲田遺跡では、4世紀初頭に降下したと考えられるAs-C軽石を混入した土壌を耕土とする水田跡と4世紀後半に掘削された大溝（農業用水路）が確認され、これと同様な大溝は、下流の砂町遺跡でも発見されている。As-C混土水田

跡は、樺島川端遺跡、公田池尻遺跡、公田東遺跡(18)、西田遺跡(3)、村中遺跡(8)、徳丸高塚遺跡(21)等でも確認されている。

後期の古墳としては、6世紀前半築造の帆立貝式古墳である、亀塚山古墳(C)、6世紀後半築造の前方後円墳で、新羅文化の影響を物語る金銅製冠の出土した金冠塚古墳(D)が有名である。後期の遺跡では、後閑II遺跡(29)、坊山遺跡(32)、川曲遺跡(27)、下佐鳥遺跡(28)、公田東遺跡で竪穴住居跡が検出されている。また、生産遺構としては、6世紀初頭降下と考えられるHr-FAで埋没した水田跡が樺島川端遺跡、公田池尻遺跡、中内村前遺跡、西善尺司遺跡、徳丸仲田遺跡、横手湯田遺跡、横手早稲田遺跡、横手井戸南遺跡(14)、横手宮田遺跡(15)福島曲戸遺跡、福島久保田遺跡、福島大光坊遺跡、福島飯塚遺跡、福島大島遺跡等で確認されている。さらに、6世紀中葉降下と考えられるHr-FPで埋没した水田跡が、現利根川沿いの横手早稲田遺跡、横手井戸南遺跡、横手宮田遺跡等で確認されている。さらに、利根川右岸で高崎市に所在する西横手遺跡群(48)、宿横手三波川遺跡(49)、上滝櫻町北遺跡(50)、上滝五反畑遺跡(51)でも、Hr-FA下水田跡、Hr-FP下水田跡が確認されている。

#### (4) 奈良・平安時代

8世紀以降律令制が導入されると、元統社町付近に国府が造営され、国分僧寺・国分尼寺が建立された。それと時を同じくして前橋台地上には条里制地割りが行われ、前橋台地の大規模開発により豊饒の地域へと変貌した。条里制地割りの施行は、国府を中心とした地域では、中央政府での条里制施行に伴って、それほど時間差なく施行されたと考えられているが、その他の地域の条里制地割りはいつ施行されたか不明な点が多い。承平8年(938年)には、平将門による承平・天慶の乱が起こった。天慶2年(939年)には、将門は常陸の国府を襲い、下野国から上野に入り、上野の国府も占領したと「将門記」に伝えられている。その後、浅間山の噴火(1108年)・利根川の変流等による洪水などの理由で、国府がさらに荒廃し、国分僧寺・尼寺の衰退、律令体制の解体と変質を大きく進めたものと思われる。

本遺跡周辺では、平安時代後期の1108年に降下したAs-B軽石で埋没した水田跡が宮地中田遺跡(33)、鶴光路線引遺跡(34)、前田遺跡(25)、中内村前遺跡、西善尺司遺跡、徳丸仲田遺跡、横手湯田遺跡、横手湯田II(10)・III(11)・IV(12)遺跡、西田遺跡、西田II遺跡(7)、村中遺跡、横手早稲田遺跡、横手井戸南遺跡、横手宮田遺跡、亀里平塚遺跡(16)、玉村町の藤川前遺跡(35)、尾柄町遺跡(36)、金免遺跡(37)、福島曲戸遺跡、福島久保田遺跡、福島大光坊遺跡、福島飯塚遺跡、福島大島遺跡等、本遺跡周辺の低地部分のほとんどの遺跡で検出されている。また、As-B下水田跡は、条里制地割りを踏襲したと考えられるものが多く確認されている。奈良・平安時代の他の遺跡としては、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、井戸等が、後閑II遺跡、後閑II遺跡、西田遺跡、西田II・III遺跡、中内村前遺跡、西善尺司遺跡、徳丸仲田遺跡、鶴光路榎橋遺跡(20)、原浦遺跡(38)、栢田添遺跡(40)、神人村II遺跡(41)一万田遺跡、福島曲戸遺跡、福島久保田遺跡、福島大光坊遺跡、福島飯塚遺跡、福島大島遺跡で確認されている。特に、福島曲戸遺跡の集落跡からは多量の緑釉陶器、福島飯塚遺跡の幅10mを測る大溝からは200点に及ぶ墨書土器が出土している。砂町遺跡では7世紀後半に造られた官道の一つ「東山道」と想定される道状遺構、一万田遺跡では平安時代の那波郡の「郡衙」かこれに準じる豪族の館と思われる掘立柱建物跡・柵列等の遺構も検出されている。

#### (5) 中世

中世では、県教育委員会が実施した城郭分布調査によって、前橋南部地域に環濠遺構群の存在が多数確認

## 第2章 立地と周辺遺跡

されており、周辺付近に点在する微高地のほとんどに中世城館が存在したと想定される。本遺跡の東側にも、「房丸」「力丸」「徳丸」と言った地名が残り、室町時代の城館跡である力丸城（ウ）、宿阿内古城（イ）や室町・戦国時代の宿阿内城（ア）・新堀城（エ）がある。力丸城は那波氏一族の居城で、那波郡（現在の伊勢崎市宮柴から前橋市上川淵・下川淵に及ぶ地域）という広大な地域を支配していたという。宿阿内城は那波氏の属城と考えられている。また、前橋の地名の由来と考えられる厩橋城（前橋城）が長野氏によって延徳元年（1489年）に築造されたことが「前橋風土記」に記録されている。

この頃の遺構としては、堀を巡らした居館跡、掘立柱建物跡、井戸等が、櫛島川端遺跡、公田池尻遺跡、公田東遺跡、横手湯田遺跡、村中遺跡、徳丸高塚遺跡、中内村前遺跡、西善尺司遺跡、徳丸仲田遺跡、鶴光路榎橋遺跡、前田遺跡、福島曲戸遺跡、福島久保田遺跡、福島飯塚遺跡、福島大島遺跡で確認されている。中世の生産遺構としては、利根川の変流に伴う洪水層で埋没したAs-B混土を耕土とする水田跡が、利根川左岸沿いの亀里平塚遺跡、横手宮田遺跡、横手早稲田遺跡、横手井戸南遺跡、利根川南側の福島曲戸遺跡、福島久保田遺跡、福島大光坊遺跡、福島飯塚遺跡、福島大島遺跡で確認されている。この時代の水田地割りも、基本的には条里制地割りを踏襲していると考えられるものが多い。

### (6) 近世～

本遺跡の立地する地域は、江戸時代～明治22年までは前橋藩領の群馬郡（明治11年からは、東群馬郡）新堀村・下阿内村に属していた。下阿内村は、寛文8年（1668年）新堀村から分村して成立している。「元禄郷帳」によれば、元禄2年（1689年）に検地が行われ、下阿内村は、村高449石余、新堀村は、555石余と伝えられている。

近世の遺構では、横手湯田遺跡、村中遺跡で、埋土・出土遺物から近世に比定される環濠屋敷が、亀里平塚遺跡・西田遺跡（事業団調査）では土坑墓が確認されている。特に、西田遺跡では約70基の土坑墓が確認され、人骨・棺材・銅銭等の副葬品が出土した。生産遺構としては、1783年（天明3年）噴火のAs-A軽石、洪水層で埋没した畚、As-A軽石復旧溝・復旧土坑（灰掻き穴）等が、横手宮田遺跡、横手早稲田遺跡、横手井戸南遺跡、福島曲戸遺跡、福島久保田遺跡、福島大光坊遺跡、福島飯塚遺跡、福島大島遺跡で確認されている。また、玉村町では、棚田添遺跡で畚・水田跡が確認されている。

本地域は、明治22年～昭和29年までは群馬郡下川淵村に属しており、昭和29年には、戦後最大の町村合併が実施され、前橋市に合併され現在に至っている。前橋南部地域は、長らく、米・麦作を中心とする一大穀倉地帯であったが、市街地の拡大とともに宅地化の波が押し寄せつつあり、昭和40年代の圃場整備と県道前橋長湯線・北関東自動車道等の幹線道路の建設なども加わって、大きく様変わりしつつある。



第 6 図 下河内町町界、下河内町内市道跡仁道以流跡圖 (1:25,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要 (主な出土遺物)	調査年次・報告書等
1	下阿内谷町畑遺跡	前橋市下阿内町	本遺跡	本書
2	下阿内前田遺跡	前橋市下阿内町	本遺跡	本書
3	西田遺跡	前橋市鶴光路町	古墳時代As-C 凝土下水田、Hr-FA 下水田。平安時代後期の竪穴住居・As-B 下水田。江戸時代の土坑墓。	図：調査1997・1998 【年報】17
4	西田遺跡	前橋市鶴光路町	平安時代As-B 下水田。	市：調査1995報告1995
5	西田II遺跡	前橋市鶴光路町	平安時代As-B 下水田・平安時代後期の竪穴住居	市：調査1997報告1998
6	西田田遺跡	前橋市鶴光路町	縄文時代早期の有否不明。古墳時代の溝・土坑。平安時代As-B 下水田。平安時代の竪立柱建物。中・近世の溝。	市：調査1998報告1999
7	西田IV遺跡	前橋市鶴光路町	平安時代As-B 下水田。中・近世の溝。	市：調査1998報告1999
8	村中遺跡	前橋市鶴光路町	古墳時代As-C 凝土下水田。平安時代As-B 下水田。中世居館。近世居館・土坑墓。	図：調査1998～1999 【年報】18
9	横手湯田遺跡	前橋市鶴光路町	古墳時代前期周溝墓・竪穴住居・Hr-FA 下水田・Hr-PP 下水田。平安時代As-B 下水田。中世洪水層下水田・中世居館。近世礫層居館・As-A 凝石復旧土坑群。	図：調査1996～1998 【年報】16・17・18
10	横手湯田II遺跡	前橋市亀里町	平安時代As-B 下水田。	市：調査1997報告1998
11	横手湯田田遺跡	前橋市亀里町	平安時代As-B 下水田。近世溝・土坑。	市：調査1997報告1998
12	横手湯田IV遺跡	前橋市鶴光路町	平安時代As-B 下水田。	市：調査1998報告1998
13	横手早稲田遺跡	前橋市横手町	古墳時代前期周溝墓・竪穴住居・Hr-FA 下水田・Hr-PP 下水田。平安時代As-B 下水田。中世洪水層下水田。近世島・As-A 凝石復旧土坑群。	図：調査1998～1999 【年報】18
14	横手井戸南遺跡	前橋市横手町	古墳時代Hr-FA 下水田。平安時代As-B 下水田。中世洪水層下水田・中世居館。近世島・As-A 凝石復旧土坑群。	図：調査1998～1999 【年報】18
15	横手宮田遺跡	前橋市横手町	古墳時代As-C 凝土下水田・Hr-FA 下水田・Hr-PP 下水田。平安時代As-B 下水田。中世洪水層下水田。As-A 凝石復旧溝。	図：調査1996～1997 【年報】16
16	亀里平塚遺跡	前橋市公田町・亀里町・横手町	古墳時代Hr-FA 下水田。平安時代As-B 下水田。中世洪水層下水田。近世土坑墓。	図：調査1997～1999 【年報】17・18
17	公田池尻遺跡	前橋市公田町	縄文時代有否不明。古墳時代As-C 凝土下水田・Hr-FA 下水田。古墳時代前期、後期竪穴住居。平安時代As-B 下水田。中世居館。	図：調査1989～1996 【年報】9・10・14・15
18	公田東遺跡	前橋市公田町	古墳時代前期周溝墓より縄文土製品。後期竪穴住居・Hr-FA 下水田。奈良・平安時代竪穴住居・竪立柱建物・As-B 下水田。中世居館。	図：調査1994～1996 【年報】14・15
19	藤島川端遺跡	前橋市鶴光路町	縄文時代早期漆糸文土器。弥生時代中期葬墓・後期竪穴住居・古墳時代前期竪穴住居・周溝墓・As-C 下水田・島・後期竪穴住居・Hr-FA 下水田・Hr-PP 下水田。平安時代As-B 下水田。中世洪水層下水田・中世居館。	図：調査1991～1996 【年報】11～15
20	鶴光路榎橋遺跡	前橋市鶴光路町	平安時代竪穴住居・竪立柱建物・As-B 下水田。中世居館。	図：調査1998～1999 【年報】17・18
21	徳丸丸塚遺跡	前橋市徳丸町	古墳時代前期遺物。平安時代As-B 下水田。中世居館。	図：調査1998 【年報】18
22	徳丸仲田遺跡	前橋市徳丸町	縄文時代早期隆起線文土器・有否不明。古墳時代前期竪穴住居・As-C 凝土下水田・水路・Hr-FA 下水田。平安時代後期竪穴住居・竪立柱建物・As-B 下水田。中世居館。	図：調査1997～1999 【年報】17・18
23	西善尺司遺跡	前橋市西善町	縄文時代石器ブロンク。古墳時代前期周溝墓・後期Hr-FA 下水田。奈良・平安時代竪穴住居・As-B 下水田。中世居館・火葬墓。	図：調査1997～1999 【年報】17・18
24	中内村前遺跡	前橋市中内町	古墳時代前期周溝墓・竪穴住居・後期Hr-FA 下水田・Hr-PP 下水田。奈良・平安時代竪穴住居・As-B 下水田。中世居館。	図：調査1997～1999 【年報】17・18
25	前田遺跡	前橋市東町	平安時代竪穴住居・As-B 下水田。中世居館。	図：調査1998～1999 【年報】18
26	村中遺跡	前橋市鶴光路町	古墳時代前期の土師器出土。	市：調査1995
27	川曲遺跡	前橋市下佐島町	古墳時代後期の竪穴住居。	市：調査1982報告1982
28	下佐島遺跡	前橋市下佐島町	古墳時代後期の竪穴住居。	市：調査1981～1982 報告1983
29	後園II遺跡	前橋市後園町	古墳時代後期の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居。	市：調査1983報告1984
30	後園田遺跡	前橋市後園町	古墳時代前期の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居。	市：調査1982報告1983
31	東田遺跡	前橋市下佐島町	古墳時代前期の土師器出土。	市：調査1990
32	坊山遺跡	前橋市広瀬町	古墳時代後期の竪穴住居。	市：調査1983
33	宮地中田遺跡	前橋市宮地町	平安時代As-B 下水田。	市：調査1996報告1997
34	鶴光路緑引遺跡	前橋市鶴光路町	平安時代As-B 下水田。	市：調査1997報告1997
	藤川前遺跡	玉村町藤川	平安時代As-B 下水田。	町：調査1991報告1993



第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要 (主な出土遺物)	調査年次・報告書等
36	尾納町遺跡	玉村町上福島	平安時代As-B下水田。	町：調査1991報告1992
37	金免遺跡	玉村町上福島	平安時代As-B下水田。	町：調査1988報告1989
38	原流遺跡	玉村町越越	古墳時代前期の溝。平安時代の竪穴住居。	町：調査1995報告1998
39	砂町遺跡	玉村町上福島	縄文時代早期層有否不明。古墳時代前期溝。奈良時代道路。平安時代水田。	町：調査1998～1999 [年報] 18
40	新田浜遺跡	玉村町上福島	奈良・平安時代竪穴住居・掘立柱建物。As-B下水田。近世の畠・水田跡。	町：調査1992～1996 報告1997
41	神人村日遺跡	玉村町越越	平安時代竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑。水田跡。	町：調査1991～1992 報告1992
42	一万田遺跡	玉村町上福島	弥生時代後期再葬墓。平安時代竪穴住居・掘立柱建物・雑列。	町：調査1961報告1998
43	福島曲戸遺跡	玉村町福島	古墳時代前期竪穴住居・Hr-FA下水田。平安時代竪穴住居・As-B下水田。中世掘立柱建物・水田。近世水田・畠・As-A竪石復旧跡。	団：調査1998～2000 [年報] 18・19
44	福島久保田遺跡	玉村町福島	古墳時代前期竪穴住居・Hr-FA下水田。平安時代竪穴住居後期・As-B下水田。中世竪石・水田。近世As-A竪石復旧溝群。	団：調査1967・1999 [年報] 17
45	福島大光坊遺跡	玉村町福島	古墳時代前期竪穴住居・畠・Hr-FA下水田。平安時代竪穴住居・As-B下水田。中世水田。近世As-A竪石復旧溝。	団：調査1996・1999 [年報] 15・19
46	福島飯塚遺跡	玉村町福島	古墳時代前期周溝墓・As-C混水田・Hr-FA下水田・Hr-FP下水田。平安時代大溝(黒書土器)・竪穴住居・掘立柱建物・As-B下水田。中世竪石・水田。近世畠As-A竪石復旧跡。	団：調査1998～2000 [年報] 18・19
47	福島大島遺跡	玉村町福島	古墳時代Hr-FA下水田・Hr-FA上水田・Hr-FP下水田。平安時代竪穴住居・後期As-B下水田。中世居館。	団：調査1996～1998 [年報] 16・17
48	西横手遺跡群	高崎市宿横手町	古墳時代Hr-FA下水田・Hr-FP下水田。奈良・平安時代竪穴住居・土坑・溝。中世の館の跡。	団：調査1996～1998 [年報] 17・18
49	宿横手三波川遺跡	高崎市宿横手町	古墳時代Hr-FA下水田・Hr-FP下水田。平安時代As-B下水田。中世掘立柱建物・土坑・畠。近世の畠・灰塚き穴。	団：調査1996～1998 一部報告1999
50	上滝渡町北遺跡	高崎市上滝町	古墳時代As-C下水田・Hr-FA下水田。平安時代As-B下水田。中世屋敷跡。近世水田。	団：調査1995～1999 [年報] 15～19
51	上滝五反畑遺跡	高崎市上滝町	古墳時代Hr-FA下水田。平安時代As-B下水田。中世溝・土坑。近世水田。	団：調査1996～1997 報告1999

番号	古墳名	所在地	古墳の概要 (主な出土遺物)	備考			
A	八幡山古墳	前橋市朝倉町	全長130mの古墳時代前期(4世紀後半)東国最大の前方後方墳。	市：前橋の文化財			
B	前橋天神山古墳	前橋市広瀬町	全長129mの古墳時代前期(4世紀後半)東日本最大古の前方後方墳。底部穿孔壺型土器・三角縁神獸鏡。	市：前橋の文化財			
C	亀塚山古墳	前橋市山王町	6世紀前半の全長約60mの帆立貝式古墳。	市：前橋の文化財			
D	金冠塚古墳(二子山)	前橋市山王町	全長約52m。6世紀後半の前方後方墳。金銅製冠・土甲・刀・円筒埴輪・形象埴輪・遺書土器・土師器出土。	市：前橋の文化財			
E	上滝12号古墳	前橋市山王町	前方後方墳。後方部のみ残存。	県：群馬県遺跡台帳			
F	オーゴ山古墳(文塚山)	前橋市山王町	前方後方墳。西南の一隅が破壊。他は比較的良好に残存。	県：群馬県遺跡台帳			
G	下川瀬3号墳古墳	前橋市公田町	前方後方墳。後方部のみが残存。	県：群馬県遺跡台帳			
H	洗田神社古墳	前橋市横手町	前方後方墳。後方部の一部残存。	県：群馬県遺跡台帳			
番号	中世城館名	所在地	立地	存在期間	築・在城者	遺構・遺物等	備考
ア	宿阿内城	前橋市亀里町	平地	16世紀	三輪右丹	堀・土塀・戸口・櫓台・根小屋	近年破壊。
イ	宿阿内古城	前橋市亀里町	平地	文明九年(1477)	上杉顕定		
ウ	力丸城	前橋市力丸町	平地	15～16世紀	力丸氏	堀・土塀・戸口・根小屋	近年破壊。
エ	新堀城	前橋市新堀町	平地	16世紀	和田正盛		利根川以東が酒蔵。

\* 県：群馬県教育委員会、市：前橋市埋蔵文化財発掘調査団・前橋市教育委員会、町：玉村町教育委員会、団：財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

参考文献

『群馬県史通史編1 原始古代1』『群馬県遺跡台帳東毛編』『群馬県古墳総覧』『群馬県の中世城館誌』『川曲遺跡』『下佐島遺跡』(以上 群馬県教育委員会)、『日本地名辞典10群馬県(角川書店)』『年報9～18』『群馬県遺跡大辞典』(以上 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)『前橋市史第一巻』『前橋の文化財』『前橋市文化財調査報告書第1集』(以上 前橋市教育委員会)、『後園II遺跡』『後園III遺跡』『西田遺跡』『西田II遺跡』『西田IV遺跡』『横手湯田II遺跡』『西田II遺跡』『横手湯田II遺跡』『鶴久路線引遺跡』『宮地中田遺跡』『まえばし文化財地誌』『前橋市埋蔵文化財調査地一覧表』(以上 前橋市埋蔵文化財発掘調査団)、『玉村の遺跡』『砂町遺跡現地説明会資料』『神人村日遺跡』『一万田遺跡』『金免遺跡』『尾納町遺跡』『藤川前遺跡』『原流遺跡』(以上 玉村町教育委員会・玉村町遺跡調査会)

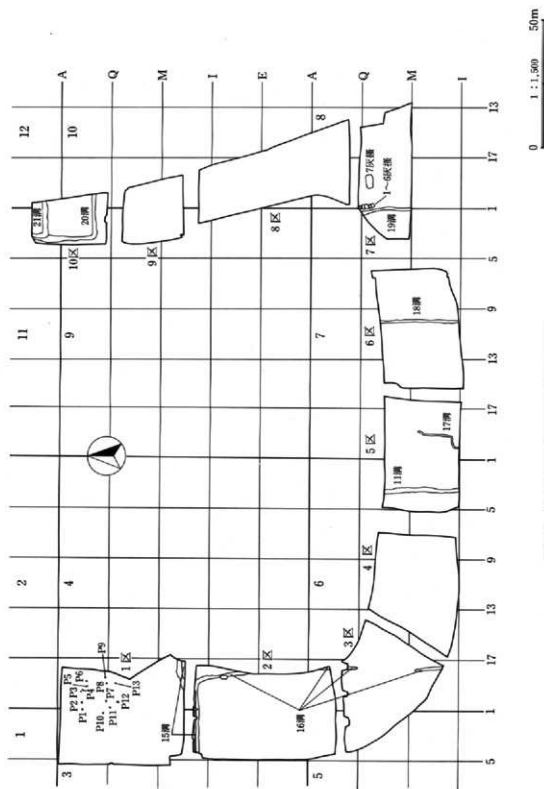


# 第 3 章

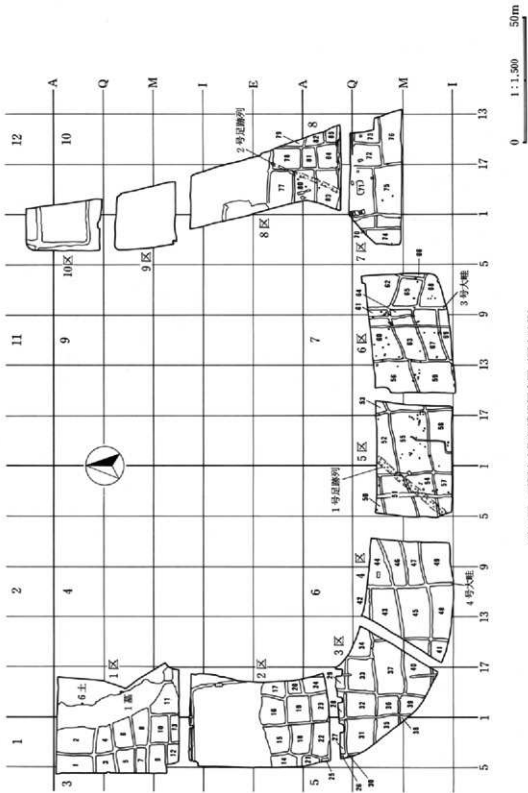
## 下阿内壱町畑遺跡 の調査



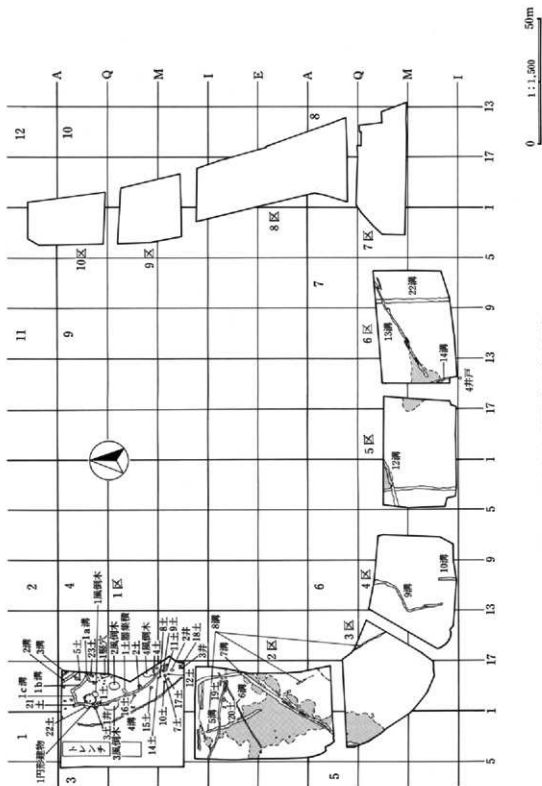
下阿内壱町畑遺跡 2 区調査風景 (南より)



第7図 下阿内宅町畑道跡念図(中・近世)



第8図 下阿内宅町知遺構概念図(平安時代)



第9図 下阿内老町畑遺跡概念図（古墳時代）

## 第1節 調査の概要

下河内町畑遺跡の調査では、まず、基本土層V層(As-B軽石層)までを除去して、第1面の中・近世と第2面の平安時代の調査をし、次に、VII～VIII層までを除去して、第3面の古墳時代～古墳時代以前の調査をした。その結果、概ね下記のような遺構・遺物が検出された。

### 中・近世(第1面)

第1面として、V層(As-B軽石層)下を調査した。確認された遺構は、溝8条、灰掻き穴7基である。As-B下水田(平安時代)の調査と同じ確認面であったが、埋設土・出土遺物等から判断し、中・近世以降に比定される遺構をここで報告する。特に、10区の21号溝は、掘り方が葉研堀状(V字形)に掘られ、方形に曲がって走行しており、中世以降の区画溝(館の堀)と思われる。他の溝からは、陶磁器片・ガラス瓶等の遺物が出土しており、ほとんどが近世～近代に比定される遺構である。7区で確認された、灰掻き穴は、耕地(高・水田)を復旧するためにAs-A軽石を掻き集めて埋めた土坑であると考えられる。

### 平安時代(第2面)

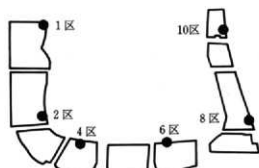
第2面として、V層(As-B軽石層)下を中近世面でも報告した遺構と同じ確認面で調査した。確認された遺構は、土坑1基、土坑基1基と畦で区画されたAs-B下水田跡、足跡列2列である。9・10区では、後世の擾乱のため削平されておりAs-B軽石層が確認できなかった。水田跡には、東西・南北方向に走る畦、規則的に並ぶ足跡、耕作痕、水口等が確認できた。また、1区東側高地では、溝・土坑・土坑基が確認され、木製品・土師器・須恵器等が出土した。1号土坑基からは人骨も出土しており、第5章第1節に鑑定結果を掲載したので参照されたい。なお、As-B下水田の調査時に、水田埋設土や耕作土上から水田経営の時期に伴わないと考えられる古銭・陶磁器片等が出土している。これらの遺物は、耕作などによる土壌の攪拌により水田面に混入したと考えられるため、(4)遺構外遺物の項に掲載した。

### 古墳時代(第3面)

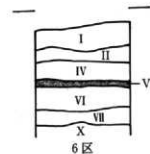
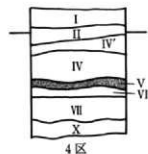
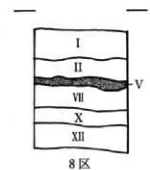
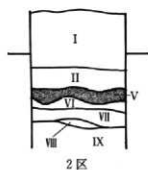
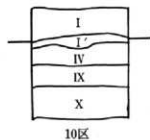
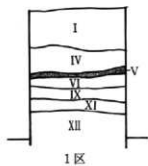
第3面として、VII層～VIII層(Hr-FA層)下を調査した。ほとんどの遺構・遺物は1区東側高地部分で検出された。確認された遺構は、円形建物跡1棟、土器集積1基、土坑22基(13号土坑は欠番、21～23号土坑は、計測表のみを掲載)、井戸4基、溝16条、竪穴状遺構1基、風倒木痕4基、ピット23基、2区で検出されたHr-FA下水田跡である。検出された数条の溝は、遺構と想定されるが、ここで報告する。出土した主な遺物は、古墳時代前期のS字状口縁台付甕を中心とする土師器、須恵器、石製模造品、木製品等である。7～10区では、古墳時代の遺構は確認できなかった。1区東側高地の遺物包含層からは、多数の土師器片、1点の牛歯、縄文時代の石鏃等も出土したが、その土層下の確認調査では、古墳時代以前(弥生・縄文)の遺構は検出できなかった。なお、ここでは、Hr-FA降下より新しい古墳時代後期以降(奈良・平安時代)に比定される溝、古墳時代以前で時期不明の風倒木痕も報告する。

## 第2節 基本土層

下河内町畑遺跡の各調査区の基本土層は、次頁の通りである。土層の詳細は第1章第4節を参照されたい。



- I 層 表土 (現耕作土)
- I' 層 茶褐色砂質土
- II 層 水田床土
- IV 層 As-B混土
- IV' 層 As-B混土
- V 層 As-B軽石
- VI 層 As-B下水田耕土
- VII 層 水田床土
- VIII 層 Hr-FA
- IX 層 As-C混土
- X 層 As-C混土
- XI 層 黄褐色土 ローム層
- XII 層 灰褐色土



L-76.30m

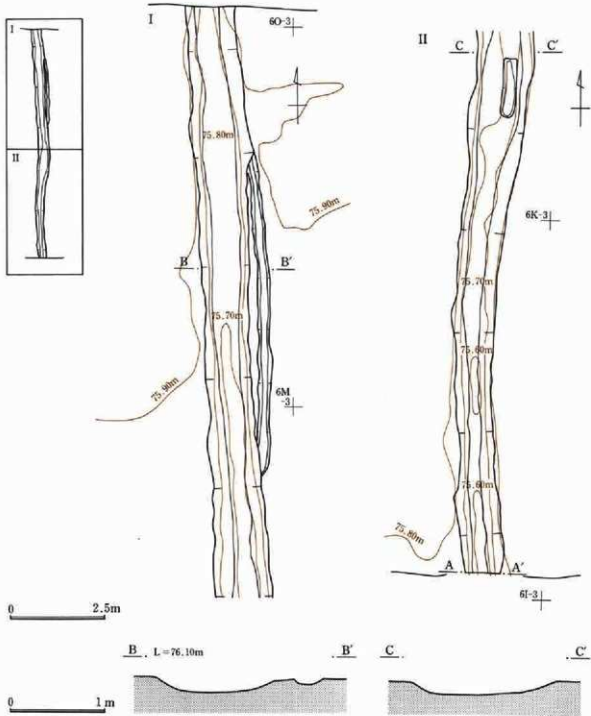
第10図 下阿内巻町畑基本土層図



第3節 検出された遺構と遺物

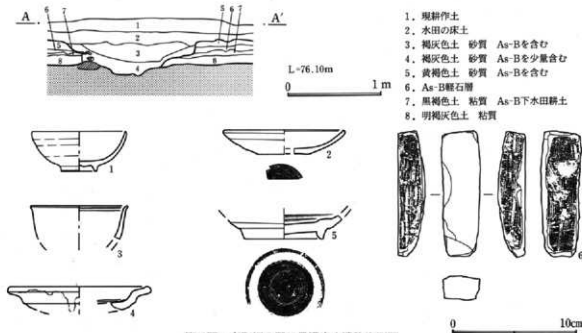
1、中・近世の調査

(1) 溝



第11図 壱町畑5区11号溝実測図

第3章 下阿内宅町知遺跡の調査



第12図 宅町畑5区11号溝出土遺物実測図

第2表 宅町畑5区11号溝出土遺物観察表

採回番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①軸土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考			
							長さ	幅	厚さ
12-1 P.L.16	肥前磁器 杯	覆土	口- (7.2) 底- 2.7 高- 3.1	① ② ③灰白色	残存部に文様はない。	1/4			
12-2 P.L.16	瀬戸・美濃 陶器 灯明皿	覆土	口- (9.6) 底- (4.0) 高- 1.9	① ② ③褐色	鉄軸を差し、外面体部下位以下の軸を拭い取る。	破片			
12-3 P.L.16	製作地不詳 磁器 碗	覆土	口- 7.6 底- 高- (2.6)	① ②不良 ③灰オリーブ	口縁部内面に2条の染付線飾。口縁。外面青磁軸?19世紀?外面は厚く施軸するが、オリーブ灰色を帯びる。	破片			
12-4 P.L.16	瀬戸・美濃 陶器 皿	覆土	口- 11.0 底- 高- 1.9	① ② ③灰白色	内面に灰軸。底部周縁にリング状の重ね焼き痕。これより内側は軸が薄く、一部に鉄線が認められる。	破片			
12-5 P.L.16	瀬戸・美濃 陶器 輪壳皿	覆土	口- 底- 6.2 高- (1.5)	① ② ③暗褐色	底部周縁の重ね焼き部の軸を拭い取る。17~18世紀。内面鉄軸。	底部片			
採回番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm・g)				石材	特徴	残存状態
			長さ	幅	厚さ	重量			
12-6 P.L.16	石製品 砥石	覆土	9.8	2.9	1.8	92	砥沢石	一面使用。	ほぼ光形

11号溝 (図11・12、P.L.2・16)

位置は、5区調査区の西側、6 I-O-3 グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行 (N-0°) と想定され、北側と南側ともに調査区外に延びていく。検出全長は28.9m、上幅0.86~1.60m、底幅0.52~0.86m、深さ0.14~0.24mである。他の遺構との重複関係は、12号溝とAs-B下水田の東西に走る畦3本と1号足跡列と重複しているが、本遺構が後出である。確認された範囲での溝の底面はほぼ水平で、水路として使われた可能性が高く、地形的に北から南へ水が流れたと考えられる。埋設土は、As-B軽石を含む褐灰色砂質土である。出土遺物は、陶器・輪壳皿1点 (17~18世紀)、陶器・灯明皿1点、陶器・皿1点、磁器・碗1点、磁器・杯1点、砥石1点 (以上は、図化)、その他の出土遺物は、流木、植物の種子2点、陶磁器等の破片86点である。以上のことから、本遺構は、近世の水田等に伴う水路と考えられる。

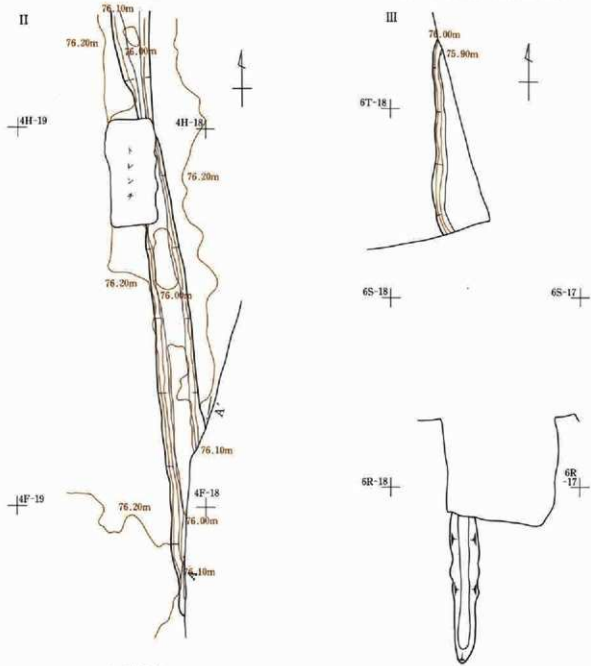
I



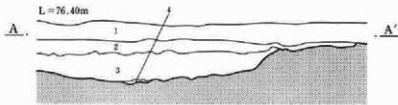
第13图 志町畑 1~3 区 15・16号溝実測图(1)



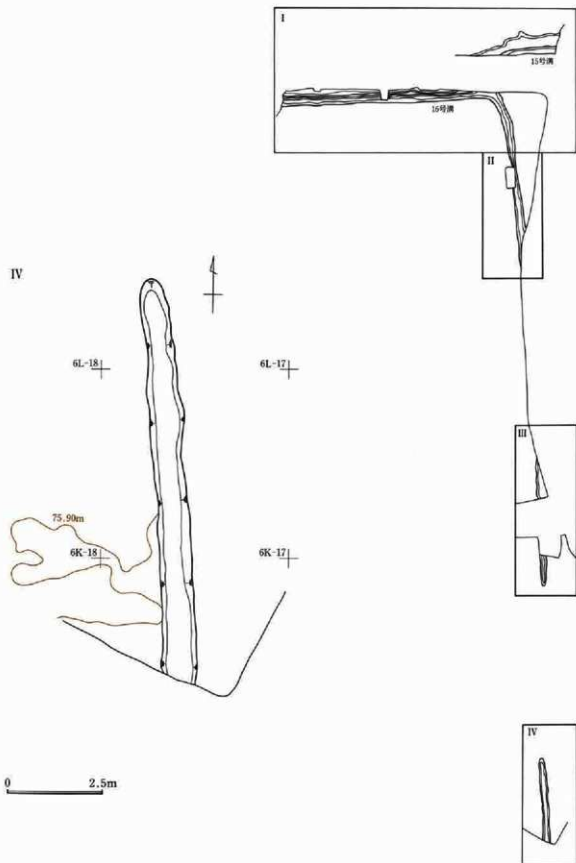
第3節 検出された遺構と遺物



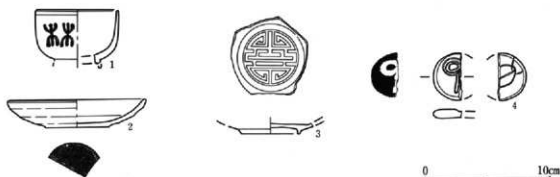
1. 現層作土
2. 水田の床土
3. 青灰色土 粘質 軽石粒を含む
4. 暗灰色土 砂質



第14図 志町畑 1～3区15・16号溝実測図(2)



第15図 壱町畑 1～3区15・16号溝実測図(3)



第16図 宅町畑2・3区16号溝出土遺物実測図

第3表 宅町畑2・3区16号溝出土遺物観察表

探検番号 P.L. No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土・焼成 ②色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
16-1 P.L.16	瀬戸・美濃 磁器 碗	覆土	口-(6.6) 底- 高-(4.1)	① ② ③白色	外面コバルトによる染付。口縁端部口紙。	破片
16-2 P.L.16	瀬戸・美濃 陶器 灯明皿	覆土	口-(11.0) 底-(5.0) 高-(2.2)	① ② ③褐色	釉焼を施した後、底部外面釉を拭い取る。	1/4
16-3 P.L.16	製作地不詳 磁器 皿	覆土	口- 底-4.7 高-(0.5)	① ② ③灰白色	白磁。底部内面に双喜文風の文様を押し。	底部片
16-4 P.L.16	ガラス製品 玩具 (石蹴り)	覆土	口-(3.8) 底-(2.3) 高-0.7	① ② ③	小製品。近・現代。	1/2

## 15号溝 (図13~15, P.L.2)

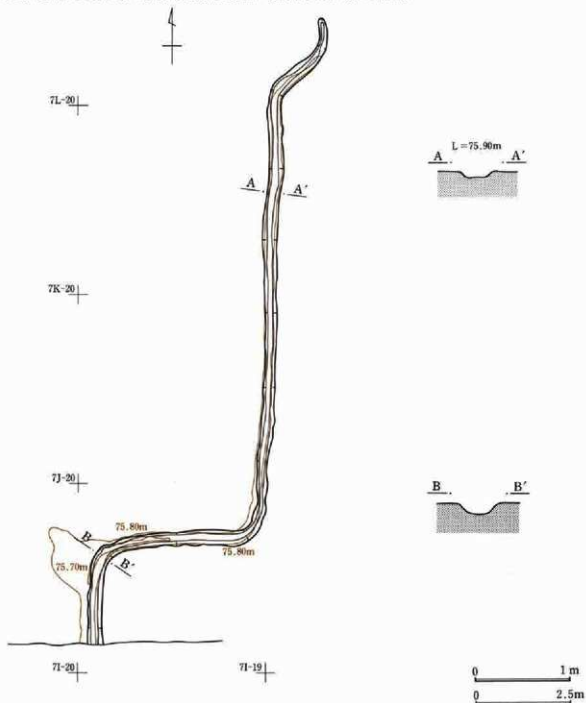
位置は、1区調査南東隅から2区調査区の北側(1区2区間の馬入れ部分)、3・4 I~K-17~20・1~4グリッドで検出された。走行方向は、東から西への走行(N-90°W)と想定され、東側と西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は37.0m、深さ0.08~0.26mであるが、検出された溝が馬入れによって分断されているため、上幅・底幅は不明である。他の遺構との重複関係は、確認されなかったが、16号溝と東西の走行で平行して検出された。確認された範囲での溝の底面はほぼ水平で、水路として使われた可能性が高く、地形的に東から西へ水が流れたと考えられる。埋設土は、白色軽石粒を含む暗灰色砂質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構は、近世~近現代の水田等に伴う水路と考えられる。

## 16号溝 (図13~16, P.L.2・16)

位置は、2区調査区の北側から東側へ、3 I-4グリッド~4 I-18グリッドにかけて東西の走行(N-90°W)、さらに3区調査区の中央部分へ4 I-18グリッド~6 J-17グリッドにかけて南北の走行(N-8°E)で検出された。2区西側、2区東側、3区南側で調査区外に延びていく。検出全長は50.19m、上幅0.46~1.40m、底幅0.06~0.40m、深さ0.19~0.30mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。確認面が、As-B下面であったため、3区調査区では中央付近で、溝はいったん消滅し、再び南側で確認された。埋設土は、軽石粒を含む青灰色粘質土と暗灰色砂質土である。出土遺物は、陶器・灯明皿1点、陶器・碗1点、白磁・皿1点、ガラス製品(石蹴り用の玩具)1点、(以上は、図化)、その他の出土遺物は、陶磁器等の破片56点である。以上のことから、本遺構の時期は、近世~近・現代であると考えられる。

17号溝 (図17、P L 2)

位置は、5区調査区の東側、7 I~L-18・19グリッドで検出された。走行方向は、初めは北から南へ(N-0°)、途中で東から西へ(N-90°-W) 走行を変え、さらに北から南へ(N-0°) 走行したと想定される。調査区の中応部分からAs-B下水田の東西に走る畦を切って、南側の調査区外に延びていく。検出全長は20.4m、上幅0.16~0.42m、底幅0.04~0.24m、深さ0.08~0.12mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。本遺構が後出である。埋設土は、白色軽石粒を含む黄褐色砂質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、近世~近代であると考えられる。

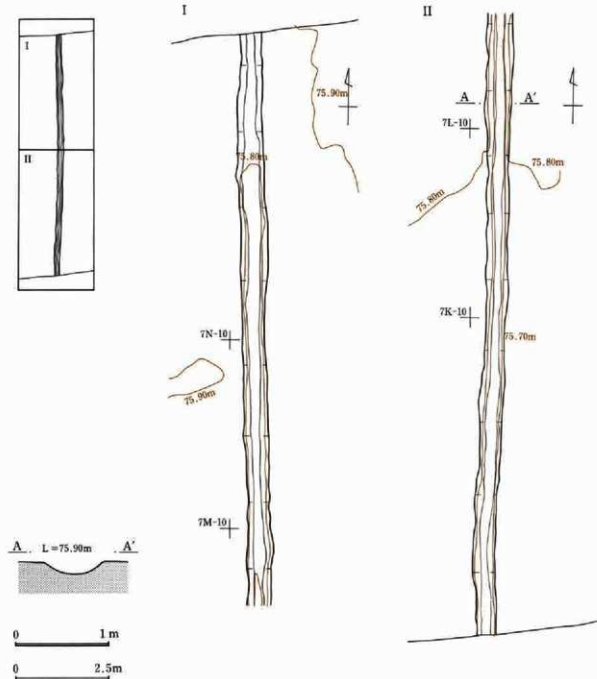


第17図 老町畑 5区17号溝実測図

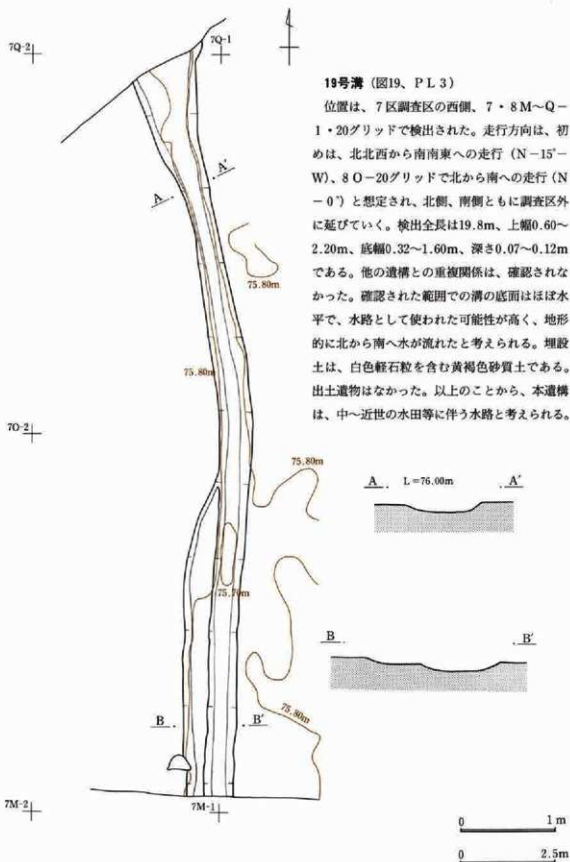


18号溝 (図18, P L 3)

位置は、6区調査区の中央、7 I～O-9グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-0')と想定され、北側、南側ともに調査区外に延びていく。検出全長は31.5m、上幅0.54～0.72m、底幅0.20～0.34m、深さ0.07～0.13mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。確認された範囲での溝の底面はほぼ水平で、地形的に北から南へ水が流れたと考えられる。埋設土は、白色軽石粒を含む黄褐色砂質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構は、中～近世の水田に伴う水路と考えられる。

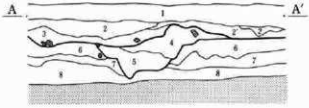
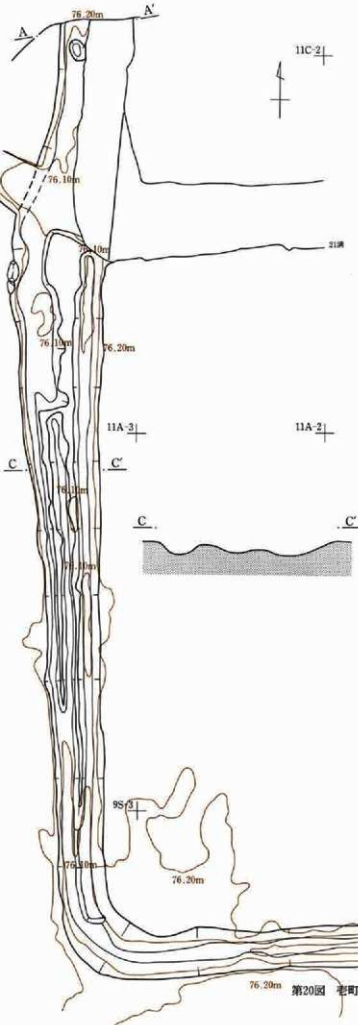


第18図 志町畑6区18号溝実測図

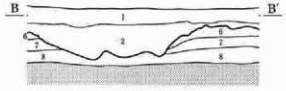


第19図 老町畑7区19号溝実測図

第3節 検出された遺構と遺物



1. 現耕作土
2. 黄褐色土 砂質 白色軽石粒を含む
- 2'. 黄褐色土 砂質
3. 暗灰色土 砂礫混じり層
4. 明茶褐色土 白色軽石を含む
5. 暗灰色土 粘質 鉄分の沈殿を含む
6. 灰褐色土 粘質
7. 黒褐色土 粘質 Ac-Cを含む
8. 黄褐色土 粘質
9. 灰白色土 粘質

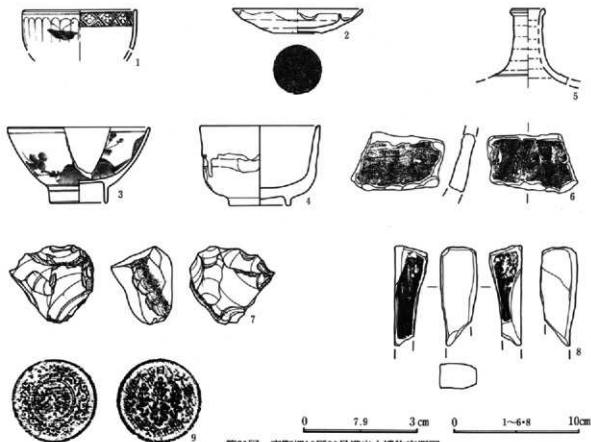


L=76.40m 0 1m

0 2.5m

第20図 老町畑10区20号溝実測図

第3章 下阿内宅町畑遺跡の調査



第21図 宅町畑10区20号溝出土遺物実測図

第4表 宅町畑10区20号溝出土遺物観察表

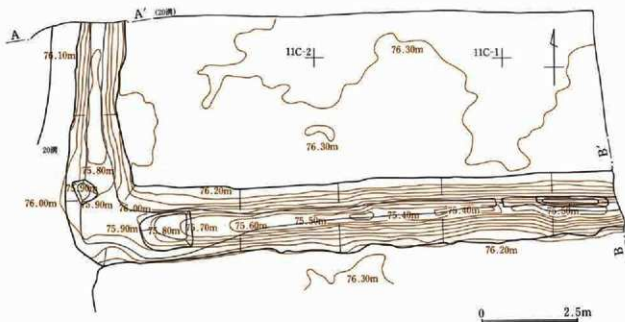
探出番号 P.L.No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調		成・整形技法の特徴	残存状態 備考		
				①	②				
21-1 P.L.16	肥前磁器 碗	覆土	口- (9.0) 底- 高- (3.0)	① ② ③灰白色	口縁部内面に四方たすき文。外面は菊花状の文様を掻く。丸碗の口縁であろう。	破片			
21-2 P.L.16	製作地不詳 受け皿	覆土	口- (10.2) 底- 3.7 高- 1.9	① ② ③灰白色	器壁薄い。内面から口縁部外面灰釉。受け部「U」字状の狭り1ヶ所。明治か。	4/5			
21-3 P.L.16	瀬戸・美濃 磁器 碗	覆土	口- 11.2 底- 4.6 高- 6.1	① ② ③白色	圓縁はコバルト。他は黒と茶色をコンプレッサーで吹置。昭和。	2/3			
21-4 P.L.16	瀬戸・美濃 陶器 碗	覆土	口- 9.5 底- 4.8 高- (6.2)	① ② ③灰白・暗褐色	いわゆる厚胎碗。体部に凹みを有し、3条の凹線を巡らす。内面から口縁部外面灰釉。他は鉄釉。高台内も鉄釉。	1/2			
21-5 P.L.16	瀬戸・美濃 陶器 徳利	覆土	口- (2.7) 底- 高- (6.0)	① ② ③褐色	外面鉄釉。肩部に低い突帯を有する。	頸部片			
21-6 P.L.16	焼締陶器 壺	覆土	厚さ 1.2 口・底・高は不明	① ② ③明褐色	知多堂壺の体部片。中世。	破片			
探出番号 P.L.No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm・g)				石材	特徴	残存状態
			長さ	幅	厚さ	重量			
21-7 P.L.16	石製品 火打ち石	覆土	2.0	1.3	1.6	5.9	玉髓	使用による磨減あり。	1/2
21-8 P.L.16	石製品 砥石	覆土	7.8	2.8	2.0	64	流紋岩	四面使用。	1/2
探出番号 P.L.No.	種類	出土 位置	銭貨名	国名	発行年	計測値 (cm・g)			残存状態・備考
						外輪径	内輪径	重さ	
21-9 P.L.16	銅銭	覆土	一銭	日本	大正十年	2.3	-	3.3	完形

## 20号溝 (図20・21、PL3・3)

位置は、10区調査区の北側から南側へ、9～12R～T・A～C-19・20・1～3グリッドで検出された。走行方向は、初めは、北から南への走行(N-0°)、さらに西から東への走行(N-90°-E)と想定され、北側と東側は、調査区外に延びていく。検出全長は21.0m、上幅1.10～2.60m、底幅0.26～0.64m、深さ0.07～0.22mである。他の遺構との重複関係は、21号溝と重複しているが、本遺構が後出である。確認された範囲での溝の底面はほぼ水平で、地形的に北から南へ、西から東へと水が流れたと考えられる。埋設土は、白色軽石粒を含む黄褐色砂質土と砂礫混じりの暗灰色土である。出土遺物は、焼締陶器・甕1点、陶器・碗1点、陶器・徳利1点、磁器・碗2点、受け皿1点、砥石1点、火打ち石1点、古銭1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、ガラス製品(薬の瓶等)4点、流木、植物の種子1点、陶磁器等の破片107点である。以上のことから、本遺構の時期は、近世～現代で、圃場整備以前まで使用していた水田に伴う水路と考えられる。

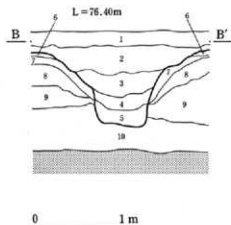
## 21号溝 (図22・23、PL3・4)

位置は、10区調査区の北側、11・12A～C-20・1～3グリッドで検出された。走行方向は、20号溝と平行に北から南への走行(N-0°)、さらに西から東への走行(N-90°-E)と想定され、北側と東側は、調査区外に延びていく。検出全長は19.0m、上幅1.16～2.00m、底幅0.60～1.20m、深さ0.47～0.97mである。他の遺構との重複関係は、20号溝と重複しているが、本遺構が前出である。埋設土は、白色軽石を含む明茶褐色砂質土と鉄分の沈殿のある暗灰色粘質土である。出土遺物はなかったが、溝の形状が、葉研細状(V字形)に掘られており、方形に曲がって走行していること。約100m北側の鶴光路複線遺跡(北関東自動車道に伴う事前調査)において堀に囲まれた館跡も検出されていること。当地域には、中近世の館(屋敷)跡が多数残されていること。以上の理由から、中世～近世の屋敷に伴う区画溝と想定される。



第22図 宍町畑10区21号溝実測図(1)

### 第3章 下阿内老町畑遺跡の調査



1. 現耕作土
2. 明茶褐色土 白色軽石を含む
3. 明茶褐色土 やや砂質 白色軽石・粘土ブロックを含む
4. 暗灰色土 粘質 鉄分の沈殿を少し含む
5. 暗灰色土 粘質 鉄分の沈殿を含む
6. 暗黄褐色土 粘質 Hr-FA相当の土層
7. 灰褐色土 粘質
8. 赤褐色土 粘質 鉄分を多く含む
9. 灰褐色土 粘質
10. 白色土 粘質

第23図 老町畑10区21号溝実測図(2)

#### (2) ビット (図7)

1区東側微高地から検出された、埋設土から中近世に比定されるビット13基の位置は第7図に、計測表は、(5)計測表の項に掲載する。

#### (3) 灰掻き穴

##### 1～6号灰掻き穴 (図24、P L 4)

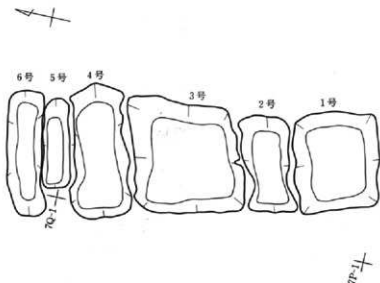
位置は、7区北東側、7・8 O～Q-1・20グリッドで6基の灰掻き穴が南北に並んで検出された。

1号灰掻き穴の位置は、7・8 Q-1・20グリッドで、平面形は長方形に掘られ、大きさは、長軸2.00m、短軸0.58m、長軸方位は、N-77°-Eである。2号灰掻き穴の位置は、8 P・Q-20グリッドで、平面形は長方形に掘られ、大きさは、長軸1.50m、短軸0.40m、長軸方位は、N-77°-Eである。3号灰掻き穴の位置は、7・8 P・Q-1・20グリッドで、平面形は長方形に掘られ、大きさは、長軸2.13m、短軸1.22m、長軸方位は、N-74°-Eである。4号灰掻き穴の位置は、8 P-20グリッドで、平面形は方形に掘られ、大きさは、長軸1.71m、短軸1.68m、長軸方位は、N-74°-Eである。5号灰掻き穴の位置は、8 P-20グリッドで、平面形は長方形に掘られ、大きさは、長軸1.55m、短軸1.18m、長軸方位は、N-74°-Eである。6号灰掻き穴の位置は、80・P-20グリッドで、平面形は方形に掘られ、大きさは、長軸1.58m、短軸1.32m、長軸方位は、N-73°-Eである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-A軽石で、人為埋設である。出土遺物はなかった。本遺構は、As-A軽石降下(1783年、天明3年)後、As-A軽石を集めて埋めるために掘られた遺構であり、時期は近世中期以降である。

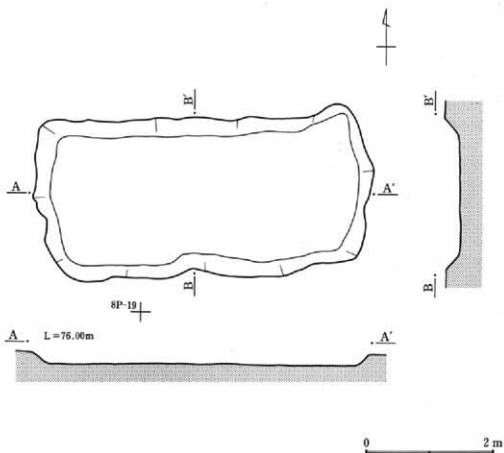
##### 7号灰掻き穴 (図24、P L 4)

位置は、7区北側、8 P-18・19グリッド、1号～6号灰掻き穴の東側で検出された。平面形は、長方形に掘られ、大きさは、長軸5.43×短軸2.42m、深さ0.22m、長軸方位は、N-88°-Eである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-A軽石で、人為埋設である。出土遺物はなかった。本遺構も、上記の灰掻き穴と同様、As-A軽石降下後の復旧用に掘られた遺構であり、時期は近世中期以降である。

1～6号灰掻き穴



7号灰掻き穴



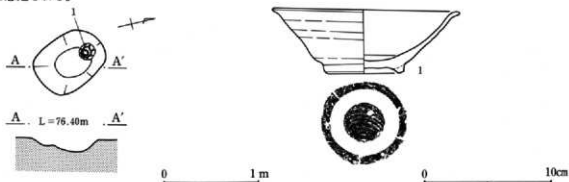
第24図 宅町畑7区1～7号灰掻き穴実測図

## 2、平安時代の調査

## (1) 土坑

## 8号土坑 (図25、P.L4・16)

位置は、1区調査区東側微高地で、4R-19・20グリッドで検出された。平面形は隅丸長方形に掘られ、大きさは、長軸0.74×短軸0.56m、深さは0.14m、長軸方位は、N-25°-Wである。他の遺構との重複関係では、1号円形建物跡の内部に位置し、本遺構が後出であると考えられる。埋設土はAs-B軽石を含む青灰色粘質土である。出土遺物は、ほぼ完形の須恵器碗(10世紀後半)1点である。本遺構の時期は、10世紀後半と想定される。



第25図 巻町畑1区6号土坑・出土遺物実測図

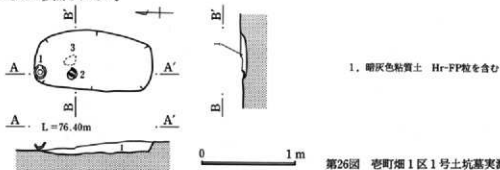
第5表 巻町畑1区6号土坑出土遺物観察表

探図番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
25-1	須恵器	底部	□- 14.8	①粗砂粒	轆轤成形(右回転)底部回転未切り後、付高台。	完形
P.L16	高台付碗		底- 6.3 高- 5.3	②還元焰・良 ③黒色	口縁は外反する。内外面いぶし。	

## (2) 土坑墓

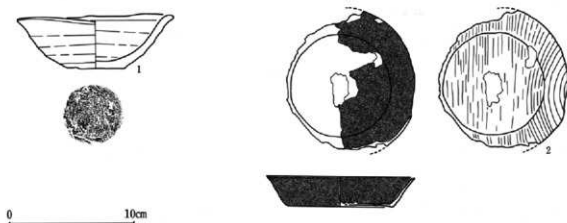
## 1号土坑墓 (図26・27、P.L4・16)

位置は、1区調査区東側微高地で、4O-18・19グリッドで検出された。後世の削平のため、掘り方が不明瞭で、平面形状ははっきりしなかったが、推定の大きさは、長軸約1.25×短軸約0.62m、深さは約0.11m、長軸方位は、N-20°-Wである。出土遺物は、漆器1点・須恵器環2点(10世紀)と人歯(出土位置3)である。歯の出土位置から想定すると、北側に頭を向けて埋葬されたと考えられる。須恵器環は、2枚重なった状態で出土したが、内側の環は脆弱で図化できなかった。他の出土遺物は、土師器・須恵器の破片35点であるが、埋設時に混入したものであると思われる。埋設土はHr-FP軽石粒を含む暗灰色粘質土である。本遺構の時期は、10世紀と想定される。第5章第1節に出土人骨の鑑定結果、第2節に漆器の木質の観察結果を掲載したので参照されたい。



第26図 巻町畑1区1号土坑墓実測図





第27図 沓町畑1区1号土坑基出土遺物実測図

第6表 沓町畑1区1号土坑基出土遺物観察表

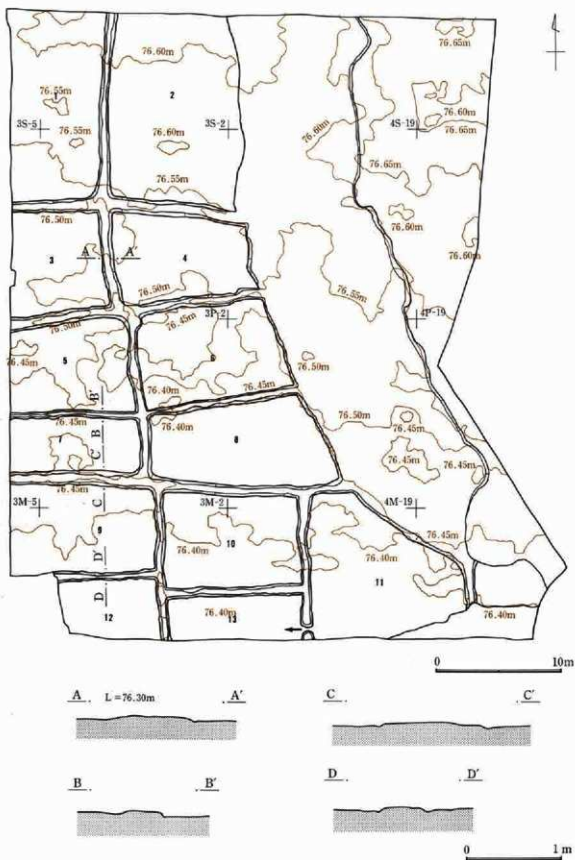
検出番号 P.L.No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
27-1 P.L.16	須恵器 坏	覆土	口-12.4 底-4.5 高-4.2	①粗砂粒・小礫混 ②中性焰 ③浅黄色	轆轤成形(?) 底部回転糸切り。	完形
検出番号 P.L.No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	成・整形技法の特徴・備考		残存状態
27-2 P.L.16	木製 漆器杯	覆土	口-(11.6) 底-8.0 高-(2.3)	内外面ともに黒漆を塗る。外面内面に木目の跡がかすかに残存しているが、中身の木質はなくなっている。そのため、断面図としての厚さは不明である。		漆部のみ 1/3

### (3) As-B下水田、足跡列

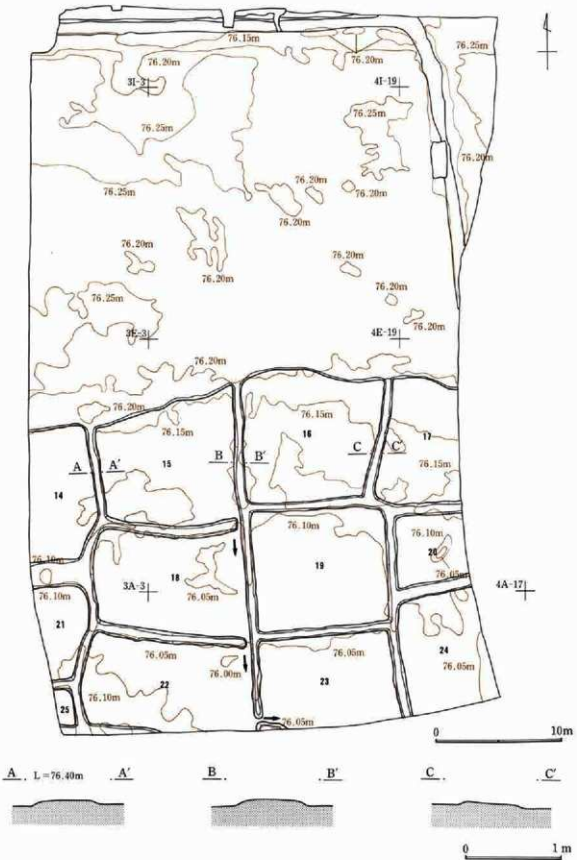
V層(As-B軽石層)は、層厚0.05~0.15mほどで、1区東側・2区北側・8区北側・9区・10区調査区を除いた、1~8区調査区に堆積していた。この層の下部、水田面の直上には薄く青灰色の火山灰と大粒の白色味を帯びた軽石が確認されたため、1次堆積と考えられる。V層を取り除くと、調査区ほぼ全域で畦で区画された、As-B下水田が良好な状況で確認された。南北の畦(以下、縦畦)の走行は、ほぼ座標北を向いており、縦畦に直交して、東西の畦(以下、横畦)が走行している。田面の標高は76.6~75.8mで、水田耕土は、土質が均質な黒色粘質土である。確認した85区画の水田のうち、区画がわかるものは26区画で、その面積は21.8~327.5m<sup>2</sup>、平均は135.8m<sup>2</sup>である。以下は、調査区毎のAs-B下水田の検出状況である。なお、水田区画の面積等の詳細は、第30表As-B下水田計測表を参照されたい。

#### 1区水田(図28、P.L.5・9)

東側では、As-B層の堆積は確認できず、水田も検出できなかった。西側では、縦畦と横畦に囲まれた13区画の水田が良好な状態で検出された。そのうち区画がわかるものは4区画で、面積は65.2~84.7m<sup>2</sup>、平均面積は76.9m<sup>2</sup>である。田面の標高は76.6~76.3mで、高低差0.3mである。縦畦は3本、横畦は6本確認され、縦畦の方位は、ほぼ座標北を向いており、N-0~5°-Eで、横畦の方位は、N-82~90°-E、N-84°-Wである。畦の幅は、0.40~1.17mで、畦の高さは、0.01~0.06mである。水口は1口検出できただけだったので、用水の移動は、標高の高い水田が満水になった後、畦をオーバーフローして、順次南の水田へ流れ込む、「かけ流し」の方法をとっていた可能性が考えられる。水田区画の面積を比べてみると、1区水田は、他の調査区の水田面積より、やや小区画の水田が作られていることが看取できる。



第28図 壱町畑1区As-B下水田実測図



第29図 宅町2区As-B下水田実測図

## 2 区水田 (図29、P L 5・9)

北側は後世の攪乱のために、As-B層の堆積は確認できず、水田も検出されなかった。南側では、12区画の水田が良好な状態で検出された。そのうち区画がわかるものは3区画で、面積は89.5～96.8m<sup>2</sup>、平均面積は92.3m<sup>2</sup>である。田面の標高は76.2～76.0mで、高低差0.2mである。縦畦は3本、横畦は6本確認され、縦畦の方位は、N-15°-E～N-10°-Wで、横畦の方位は、N-83°-E、N-87°-Wである。畦の幅は、0.54～1.04mで、畦の高さは、0.01～0.07mである。水口は、3口が検出できた。用水は、西側の区画は水口を通して、東側の区画は「かけ渡し」で北から南へ供給されたと考えられる。2区水田は、1区水田と同様、やや小区画の水田が作られていることが看取できる。

## 3 区水田 (図30、P L 6・9)

3区調査区では、As-B層の堆積が0.10～0.15mほど厚く、17区画の水田が検出された。そのうち区画がわかるものは6区画で、面積は61.9～217.6m<sup>2</sup>、平均面積は145.6m<sup>2</sup>である。田面の標高は76.05～74.90mで、高低差0.15mである。縦畦は5本、横畦は5本確認され、縦畦の方位は、N-5°-E～N-8°-Wで、横畦の方位は、N-88～90°-Eである。畦の幅は、0.38～1.24mで、畦の高さは、0.01～0.07mある。水口は、10口が検出できた。用水は、水口を通して、北から南の区画へ供給されたと考えられる。3区水田は、3区の中央部から東側では、西側に比べ広く造成されていることが看取できる。

## 4 区水田 (図31、P L 6・9)

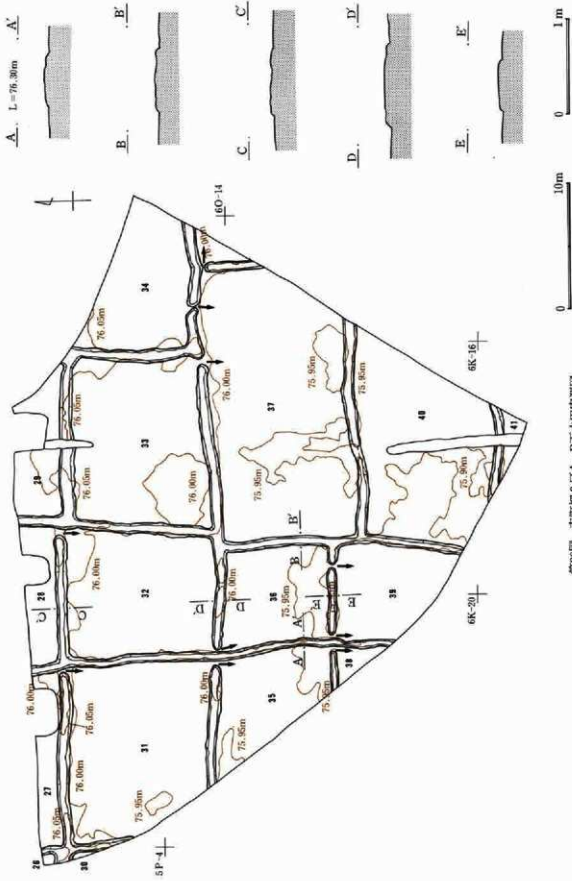
4区調査区では、10区画の水田が検出された。そのうち区画がわかるものは2区画で、平均面積は219.2m<sup>2</sup>である。田面の標高は76.00～75.85mで、高低差0.15mである。縦畦は2本、横畦は4本が検出でき、縦畦の方位は、N-0°-N-5°-Wで、横畦の方位は、N-74～90°-Eである。畦の幅は、0.54～1.22mで、畦の高さは、0.01～0.06mである。調査区の中央部で検出された縦畦は、ほぼ座標北の方向(N-5°-W)に延びており、上幅0.40～1.14m、下幅0.62～1.34m、高さ0.07mを測り、条里制地割りに伴う大畦(4号大畦)と思われる。用水の移動は、北から南方向への「かけ渡し」の方法をとっていたと想定される。4区の水田区画は、1・2区水田に比べて広く造成されていることが看取できる。

## 5 区水田 (図32、P L 7・9)

5区調査区では、10区画の水田が検出された。そのうち区画がわかるものは1区画で、面積は327.5m<sup>2</sup>である。田面の標高は75.95～75.80mで、高低差0.15mである。縦畦は2本、横畦は4本が確認され、縦畦の方位は、N-0～18°-Wで、横畦の方位は、N-80～90°-Eである。畦の幅は、0.44～0.85mで、畦の高さは、0.01～0.06mある。水口は確認できなかったため、北から南方向への「かけ渡し」の方法をとっていたと想定される。5区の水田区画は、4区同様、他の調査区に比べかなり広く造成されていることが看取できる。

## 1号足跡列 (図32、P L 7・9)

位置は、5区調査区西側、6・7 I～O-1～4・20グリッドで検出された。全長は34.8m、幅2.0～2.6mで、走行方位はN-40°-Eである。北側と西側ともに調査区外に延びていく。他の遺構との重複関係では、11号溝、As-B下水田の畦3本と重複しているが、本遺構より11号溝が後出である。また、As-B下水田の畦を斜めに横切って、畦の直上に足跡痕が残されていることから、本遺構が後出である。埋設土はAs-B軽石である。本遺構は走行から考えて、農作業に伴うものではなく、時期はAs-B下水田が営まれた時期以降であると思われる。



第30図 志町畑3区As-B下水田実測図



A, L=75.20m, A'



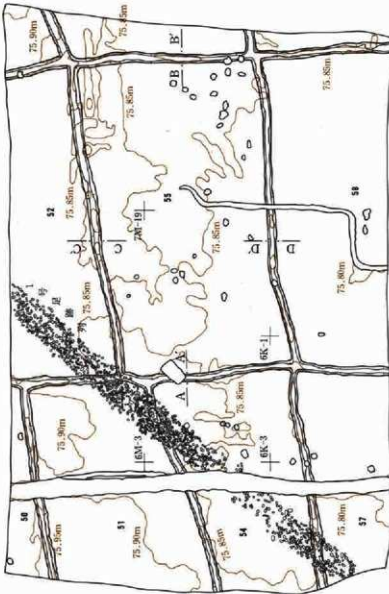
B, B'



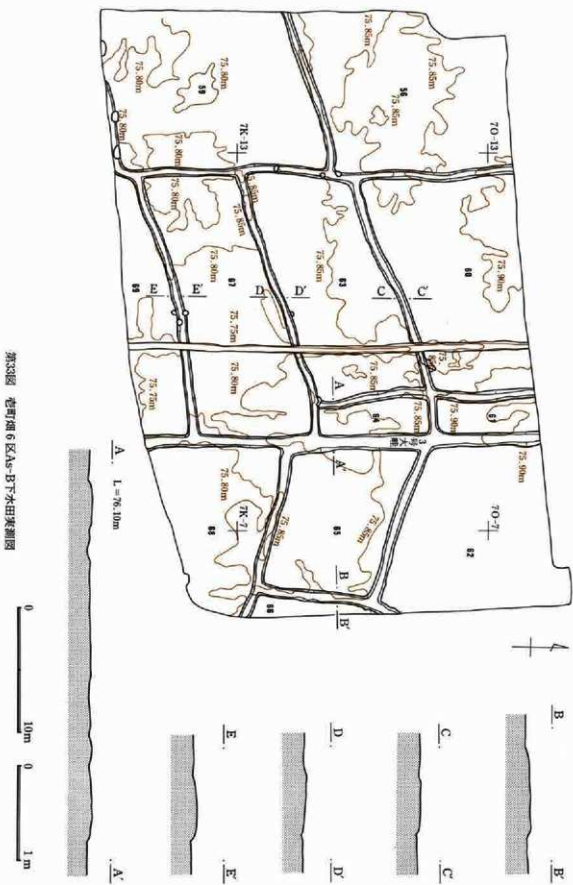
C, C'



D, D'

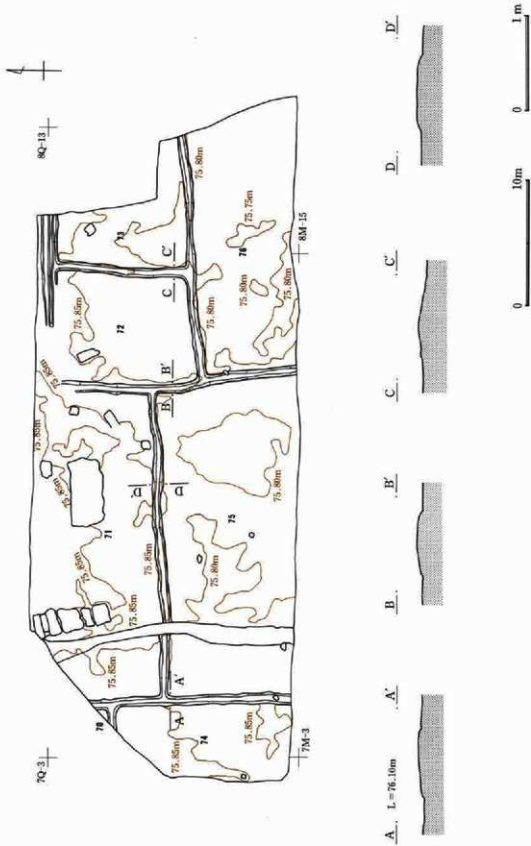


第32図 老町畑5区As-B下水出葉測図

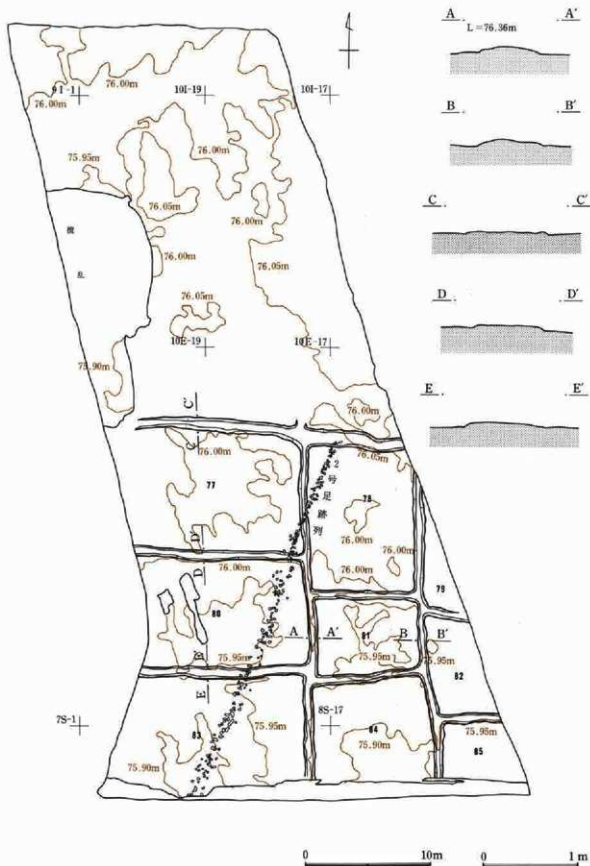


第33図 屯町燻6区As-B下水田実測図





第34図 穂町遺7区Aa-B下水田家測図



第35図 老町畑 8区As-B下水田実測図

**6区水田** (図33, P L 7・9)

6区調査区では、12区画の水田が検出された。そのうち区画がわかるものは6区画で、面積は21.8～291.3㎡、平均面積は164.7㎡である。田面の標高は75.90～75.75mで、高低差0.15mである。縦畦は4本、横畦は7本が検出でき、縦畦の方位は、N-0°-10°-Eで、横畦の方位は、N-70°-E、N-73°-Wである。畦の幅は、0.52～1.00mで、畦の高さは、0.01～0.06mある。調査区の東側で検出された縦畦は、座標北の方向(N-0°)に延びており、上幅0.44～1.24m、下幅0.78～1.54m、高さ0.08mを測り、条里制地割りに伴う大畦(3号大畦)と思われる。水口は確認できなかったので、用水の移動は北から南方向への「かけ流し」の方法をとっていたと想定される。6区の水田区画の面積も、61・64号区画(面積約20㎡)を除いては4・5区同様、他の調査区に比べ広く造成されていることが看取できる。

**7区水田** (図34, P L 8・10)

7区調査区は、3～6区調査区に比べ、As-B層の堆積が薄く遺構の残りがあまり良好ではなかったが、水田が7区画検出された。そのうち区画がわかるものは1区画で、面積は93.8㎡である。田面の標高は75.85～75.75mで、高低差0.1mほどである。縦畦は3本、横畦は3本が検出でき、縦畦の方位は、N-0°-5°-Wで、横畦の方位は、N-83°-88°-Eである。畦の幅は、0.38～0.86mで、畦の高さは、0.01～0.06mある。水口は確認できなかったので、北から南方向への「かけ流し」の方法をとっていたと想定される。7区の水田区画の面積は、西側は広く、南東側は狭くなっていることが看取できる。

**8区水田** (図35, P L 8・10)

北側は後世の攪乱のために、As-B層の堆積は確認できず、水田も検出されなかった。南側では、水田が9区画検出された。そのうち区画がわかるものは3区画で、面積は46.7～90.0㎡、平均面積は74.0㎡である。水田面の標高は76.05m～75.90mで、高低差約0.15mである。縦畦は2本、横畦は7本が検出でき、縦畦の方位は、N-0°-9°-Wで、横畦の方位は、N-86°-90°-E、N-80°-Wである。畦の幅は、0.42～0.98mで、畦の高さは、0.01～0.06mある。水口は確認できなかったので、北から南方向への「かけ流し」の方法をとっていたと想定される。8区の水田区画の面積は、調査区外も平面図から推定すると、西側は広く、東側は狭くなっている。また、2号足跡列が調査区の中央部で確認されたが、農作業に伴うものではないと思われる。

**2号足跡列** (図35, P L 8・10)

位置は、8区調査南側、8・10R～T・A～C-16～19グリッドで検出された。全長は30.0m、幅0.2～0.8mで、走行方位はN-24°-Eである。北側は横畦上で消滅し、南側は調査区外に延びていく。他の遺構との重複関係では、As-B下水田の畦3本と重複しているが、本遺構が後出である。埋設土はAs-B軽石である。本遺構は走行から考えて、農作業に伴うものではなく、時期はAs-B下水田が営まれた時期以降であると思われる。

**9、10区**

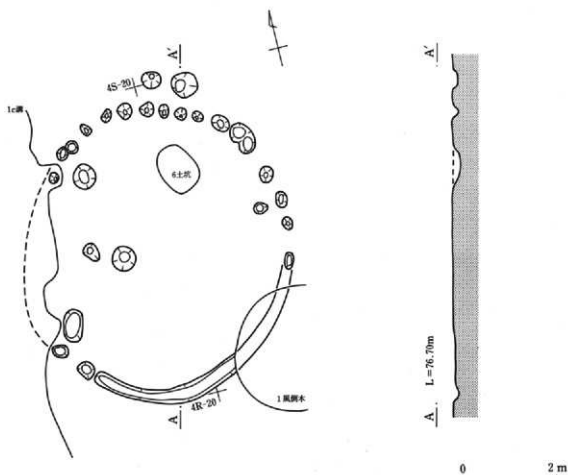
9、10区調査区では、後世の攪乱のために、As-B軽石は現耕作土・水田床土に鈍込まれており、水田跡は検出できなかった。

### 3、古墳時代の調査

#### (1) 円形建物跡

##### 1号円形建物跡 (図36、P L10)

位置は、1区調査区東側微高地で、4R-19・20グリッドで検出された。形状は、北側には19基のピット列、南側には溝が回り、ほぼ円形状を呈す。全体の大きさは、長軸4.82×短軸(4.28)mを測り、内側面積は約16.25㎡である。長軸方位は、N-0°である。他の遺構との重複関係では、1c号溝、1号風倒木痕と重複し、6号土坑が建物跡内に位置する。新旧関係は、本遺構が6号土坑より前出で、1号風倒木痕より後出であるが、1c号溝との新旧関係は不明である。外周の19基のピット列の他に、内部には、5基のピット、外部には2基のピットが確認されたが、埋設土が同じで同時期の遺構と考えられ、出入口等の関連のある遺構と想定される。溝の規模は、上幅、0.18~0.29m、下幅、0.08~0.18m、深さは0.05~0.09mである。円形状に巡る19基のピットの大きさは、径0.14~0.32m、深さは0.05~0.11mである。内部で確認された5基のピットの大きさは、径0.25~0.50m、深さは0.35~0.11mである。外部で確認された2基のピットの大きさは、径0.30~0.42m、深さは0.12mである。ピット、溝の埋設土はAs-C軽石を含む暗褐色土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、他遺構との重複関係・埋設土から古墳時代と考えられる。

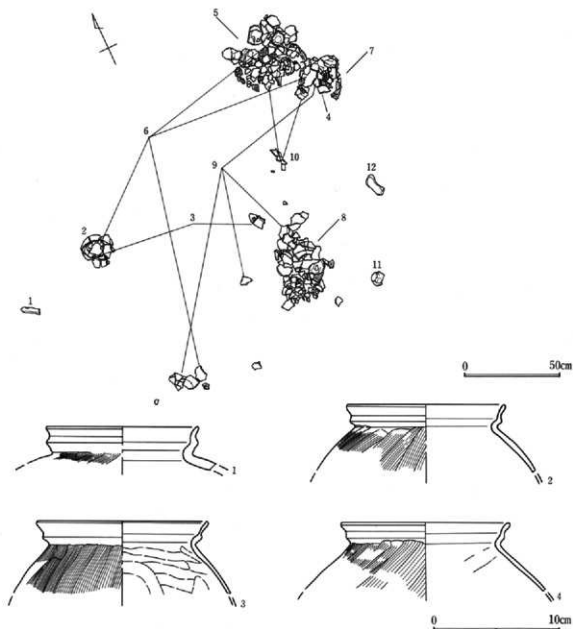


第36図 老町畑1区円形建物跡実測図

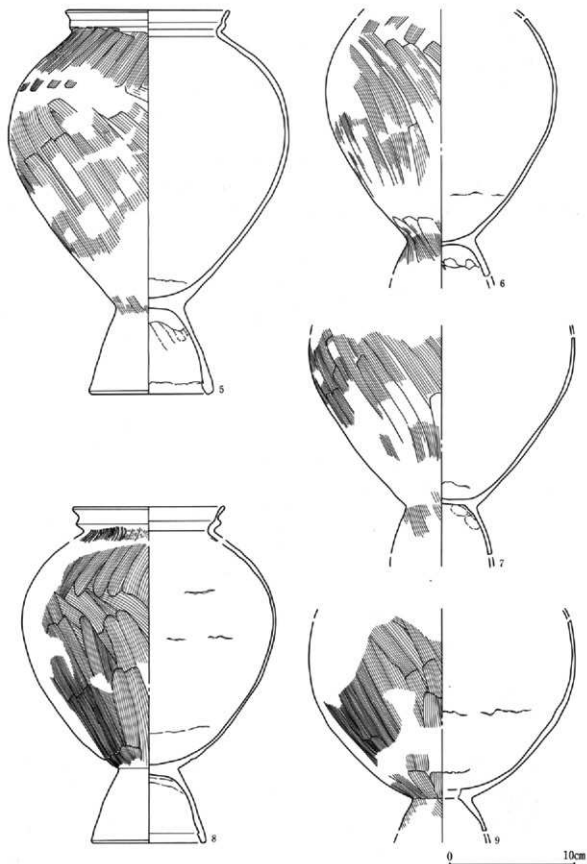
## (2) 土器集積

## 1号土器集積 (図37~39, P L10・16・17・18)

位置は、1区調査区東側微高地で、40-19グリッドで検出された。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。また、堅穴のような落ち込みや硬化面なども確認できなかった。土器の出土した範囲の大きさは東西2.04m、南北1.93mを測る。土器は、意図的に壊したと思われ、北側・南側・西側の3カ所に集中して廃棄されており、残りの土器片は、3カ所の土器が拡散したものである。集積された土器は、土師器・台付甕10点、高坏1点、石器(擲石)1点(以上は、図化)、その他の出土物は、土師器台付甕・高坏・壺等の破片444点である。壺の破片は、5号土坑から出土した土器片と接合したが、5号土坑で報告する。出土した土器の個体数が多いわりには、小片が多く復元できる遺物が少なかった。本遺構は、規模は小規模だが、古墳時代前期の祭祀遺構と考えられる。

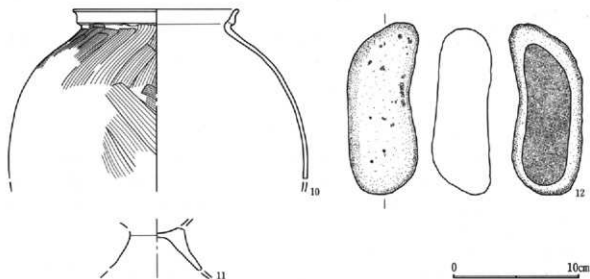


第37図 壱町畑1区1号土器集積・出土物実測図(1)



第38図 宅町畑1区1号土器集積出土物実測図(2)

## 第3節 検出された遺構と遺物



第39図 茗町畑1区1号土器集積出土遺物実測図(3)

第7表 茗町畑1区1号土器集積出土遺物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)				①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
			長さ	幅	高さ	重量			
37-1 P.L.16	土師器 台付壺	覆土	口-(12.0)		底- 高-	①砂粒 ②酸化焙・良 ③によい黄褐色	口縁部横撫で。外面刷毛撫で。	口縁部片	
37-2 P.L.17	土師器 台付壺	覆土	口-(12.4)		底- 高-(5.3)	①細砂粒 ②酸化焙・良 ③によい黄褐色	外面刷毛撫で。内面撫で。	口縁部片	
37-3 P.L.16	土師器 台付壺	覆土	口-(13.6)		底- 高-(5.7)	①細砂粒・小礫混 ②酸化焙・良 ③によい黄褐色	外面刷毛撫では、上から下への縦位。内面指撫で縦縞著。	口縁部片	
37-4 P.L.17	土師器 台付壺	覆土	口-(13.6)		底- 高-(5.7)	①細砂粒・小礫混 ②酸化焙・良 ③褐色	外面刷毛撫で。内面撫で。	口縁部片	
38-5 P.L.17	土師器 台付壺	覆土	口- 12.8		底- 9.8 高- 30.2	①細砂粒 ②酸化焙・良 ③によい黄褐色	外面刷毛撫では、一部厚減により不明瞭。胴部と脚部の接合部は粗砂粒を多く含む粘土を付加。	2/3	
38-6 P.L.17	土師器 台付壺	覆土	口-		底- 高-(23.2)	①細砂粒・小礫混 ②酸化焙・良 ③によい褐色	外面刷毛撫では、器面割離により不明瞭。胴部と脚部の接合部に砂粒を多く含む粘土を付加。	1/4	
38-7 P.L.17	土師器 台付壺	覆土	口-		底- 高-(17.0)	①細砂粒 ②酸化焙・良 ③区黄褐色	外面刷毛撫では、器面割離により不明瞭。胴部と脚部の接合部に砂粒を多く含む粘土を付加。	1/4	
38-8 P.L.17	土師器 台付壺	覆土	口-(10.8)		底- 9.1 高-(26.8)	①細砂粒 ②酸化焙・良 ③によい黄褐色	胴部上位上→下、胴部下位下→上への刷毛撫で。内面粘土接合縦縞著。	1/3	
38-9 P.L.17	土師器 台付壺	覆土	口-		底- 高-(16.7)	①砂粒・小礫混 ②酸化焙・良 ③黒褐色	外面刷毛撫で。内面粘土接合縦縞著。	1/4	
39-10 P.L.18	土師器 台付壺	覆土	口-(13.2)		底- 高-(13.4)	①細砂粒 ②酸化焙・良 ③によい黄褐色	外面刷毛撫では胴部中位で方向を変える。内面撫で。	口縁部片	
39-11 P.L.18	土師器 高環	覆土	口-		底- 高-(3.6)	①砂粒・小礫混 ②酸化焙・良 ③褐色	内外面ともに、器面厚減により整形不明瞭。	脚部片	
検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm・g)				石材	特徴	残存状態
			長さ	幅	高さ	重量			
39-12 P.L.18	石器 磨石	覆土	13.3	5.5	4.5	500	灰質安山岩	一部厚減により磨らぬ。	完形

### (3) 土坑

異なる遺構（1号土器集積と5号土坑、2号土坑と15号土坑、12号土坑と17号土坑）から出土し、接合した土器は、出土量の多い方の土坑で報告する。また、土器の接合関係を遺物観察表に示し、付図4に図化したので、参照されたい。

#### 1号土坑（図40、P L11・18）

位置は、1区調査区東側微高地で、4Q-20グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、1.45×1.45m、深さは0.66mである。他の遺構との重複関係は、1c号溝と重複しているが新旧関係は不明である。埋設土は、Hr-FAブロックを含む茶褐色粘質土・黒褐色粘質土である。出土遺物は、土師器・台付甕3点、甕2点、壺1点、弥生（樽式）土器1点（以上は、図化）、その他の出土遺物は、土師器等の破片130点である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

#### 2号土坑（図41・42、P L11・18・19）

位置は、1区調査区東側微高地で、4N-18・19グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、長径（1.73）×短径1.70m、深さは、0.77mである。他の遺構との重複関係は、1c号溝と重複しているが新旧関係は不明である。埋設土は、Hr-FAブロックを含む暗茶褐色粘質土・黒褐色粘質土である。出土遺物は、土師器・台付甕2点、甕2点、壺3点（うち2点は、15号土坑出土遺物と接合）、埴1点、器台1点、器種不明1点（以上は、図化）、その他の出土遺物は、土師器等の破片256点である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

#### 3号土坑（図42）

位置は、1区調査区東側微高地で、4Q・R-20グリッドで検出された。平面形は楕円形に掘られ、大きさは、長軸（1.74）×短軸（1.20）m、深さは、0.65m、長軸方位は、N-5°-Eである。他の遺構との重複関係は、1c号溝と重複しているが新旧関係は不明である。埋設土は、Hr-FAブロックを含む暗茶褐色粘質土・黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

#### 4号土坑（図42・43、P L11・19）

位置は、1区調査区東側微高地で、4M-17・18グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは長径（1.20）×短径1.15m、深さは、0.68mである。他の遺構との重複関係は、4号倒木痕南西端を壊しているため、本遺構が後出である。埋設土は、As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物は、土師器・台付甕3点（以上は、図化）、その他の出土遺物は、土師器等の破片2点である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

#### 5号土坑（図43、P L11・19）

位置は、1区調査区東側微高地で、4S-18グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは長径0.64×短径0.72m、深さは、0.68mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、Hr-FAブロックを含む暗茶褐色粘質土・黒褐色粘質土である。出土遺物は、土師器・壺1点である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

#### 7号土坑（図43、P L11・19）

位置は、1区調査区東側微高地で、4L-18グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸0.86×短軸0.70m、深さは、0.53m、長軸方位は、N-19°-Wである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分を含む暗茶褐色粘質土・As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物は、土師器・台付甕1点である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。



**8号土坑** (図44、P L11)

位置は、1区調査区東側微高地で、4L-18グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸0.80×短軸0.68m、深さは、0.40m、長軸方位は、N-15°-Eである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分を含む暗茶褐色粘質土・As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

**9号土坑** (図44、P L11)

位置は、1区調査区東側微高地で、4L-17グリッドで検出された。平面形は不整形に掘られ、大きさは、長軸0.84×短軸0.57m、深さは、0.40mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分を含む暗茶褐色粘質土・As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

**10号土坑** (図44、P L11・19)

位置は、1区調査区東側微高地で、4L-18グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは長径0.89×短径0.86m、深さは、0.48mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分を含む暗茶褐色粘質土・As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物は、土師器・壺1点、甕1点、器台1点である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

**11号土坑** (図44、P L12・19)

位置は、1区調査区東側微高地で、4L-17グリッドで検出された。平面形は不整形に掘られ、大きさは、長軸1.31×短軸0.83m、深さは、0.54mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分を含む暗茶褐色粘質土・As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物は、土師器・壺1点である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

**12号土坑** (図45、P L19)

位置は、1区調査区東側微高地で、4L-18グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは長径0.57×短径0.54m、深さは、0.46mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分を含む暗茶褐色粘質土・As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物は、土師器・台付壺2点、(以上は、図化)、その他の出土遺物は、土師器等の破片75点(うち壺1点は17号土坑出土遺物と接合)である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

**14号土坑** (図45、P L12・19)

位置は、1区調査区東側微高地で、4L・M-18グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは長径0.75×短径0.70m、深さは、0.69mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物は、土師器・台付壺1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、土師器等の破片22点である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

**15号土坑** (図45、P L12・19)

位置は、1区調査区東側微高地で、4M-19グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは長径0.92×短径0.98m、深さは、0.46mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分を含む暗灰色粘質土・As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物は、敲石1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、土師器等の破片87点(うち壺2点は2号土坑出土遺物と接合)である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

### 第3章 下阿内町知遺跡の調査

#### 16号土坑 (図46、P L12・19)

位置は、1区調査区東側微高地で、4 N-O-19グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは長径0.85×短径0.80m、深さは、0.66mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物は、土師器・台付甕2点、壺1点、石器(尖頭器)1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、土師器等の破片32点である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

#### 17号土坑 (図46・47、P L12・20・21)

位置は、1区調査区東側微高地で、4 L-18グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸1.04×短軸0.73m、深さは、0.23m、長軸方位は、N-45°-Wである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分を含む暗茶褐色粘質土・As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物は、土師器・甕1点、台付甕14点、小型甕1点、壺1点(12号土坑出土遺物と接合)、埴1点、ミニチュア土器1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、農具と思われる木製品1点、土師器等の破片301点である。木製品は、農具の鉄のような形状をしていたが、脆弱で図化できなかった。以上のような出土遺物から、本遺構は、農耕祭祀に伴う遺構であると想定される。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

#### 18号土坑 (図48、P L12・21)

位置は、1区調査区東側微高地で、4 L-17グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸0.58×短軸0.43m、深さは、0.45m、長軸方位は、N-70°-Eである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分を含む暗茶褐色粘質土・As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物は、土師器・台付甕1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、土師器等の破片10点である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

#### 19土坑 (図48)

位置は、2区調査区北で、4 H-18・19グリッドで検出された。平面形は長方形に掘られ、大きさは、長軸1.02×短軸0.29m、深さは、0.08m、長軸方位は、N-89°-Wである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、Hr-FAブロックを含む茶褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

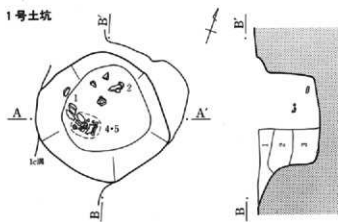
#### 20号土坑 (図48)

位置は、2区調査区北で、4 H-19・20グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸0.92×短軸0.45m、深さは、0.05m、長軸方位は、N-83°-Wである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、Hr-FAブロックを含む茶褐色粘質土・黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

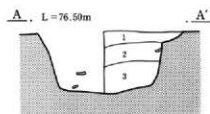
#### (4) ビット (付図4)

ビットは、1区微高地で23基検出されたが、掘立柱建物跡・柵列等の柱穴と思われる遺構はなく、出土遺物も確認されなかった。そこで、位置は付図4に、計測表は(5)計測表の項に掲載し報告する。

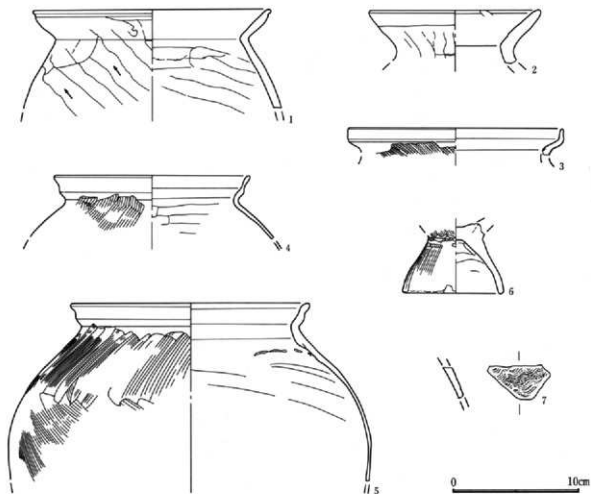
1号土坑



1. 黄褐色土 Hr-FAブロックを混入 粘性強い
2. 黒褐色土 Hr-FAブロックを混入 粘性強い
3. 黒褐色土 粘性強い



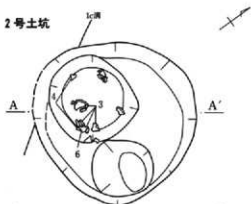
0 1m



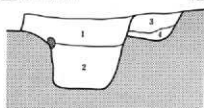
第40図 壱町畑1区1号土坑・出土遺物実測図

第3章 下阿内宅町畑遺跡の調査

2号土坑

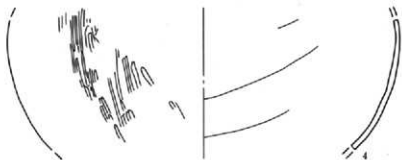
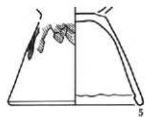
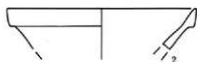
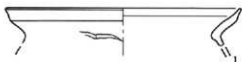
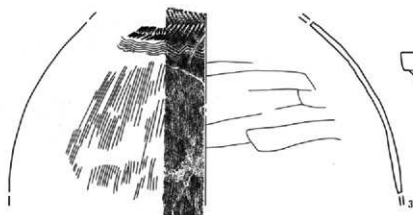


A. L = 76.50m . A'



1. 暗黄褐色土 粘質 Hr-FAブロックを含む
2. 黒褐色土 粘質 Hr-FAブロックを含む
3. 茶褐色土 粘質 Hr-FAブロックを多く含む
4. 暗灰色土 粘質 Hr-FAブロックを多く含む

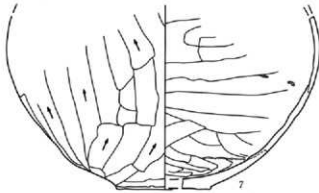
0 1m



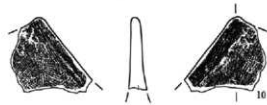
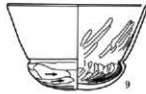
0 10cm

第41図 宅町畑1区1号土坑・出土遺物実測図

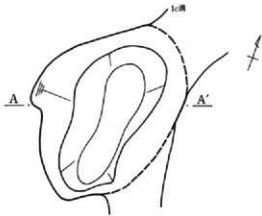
2号土坑



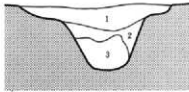
0 10m



3号土坑

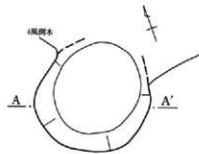


A L=76.60m A'

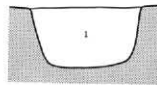


1. 暗黄褐色土 粘質 Hr-FAブロックを含む
2. 暗黄褐色土 粘質 Hr-FAブロックを多く含む
3. 黒褐色土 粘質

4号土坑



A L=76.50m A'

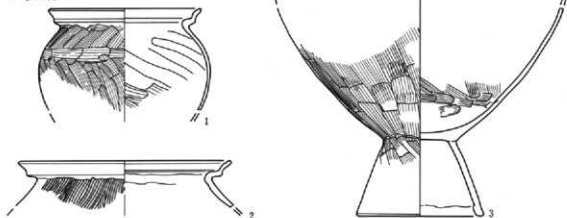


1. 黒色土 粘質 As-Cを含む

0 1m

第42図 岩町畑1区2～4号土坑・出土遺物実測図

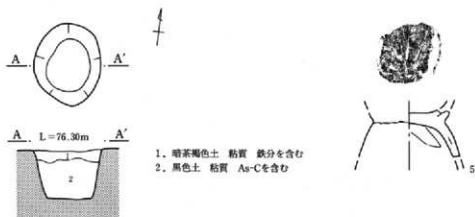
4号土坑



5号土坑



7号土坑



1. 暗茶褐色土 粘質 鉄分を含む
2. 黒色土 粘質 As-Cを含む

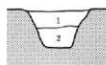
0 1m 0 10cm

第43図 志町畑1区4・5・7号土坑・出土遺物実測図

8号土坑



A L=76.40m A'

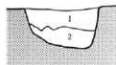


1. 暗茶褐色土  
粘質 鉄分を含む
2. 黒色土  
粘質 As-Cを含む

9号土坑



A L=76.40m A'

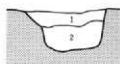


1. 暗茶褐色土  
粘質 鉄分を含む
2. 黒色土  
粘質 As-Cを含む

10号土坑

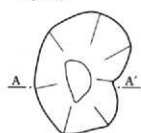


A L=76.40m A'

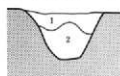


1. 暗茶褐色土 粘質 鉄分を含む
2. 黒色土 粘質 As-Cを含む

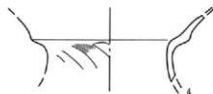
11号土坑



A L=76.40m A'



1. 暗茶褐色土 粘質 鉄分を含む
2. 黒色土 粘質 As-Cを含む



0 1 m 0 10 cm

第44図 宅町畑1区8~11号土坑・出土遺物実測図

第3章 下阿内老町畑遺跡の調査

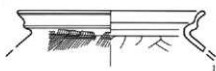
12号土坑



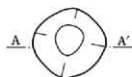
A, L=76.40m, A'



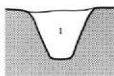
1. 暗茶褐色土 粘質 鉄分を含む
2. 黒色土 粘質 As-Cを含む



14号土坑



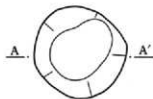
A, L=76.40m, A'



1. 黒色土 粘質 As-Cを含む



15号土坑



A, L=76.40m, A'



1. 暗灰色土 鉄分を含む
2. 黒色土 粘質 As-Cを含む

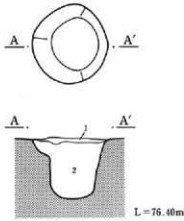


0 1m 0 10cm

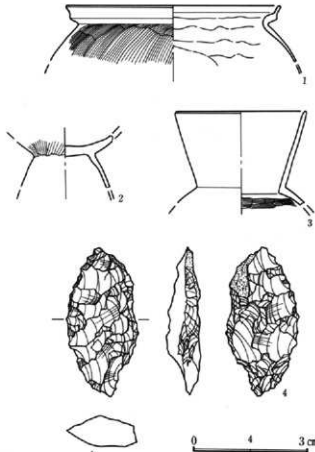
第45図 老町畑1区12・14・15号土坑・出土遺物実測図



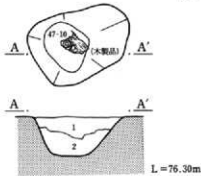
16号土坑



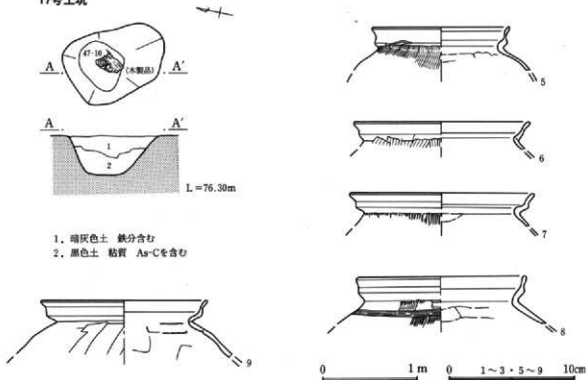
1. 暗灰色土 鉄分含む  
2. 黒色土 粘質 As-Cを含む



17号土坑

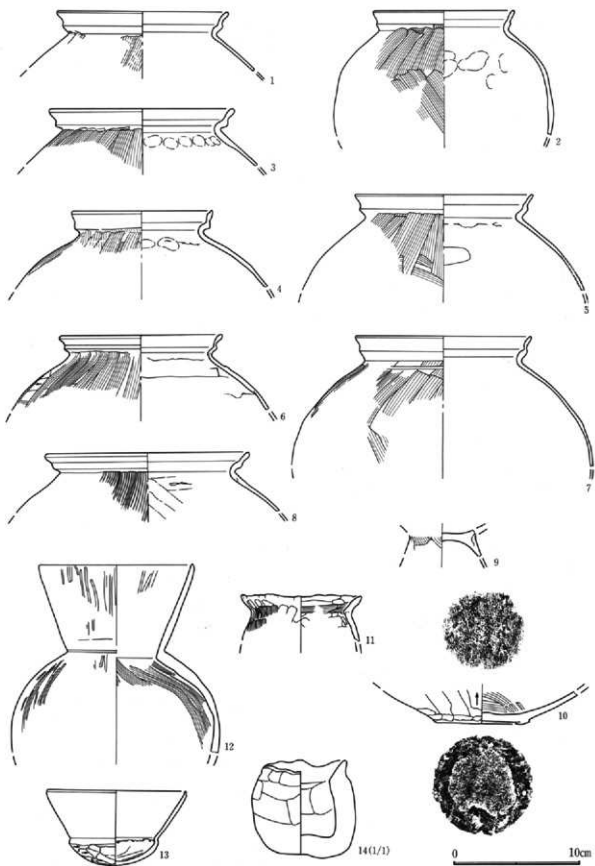


1. 暗灰色土 鉄分含む  
2. 黒色土 粘質 As-Cを含む



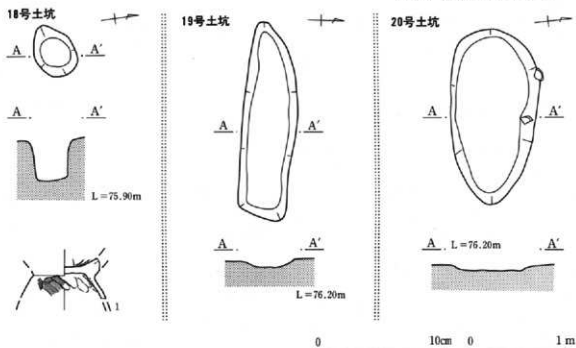
第46図 壱町畑1区16・17号土坑・出土遺物実測図

第3章 下阿内宅町畑遺跡の調査



第47図 宅町畑1区17号土坑出土遺物実測図

第3節 検出された遺構と遺物



第48図 志町畑1・2区18~20号土坑・出土遺物実測図

第8表 志町畑1号土坑出土遺物観察表

検出番号 P.L.No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①粘土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
40-1 P.L.18	土師器 壺	覆土	口- (18.8) 底- 高- (7.7)	①細砂粒・小礫混 ②酸化焰・良 ③によい黄褐色	横撫では口縁部のみで、斜位の寛削りが口縁まで及ぶ。内面撫で。	口縁部片
40-2 P.L.18	土師器 壺	覆土	口- (13.6) 底- 高- (3.9)	①細砂粒・小礫混 ②酸化焰・良 ③によい黄褐色	内外面ともに器面荒れにより整形不明瞭。	口縁部片
40-3 P.L.18	土師器 壺	覆土	口- (16.8) 底- 高- (2.1)	①砂粒 ②酸化焰・良 ③によい黄褐色	口縁外面刷毛撫で後、横撫で。	口縁部片
40-4 P.L.18	土師器 台付壺	覆土	口- (15.5) 底- 高- (5.0)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③によい黄褐色	外面刷毛撫で。内面撫で。	口縁部片
40-5 P.L.18	土師器 台付壺	覆土	口- (18.8) 底- 高- (14.6)	①砂粒・小礫混 ②酸化焰・良 ③によい黄褐色	外面刷毛撫で後、口縁部横撫で。内面斜位の撫で。(4M-18グリット出土遺物と検合)	口縁部片
40-6 P.L.18	土師器 台付壺	覆土	口- 底- 7.6 高- (5.5)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③によい褐色	外面刷毛撫で。内面指撫で。内外面ともに器面摩滅。	脚部片
40-7 P.L.18	弥生土器 壺	覆土	厚さ- 0.5	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③によい褐色	外面波状文を施す。樽式土器	破片

第3章 下阿内老町畑遺跡の調査

第9表 老町畑1区2号土坑出土土物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①粘土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
41-1 P.L.18	土師器 甕	覆土	口- (18.5) 底- 高- (2.9)	①粗砂粒 ②酸化焰・良 ③によい黄褐色	口縁部模撫で。口縁部に寛磨あり。	口縁部片
41-2 P.L.18	土師器 壺	覆土	口- 15.0 底- 高- (3.2)	①粗砂粒 ②酸化焰・良 ③によい褐色	折り返し口縁。器面厚減により整形不明瞭。	口縁部片
41-3 P.L.18	土師器 壺	覆土	胴部最大径 (31.0) 高- (13.4)	①粗砂粒 ②酸化焰・良 ③褐色	胴部に彫状工具による穿突文を斜位に2段施し、その下に波状文を巡らす。胴部は殿位の丁寧な寛磨を施す。内面割削で。	胴部片
41-4 P.L.18	土師器 壺	覆土	胴部最大径 (31.0) 高- (10.1)	①粗砂粒・産物粒 ②酸化焰・良 ③によい黄褐色	外面殿位の寛磨き。内面緩やかな寛撫で。	胴部片
41-5 P.L.18	土師器 台付壺	覆土	口- 底- 10.2 高- (7.2)	①粗砂粒多 ②酸化焰・良 ③によい褐色	外面刷毛目は上部のみ。内面撫で。	脚部片
41-6 P.L.18	土師器 台付壺	覆土	高- (6.2) 基- 4.4	①細砂粒・産物粒 ②酸化焰・良 ③浅黄褐色	内外面刷毛撫で。基部の接合部分に粘土の貼付痕顯著。	接合部片 内面カーボン付着
42-7 P.L.19	土師器 甕	覆土	口- 底- (7.6) 高- (13.6)	①粗砂粒 ②酸化焰・良 ③褐色	外面殿位の寛磨き。内面緩やかな寛撫で。器面割削。	1/3
42-8 P.L.18	土師器 器台	覆土	口- 底- 高- (3.6)	①粗砂粒 ②酸化焰・良 ③黄灰色	脚部外面寛磨き。内面撫で。3孔有すると思われるが2孔残存。	脚部片
42-9 P.L.18	土師器 埴	覆土	口- 11.0 底- 高- 6.7	①細砂粒・小産物 ②酸化焰・良 ③によい黄褐色	外面口縁部模撫で。底部寛磨り。内面は放射状に丁寧な寛磨きを施す。	4/5 黒斑あり
42-10 P.L.19	土師器 器種不明	覆土	厚さ 1.0	①粗砂粒 ②酸化焰・良 ③褐色	内外面刷毛撫で。端面面取り。	破片

第10表 老町畑1区4号土坑出土土物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①粘土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
43-1 P.L.19	土師器 台付壺	覆土	口- 12.0 底- 高- (8.0)	①粗砂粒・小産物 ②酸化焰・良 ③によい褐色	外面刷毛撫で。胴部横位刷毛目。内面上位指撫で。中位刷毛撫で。	1/5
43-2 P.L.19	土師器 台付壺	覆土	口- (16.9) 底- 高- (3.5)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③浅黄色	外面刷毛撫で。内面撫で。	口縁部片
43-3 P.L.19	土師器 台付壺	覆土	口- 底- 10.1 高- (16.7)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③浅黄色	外面刷毛撫では胴部上位まで。内面刷毛撫では胴部下位のみ。脚部と胴部の接点に粘土付加。	1/5 内面炭化物付着

第11表 老町畑1区5号土坑出土土物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①粘土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
43-4 P.L.19	土師器 壺	覆土	口- 底- (6.3) 高- (11.3)	①粗砂粒・小産物 ②酸化焰・良 ③によい褐色	寛磨り後寛撫で? 器面厚減。底部に外面黒斑あり。	胴部-底部片

第12表 老町畑7号土坑出土土物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①粘土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
43-5 P.L.19	土師器 台付壺	覆土	口- 底- 高- (3.6)	①粗砂粒 ②酸化焰・良 ③によい褐色	器面荒れにより整形不明瞭。	脚部片

第13表 志町畑1区10号土坑出土遺物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
44-1 P.L.19	土師器 壺	覆土	口- (17.0) 底- 高- (5.5)	①細砂粒・緻密 ②酸化焰・良 ③におい褐色	外面腹位の刷毛撫で後、横撫で。内面横位の磨 磨きを高す。	口縁部片
44-2 P.L.19	土師器 罌	覆土	口- 底- 8.4 高- (1.8)	①粗砂粒 ②酸化焰・良 ③外側は黒色。内側はにおい褐色	外面直削り。内面撫で。	底部片
44-3 P.L.19	土師器 器台	覆土	口- 底- 高- (4.2)	①細砂粒・小礫灰 ②酸化焰・良 ③残黄褐色	外面上位刷毛撫でと腹位の磨磨き。内面撫で。	胴部片

第14表 志町畑1区11号土坑出土遺物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
44-4 P.L.19	土師器 壺	覆土	口- 底- 高- (4.5)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③におい褐色	有段口縁。口縁部横撫で。頸部刷毛撫で。	口縁部片

第15表 志町畑1区12号土坑出土遺物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
45-1 P.L.19	土師器 台付罌	覆土	口- 15.0 底- 高- 2.8	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③におい黄褐色	外面刷毛撫で。口縁部横撫で。	口縁部片
45-2 P.L.19	土師器 台付罌	覆土	口- 底- (8.4) 高- (4.3)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③におい褐色	外面刷毛撫で。内面撫で。	胴部片

第16表 志町畑1区14号土坑出土遺物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
45-3 P.L.19	土師器 台付罌	覆土	基部- (8.4) 高- (1.7)	①砂粒 ②酸化焰 ③におい褐色	外面刷毛撫で。内面砂粒の多い粘土を付加。	胴部片

第17表 志町畑1区15号土坑出土遺物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm・g)			石材	特徴	残存状態	
			長さ	幅	厚さ				重量
45-4 P.L.19	石器 砥石	覆土	18.6	6.7	5.0	935	ひん岩	両端部に鋭直痕あり。	完形

第18表 志町畑1区16号土坑出土遺物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
46-1 P.L.19	土師器 台付罌	覆土	口- (17.0) 底- 高- (4.4)	①粗砂粒 ②酸化焰・良 ③外側は黒色。内側はにおい褐色	外面斜位刷毛撫で。内面撫で。	口縁部片
46-2 P.L.19	土師器 台付罌	覆土	基部- (5.0) 高- (4.0)	①砂粒 ②酸化焰 ③におい黄褐色	外面刷毛撫で。胴部と脚部の接合部に砂粒の多 い粘土を付加。	胴部片
46-3 P.L.19	土師器 罌	覆土	口- (10.3) 底- 高- (7.3)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③灰黄色	赤色塗彩の痕跡あり。胴部内面刷毛撫で。	口縁部片

第3章 下阿内志町畑遺跡の調査

埴田番号 P.L.N.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm・g)				石材	特徴	残存状態
			長さ	幅	厚さ	重量			
46-4 P.L.19	石器 尖頭器?	覆土	3.9	1.9	0.8	4.76	黒曜石	左側縁は加工してあるが、右側縁は未加工なので、左側縁を削器として利用した可能性もある。	完形

第19表 志町畑1区17号土坑出土遺物観察表

埴田番号 P.L.N.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
46-5 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- (10.8) 底- 高- (3.5)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	外面刷毛撫で。	口縁部片
46-6 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- (14.0) 底- 高- (2.2)	①砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	口縁部横撫で。外面刷毛撫で。	口縁部片
46-7 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- (14.6) 底- 高- (2.6)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	口縁部横撫で。外面刷毛撫で。	口縁部片
46-8 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- (13.4) 底- 高- (3.7)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③灰白色	口縁部横撫で。外面縦位の刷毛撫で後に、横位の刷毛撫で。	口縁部片
46-9 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- (13.2) 底- 高- (4.2)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	外面整形に刷毛を用いてない。	口縁部片
47-1 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- (13.6) 底- 高- (4.6)	①砂粒 ②酸化焰・良 ③浅黄褐色	外面刷毛撫では、器面摩滅により不明瞭。	口縁部片
47-2 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- (11.2) 底- 高- (10.6)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	外面刷毛撫で。内面に指頭痕あり。	口縁部片
47-3 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- 14.5 底- 高- (4.5)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	外面刷毛撫で。内面指頭痕顕著。	口縁部片
47-4 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- (11.0) 底- 高- (6.1)	①砂粒・小礫混 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	外面刷毛撫で。内面撫で。	口縁部片
47-5 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- (14.8) 底- 高- (7.5)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	外面刷毛撫で。	口縁部片
47-6 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- (13.0) 底- 高- (5.8)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	外面刷毛撫でが密ではないので、刷毛目の下に 荒削り痕が見られる。	口縁部片
47-7 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- (14.0) 底- 高- (10.2)	①粗砂粒・小礫混 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	外面刷毛撫で。	口縁部片
47-8 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	口- (16.2) 底- 高- (4.7)	①砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	口縁部横撫で。外面刷毛撫で。内面撫で。	口縁部片
47-9 P.L.20	土師器 台付壺	覆土	基部- (5.2) 高- (2.0)	①砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	外面刷毛撫で。胴部と脚部の接合部分に砂粒の 多い粘土を付加。	脚部片
47-10 P.L.20	土師器 壺	覆土	口- 底- 7.6 高- 2.3	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	外面荒削り。内面荒磨き。底部内外面は砂粒を 多量に含む粘土を付加し、外面は胴部の粘土で 覆っている。内面黒色。	底部片
47-11 P.L.20	土師器 壺	覆土	口- 9.6 底- 高- (3.6)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	外面刷毛撫で。内面口縁部のみ刷毛撫で。口器 部は整形があまり施されていない。指頭痕顕著。 小壺蓋。	口縁部片
47-12 P.L.20	土師器 壺	覆土	口- (12.2) 底- 高- (14.8)	①細砂粒・微混 ②酸化焰・良 ③褐色	外面縦位の磨磨き。内面斜位の刷毛撫で。	1/4

採回番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
47-13 P.L.20	土師器 埴	覆土	口- 10.4 底- 高- 6.0	①細砂粒 ②酸化焰・貝 ③にょい黄褐色	口縁部横無で。高部削り。内面無で。内面粘土接合痕顕著。	完形
47-14 P.L.21	土師器 ミニチュア 土器	覆土	口- 2.3 底- 1.8 高- 2.5	①細砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	口縁部横無で。内外面無で。やや傾斜している。	完形

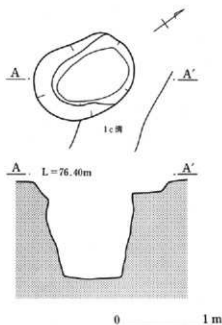
第20表 壱町畑1区18号土坑出土遺物

採回番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
48-1 P.L.21	土師器 台付壺	覆土	基部-(5.0) 高-(3.1)	①細砂粒 ②酸化焰・貝 ③にょい黄褐色	外面刷毛無で。胴部と脚部の接合部分に砂粒の多い粘土を付加。	脚部片

## (5) 井戸

## 1号井戸 (図49、P.L13)

位置は、1区調査区東側微高地で、4Q-20グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸(1.10)×短軸0.80m、深さは、1.04m、長軸方位は、N-10°-Eである。小規模だが、調査中に湧水もあり、井戸として機能していたと思われる。他の遺構との重複関係は、3号倒木痕1号溝西端を壊している。埋設土は、鉄分を含む暗茶褐色粘質土・As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

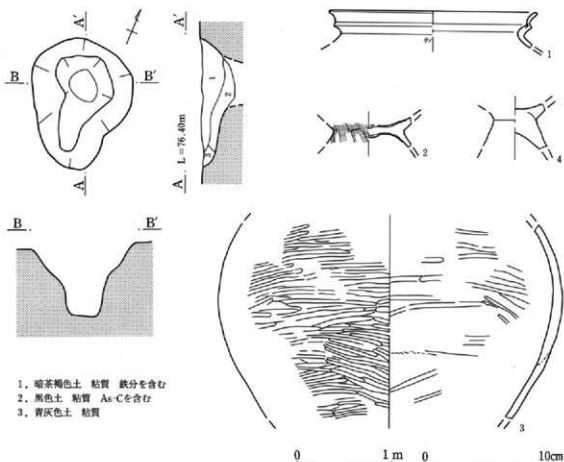


第49図 壱町畑1区1号井戸実測図

## 2号井戸 (図50、P.L13・21)

位置は、1区調査区東側微高地で、4K・L-17グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸1.37×短軸1.06m、深さは、0.76m、長軸方位は、N-12°-Wである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分を含む暗茶褐色粘質土・As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物は、土師器・壺1点、台付壺2点、高環1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、土師器等の破片29点である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

第3章 下阿内町町知遺跡の調査



1. 暗茶褐色土 粘質 鉄分を含む
2. 黒色土 粘質 As-Cを含む
3. 青灰色土 粘質

第50図 志町畑1区2号井戸・出土遺物実測図

第21表 志町畑1区2号井戸出土遺物観察表

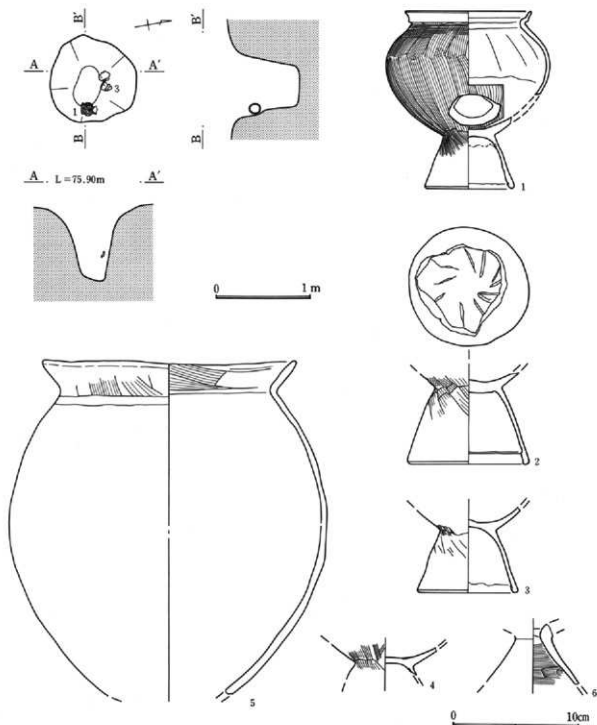
探出番号 P.L.No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
S 0-1 P L 21	土師器 台付甕	覆土	口- (16.2) 底- 高- (2.8)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③による黄褐色	口縁部僅微で。外面刷毛撫で。	口縁部片
S 0-2 P L 21	土師器 台付甕	覆土	基部-(5.5) 高-(2.0)	①細砂粒 ②酸化焰 ③暗褐色	外面刷毛撫で。接合部分に砂粒を多量に含む粘土を付加。	接合部片
S 0-3 P L 21	土師器 甕	覆土	胴部最大径 (27.2) 高-(15.2)	①砂粒多 ②酸化焰 ③による褐色	外面横位の丁寧な蹴磨き。内面撫で。	胴部片
S 0-4 P L 21	土師器 高環	覆土	基部-(3.4) 高-(3.4)	①砂粒多 ②酸化焰 ③による褐色	断面摩擦により整形不明瞭。	胴部片

3号井戸 (図51、P.L13・21)

位置は、1区調査区東側微高地で、4K-17グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、長径0.92×短径0.86m、深さは、0.83mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分を含む暗茶褐色粘質土・As-C軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物は、胴部に穿孔のあるほぼ完成の土師器・台付甕1点、台付甕3点、器台1点、甕1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、土師器等の破片525点、木片等である。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。



第3節 検出された遺構と遺物



第51図 老町畑1区3号井戸・出土遺物実測図

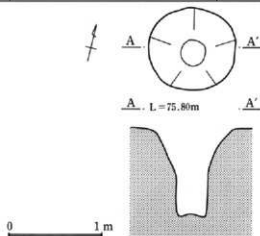
第22表 老町畑1区3号井戸出土遺物観察表

押戻番号 P L No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
51-1 P L 21	土師器 台付壺	覆土	口- 10.0 底- 7.0 高- 14.0	①細砂粒 ②酸化焙・良 ③よい褐色	胴部外面縦位の刷毛撫で、頸部横位の刷毛撫で。胴部内面砂粒の多い粘土付加。胴部下半に焼成後の穿孔あり。内面には使用の痕跡あり。	ほぼ完形
51-2 P L 21	土師器 台付壺	覆土	口- 底- 9.5 高- (7.2)	①細砂粒多 ②酸化焙・良 ③よい褐色	外面刷毛撫では脚部上位まで。胴部と脚部の接合部分に砂粒を多量に含む粘土を付加。	脚部片

探検番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
51-3 P.L.21	土師器 台付甕	覆土	口— 底— 8.0 高— (6.7)	①細砂粒多 ②酸化焰・良 ③褐色灰色	外面摩滅により整形不明瞭。	脚部片
51-4 P.L.21	土師器 台付甕	覆土	基部— 4.7 高— (1.8)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	外面刷毛撫で。接合部分に砂粒の多い粘土を付加。	接合部片
51-5 P.L.21	土師器 甕	覆土	口— (20.0) 底— 高— (25.6)	①砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面に刷毛撫での痕跡が残るが、他は器面摩滅のため不明瞭。	1/3
51-6 P.L.21	土師器 器台	覆土	基部— (2.8) 高— (4.7)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③にぶい黄褐色	内面横位の刷毛撫で。	脚部片

## 4号井戸 (図52, P.L13)

位置は、6区調査区南西端で、7H-14グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、長径0.92×短径0.87m、深さは、0.93mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-C軽石を含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。



第52図 宅町畑6区4号井戸実測図

## (6) 溝

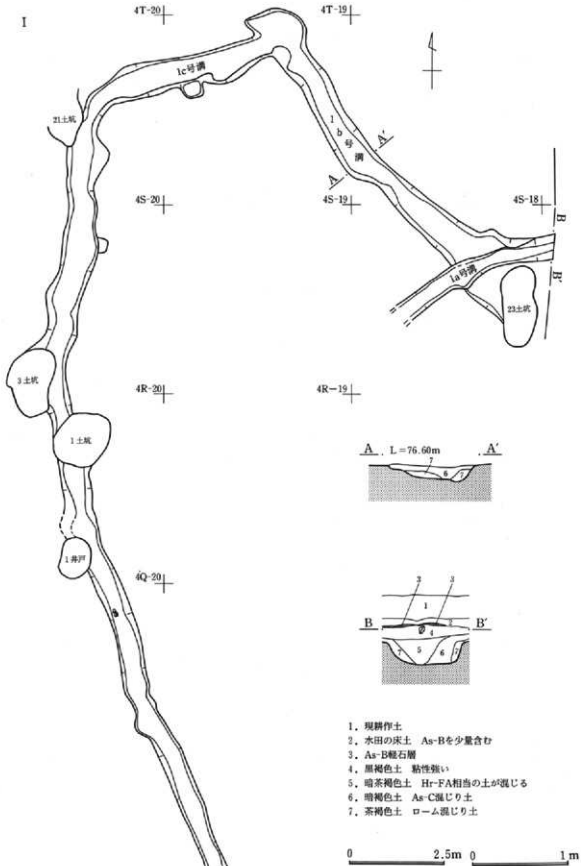
発掘調査時は、1区東側微高地で検出された1号溝を同一の溝と考えて、調査したが、出土遺物・埋設土走行等から3つの溝であると判断できるので、それぞれ1a、1b、1c号溝として、報告する。

## 1a号溝 (図53・54, P.L13)

位置は、1区調査区東側微高地の4R-17・18グリッドで検出された。走行方向は、西南西から東北東への走行(N-60°-E)と想定され、調査区の途中(4R-18)から出現し、調査区外へ延びていく。検出全長は4.30m、上幅0.42~0.63m、底幅0.09~0.20m、深さ0.06~0.29mである。他の遺構との重複関係は、本遺構が1b号溝を壊して走行しており、本遺構が後出である。埋設土は、Hr-FA・As-C軽石の混じる暗茶褐色土・ローム混じりの茶褐色土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

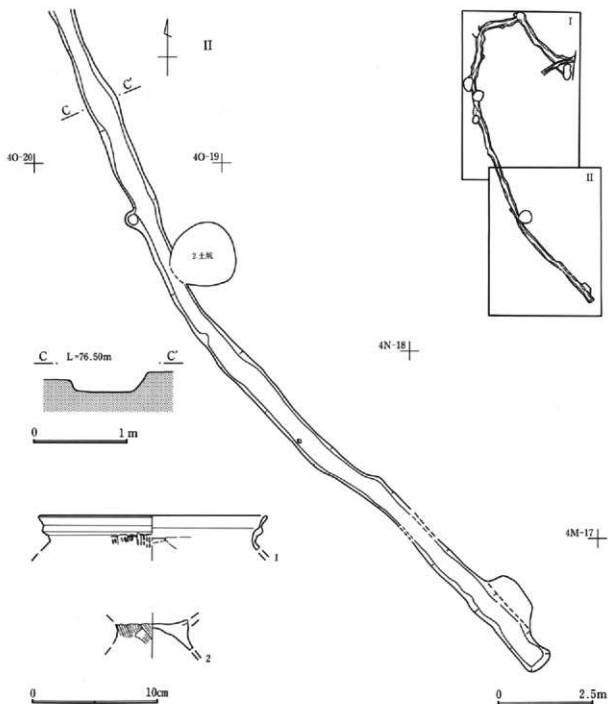
## 1b号溝 (図53, P.L13)

位置は、1区調査区東側微高地の4R~T-18・19グリッドで検出された。走行方向は、北西から南東への走行(N-40°-W)と想定され、調査区の途中(4T-19)から出現し、調査区外へ延びていく。検出全長は10.20m、上幅0.56~0.98m、底幅0.30~0.65m、深さ0.11~0.24mである。他の遺構との重複関係は、1a号溝と1c号溝と重複している。本遺構が1a号溝より前出で、1c号溝とはほぼ同時期の溝と考えられる。埋設土は、As-C軽石の混じる暗褐色土・ローム混じりの茶褐色土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。



第53図 壱町畑1区1a・b・c号溝実測図

第3章 下阿内壱町畑遺跡の調査



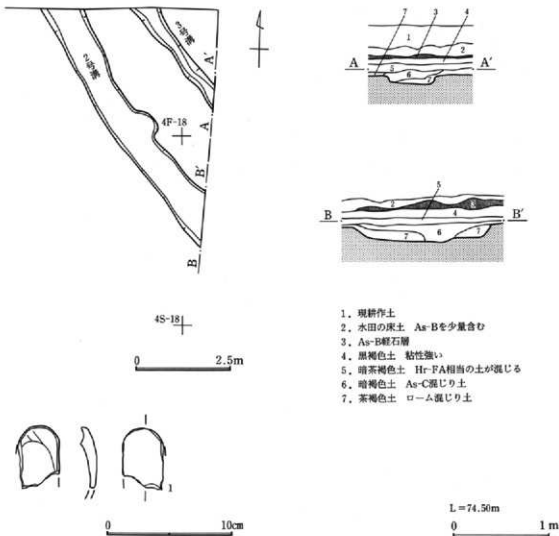
第54図 壱町畑1区1c号溝・出土遺物実測図

第23表 壱町畑1区1c号溝出土遺物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②構成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
54-1 P.L.21	土師器 台付罌	覆土	口- (18.0) 底- 高- (2.5)	①細砂粒 ②酸化焙・良 ③によい黄褐色	口縁部横撫で。外面刷毛撫で。	口縁部片
54-2 P.L.21	土師器 台付罌	覆土	基部- 5.6 高- (2.0)	①粗砂粒 ②酸化焙・良 ③によい黄褐色	外面刷毛撫で。	脚部片

## 1c号溝 (図53, P L13・21)

位置は、1区調査区東側微高地と低地部分の縁辺部を、北側から南側へ横切るように、4L-S-17~20グリッドで検出された。走行方向は、初めは、東北東から西南西へ(N-72°-E)、4S-20グリッドで向きを南へ(N-0°)変え、4Q-20グリッドで南東方向へ向きを変え(N-25°-W)走行し、調査区南側で消滅する。検出全長は46.20m、上幅0.47~0.95m、底幅0.22~0.79m、深さ0.08~0.18mである。他の遺構との重複関係は、北から21号土坑、3号土坑、1号土坑、1号井戸、2号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。埋設土は、As-C軽石の混じる暗褐色土・ローム混じりの茶褐色土である。出土遺物は土師器・台付甕2点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、土師器等の破片425点である。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。



第55図 志町畑1区2・3号溝・出土遺物実測図

第24表 志町畑1区2号溝出土遺物観察表

検出番号 P L No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
55-1 P L 21	土師器 器種不明	覆土	厚さ 1.0 口・底・高は 不明	①砂粒 ②酸化焰・貝 ③により黄褐色	内面上部に稜線を有し、動物の耳のような形状を呈す。	破片

2号溝 (図55、P L13・21)

位置は、1区調査区東側微高地の4T-17・18グリッドで検出された。走行方向は、北西から南東への走行(N-35'-W)と想定され、調査区外の北端から、東端の調査区外へ延びていく。検出全長は7.50m、上幅0.32~0.60m、底幅0.13~0.39m、深さ0.10~0.11mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。確認された範囲での溝の底面はほぼ水平で、地形的に北西から南東へ水が流れたと考えられる。埋設土は、As-C軽石の混じる暗褐色土・ローム混じりの茶褐色土である。出土遺物は土師器片(器種不明)1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、土師器等の破片133点である。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

3号溝 (図55、P L13)

位置は、1区調査区東側微高地の4S・T-17・18グリッドで検出された。走行方向は、北西から南東への走行(N-33'-W)と想定され、調査区外の北端から、東端の調査区外へ延びていく。検出全長は3.40m、上幅0.82~1.10m、底幅0.68~0.95m、深さ0.15~0.21mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。確認された範囲での溝の底面はほぼ水平で、地形的に北西から南東へ水が流れたと考えられる。埋設土は、As-C軽石の混じる暗褐色土・ローム混じりの茶褐色土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

4号溝 (図56・57、P L13・21)

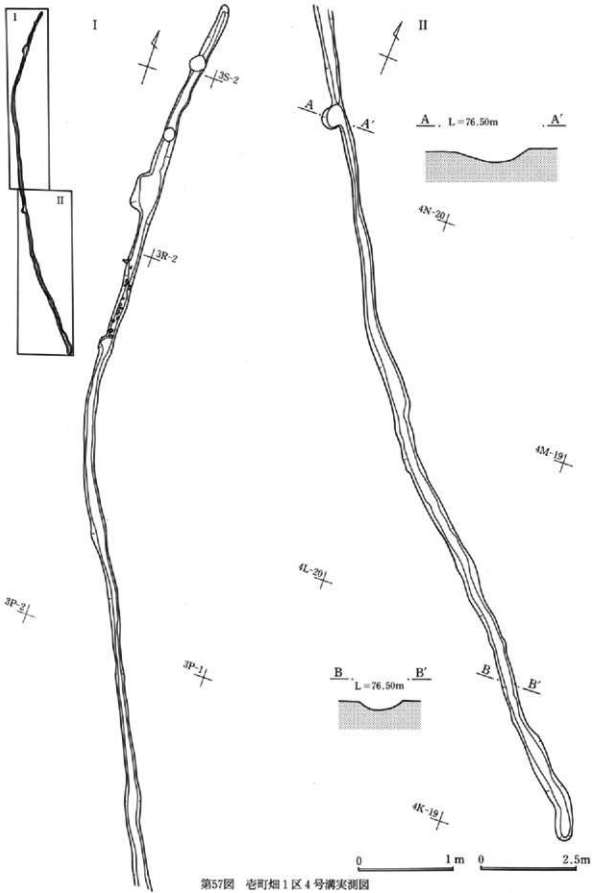
位置は、1区調査区東側微高地と低地部分の境を北側から南側へ横断するように、3・4K-S-18~20・1~2グリッドで検出された。走行方向は、初めは、北から南へ(N-0')、3Q-2グリッドで北西から南東へ(N-28'-W)向きを変え走行すると想定される。北側の途中から出現し、調査区の南側で消滅する。検出全長は49.9m、上幅0.14~0.45m、底幅0.10~0.28m、深さ0.07~0.15mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、As-C軽石の混じる暗褐色土である。出土遺物は、台付壺2点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、土師器等の破片113点である。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。



第56図 老町畑1区4号溝出土遺物実測図

第25図 老町畑1区4号溝出土遺物観察表

脚番号 P L No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
56-1 P L 21	土師壺 台付壺	覆土	基部-4.2 高-(4.4)	①粗砂粒 ②酸化焰・良 ③によい黄褐色	外面刷毛肌で、内面荒て肌あり。胴部と脚部の接合部は粗砂粒を多量に含む粘土を付加。	脚部片
56-2 P L 21	土師壺 台付壺	覆土	基部-(4.7) 底-(9.0) 高-(5.2)	①粗砂粒 ②酸化焰・良 ③によい黄褐色	外面刷毛目は摩滅により不明瞭。内面には砂粒の多い粘土付加。	脚部片



第57図 沓町畑1区4号溝尖頭図

#### 5号溝 (図58、P.L14)

位置は、2区調査区北側、3・4 G-I-1~4・17~20グリッドで検出された。走行方向は、西北西から東南東への走行(N-80°-E)と想定され、東側と西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は36.7m、上幅0.43~0.70m、底幅0.10~0.31m、深さ0.15~0.32mである。他の遺構との重複関係は、16号溝(前掲の中近世の溝)、6号溝、8号溝と重複する。本遺構は、16号溝より前出であることは明らかであるが、6号溝・8号溝との新旧関係は不明である。埋設土は、白色軽石を含む青灰色粘質土・黒灰色砂質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

#### 6号溝 (図59)

位置は、2区調査区北側、3・4 D-H-18~20・1~4グリッドで検出された。走行方向は、東北東から西南西への走行(N-60°-E)と想定され、北東側は途中で消滅し、南西側は調査区外に延びていく。検出全長は39.0m、上幅0.18~0.28m、底幅0.06~0.18m、深さ0.03~0.06mである。他の遺構との重複関係は、16号溝、5号溝、8号溝と重複する。本遺構も、16号溝より前出であることは明らかであるが、5号溝・8号溝との新旧関係は不明である。埋設土は、白色軽石を含む青灰色粘質土・黒灰色砂質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

#### 7号溝 (図60・61、P.L14・22)

位置は、2区・3区調査区、3~5 P-F-17~20・1~3グリッドで検出された。走行方向は、北東から南西への走行(N-35°-E)と想定され、北東側(2区)、南西側(3区)ともに調査区外に延びていく。検出全長は58.5m、上幅0.67~1.80m、底幅0.21~0.60m、深さ0.23~0.37mである。他の遺構との重複関係は、16号溝と重複するが、本遺構が後出である。地形的に、北東から南西方向へ水が流れたと考えられ、溝の底部にも流水によって堆積した砂層が確認された。また、溝の途中に、流水によって形成されたと考えられる、長さ3~5mの細長い微高地(中州)が確認された。埋設土は、As-B軽石を含む暗灰色砂質土とAs-B軽石が混じる茶褐色砂質土である。出土遺物は6世紀の土師器壘1点。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

#### 8号溝 (図62、P.L14)

位置は、2区・3区調査区、3~6 N-I-14~20・1~2グリッドで検出された。走行方向は、北北西から南南東への走行(N-30°-W)と想定され、2区北側の途中から出現し、深度が浅いため2区では、消滅・出現を繰り返し、3区の南東側で調査区外に延びていく。検出全長は(80.0)m、上幅0.20~1.30m、底幅0.05~0.90m、深さ0.01~0.11mである。他の遺構との重複関係は、5号溝、6号溝と重複するが、本遺構が前出である。埋設土は、軽石粒が混じる茶褐色砂質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構は、As-B下面の調査では検出できずに、As-C混面の調査で溝の残骸が検出されたものと考えられるので、As-B水田より古く、Hr-FA降下より新しい時期の溝である。

#### 9号溝 (図63、P.L14)

位置は、4区調査区で、6 J-O-10~13グリッドで検出された。走行方向は、北から南へ(N-0°)、6 N-11グリッドで東北東から西南西へ(N-60°-E)走行を変え、6 M-13グリッドでさらに、南へ(N-



10'-W) 走行すると想定される。北側は調査区外へ延びていき、南側は調査区の途中で消滅する。検出全長は33.3m、上幅0.35~1.65m、底幅0.20~1.40m、深さ0.04~0.10mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、軽石粒が混じる茶褐色砂質土である。出土遺物はなかった。本遺構は、As-B軽石降下より古く、Hr-FA降下より新しいと考えられる。

#### 10号溝 (図64、P L14)

位置は、4区調査区で、6 I・J-10グリッドで検出された。走行方向は、北から南へ(N-0')と想定され、北東側、南西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は7.10m、上幅0.70~0.95m、底幅0.15~0.60m、深さ0.04~0.12mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、軽石粒が混じる茶褐色砂質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構は、As-B軽石降下より古く、Hr-FA降下より新しいと考えられる。

#### 12号溝 (図64、P L14)

位置は、4区調査区で、6 M・N-1~4グリッドで検出された。走行方向は、西南西から東北東への走行(N-75'-E)と想定され、西南西側、東北東側ともに調査区外に延びていく。検出全長は18.60m、上幅1.00~1.35m、底幅0.35~0.65m、深さ0.02~0.05mである。他の遺構との重複関係は、11号溝と重複しているが、本遺構が後出である。埋設土はHr-FAブロックの混じる茶褐色土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

#### 13号溝 (図65、P L14)

位置は、6区調査区で、7 K-O-6~14グリッドで検出された。走行方向は、北東から南西への走行(N-60'-E)と想定され、南西側は調査区途中で消滅し、北東側は調査区外に延びていく。検出全長は43.40m、上幅0.12~0.80m、底幅0.05~0.50m、深さ0.03~0.06mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はHr-FAブロックの混じる茶褐色土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

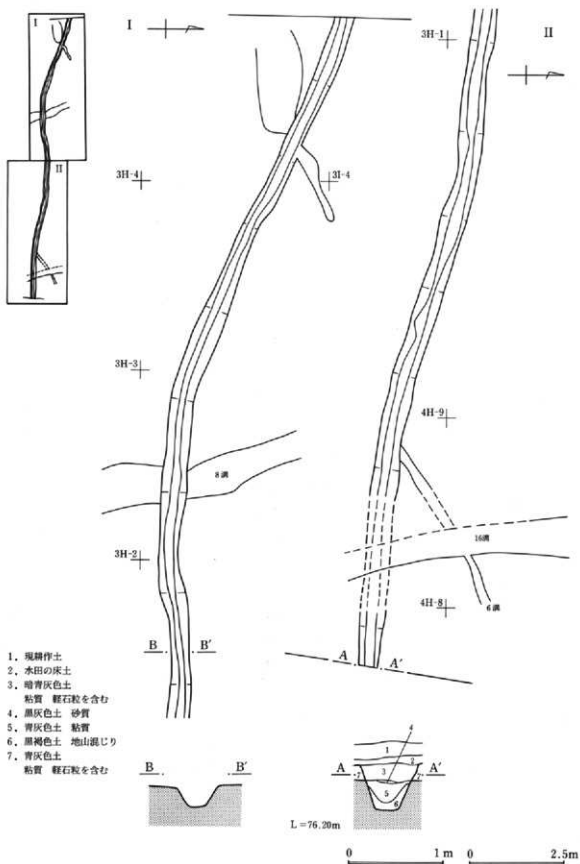
#### 14号溝 (図66、P L14)

位置は、6区調査区で、7 I-K-14グリッドで検出された。走行方向は、北北西から南南東の走行(N-20'-E)と想定され、北北西側、南南東側ともに調査区外に延びていく。検出全長は8.0m、上幅0.45~0.90m、底幅0.20~0.50m、深さ0.04~0.07mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、Hr-FAブロックの混じる茶褐色土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

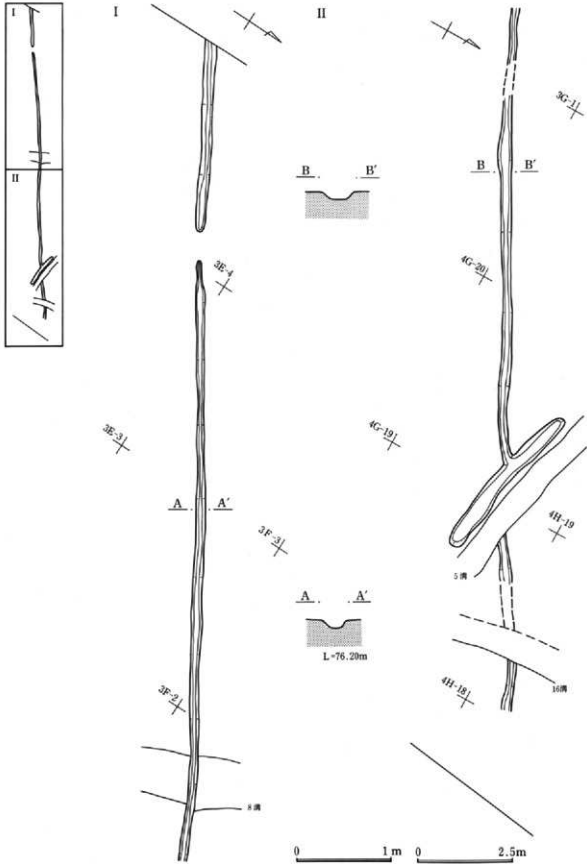
#### 22号溝 (図66、P L14)

位置は、6区調査区で、7 I-O-8グリッドで検出された。走行方向は、南北への走行(N-0')と想定され、北側、南側ともに調査区外に延びていく。検出全長は29.3m、上幅1.10~1.50m、底幅0.20~0.50m、深さ0.01~0.07mである。他の遺構との重複関係は、13号溝と重複しているが新旧関係は不明である。本遺構は、As-B下水田の南北に走る大畦のほぼ真下、やや西側から検出され、確認された溝の深度は浅いため、As-B下水田以前の水田の畦を造成するために掘削した跡か、その時期の水田に伴う水路と想定される。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構は、As-B軽石降下より古く、Hr-FA降下より新しいと考えられる。

第3章 下阿内宅町畑道跡の調査

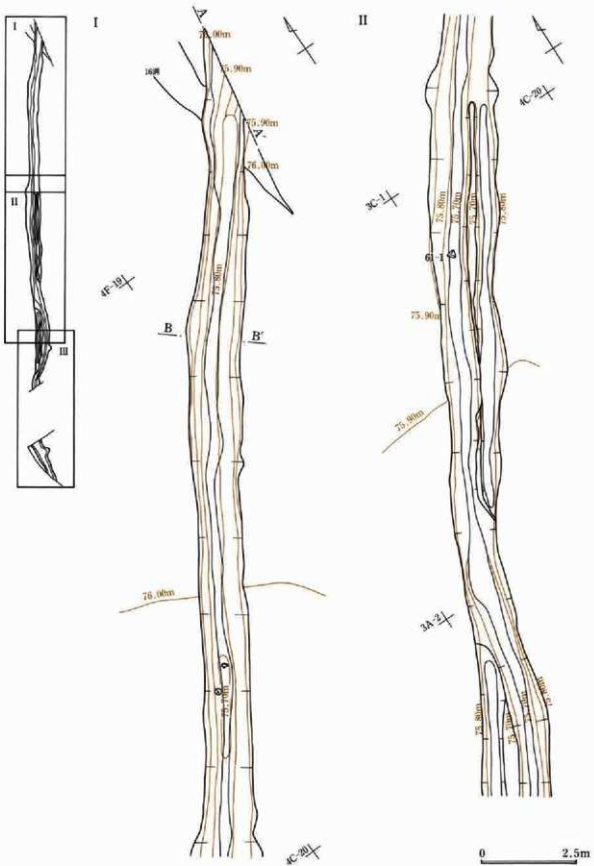


第58図 宍町畑2区5号溝実測図



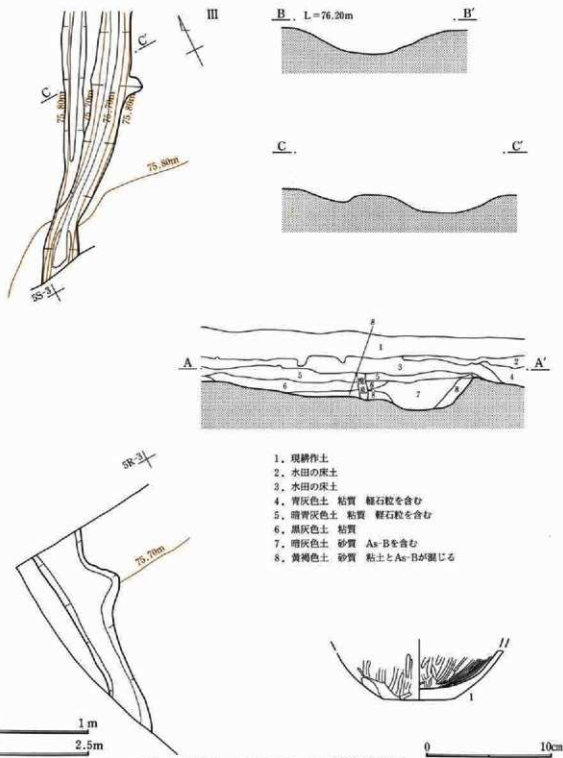
第59図 壱町畑2区6号溝実測図

第3章 下阿内宅町畑遺跡の調査



第60図 宅町畑2区7号溝実測図(1)

第3節 検出された遺構と遺物

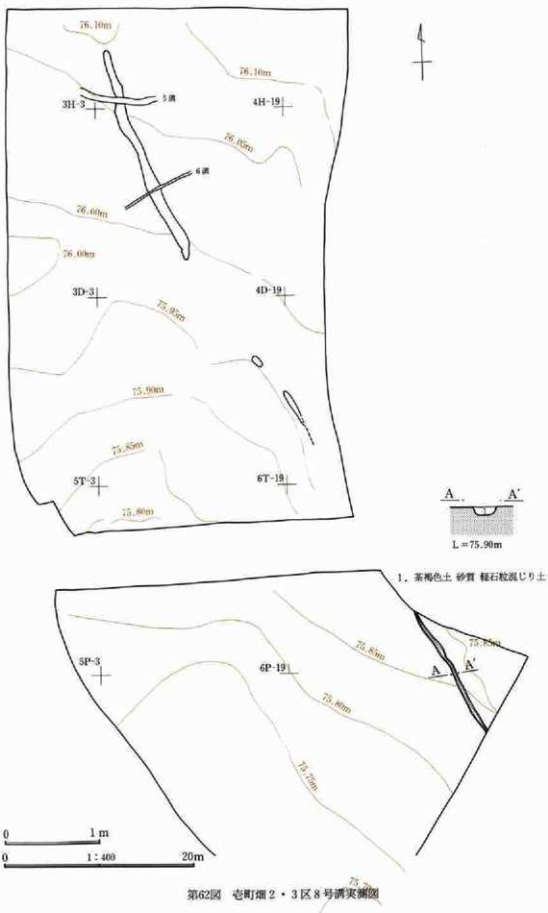


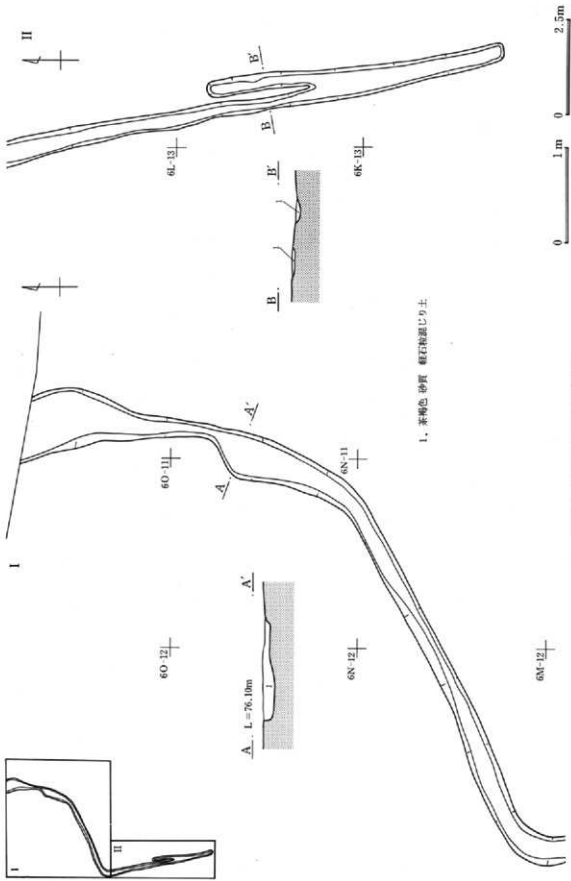
第61図 志町畑2・3区7号溝・出土遺物実測図(2)

第26表 志町畑2区7号溝出土遺物観察表

採回番号 P.L.No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
61-1 P.L.2.2	土師器 壺	底部	口— 底— 5.5 高— (4.0)	①砂粒・小礫痕 ②酸化陥・臭 ③にぶ+橙色	外面篋削り後、置物で。内面篋削り。外面黒斑あり。	底部片

第3章 下阿内老町畑道跡の調査

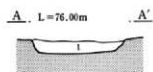
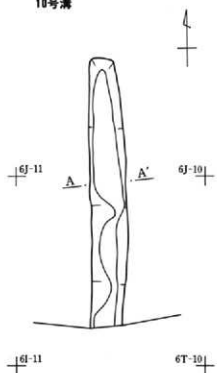




第63図 也町畑4区9号溝突頭図

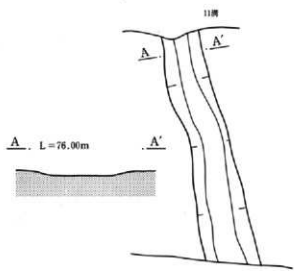
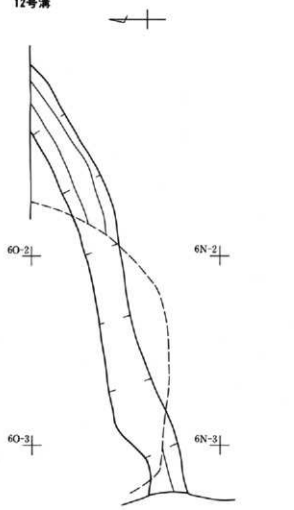
第3章 下阿内老町畑遺跡の調査

10号溝



1. 茶褐色土 砂質 軽石粒混じり土

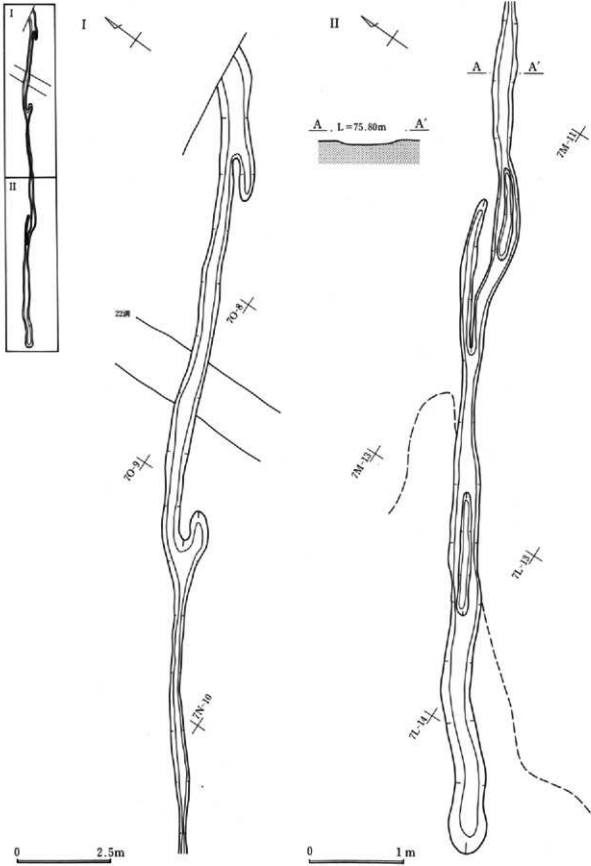
12号溝



第64図 老町畑4区10号溝・5区12号溝実測図

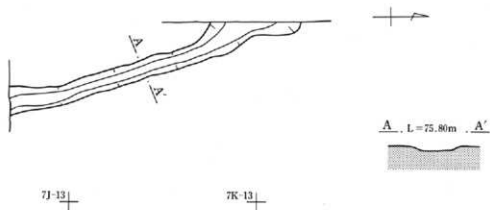


第3節 検出された遺構と遺物

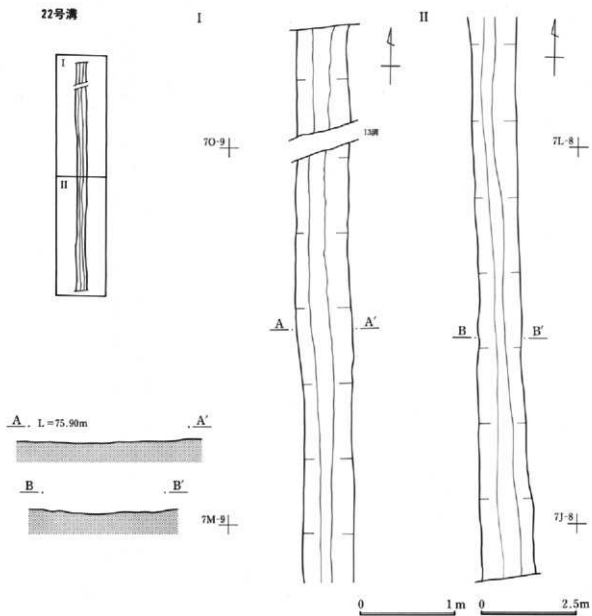


第65図 岩町畑6区13号溝突測図

14号溝



22号溝

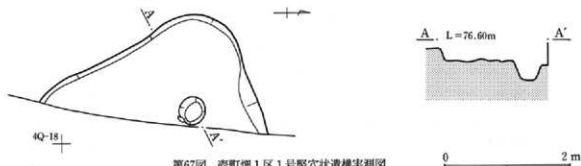


第66図 老町畑6区14・22号溝実測図

## (7) 竪穴状遺構

## 1号竪穴状遺構 (図67)

位置は、1区東側の微高地、4P・Q-18グリッドで検出された。平面形は方形で、大きさは、長軸(3.50)×短軸(2.60)m、深さは0.10~0.20m、長軸方位は、N-28°-Wである。確認された遺構は西側の半分のみで全容が明らかでなく、調査時は竪穴住居跡とも考えられた。しかし、底面は凹凸状で、円形の掘込みも1基検出され、遺構の性格は不明である。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、As-C軽石を含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。

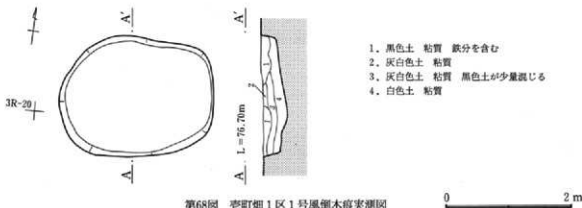


第67図 壱町畑1区1号竪穴状遺構実測図

## (8) 風倒木痕

## 1号風倒木痕 (図68、P L15)

位置は、1区調査区東側微高地で、4Q・R-19グリッドで検出された。平面形は楕円形状で、大きさは、長軸2.48×短軸1.92m、深さは、0.36m、長軸方位は、N-90°-Eである。他の遺構との重複関係は、1号円形建物跡と重複しているが、本遺構が前出である。出土遺物はなかった。本遺構は、自然現象等で木が倒れた痕跡で、時期は古墳時代以前と思われるが不明である。



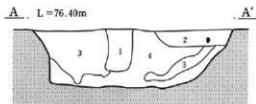
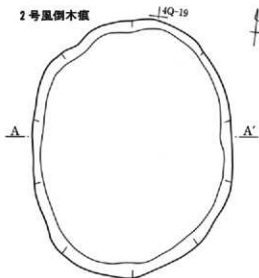
第68図 壱町畑1区1号風倒木痕実測図

## 2号風倒木痕 (図68、P L15)

位置は、1区調査区東側微高地で、4P-18・19グリッドで検出された。平面形は楕円形状で、大きさは、長軸4.19×短軸3.18m、深さは、0.93m、長軸方位は、N-0°である。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。出土遺物はなかった。遺構は、自然現象等で木が倒れた痕跡で、時期は古墳時代以前と思われるが不明である。

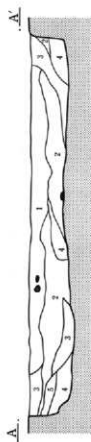
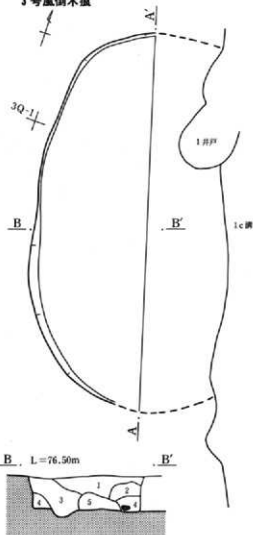
第3章 下阿内宅町畑遺跡の調査

2号風倒木痕

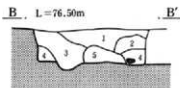


1. 灰白色土 粘質 鉄分を含む
2. 白色土 粘質 若干黒色土が混じる
3. 黒色土 粘質 鉄分を含む
4. 白色土 粘質

3号風倒木痕



1. 茶褐色土 粘質 鉄分を含む
2. 灰白色土 粘質
3. 黒色土 粘質
4. 明茶褐色土 粘質 鉄分を含む
5. 白色土 粘質 鉄分を含む



0 2 m

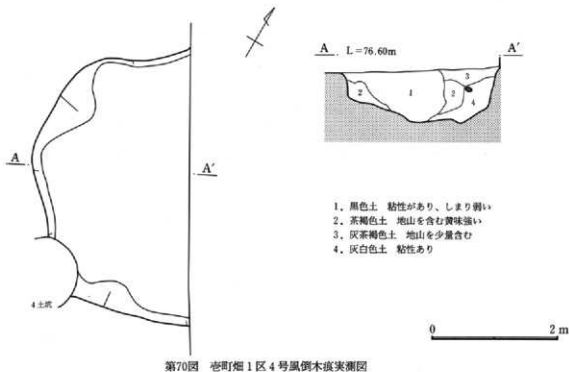
第69図 老町畑1区2・3号風倒木痕実測図

## 3号風倒木痕 (図69, P L15)

位置は、1区調査区東側微高地で、4P・Q-20グリッドで検出された。平面形は楕円形に掘られ、大きさは、長軸6.06×短軸3.77m、深さは、0.69m、長軸方位は、N-17°-Wである。他の遺構との重複関係は、1号溝・1号井戸と重複しているが、本遺構が前出である。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。出土遺物はなかった。遺構は、自然現象等で木が倒れた痕跡で時期は古墳時代以前と思われるが不明である。

## 4号風倒木痕 (図70, P L15)

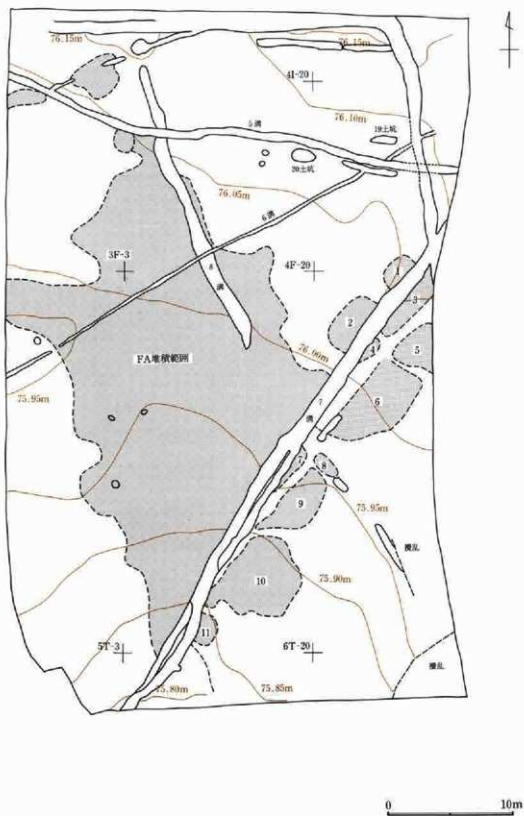
位置は、1区調査区東側微高地で、4M・N-17・18グリッドで検出された。北東側の半分は調査区外のため全容は確認できなかった。確認された範囲での、大きさは、長軸は不明、短軸4.43m、深さは、0.83mである。他の遺構との重複関係は、4号土坑と重複しているが、本遺構が前出である。出土遺物はなかった。遺構は、自然現象等で木が倒れた痕跡で、時期は古墳時代以前と思われるが不明である。



第70図 壱町畑1区4号風倒木痕実測図

## (9) Hr-FA下水田 (図71, P L15)

Hr-FAの堆積が確認できたのは、2区・3区・5区・6区の一部であった。2区調査区では、Hr-FAの残存度が比較的良く、堆積が確認され、不整形な小区画水田が11区画検出された。そのうち区画がわかるものは確認できなかった。また、畦の高まりは、確認できなかったが、北東から南西方向へ走る縦畦、その縦畦に沿って北西から南東方向へ続く横畦が看取された。比較的残りの良い、3・4・5・6区画の縦畦の方位はN-43°-E、横畦はN-48°-Wでほぼ直交している。縦畦の幅は約1m、横畦の幅は約0.4mである。水口は確認できなかった。水田面の標高は75.85~75.75mで、高低差約0.1mである。縦畦とほぼ平行で、水田が検出された部分を縦断するように、北東から南西への走行で7号溝が検出されたが、7号溝は水田を横して走行しており、水田に伴う遺構ではないと思われる。また、7号溝の北西側には広い範囲でHr-FAの堆積が確認されたが、水田区画は不明瞭で検出できなかった。



第71図 老町畑2区Hr-FA下水田実測図

(10) トレンチ調査

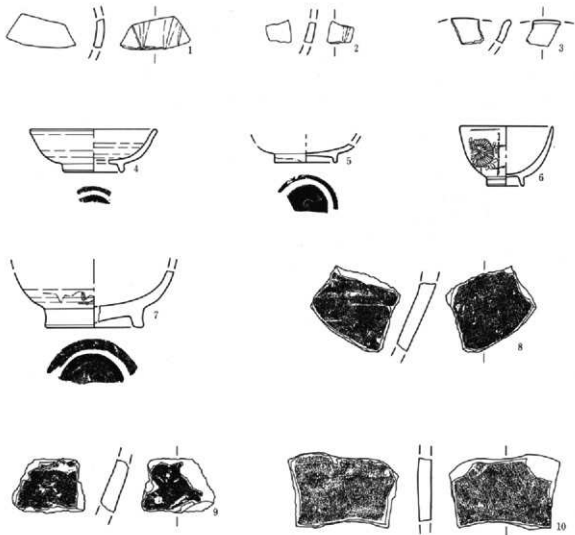
古墳時代以前（弥生～縄文時代）の遺構確認のため、1区調査区に2ヶ所（幅5.5m×長さ19m、幅5.5m×長さ8.5m、深さ約0.3m）のトレンチ調査をしたが、遺構は確認されなかった。また、出土遺物は土師器の小片数点であった。

4、遺構外出土遺物

下阿内町畑遺跡で出土した、遺構に伴わない遺物を時代別（中近世、平安時代、古墳時代、縄文時代）に、ここで報告する。状態が悪く、図化しなかったが、1区の遺物包含層からは、古墳時代の土器片と一緒に牛の臼歯も出土しているが、時期は不明である。

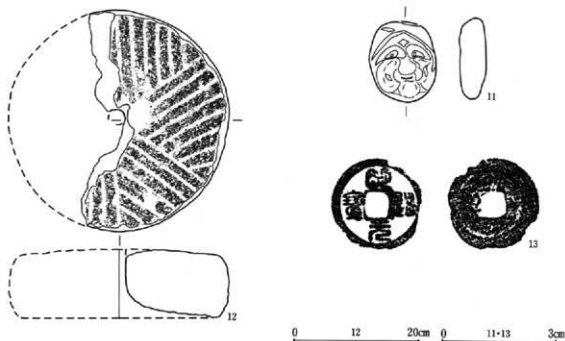
(1) 中近世（近現代も含む）（図72・73、P.L22）

ここで報告する遺物は、第1面（中近世）と第2面（平安時代）の調査（表土掘削・遺構確認）時、主にAs-B下水田の遺構確認・検出時に出土したものである。



第72図 畑遺跡遺構外出土遺物実測図(1)

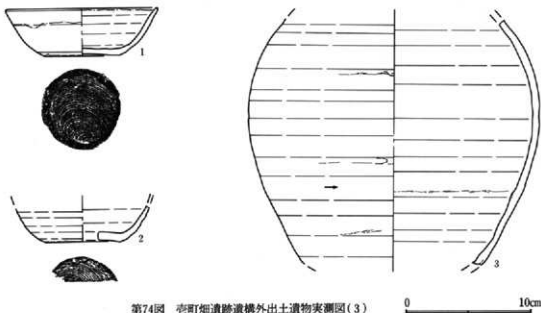
0 10cm



第73図 志町知遺跡遺構外出土遺物実測図(2)

(2) 平安時代 (図74、P.L22)

1区東側の微高地、第3面(古墳時代)の調査時に出土した遺物である。



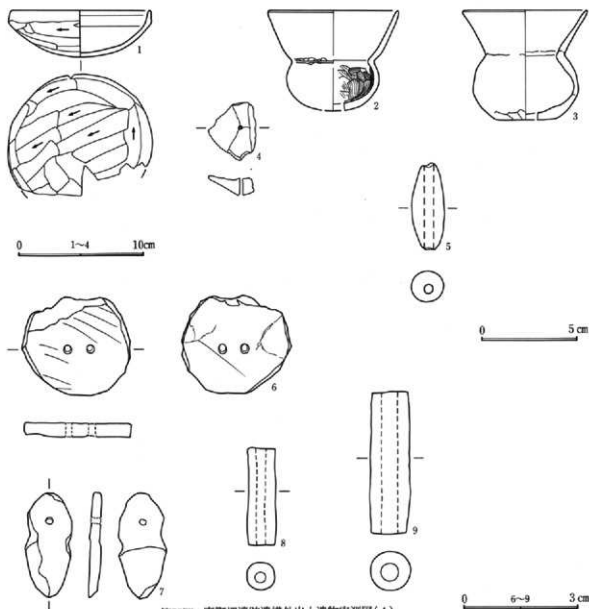
第74図 志町知遺跡遺構外出土遺物実測図(3)

(3) 古墳時代 (図75、P.L22)

前掲の17号土坑からは、ミニチュア土器・農具と思われる木製品、3号井戸からは胴部に人為的な穿孔のある台付甕が出土した。4点の石製模造品は、土坑や井戸の密集するグリッド付近の遺物包含層から出土しており、関連のある遺物であると考えられ、この付近で何らかの祭祀が行われた可能性が想定される。他の4点の土師器も1区遺物包含層から出土したものである。



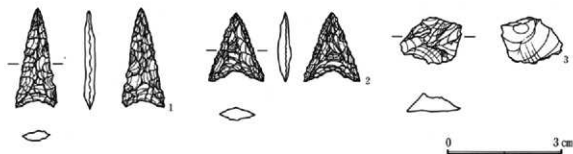
第3節 検出された遺構と遺物



第75図 志町畑遺跡遺構外出土遺物実測図(4)

(4) 縄文時代 (図76、P L22)

本遺跡では、縄文土器は確認されなかった。以下に報告する3点の石器は第3面(古墳時代)の調査時に検出されたものである。



第76図 志町畑遺跡遺構外出土遺物実測図(5)

第3章 下阿内老町知遺跡の調査

第27図 老町知遺跡遺構外(中近世)出土遺物観察表

採回番号 PLNo	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)		①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考		
			長さ	幅				高さ	重量
72-1 PL22	龍泉窯系 青磁 碗	1区 As-B下	厚さ 0.6 cm 口・底・高は 不明		① ② ③オリーブ灰色	編蓮弁文碗の体部片。	破片		
72-2 PL22	龍泉窯系 青磁 碗	1区 As-B下	厚さ 0.6 cm 口・底・高は 不明		① ② ③緑灰色	編蓮弁文碗の体部片。	破片		
72-3 PL22	龍泉窯系 青磁 碗	1区 As-B下	厚さ 0.5 cm 口・底・高は 不明		① ② ③灰オリーブ色	無文の碗の口縁部小片。軸はやや白濁する。	破片		
72-4 PL22	製作地不詳 碗	10区	口-(10.0) 底-(4.8) 高- 3.4		① ② ③明黄褐色	内面から体部外面黄土色の釉を施す。焼き締まりは弱く、やや軟質。19世紀?	破片		
72-5 PL22	肥前磁器 碗	1区 As-B下	口- 底- 5.0 高- (1.3)		① ② ③灰白色	京焼風陶器碗底部。高台外面から内面無釉。高台内「新」押印。	破片		
72-6 PL22	瀬戸・美濃 磁器 碗	10区	口-(7.2) 底-(3.0) 高- 4.8		① ② ③白色	ゴム印による捺付。昭和製。	破片		
72-7 PL22	瀬戸・美濃 陶器 鉢	10区	口- 底-(7.6) 高- (4.3)		① ② ③暗褐色	内面から高台縁鉄軸。内面日痕1ヶ所。	破片		
72-8 PL22	焼締陶器 甕	1区 As-B下	厚さ 1.1 cm 口・底・高は 不明		① ② ③褐色	中世知多窯の甕の体部下位小片。	破片		
72-9 PL22	焼締陶器 甕の底	1区 As-B下	厚さ 1.2 cm 口・底・高は 不明		① ② ③黒褐色	中世知多窯の甕の底の体部下位小片。	破片		
72-10 PL22	焼締陶器 甕	10区	厚さ 1.0 cm 口・底・高は 不明		① ② ③明褐色	中世知多窯の甕の体部片。	破片		
採回番号 PLNo	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm・g)				①胎土②焼成 ③色調	特徴	残存状態
73-11 PL22	土製品 泥団子	1区 As-B下	2.1	1.8	6.7	2.2	①細粒 ②酸化焰 ③褐色	片面の壁に粘土を押し当てて成形。	ほぼ完形
採回番号 PLNo	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm・kg)				石 材	特 徴	残存状態
73-12 PL22	石製品 石臼	10区 表土	直径	孔径	高さ	重量			
採回番号 PLNo	種類	銭貨名	国名	初鑄年	出土 位置	計測値 (cm・g)			残存状態・備考
73-13 PL22	銅銭	明通元寶	北宋	1032	1区 As-B下	外径	内径	重さ	ほぼ完形

第28表 老町知遺跡遺構外(平安時代)出土遺物観察表

採回番号 PLNo	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)		①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
			直径	孔径			
74-1 PL22	須恵器 坏	1区 As-C混 遺物包含層	口-(12.0) 底- 6.0 高- 3.7		①細砂粒 ②還元焰・軟質 ③灰白色	輪轆整形。底部右回転余切り。口縁部のみ吹灰。	1/2
74-2 PL22	須恵器 坏	1区 As-C混	口- 底-(2.8) 高- (6.0)		①細砂粒 ②還元焰・良 ③灰色	輪轆整形(?回転)。底部回転余切り。	1/4
74-3 PL22	須恵器 甕	1区 As-C混 遺物包含層	胴部最大径 (23.0) 高-(19.3)		①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰白色	輪轆整形(?回転)。胴部下半回転削りを施す。胴部上半自然軸。	胴部片

第3節 検出された遺構と遺物

第29表 志町畑道跡遺構外（古墳時代）出土遺物観察表

検出番号 P.L.No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)				①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
			口-	底-	高-	高+			
75-1 P.L.2.2	土師器 坏	1区 4L-19	口- 11.0 底- 高- 3.7				①細砂粒 ②酸化焰・良 ③褐色	口縁部横撫で。底部窪削り。	2/3
75-2 P.L.2.2	土師器 埴	1区 4L-19	口- (10.3) 底- 高- (8.0)				①細砂粒 ②酸化焰・良 ③よい褐色	外面整形は厚減により不明瞭。体部内面は刷毛撫で。底部丸底。	1/3
75-3 P.L.2.2	土師器 埴	1区 遺物包含層	口- 9.8 底- 4.7 高- 8.6				①粗砂粒・小礫 ②酸化焰・並 ③褐色	器面刻磨により整形は不明瞭。底部平底。口縁部に径7mmの小礫含む。外面黒斑あり。	1/2
75-4 P.L.2.2	土師器 高坏	1区 遺物包含層	厚さ 1.3 口・底・高は不明				①粗砂粒 ②酸化焰・良 ③褐色	高坏の坏部と脚部の接合部で穿孔あり。	接合部片
検出番号 P.L.No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm・g)				①胎土②焼成 ③色調	特 徴	残存状態
			長さ	幅	厚さ	重量			
75-5 P.L.2.2	土製品 土 鐘	10区 表土	5.6	孔 0.5	径 1.6	5.9	①細粒 ②酸化焰 ③褐色	表面厚減。	ほぼ完形
検出番号 P.L.No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm・g)				石 材	特 徴	残存状態
			長さ	孔径	厚さ	重量			
75-6 P.L.2.2	石製品 有孔円盤	1区 4L-19	2.6	0.2	4.0	4.63	磨 石	側面に研磨痕あり。	4/5
75-7 P.L.2.2	石製品 剣 形	1区 遺物包含層	2.8	0.2	0.3	1.20	磨 石		ほぼ完形
75-8 P.L.2.2	石製品 管 玉	1区 遺物包含層	2.6	0.25	0.8	2.57	蛇紋岩	側面に斜位研磨痕。先沢あり。	完 形
75-9 P.L.2.2	石製品 管 玉	1区 遺物包含層	3.8	0.5	1.1	5.93	流紋岩	大形品。先沢なし。	完 形

第30表 志町畑道跡遺構外（縄文時代）出土遺物観察表

検出番号 P.L.No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm・g)				石 材	特 徴	残存状態
			長さ	幅	厚さ	重量			
76-1 P.L.2.2	石器 石 鏃	3区 As-C層	2.6	1.1	0.25	0.55	チャート	凹器無茎。	完 形
76-2 P.L.2.2	石器 石 鏃	1区 As-C層	1.8	1.4	0.3	0.52	珪質頁岩	凹器無茎。	完 形
76-3 P.L.2.2	石器 剥 片	1区 4L-19	1.2	1.1	0.5	0.66	黒曜石		破片

## 5、計測表

(1) 下阿内巻町畑遺跡As-B地下水計測表 (第31表)

調査区	区画No	面積(m <sup>2</sup> )	長軸(m)	短軸(m)	田面の高低差	水口の有無	畦の様子		備考(重複関係等)
							高さ(m)	幅(m)	
1区	1	(105.0)	(15.0)	(6.5)	0.04		0.01~0.05	0.54~0.94	
	2	(148.7)	(14.8)	(10.3)	0.10		0.01~0.02	0.54~1.17	
	3	(55.5)	(8.0)	(7.2)	0.05		0.01~0.02	0.74~1.02	
	4	65.2	10.7	6.8	0.08		0.01~0.04	0.74~1.16	
	5	(64.8)	(9.3)	6.7	0.06		0.01~0.05	0.40~0.94	
	6	89.2	11.8	7.4	0.04		0.01~0.06	0.45~0.88	
	7	(42.5)	(10.2)	4.3	0.03		0.01~0.04	0.50~0.90	
	8	84.7	15.0	4.8	0.03		0.02~0.06	0.44~0.89	
	9	(78.4)	(11.6)	7.0	0.03		0.01~0.04	0.52~0.75	
	10	77.5	10.6	7.3	0.08		0.01~0.04	0.52~0.80	
	11	(104.4)	(12.2)	(9.6)	0.06	○	0.02~0.03	0.56~0.96	
	12	(34.4)	(7.8)	(4.6)	0.01		0.01~0.04	0.48~0.78	
	13	(35.4)	9.5	(3.4)	0.03		0.01~0.04	0.60~0.74	
2区	14	(50.7)	10.5	(3.8)	0.02		0.01~0.05	0.70~0.98	
	15	(97.4)	(11.4)	7.2	0.05	○	0.04~0.05	0.69~0.90	
	16	(102.0)	(11.4)	9.4	0.04		0.01~0.04	0.62~0.84	
	17	(55.6)	9.6	(5.0)	0.03		0.02~0.04	0.58~0.94	
	18	89.5	12.0	7.3	0.02	○	0.05~0.06	0.58~0.92	
	19	96.8	10.6	8.6	0.01		0.04~0.07	0.68~0.82	
	20	(27.8)	5.7	(5.0)	0.02		0.01~0.05	0.72~0.96	
	21	(24.2)	7.5	(1.7)	0.04		0.02~0.06	0.58~0.80	
	22	90.6	13.5	7.2	0.05	○	0.04~0.06	0.56~0.98	
	23	(74.1)	10.3	(6.0)	0.01		0.03~0.05	0.54~0.70	
	24	(58.7)	(9.0)	(6.0)	0.07		0.01~0.02	0.72~1.04	
	25	(23.8)	2.8	(1.4)	-		0.02~0.07	0.62~0.78	
	3区	26	(0.78)	(1.0)	(0.8)	-		0.01	0.56
27		(18.5)	13.5	(1.6)	0.03		0.02~0.04	0.60~1.06	
28		(23.2)	11.0	(2.2)	0.02		0.01~0.03	0.70~1.04	
29		(29.8)	11.8	(3.7)	0.02		0.01~0.04	0.70~1.20	
30		(0.8)	(2.7)	(0.2)	-		-	0.58	
31		139.5	14.0	11.0	0.07	○	0.03~0.07	0.58~1.00	
32		111.5	11.8	9.0	0.04	○	0.05~0.07	0.44~1.04	
33		131.3	13.5	10.0	0.01	○	0.01~0.03	0.60~1.24	
34		(72.8)	(12.0)	(9.0)	0.03	○	0.02~0.05	0.68~0.92	
35		(60.1)	(9.4)	8.7	0.03	○	0.03~0.05	0.40~0.62	
36		61.9	8.7	7.3	0.03	○	0.02~0.06	0.52~0.92	
37		217.6	21.0	10.2	0.04		0.02~0.06	0.63~0.98	
38		(6.2)	(4.2)	(3.2)	0.01		0.03~0.05	0.40~0.70	
39	(57.5)	(9.6)	7.8	0.02		0.01~0.06	0.38~0.76		
40	211.8	21.2	10.0	0.05		0.04~0.05	0.42~1.00	4区に同じ区画あり	
41	(63.2)	(12.0)	(6.7)	0.02		0.03~0.06	0.60~0.84	4区に同じ区画あり	
4区	42	(21.2)	(11.7)	(0.8)	0.02		0.01~0.03	0.64~0.98	
	43	208.4	21.3	9.2	0.04		0.01~0.06	0.54~0.98	3区に同じ区画あり
	44	(115.1)	(19.3)	(9.3)	0.04		0.02~0.06	0.70~1.22	
	45	230.0	20.6	10.6	0.05		0.03~0.05	0.68~1.10	
	46	(113.8)	(19.5)	5.0	0.03		0.02~0.03	0.54~0.90	
	47	(101.6)	(18.0)	6.6	0.03		0.01~0.04	0.60~1.20	
	48	(171.6)	22.0	(6.7)	0.02		0.03~0.05	0.64~1.12	
5区	49	(183.6)	(17.1)	(10.6)	0.03		0.01~0.04	0.60~1.20	
	50	(28.6)	(15.0)	(0.7)	0.02		0.01~0.03	0.58~0.65	
	51	(175.3)	(17.0)	(9.0)	0.04		0.01~0.03	0.52~0.84	1号足跡列と重複
	52	(155.9)	24.5	(5.0)	0.06		0.01~0.03	0.60~0.84	1号足跡列と重複
	53	(16.6)	(4.4)	(4.0)	0.02		0.01~0.03	0.58~0.84	
	54	(158.6)	(17.4)	11.0	0.04		0.01~0.04	0.50~0.80	1号足跡列と重複
	55	327.5	24.6	13.3	0.06		0.02~0.05	0.44~0.85	

## 第3節 検出された遺構と遺物

調査区	区画№	面積(m <sup>2</sup> )	長軸(m)	短軸(m)	田面の 高低差	水口の 有無	畦の様子		備考(重複関係等)
							高さ(m)	幅(m)	
5区	56	291.3	20.4	14.0	0.05		0.03~0.05	0.52~0.84	6区に同じ区画あり
	57	(98.3)	(17.0)	(7.3)	0.02		0.02~0.04	0.54~0.80	
	58	(218.1)	24.7	(7.0)	0.05		0.03~0.05	0.54~0.64	1号足跡列と重複
	59	264.6	20.0	15.0	0.04		0.02~0.06	0.54~0.80	
6区	60	(165.4)	17.3	(7.8)	0.07		0.01~0.05	0.58~0.84	6区に同じ区画あり
	61	(19.5)	(7.7)	2.3	0.05		0.02~0.06	0.65~0.82	
	62	(92.5)	12.8	(8.5)	0.03		0.01~0.02	0.72~0.80	
	63	149.1	19.0	8.3	0.02		0.01~0.03	0.54~0.72	
	64	21.8	8.7	2.0	0.03		0.02~0.05	0.64~0.82	
	65	99.8	12.3	8.5	0.04		0.01~0.03	0.72~0.92	
	66	(10.2)	(9.6)	2.0	—		0.01~0.03	0.60~0.90	
	67	161.3	21.0	7.2	0.03		0.01~0.05	0.52~0.74	
	68	(95.4)	(12.5)	(10.5)	0.03		0.02~0.05	0.60~0.97	
	69	(67.6)	20.4	(1.5)	0.04		0.03~0.05	0.70~1.00	
	7区	70	(0.6)	(1.0)	(0.8)	—		—	
71		(230.7)	23.8	(6.3)	0.03		0.02~0.04	0.62~0.82	
72		93.8	10.1	8.2	0.01		0.02~0.04	0.64~0.78	
73		(57.2)	(10.2)	10.2	0.08		0.01~0.02	0.38~0.72	
74		(72.7)	13.8	(6.5)	0.04		0.03~0.04	0.58~0.85	
75		(267.2)	19.8	(9.9)	0.02		0.02~0.06	0.58~0.86	
76		(157.7)	(21.0)	(7.2)	0.07		0.01~0.05	0.38~0.74	
8区	77	(137.4)	(13.5)	9.0	0.03		0.01~0.02	0.54~0.76	
	78	90.0	11.0	8.0	0.02		0.02~0.05	0.48~1.30	2号足跡列と重複
	79	(14.9)	(9.3)	(2.5)	0.02		0.01~0.02	0.64~0.78	
	80	(112.6)	(13.0)	8.0	0.02		0.02~0.05	0.62~0.88	2号足跡列と重複
	81	46.7	8.3	5.0	0.04		0.02~0.05	0.56~0.64	
	82	(30.6)	7.8	(3.6)	0.01		0.02~0.06	0.42~0.78	
	83	(144.0)	(13.0)	8.0	0.09		0.05	0.66~0.90	2号足跡列と重複
	84	85.2	9.5	7.5	0.03		0.02~0.04	0.48~0.84	
	85	(32.6)	(6.7)	(4.2)	0.03		0.02~0.05	0.50~0.98	

(2) 下阿内巻町畑遺跡土坑計測表 (第32表)

\*1~20号土坑は、本文中報告

番号	位置(グリッド)	形状	長軸方位	規模(長さ・幅・深さ)	埋設土	時期	出土遺物	備考(重複関係等)
21	4 S-20	楕丸長方形	N-11°-W	2.60×1.06×0.36	As-C強土	古墳時代	なし	1c号溝と重複
22	4 R-20	楕丸方形	N-20°-E	2.30×(1.30)×0.55	As-C強土	古墳時代	なし	1c号溝と重複
23	4 R-18	楕丸長方形	N-0°	2.10×0.90×0.52	As-C強土	古墳時代	なし	1b号溝と重複

(3) 下阿内巻町畑遺跡ピット計測表 (第33表)

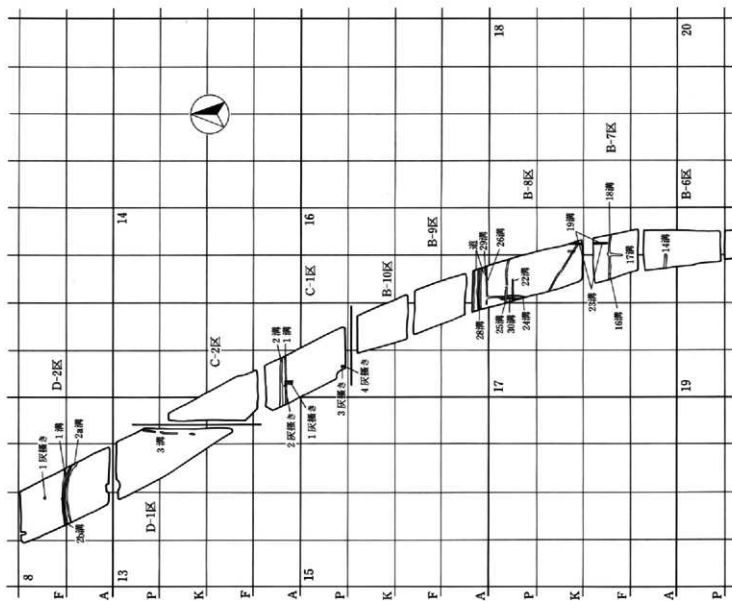
番号	位置(グリッド)	形状	長軸方位	規模(長さ・幅・深さ)	埋設土	時期	出土遺物	備考(重複関係等)
1	3 R-1	楕円形	N-80°-E	0.62×0.29×0.14	As-B強土	中~近世	なし	
2	4 R・S-20	楕円形	N-85°-E	0.66×0.49×0.08	As-B強土	中~近世	なし	
3	4 S-19	楕円形	N-75°-W	0.44×0.33×0.08	As-B強土	中~近世	なし	
4	4 R・S-19	楕円形	N-30°-W	0.27×0.20×0.09	As-B強土	中~近世	なし	
5	4 R-19	楕丸方形	N-60°-W	0.33×0.32×0.05	As-B強土	中~近世	なし	
6	4 R-18	楕丸方形	N-7°-W	0.44×0.29×0.05	As-B強土	中~近世	なし	
7	4 Q-18	楕円形	N-60°-W	0.34×0.23×0.06	As-B強土	中~近世	なし	
8	4 Q-19	楕円形	N-45°-E	0.40×0.33×0.08	As-B強土	中~近世	なし	
9	4 Q-20	楕丸方形	N-17°-W	0.33×0.30×0.10	As-B強土	中~近世	なし	
10	3 Q-1	楕円形	N-30°-W	0.48×0.41×0.09	As-B強土	中~近世	なし	
11	4 P-20	楕円形	N-62°-W	0.35×0.30×0.16	As-B強土	中~近世	なし	
12	4 P-20	楕円形	N-35°-E	0.64×0.44×0.11	As-B強土	中~近世	なし	
13	4 P-19	円形	(N-20°-W)	0.28×0.27×0.11	As-B強土	中~近世	なし	
14	3 T-1	円形	-	0.62×(0.35)×0.17	As-C強土	古墳時代	なし	
15	4 T-20	円形	-	0.51×0.49×0.56	As-C強土	古墳時代	なし	
16	4 T-20	楕円形	N-0°	0.80×0.55×0.20	As-C強土	古墳時代	なし	
17	4 T-19	楕円形	N-20°-W	0.89×0.62×0.17	As-C強土	古墳時代	なし	
18	4 S・T-20	楕丸長方形	N-30°-E	1.05×0.70×0.20	As-C強土	古墳時代	なし	
19	4 S-18	楕丸長方形	N-0°	1.40×1.10×0.10	As-C強土	古墳時代	なし	
20	4 S-19	楕丸方形	-	0.54×(0.48)×0.13	As-C強土	古墳時代	なし	1c号溝と重複
21	3 S-1	円形	-	0.37×0.35×0.14	As-C強土	古墳時代	なし	
22	3 S-2	円形	-	0.42×0.43×0.16	As-C強土	古墳時代	なし	4号溝と重複
23	3 R-2	楕円形	N-0°	0.36×0.29×0.33	As-C強土	古墳時代	なし	4号溝と重複
24	4 R-18	楕円形	N-45°-E	0.42×0.36×0.14	As-C強土	古墳時代	なし	
25	4 R-18	円形	-	0.39×0.36×0.41	As-C強土	古墳時代	なし	
26	4 R-18	不整形	-	1.10×1.10×0.43	As-C強土	古墳時代	なし	
27	4 Q・R-18	円形	N-60°-W	0.46×0.35×0.28	As-C強土	古墳時代	なし	
28	4 Q-18	円形	-	0.43×0.39×0.13	As-C強土	古墳時代	なし	
29	4 Q-18	円形	-	0.42×0.42×0.33	As-C強土	古墳時代	なし	
30	4 Q-18	楕円形	N-40°-E	0.50×0.35×0.28	As-C強土	古墳時代	なし	1号壑穴状遺構
31	4 Q-18	円形	-	0.44×0.40×0.20	As-C強土	古墳時代	なし	1号壑穴状遺構
32	4 Q-18	円形	-	0.36×0.32×0.21	As-C強土	古墳時代	なし	
33	4 Q-18	円形	-	0.45×0.40×0.15	As-C強土	古墳時代	なし	
34	4 P-18	円形	-	0.70×0.67×0.20	As-C強土	古墳時代	なし	
35	4 N-20	楕円形	-	0.56×(0.40)×0.11	As-C強土	古墳時代	なし	4号溝と重複
36	4 M-17	不整形	-	1.10×0.95×0.15	As-C強土	古墳時代	なし	

# 第 4 章

## 下阿内前田遺跡 の調査

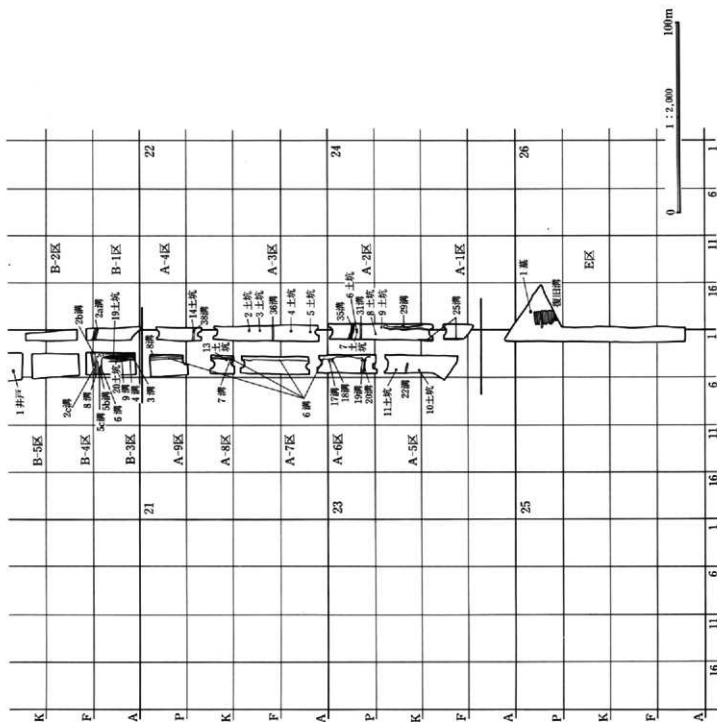


下阿内前田遺跡B区調査風景（南より）

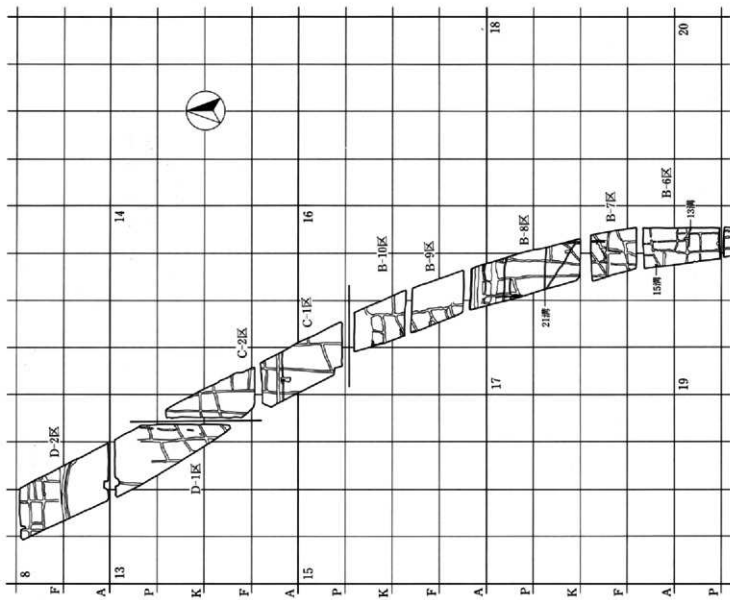


第77図 下阿内前田

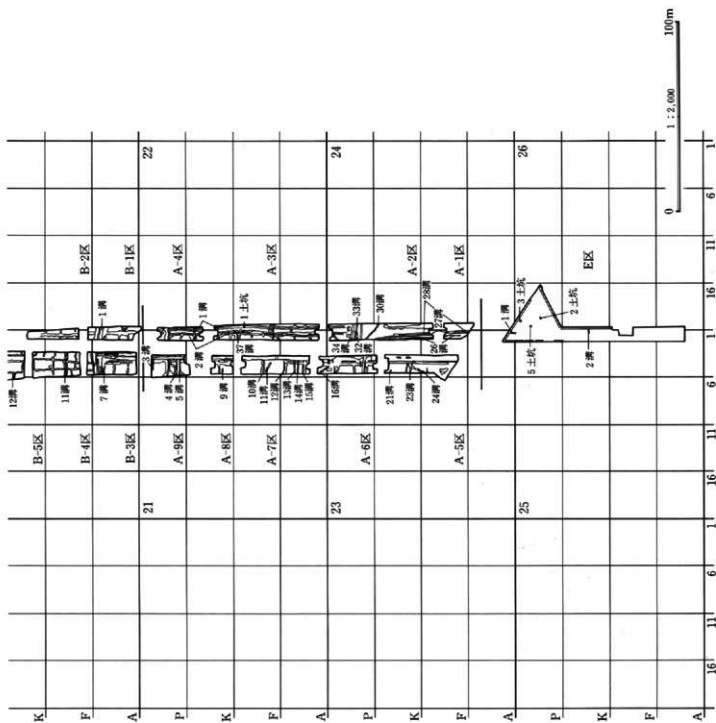


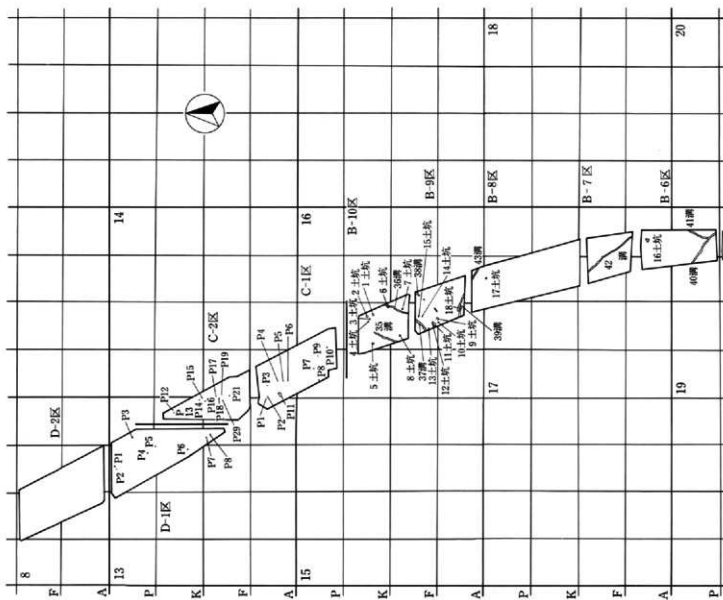


遺跡中近世遺構概念図

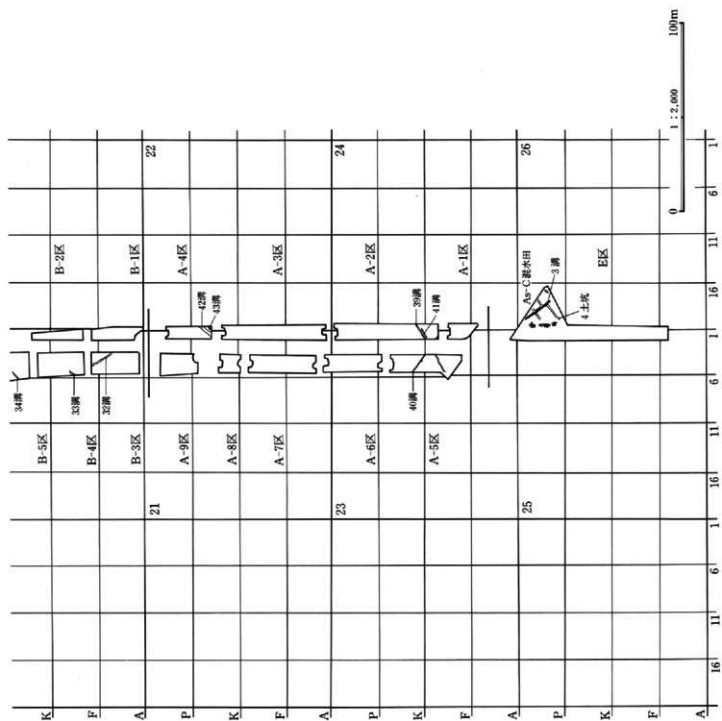


第78図 下阿内前田





第79図 下阿内前田



遺跡古墳時代遺構概念図

## 第1節 調査の概要

下阿内前田遺跡の調査では、まず、基本土層V層(As-B軽石層)までを除去して、第1面の中・近世、第2面の平安時代(主に、As-B下水田跡)の調査をし、次に、VII層までを除去して、第3面の古墳時代～古墳時代以前の調査をした。その結果、概ね下記のような遺構・遺物が検出された。なお、本遺跡の遺構番号は、調査区毎・遺構毎に通し番号で付してあるので、検出された遺構・遺物は、調査区毎に掲載した。

### 中・近世(第1面)

第1面として、A～D区は、V層(As-B軽石層)下面を、As-B下水田(平安時代)の調査と同じ確認面で中・近世に比定される遺構を調査した。E区では、近世面(As-A関連面)と、中世面(As-B混土上面)を別々に調査した。埋設土・出土遺物等から判断し、中・近世以降(近・現代も一部含む)に比定される遺構をここで報告する。検出された遺構は、溝45条、土坑14基、井戸1基、土坑墓1基、As-A軽石復旧溝、灰掻き穴4基である。確認された溝からは、陶磁器片・ガラス片等が出土しており、ほとんどが圃場整備以前まで使用されていた水路等と考えられる、近・現代の時期の遺構である。C、D、E区で確認された、As-A軽石復旧溝・灰掻き穴は、畠や水田の耕作地を復旧するために、As-A軽石を掻き集めて埋めた遺構である。また、B区4号溝、A区6号溝は、中世の水田に伴う水路と想定され、北宋銭や16～18世紀の陶磁器片が多数出土した。

### 平安時代(第2面)

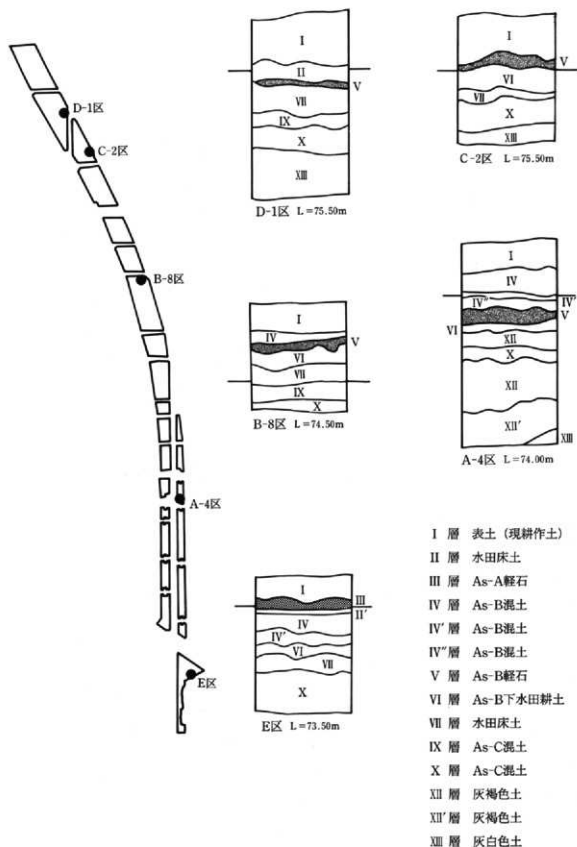
第2面として、A～D区は、V層(As-B軽石層)下を中・近世面で報告した遺構と同じ確認面で調査した。検出された遺構は、土坑4基、溝33条とAs-B軽石に覆われた水田跡As-B下水田跡である。E区では、後世の削平によりAs-B軽石が現耕作土に働込まれており、水田は確認できなかった。水田跡からは、条里制地割りに伴うと思われる大畦、東西・南北方向に走る畦、耕作痕、水口、用排水路と思われる溝等が確認された。また、As-B下水田の調査時に、水田埋設土や耕作土上から水田経営の時期に伴わない、古銭・陶磁器片・キセル等が出土している。これらの遺物は、耕作などによる土壌の攪拌により水田面に混入したと考えられるため、(4)遺構外遺物の項で一括して報告する。

### 古墳時代(第3面)

第3面として、VII層～VIII層(Hr-FA層)下を調査した。検出された遺構・遺物は、土坑20基、溝18条、ピット29基とE区で検出されたAs-C混土上水田跡である。本遺跡では、Hr-FA層の堆積はほとんど確認できず、Hr-FA下水田は、検出できなかった。E区で、畦に区画されたAs-C混土上水田が検出されたが、他の調査区では、検出できなかった。B区では、古墳時代前期に比定される溝がAs-C混土下から検出されたが、遺物は出土しなかった。遺構外遺物として、縄文時代の有茎尖頭器1点、石鎌3点、縄文時代中期の土器片等も出土したが、その土層下の確認調査では、弥生・縄文時代の遺構は検出できなかった。

## 第2節 基本土層

下阿内前田遺跡の各調査区の基本土層は、次頁の通りである。土層の詳細は第1章第4節を参照されたい。



第80図 下阿内前田基本土層図

## 第3節 検出された遺構と遺物

### 1、中・近世の調査

#### A区の調査

##### (1) 土坑

###### 2号土坑 (図81、P L24)

位置は、A-3区調査区北側の、22I-20グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、 $0.56 \times 0.56\text{m}$ 、深さは、 $0.16\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、As-B水田の大畦と重複しているが、大畦を壊して本遺構が掘られているので、本遺構が後出である。埋設土はAs-B混土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、埋設土等から中世と考えられる。

###### 3号土坑 (図81、P L24)

位置は、A-3区調査区ほぼ中央部の、2G-1グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、 $0.43 \times 0.43\text{m}$ 、深さは、 $0.25\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、As-B水田の大畦と重複しているが、大畦を壊して本遺構が掘られているので、本遺構が後出である。埋設土はAs-B混土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、埋設土等から中世と考えられる。

###### 4号土坑 (図81、P L24)

位置は、A-3区調査区南側の、21D-1グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸 $0.85 \times$ 短軸 $0.64\text{m}$ 、深さは、 $0.46\text{m}$ で、長軸方位は、E-27-Sである。他の遺構との重複関係は、As-B水田の大畦と重複しているが、大畦を壊して本遺構が掘られているので、本遺構が後出である。埋設土はAs-B混土である。出土遺物は円礫2点である。本遺構の時期は、埋設土等から中世と考えられる。

###### 5号土坑 (図82、P L24)

位置は、A-3区調査区南端の、21C-1グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、 $0.50 \times 0.43\text{m}$ 、深さは、 $0.16\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、As-B水田の大畦と重複しているが、大畦を壊して本遺構が掘られているので、本遺構が後出である。埋設土はAs-B混土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、埋設土等から中世と考えられる。

###### 6号土坑 (図82、P L24)

位置は、A-2区調査区北側の、23Q-R-1グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、 $0.62 \times 0.64\text{m}$ 、深さは、 $0.14\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、32号溝と重複しているが、32号溝を壊して本遺構が掘られているので、本遺構が後出である。埋設土はAs-B混土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、埋設土等から中世と考えられる。

###### 7号土坑 (図82、P L24)

位置は、A-2区調査区北側、6号土坑の西に並んで、23Q-R-1グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、 $0.60 \times 0.55\text{m}$ 、深さは、 $0.10\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、32号溝と重複しているが、32号溝を壊して本遺構が掘られているので、本遺構が後出である。埋設土はAs-B混土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、埋設土等から中世と考えられる。



**8号土坑** (図82、P L24)

位置は、A-2区調査区中央部分の、23O-1グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、 $0.65 \times 0.56\text{m}$ 、深さは、 $0.20\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-B混土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、埋設土等から中世と考えられる。

**9号土坑** (図82、P L24)

位置は、A-2区調査区中央部分、8号土坑の南東の、24O-20グリッドで検出された。平面形は不整形に掘られ、大きさは、 $0.60 \times 0.46\text{m}$ 、深さは、 $0.18\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は確認されなかった。埋設土はAs-B混土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、埋設土等から中世と考えられる。

**10号土坑** (図82、P L24)

位置は、A-5区調査区中央、23L-6で検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、 $1.00 \times 0.90\text{m}$ 、深さは、 $0.32\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、24号溝と重複しているが、24号溝を壊して本遺構が掘られているので、本遺構が後出である。埋設土はAs-B混土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、埋設土等から中世と考えられる。

**11号土坑** (図82、P L25)

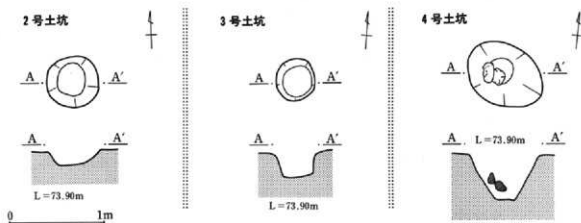
位置は、A-5区調査区北側、23M-5で検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、 $0.55 \times 0.45\text{m}$ 、深さは、 $0.09\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-B混土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、埋設土等から中世と考えられる。

**13号土坑** (図82、P L25)

位置は、A-8区調査区東側、21K-3・4グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸 $1.63 \times$ 短軸 $1.01\text{m}$ 、深さは、 $0.22\text{m}$ で、長軸方位は、N-78°-Wである。他の遺構との重複関係は、7号溝と重複しているが、本遺構が後出である。埋設土はAs-B混土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、近世～中世と考えられる。

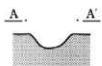
**14号土坑** (図82、P L25)

位置は、A-4区調査区南側、21N-1グリッドで検出された。平面形は長方形に掘られ、大きさは、長軸 $(1.40) \times$ 短軸 $0.64\text{m}$ 、深さは、 $0.33\text{m}$ で、長軸方位は、N-90°-Eである。他の遺構との重複関係は、38号溝と重複しているが、掘り方が溝の幅とほぼ同じで、新旧関係は不明である。埋設土はAs-B混土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、近世～中世と考えられる。



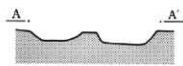
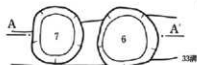
第81図 前田A区2～4号土坑実測図

5号土坑



L = 74.00m

6・7号土坑



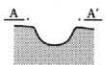
L = 73.70m

8号土坑



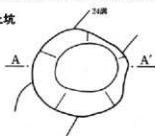
L = 73.70m

9号土坑



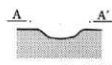
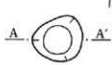
L = 73.70m

10号土坑



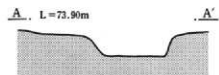
L = 73.70m

11号土坑



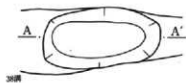
L = 73.70m

13号土坑



L = 73.90m

14号土坑



L = 74.00m

0 1m

第82図 前田A区5～11・13・14号土坑実測図

## (2) 溝

## 6号溝 (図83~88、P L25・45・46)

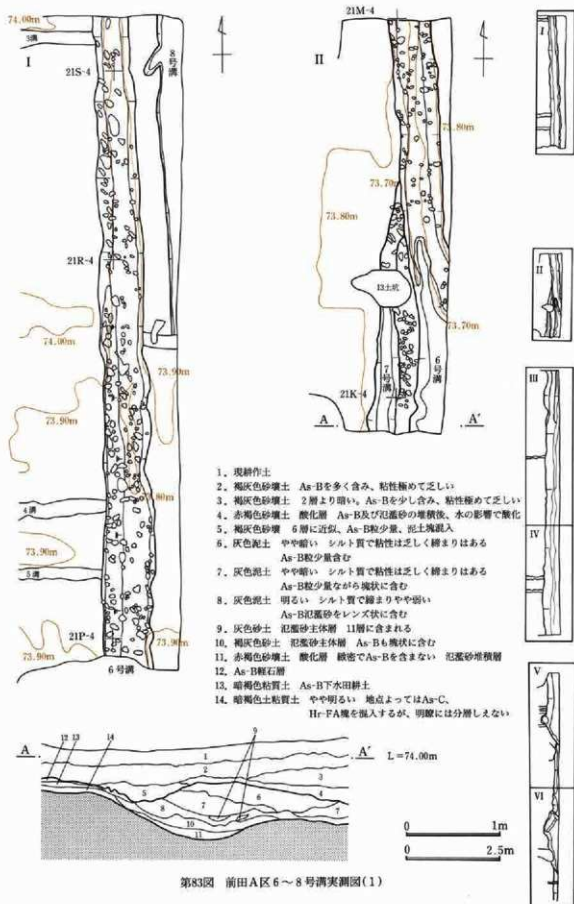
位置は、A-6~9調査区の西側、21・23P~T・A~S-3・4グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-0')と想定され、A-9区の北側とA-6区の西側で、ともに調査区外に延びていく。検出全長は116.0m、上幅1.70~2.50m、底幅0.50~2.35m、深さ0.04~0.56mである。他の遺構との重複関係は、1号溝、3号溝、4号溝、5号溝、7号溝、10号溝、12号溝、13号溝、16号溝、17号溝、18号溝、19号溝、20号溝と重複しているが、これらの溝に対して、本遺構が後出である。また、埋設土・走行からB区の4号溝と同一の溝と思われる。調査区中央の現道や馬入れによって、全容は把握できなかったが、水路として使われた可能性が高く、地形的に北から南へ水が流れていたと考えられる。また、西側では壁際、埋設土中に円礫が多数混在するが、組まれた形跡は確認できなかった。埋設土は、As-B軽石を含む褐灰色砂壤土・灰色泥土で、溝の底部には氾濫により堆積した砂層が確認された。したがって自然堆積であり、数回の赤褐色酸化層を挟むことから、水利に供されながら埋設したものと思われる。出土遺物は、古銭12点(うち北宋銭10点)、焼締陶器・播鉢1点、焼締陶器・甕1点、備前磁器・器種不明1点、磁器・徳利1点、陶器・徳利1点、陶器・碗2点、陶器・蓋2点、陶器・播鉢1点、陶器・湯飲み1点、陶器・皿4点、陶器(古瀬戸)・深皿1点、砥石3点、泥面子1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、石盤片2点、板碑片1点、円礫27点、陶磁器の破片244点である。以上のことから、本遺構は、中世~近世の水田等に伴う水路と考えられる。

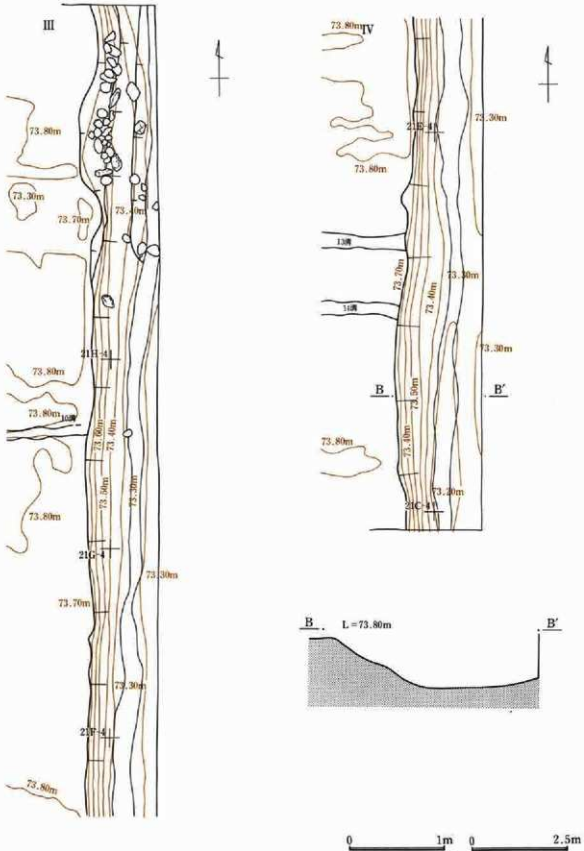
## 7号溝 (図83、P L26)

位置は、A-8調査区南側、21J~L-3・4グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-3'-E)と想定され、北側は6号溝で壊され、南側は調査区外に延びていく。検出全長は6.66m、上幅0.34~0.76m、底幅0.08~0.32m、深さ0.03~0.07mである。他の遺構との重複関係は、13号土坑・6号溝と重複している。6号溝より本遺構が前出であるが、13号土坑との新旧関係は不明である。確認された範囲が狭く、溝の全容は明らかにできなかった。埋設土は、As-B軽石を含む褐灰色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、中世と考えられる。

## 8号溝 (図83、P L26)

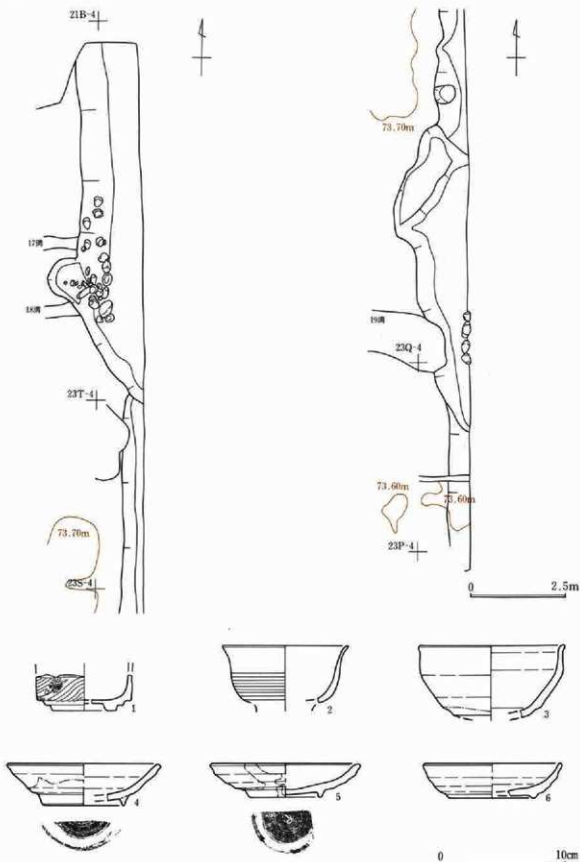
位置は、A-9調査区北東側、21Q~S-3グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-1'-W)と想定され、南側は1号溝を切って調査区外へ、北側は調査区外に延びていく。検出全長は9.0m、幅(0.70)m、深さ0.05mである。他の遺構との重複関係は、1号溝と重複しているが、本遺構が後出である。確認された遺構の範囲が僅かで、溝の全容は明らかにできなかったが、埋設土・走行方向からB区3号溝と同一の遺構と考えられる。埋設土は、As-A軽石を含む暗褐色砂壤土・泥土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、近世~現代で、圃場整備以前まで使用していた、水田等に伴う水路と考えられる。





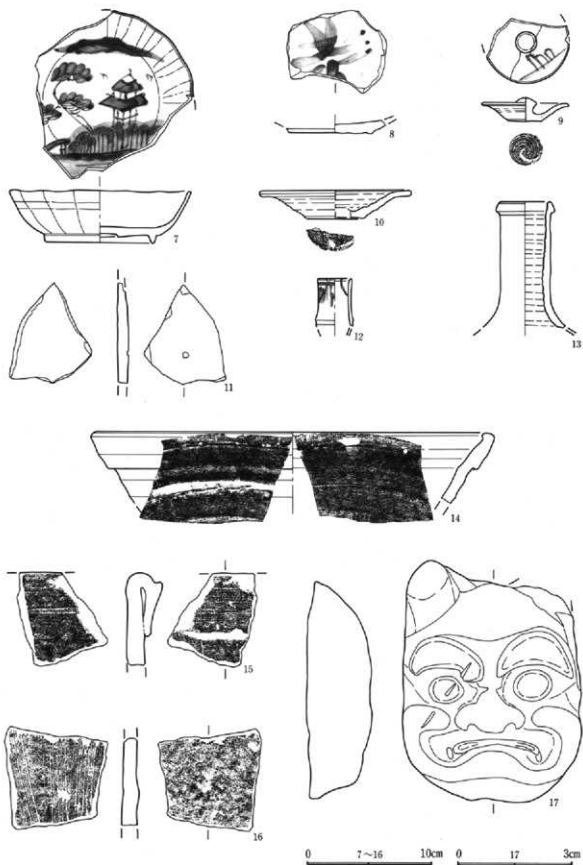
第84図 前田A区6号溝実測図(2)

第4章 下阿内前田遺跡の調査



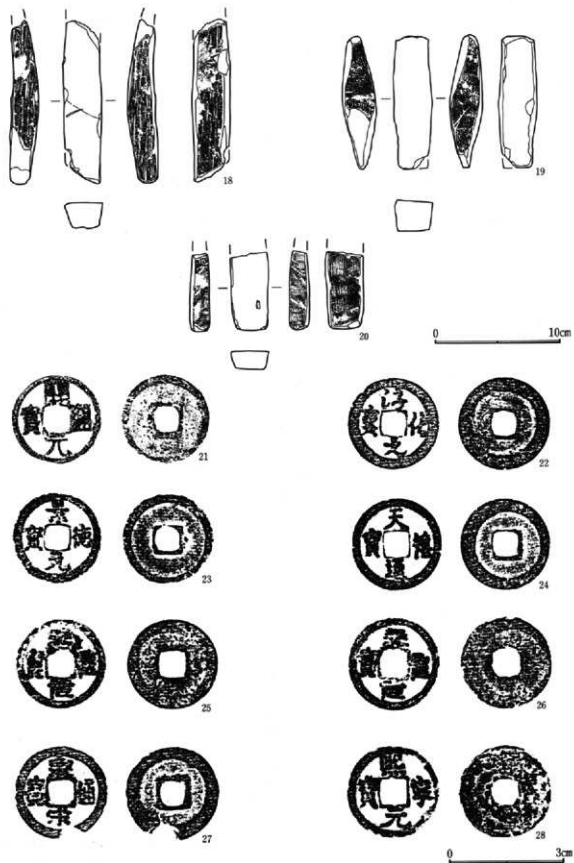
第85図 前田A区6号溝・出土遺物実測図(3)

第3節 検出された遺構と遺物



第86図 前田A区6号溝出土遺物実測図(4)

第4章 下阿内前田遺跡の調査



第87図 前田A区6号溝出土遺物実測図(5)



## 第3節 検出された遺構と遺物



第88図 前田A区6号溝出土遺物実測図(6)

第34表 前田A区6号溝出土遺物観察表

検出番号 P.L.No.	種類 種類	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
85-1 P.L.45	粗瓦陶器 蓋状み	覆土	口- 底- (5.2) 高-	③外側明赤褐色 内側オリーブ 灰色	内面厚い灰釉。貫入に墨を入れる。外面文様を 彫った後、鉄泥を施す。	破片
85-2 P.L.45	瀬戸・美濃 陶器 罎	覆土	口- (11.2) 底- 高- (4.0)	① ② ③灰白色	端反碗。体部外面下半回転彫削り。透明釉。	破片
85-3 P.L.45	瀬戸・美濃 陶器 天目罎	覆土	口- (11.6) 底- 高- (5.7)	① ② ③黒褐色	内面〜高台脇鉄釉。口縁部直立して長くのびる。	1/5
85-4 P.L.45	瀬戸・美濃 陶器 皿	覆土	口- (12.1) 底- (6.6) 高- 3.3	① ② ③オリーブ黄色	内面〜口縁部灰釉。体部外面回転彫削り。	1/3
85-5 P.L.45	瀬戸・美濃 陶器 皿	覆土	口- 11.8 底- 5.7 高- 2.7	① ② ③灰白色	内面〜口縁部灰釉。体部外面回転彫削り。	1/4
86-6 P.L.45	瀬戸・美濃 陶器 皿	覆土	口- (11.0) 底- (6.6) 高- 2.7	① ②不良 ③灰色	長石軸?。高台内と腰部に軸付着。焼成不良。	1/3
86-7 P.L.45	肥前磁器 (志田) 皿	覆土	口- 14.4 底- 8.4 高- 8.4	① ② ③灰白色	腰輪整形後、体部〜口縁部を輪花状に作る。口 縁あり。内面腰間山水文。蛇の目凹型高台。	底部片
86-8 P.L.45	瀬戸・美濃 陶器 笠	覆土	口- 底- 6.7 高- (1.1)	① ② ③灰白色	長石軸。内面に鉄釉。高台内に2カ所目痕残る。	底部片
86-9 P.L.45	益子・笠間 陶器 蓋	覆土	口- 6.7 底- 2.6 高- 1.9	① ② ③灰白色	土瓶蓋。下面は無釉。左回転糸切り無調整。上面 灰釉。粉白化粧し、その上に貝須で文様を描く。	2/3
86-10 P.L.45	瀬戸・美濃 陶器 蓋	覆土	口- (12.0) 底- (4.5) 高- 2.2	① ② ③褐色	全面鉄泥を施し、下面の軸を拭い取る。蓋の蓋。	1/4
86-11 P.L.45	瀬戸・美濃 陶器 深皿	覆土	厚さ- 0.9	① ② ③灰白色	古瀬戸深皿。内外面灰釉。外面下部の軸は薄い。	体部小片 14~15世紀。
86-12 P.L.45	瀬戸・美濃 磁器 徳利	覆土	口- (2.7) 底- 高- (3.8)	① ② ③白色	外面凹縁より上に縦位の線状染付。焼融。明治。	破片
86-13 P.L.45	製作地不詳 陶器 徳利	覆土	口- (4.0) 底- 高- (10.0)	① ② ③灰白色	外面灰釉。軸に細かい貫入あり。明治〜昭和。	頸部片
86-14 P.L.45	瀬戸・美濃 陶器 徳鉢	覆土	口- (32.0) 底- 高- (5.5)	① ② ③明褐色	口縁部片。	口縁部片

第4章 下阿内前田遺跡の調査

第34表 前田A区6号溝出土遺物観察表

検出番号 P.L.No.	種類	出土位置	計測値 (cm)				①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
			長さ	幅	厚さ	重量			
86-15 P.L.45	焼締陶器 壺	覆土	厚さ - 1.3				① ② ③灰色	知多窯壺の口縁部片。16世紀。	破片
86-16 P.L.45	焼締陶器 鉢鉢	覆土	厚さ - 1.0				① ② ③黄灰色	丹波窯。攪り鉢鉢部片。内面すり目。外面斜位指環状圧痕。	破片
検出番号 P.L.No.	種類	出土位置	計測値 (cm・g)				①胎土②焼成 ③色調	特徴	残存状態
			長さ	幅	厚さ	重量			
86-17 P.L.45	土製品 泥団子	覆土	5.7	4.7	1.2	48.1	①細粒 ②炭化層 ③褐色	片面の型に粘土を押し付けて成形する。一部欠損。鬼面。	ほぼ完形
検出番号 P.L.No.	種類	出土位置	計測値 (cm・g)				石材	特徴	残存状態
			長さ	幅	厚さ	重量			
87-18 P.L.45	石製品 砥石	覆土	13.0	3.0	2.0	105	砥沢石	一面使用。	ほぼ完形
87-19 P.L.45	石製品 砥石	覆土	10.5	3.0	2.4	90	砥沢石	二面使用。両端部欠損。	ほぼ完形
87-20 P.L.45	石製品 砥石	覆土	6.0	2.9	1.4	39	流紋岩	一面使用。端部欠損。	1/2?
検出番号 P.L.No.	種類	銭貨名	国名	初鑄年	出土位置	計測値 (cm・g)			残存状態・備考
						外輪径	内輪径	重さ	
87-21 P.L.46	銅銭	開元通寶	唐	845	覆土	2.4	0.7	2.7	完形
87-22 P.L.46	銅銭	淳化元寶	北宋	990	覆土	2.5	0.7	2.4	完形
87-23 P.L.46	銅銭	景徳元寶	北宋	1004	覆土	2.4	0.7	2.5	完形
87-24 P.L.46	銅銭	天禧通寶	北宋	1017	覆土	2.4	0.7	2.3	完形
87-25 P.L.46	銅銭	天聖元寶	北宋	1023	覆土	2.4	0.7	2.5	完形
87-26 P.L.46	銅銭	天聖元寶	北宋	1023	覆土	2.5	0.7	2.8	完形
87-27 P.L.46	銅銭	皇宋通寶	北宋	1038	覆土	2.5	0.7	2.1	ほぼ完形
87-28 P.L.46	銅銭	熙寧元寶	北宋	1068	覆土	2.4	0.7	3.5	完形
88-29 P.L.46	銅銭	元豊通寶	北宋	1078	覆土	2.5	0.7	2.9	完形
88-30 P.L.46	銅銭	元豊通寶	北宋	1078	覆土	2.4	0.7	2.4	完形
88-31 P.L.46	銅銭	元豊通寶	北宋	1078	覆土	2.3	0.8	1.5	完形
88-32 P.L.46	銅銭	不明	不明	不明	覆土	2.4	0.6	2.9	完形

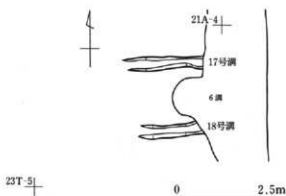
17号溝 (図89)

位置は、A-6調査区北側、23T-4グリッドで、東西の走行(N-90°-W)で検出された。東側は6号溝と被さる、西側は調査区の途中で消滅する。検出全長は2.10m、幅0.10~0.40m、深さ0.04mである。他の遺構との重複関係は、6号溝と重複しており、本遺構が前出である。埋設土は、As-B軽石を含む褐色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから本遺構の時期は、中世~近世と考えられる。

### 第3節 検出された遺構と遺物

#### 18号溝 (図89)

位置は、A-6調査区北側で17号溝の南、23T-4グリッドで、東西の走行(N-90°-W)で検出された。東側は6号溝に壊され、西側は調査区の途中で消滅する。検出全長は1.60m、幅0.24~0.40m、深さ0.02mである。他の遺構との重複関係は、6号溝と重複しており、本遺構が前出である。埋設土は、As-B軽石を含む褐灰色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから本遺構の時期は、中世~近世と考えられる。



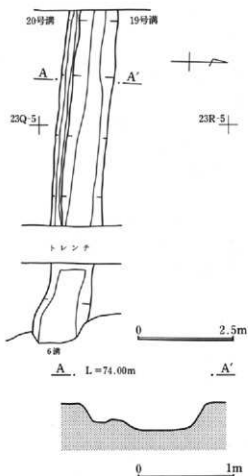
第89図 前田A区17・18号溝実測図

#### 19号溝 (図90、P L26)

位置は、A-6調査区南側、23Q-3~5グリッドで、東西の走行(N-84°-W)で検出された。東側は6号溝と合流し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は8.80m、上幅1.00~1.06m、底幅0.24~0.60m、深さ0.25~0.28mである。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の畦・20号溝と重複しており、本遺構が後出である。また、6号溝とも東側で重複しているが、新旧関係は不明である。埋設土は、As-B軽石を含む褐灰色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから本遺構の時期は、中世~近世と考えられる。

#### 20号溝 (図90、P L26)

位置は、A-6調査区南側、23Q-4・5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-85°-W)と想定され、東側は19号溝に壊され、西側は調査区外に延びていく。検出全長は6.40m、上幅0.24~0.30m、底幅0.08~0.12m、深さ0.20~0.23mである。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の畦・19号溝と重複しており、19号溝より後出で、As-B下水田より前出である。地形的に西から東へ水が流れたと考えられる。埋設土は、As-B軽石を含む褐灰色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから本遺構の時期は、中世~近世と考えられる。

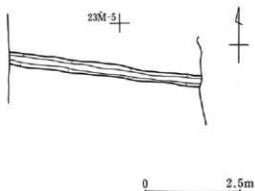


第90図 前田A区19・20号溝実測図

#### 第4章 下阿内前田遺跡の調査

##### 22号溝 (図91, P L 26)

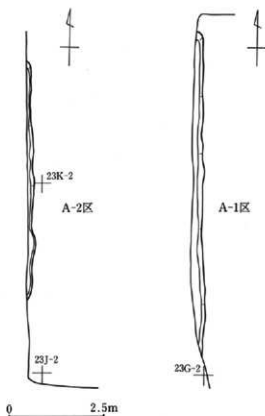
位置は、A-5調査区中央、23L-4・5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-82°-W)と想定され、東側は試掘トレンチや後世の削平によって消滅し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は5.20m、上幅0.26~0.32m、底幅0.12~0.18m、深さ0.08~0.11mである。他の遺構との重複関係は、確認できなかった。地形的に西から東へ水が流れたと考えられる。埋設土は、As-B軽石を含む褐灰色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから本遺構の時期は、中世~近世と考えられる。



第91図 前田A区22号溝実測図

##### 25号溝 (図92, P L 26)

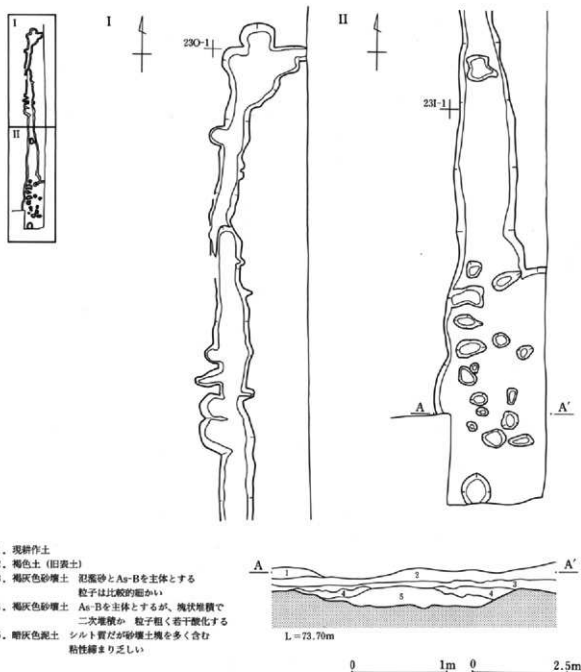
位置は、A-1・A-2調査区西端、23G~K-1・2グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-0°)と想定され、北側、南側ともに調査区外に延びていく。検出全長は(22.70)m、上幅(0.36)m、深さ0.01~0.14mである。他の遺構との重複関係は、確認できなかった。確認された範囲が遺構の東端で、西側は調査区外のため、溝の全容は明らかにできなかった。地形的に北から南へ水が流れたと考えられる。埋設土は、As-B軽石を含む褐灰色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから本遺構の時期は、中世~近世と考えられる。



第92図 前田A区25号溝実測図

##### 29号溝 (図93, P L 26)

位置は、A-2調査区東側、24I~O-20・1グリッドで、南北の走行(N-0°)で検出された。北側は、途中で消滅し、南側は調査区外へ延びていく。検出全長は31.60m、上幅0.56~(3.00)m、底幅0.40~2.80m、深さ0.11~0.15mである。他の遺構との重複関係は、確認できなかった。溝の北側には、18基のピット群が確認されているが、性格は不明である。埋設土は、As-B軽石を主体とする褐灰色砂壤土・シルト質の暗灰色泥土である。出土遺物はなかった。以上のことから本遺構の時期は、中世と考えられる。



1. 現耕作土
2. 褐色土 (旧表土)
3. 褐色砂壤土 泥炭砂とAs-Bを主体とする  
粒子は比較的細かい
4. 褐色砂壤土 As-Bを主体とするが、塊状堆積で  
二次堆積か 粒子粗く若干酸化する
5. 暗灰色泥土 シルト質だが砂壤土を多く含む  
粘性締まり乏しい

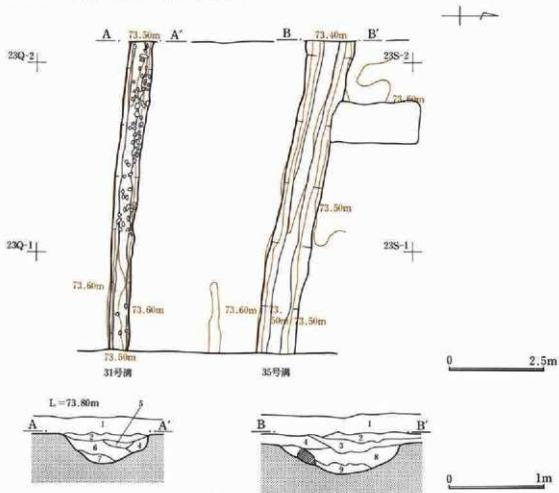
第93図 前田A区29号溝実測図

## 31号溝 (図94、P L27)

位置は、A-2調査区南側、23・24Q-20・1・2グリッドで、東西の走行 (N-85°-W) で検出された。東側・西側ともに調査区外へ延びていく。検出全長は8.14m、上幅0.36~0.46m、底幅0.24~0.28m、深さ0.14~0.17mである。他の遺構との重複関係は、確認できなかった。現道を挟んで西側のA-6調査区では、本遺構は確認されなかったで、現道下で走行を変えているものと想定される。埋設土は、As-B軽石混じりの酸化を帯びた褐色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから本遺構の時期は、中世と考えられる。

35号溝 (図94、P L27)

位置は、A-2 調査区南側、23・24R-20・1・2 グリッドで検出された。走行方向は、東南東から西北西への走行 (N-80°-W) と想定され、東側・西側ともに調査区外へ延びていく。検出全長は8.40m、上幅0.94~1.36m、底幅0.24~0.40m、深さ0.15~0.29mである。他の遺構との重複関係は、確認できなかった。現道を挟んで西側のA-6 調査区では、本遺構は確認されなかったので、現道下で走行を変えていると想定される。埋設土は、As-B 軽石混じりで、酸化を帯びた褐灰色砂壤土である。出土遺物は陶器片1点である。以上のことから本遺構の時期は、中世と考えられる。

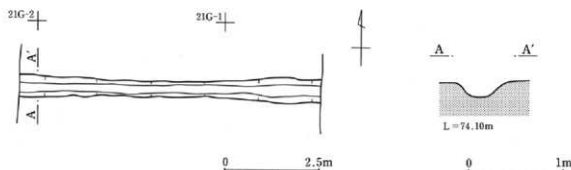


1. 現耕作土 氈蓋砂を主体とする 粒子粗い As-B少量
2. 褐灰色砂壤土 氈蓋砂を主体とする 粒子粗い As-B少量
3. 暗褐色土 粘性弱く締まりの乏しい塊状堆積土 砂壤土塊も混在
4. 灰褐色砂壤土 氈蓋砂を主体とする 粒子は比較的確かい As-B少量
5. 灰褐色砂壤土 氈蓋砂を主体とする 粒子粗い As-Bやや多い
6. 褐灰色砂壤土 氈蓋砂を主体とする 粒子やや粗い 酸化砂壤土塊を少し含む As-B少量
7. 褐灰色砂壤土 氈蓋砂を主体とする 粒子粗い 全体的に酸化し、As-B多い
8. 褐灰色砂壤土 氈蓋砂を主体とする 粒子やや粗かい As-B多い
9. 褐灰色砂壤土 氈蓋砂を主体とする 粒子やや粗かい 全体的に酸化し、As-B多い

第94図 前田A区31・35号溝実測図

**36号溝** (図95、P L27)

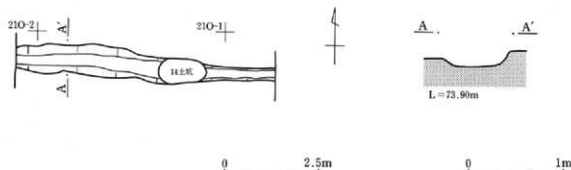
位置は、A-3調査区中央、21・22F-1・2・20グリッドで、東西の走行(N-90°-E)で検出された。東側・西側ともに調査区外へ延びていく。検出全長は8.06m、上幅0.26~0.48m、底幅0.20~0.32m、深さ0.07~0.15mである。他の遺構との重複関係は、1号溝・2号溝、As-B下水田の大畦と重複しており、本遺構が後出である。現道を挟んで西側のA-7調査区では、本遺構は確認されなかったので、現道下で走行を変えていると想定される。埋設土は、As-B軽石混じりの褐色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから本遺構の時期は、中世と考えられる。



第95図 前田A区36号溝実測図

**38号溝** (図96、P L27)

位置は、A-4調査区北側、21・22N-20・1・2グリッドで検出された。走行方向は、東から西への走行(N-87°-W)と想定され、東側・西側ともに調査区外へ延びていく。検出全長は7.00m、上幅0.34~0.80m、底幅0.16~0.40m、深さ0.03~0.07mである。他の遺構との重複関係は、1号溝・2号溝、As-B下水田の大畦と重複しており、本遺構が後出である。14号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。現道を挟んで西側調査区の馬入れ部分に延びていくか、現道下で走行を変えていると想定される。埋設土は、As-B軽石混じりの褐色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから本遺構の時期は、中世と考えられる。



第96図 前田A区38号溝実測図

## B区の調査

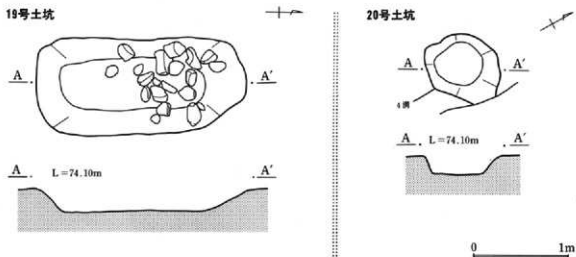
## (1) 土坑

## 19号土坑 (図97)

位置は、B-3区調査区東側、19C・D-3・4グリッドで検出された。平面形は隅丸長方形に掘られ、大きさは、長軸2.25×短軸1.02m、深さは、0.22m、長軸方位は、N-0°である。他の遺構との重複関係は、4号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。埋設土はAs-B軽石混じりの褐灰色砂壤土である。出土遺物は、底部に円礫が多数混在するが性格は不明である。本遺構の時期は、中世～近世と考えられる。

## 20号土坑 (図97、P L28)

位置は、B-3区調査区東側、19C-3グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸0.89×短軸0.68m、深さは、0.21m、長軸方位は、N-65°-Eである。他の遺構との重複関係は、4号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。埋設土はAs-B軽石混じりの褐灰色砂壤土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、中世～近世と考えられる。



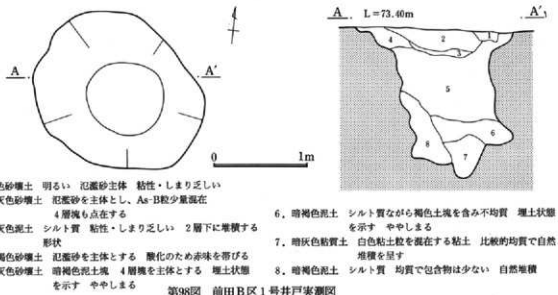
第97図 前田B区19・20号土坑実測図

## (2) 井戸

## 1号井戸 (図98、P L28)

位置は、B-5区調査区中央、19N-5グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸1.85×短軸1.63m、深さは、1.56m、長軸方位は、N-88°-Wである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。出土遺物はなかった。土層の堆積の仕方は、1～4層、7・8層は自然堆積で埋没し、5・6層は人為的に埋められたと考えられる。7・8層の地山崩壊により、井戸機能を失い、5・6層をもって埋め、廃絶したものと考えられる。本遺構の時期は、埋設土からAs-B軽石降下より新しく、4層（中世洪水層）より古いと考えられる。





### (3) 溝

発掘調査時では、2号溝、5号溝は、一つの遺構として番号を付したが、本書では、2号溝はa, b, cの三つの遺構、5号溝はa, bの二つの遺構として報告する。

#### 2a号溝 (図101、P L28)

位置は、B-1区北側、19・20E-20・1・2グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-80°-E)と想定され、東側と西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は6.40m、上幅1.54~1.66m、底幅0.30~0.67m、深さ0.29~0.38mである。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の南北方向の大畦と重複しており、本遺構が後出である。地形的に考えて、西から東へ水が流れたと想定される。埋設土は、氾濫砂塊を多く含む暗褐色泥土である。出土遺物はなかった。本遺構は、埋土・出土遺物から2b号溝、2c号溝、3号溝と同一の遺構と考えられる。埋設土からビニール等も出土していることから、本遺構の時期は、近世~現代で、圃場整備以前まで使用していた、水田等に伴う水路と考えられる。

#### 2b号溝 (図100~102、P L28・46)

位置は、B-3区北側、19E・F-3~5グリッドで、東西の走行(N-82°-E)で検出された。西側は、2c号溝に合流し、東側は調査区外に延びていく。検出全長は9.50m、幅0.90m、深さ0.26~0.30mである。他の遺構との重複関係は、2c号溝と重複しているが、同時期の遺構である。埋設土は、氾濫砂塊を多く含む暗褐色泥土である。出土遺物は、陶器・蓋1点、中国(明代)磁器1点、煙管(雁首部)1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、陶磁器等の破片56点である。本遺構は、埋設土・出土遺物から3号溝と同一の遺構と考えられ、近世~現代の水田等に伴う水路と考えられる。

#### 2c号溝 (図100・101、P L28・29)

位置は、B-3区北側、19E-3~5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定され、東側は、3号溝に合流し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は11.70m、上幅0.80~1.60m、底幅0.25~0.65m、深さ0.11~0.30mである。他の遺構との重複関係は、2b号溝・3号溝・8号溝と重複しているが、ほぼ同時期の遺構である。埋設土は、As-A軽石を含む暗褐色砂泥である。出土遺物は、陶器・蓋1点、中国(明代)磁器1点、煙管(雁首部)1点である。本遺構も、埋設土・出土遺物から3号溝と同一の遺構と考えられ、本遺構は、近世~現代の水田等に伴う水路と考えられる。

**3号溝** (図99～102、P L28・29・46)

位置は、B-3区東側、19A～E-3グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-0°)と想定され、南側は調査区外に延びていき、北側は2号溝と合流する。検出全長は20.20m、上幅0.50～1.74m、底幅0.45～0.82m、深さ0.20～0.40mである。他の遺構との重複関係は、4号溝・10号溝と重複している。4号溝より本遺構の方が後出であるが、10号溝との新旧関係は不明である。2号溝と合流する部分には、分水するために作ったと思われる石組み遺構が検出された。2号溝(西から東へ)から流れてきた水を石組み部分で分水し、3号溝(北から南へ)へ流れていたと想定される。埋設土は、As-A軽石が攪拌に混入する暗褐色砂壤土である。出土遺物は、古銭2点、焼締陶器・擂鉢1点、陶器・蓋1点、陶器・碗1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、石盤片2点、板碑片6点、陶磁器等の破片203点とビニール製品などの現代遺物で層位の安定が見られなかった。本遺構は、埋設土・出土遺物からB区2号溝とA区8号溝と同一の遺構と考えられ、近世～現代の水田等に伴う水路と考えられる。

**4号溝** (図100～102、P L29・46)

位置は、B-3区東側、19A～E-3・4グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-0°)と想定され、南側は調査区外に延びていき、北側は、5a号溝・5b号溝と合流すると考えられる。検出全長は17.10m、上幅1.46～1.66m、底幅0.65～1.20m、深さ0.07～0.15mである。他の遺構との重複関係は、19号土坑・20号土坑、3号溝・9号溝と重複している。3号溝より本遺構の方が前出であるが、9号溝・19号土坑・20号土坑との新旧関係は不明である。埋設土は、As-B軽石を含み、細かい氾濫砂を主体とする褐灰色砂壤土である。本遺構は埋設土・出土遺物等から、A区6号溝と同一の遺構と考えられる。地形的に北から南へ水が流れたと考えられる。また、5a号溝・5b号溝の合流部分や溝の中央部分の埋土中に円礫が多数混在するが、組まれた形跡は確認できなかった。出土遺物は、A区6号溝出土の陶器皿と同一個体と思われる、陶器(古瀬戸)大皿1点、青磁・碗1点、焼締陶器・甕1点、軟質陶器・擂鉢2点、軟質陶器・内耳鍋1点、在地土器・皿1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、陶磁器等の破片21点である。以上のことから、本遺構は、中世の水田等に伴う水路と考えられる。

**5a号溝** (図100・101、P L29)

位置は、B-3区北側、19E-3～5グリッドで検出された。走行方向は東から西への走行(N-90°-E)と想定され、西側は調査区外に延びていき、東側は、4号溝と合流する。検出全長は10.00m、上幅0.76～1.18m、底幅0.40～0.58m、深さ0.05～0.12mである。他の遺構との重複関係は、4号溝と重複しているが、4号溝との新旧関係は不明である。埋設土は、As-B軽石を含み、氾濫砂を主体とする灰褐色砂壤土である。出土遺物は、摩滅の激しい土師器片2点、陶磁器片4点である。以上のことから、本遺構の時期は、中世と考えられる。

**5b号溝** (図100～102、P L29・46)

位置は、B-3区北側、19D・E-3～5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定され、西側は調査区外に延びていき、東側は、4号溝と合流する。検出全長は9.80m、上幅0.23～1.00m、底幅0.16～0.60m、深さ0.03mである。他の遺構との重複関係は、4号溝と重複しているが、4号溝との新旧関係は不明である。埋設土は、As-B軽石を含み、氾濫砂を主体とする灰褐色砂壤土である。出土遺物は、古銭1点(図化)と摩滅の激しい須恵器片2点である。須恵器片は10世紀の高台付の碗であるが、埋設時に混入したものとと思われる。以上のことから、本遺構の時期は中世と考えられる。

## 6号溝 (図100・101, P L29)

位置は、B-3区北側、19D・E-5グリッドで、東西の走行(N-90°-E)で検出された。西側は調査区外に延びていき、東側は、途中で消滅する。検出全長は3.90m、上幅0.24~0.60m、底幅0.16~0.50m、深さ0.04mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-B軽石を含む灰褐色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構は、中〜近世と考えられる。

## 8号溝 (図100・101, P L29)

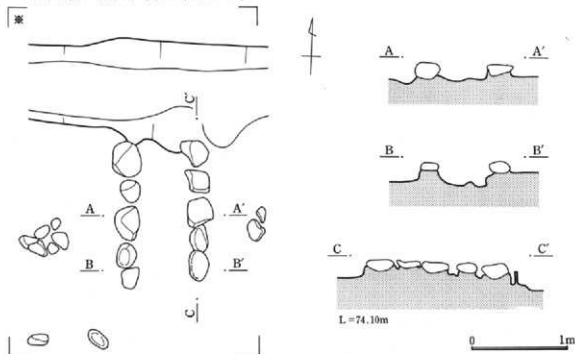
位置は、B-3区北側、19E-4・5グリッドで、東西の走行(N-90°-E)で検出された。西側は調査区外に延びていき、東側は、2号溝に壊されて消滅する。検出全長は7.90m、上幅0.38~0.46m、底幅0.18~0.30m、深さ0.01~0.12mである。他の遺構との重複関係は、2号溝と重複しており、本遺構が前出である。本遺構は地形的に西から東へ水が流れたと考えられる。埋設土は、As-B軽石を含み、泥濘砂を主体とする、褐灰色砂壤土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、中世と考えられる。

## 9号溝 (図100, P L29)

位置は、B-3区中央、19B~D-4グリッドで、南北の走行(N-0°)で検出された。南側は4号溝に壊され、北側は、調査区の途中で消滅する。検出全長は11.0m、上幅0.30~0.42m、底幅0.14~0.36mである。他の遺構との重複関係は、4号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。埋設土はAs-B軽石を含む褐灰色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構は、中世と考えられる。

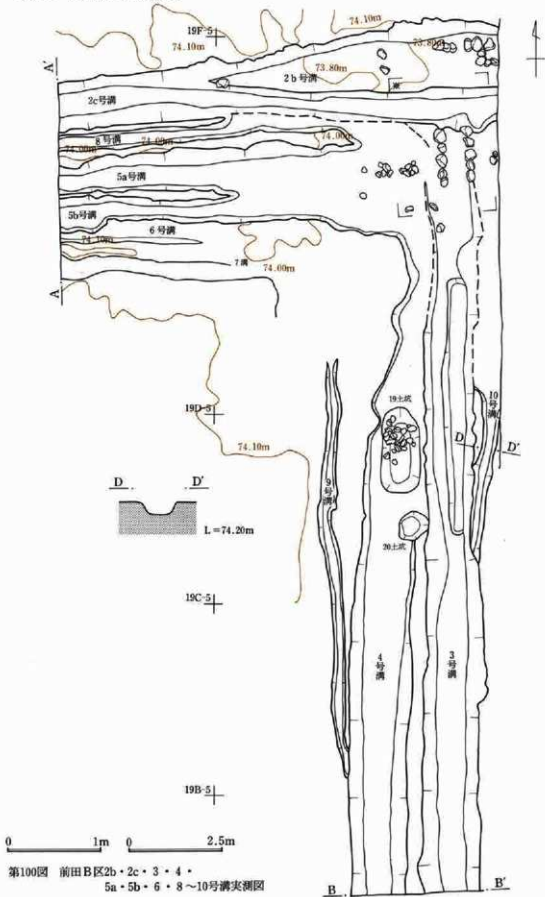
## 10号溝 (図100, P L29)

位置は、B-3区東側、19C・D-3グリッドで検出された。走行方向は、南南西から北北東への走行(N-10°-E)と想定され、南側は3号溝で壊され、北側は調査区外へ延びていく。検出全長は4.0m、上幅0.38~0.54m、底幅0.08~0.28m、深さ0.06~0.12mである。他の遺構との重複関係は、3号溝と重複しているが、本遺構が前出である。埋設土はAs-B軽石を含む褐灰色砂壤土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、中世と考えられる。



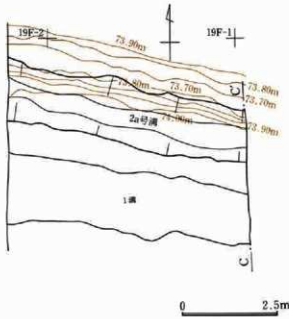
第99図 前田B区3号溝石組微観図

第4章 下阿内前田遺跡の調査



第100図 前田B区2b・2c・3・4・  
5a・5b・6・8・9～10号溝実測図

第3節 検出された遺構と遺物



2a号溝 C-C'

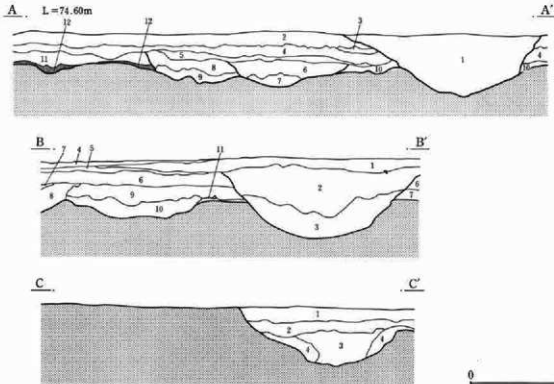
1. 暗褐色砂壤土 表土近似だが泥土塊を含む
2. 暗褐色砂壤土 As-Aが攪拌して混入 酸化
3. 暗褐色泥土 ビニールなどの現代遺物包含
4. 暗褐色砂泥 氾濫砂塊を多く含む

2C・5a・5b・6・8号溝 A-A'

1. 暗褐色砂泥 ビニールなどの現代遺物包含
2. 褐色砂壤土 (現耕作土)
3. 褐色砂壤土 氾濫砂 As-A主体
4. 赤褐色砂壤土 粒度の細かい氾濫砂を主体とする 酸化
5. 褐色砂壤土 粒度の粗い氾濫砂を主体とする やや酸化
6. 灰褐色砂壤土 氾濫砂塊を塊状に含む やや酸化
7. 灰褐色砂壤土 やや粒度の粗い氾濫砂を主体とする As-B混入
8. 灰褐色砂壤土 氾濫砂主体層 酸化強い
9. 灰褐色砂壤土 粒度の粗い氾濫砂を主体とする As-B混入
10. 褐灰色砂壤土 As-B塊・氾濫砂を主体とする
11. 褐灰色砂壤土 As-B塊を主体とする 純層ではない
12. As-B粒石純層

3・4号溝 B-B'

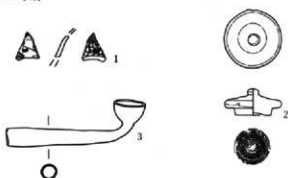
1. 褐色砂泥 (現耕作土)
2. 暗褐色砂壤土 As-Aが攪拌して混入 ビニールなどの現代遺物包含
3. 暗褐色砂泥 暗褐色泥土が塊状に混入 ビニールなどの現代遺物包含
4. 現耕作土
5. 水田床土
6. 暗灰色砂壤土 灰色味強い 氾濫砂を主体とし、As-A粒を混入する
7. 褐灰色砂壤土 As-A塊を主体とする 塊状に酸化する
8. 暗灰色泥土 粘質土を塊状に堆積する 底面に積もるノロか?
9. 褐灰色砂壤土 粒度の細かい氾濫砂を主体とする 泥土塊 As-B粒を含む やや酸化
10. 褐灰色砂壤土 粒度の細かい氾濫砂を主体とする 泥土塊を多く含む
11. 褐灰色砂壤土 As-B塊を主体とする 純層ではない



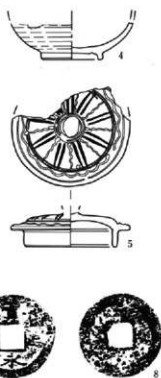
第101図 前田B区2a・2c・3・4・5a・5b・6・8号溝実測図

第4章 下阿内前田遺跡の調査

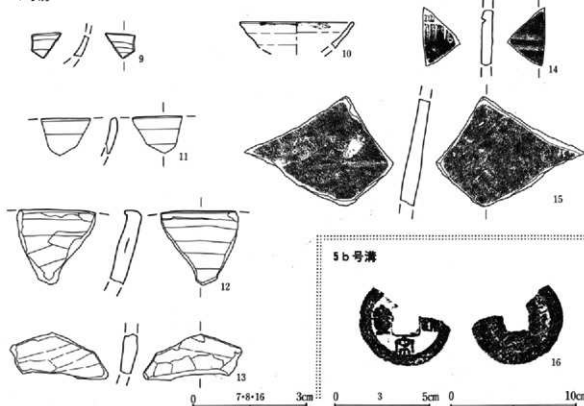
2b号溝



1号溝



4号溝



第102図 前田B区2b・3・4・5b号溝出土遺物実測図

## 第3節 検出された遺構と遺物

第35表 前田B区2b号溝出土遺物観察表

押戻番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
102-1 P.L.46	中国磁器 碗か皿	覆土	厚さ 1.2 cm 口・底・高は 不明	① ② ③	口縁部片。端部は欠損。内外面文様。明染付。	破片
102-2 P.L.46	制作地不詳 陶器 蓋	覆土	幅 - 4.5 高 - 2.8 高 - 2.1	① ② ③オリーブ黒色	小蓋の蓋か。上面に鉄軸系の軸を施し、下面は無軸。幕末～明治。	完形
102-3 P.L.46	煙管 煙首部	覆土	長さ-7.5		体部は長い。首の立ち上がりも認められ、火皿も大きい。	完形

第36表 前田B区3号溝出土遺物観察表

押戻番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考			
102-4 P.L.46	瀬戸・美濃 系 陶器 碗	覆土	口 - 底 - (4.8) 高 - (2.9)	③外銀褐色 内銀灰白色	腰縮碗。内面から口縁部欠軸。他は縮軸。高台端部のみ無軸。断面に軸が入り込んでいる部分があり、不良品であろう。	破片			
102-5 P.L.46	益子・空閑 陶器 蓋	覆土	口 - 底 - 7.2 高 -	① ② ③オリーブ黄色	上面鉄軸と白土による筒摺き、後伏軸。下縁は無軸。明治～昭和。	2/3			
102-6 P.L.46	堺・明石 陶器 腰鉢	覆土	口 - 31.6 底 - 高 -	① ② ③褐色	焼締陶器。口縁部小片。外面口縁部下より磨削り。	破片			
押戻番号 P.L.No	種類	銭貨名	国名	初繰年	出土 位置	計測値 (cm・g)			残存状態・備考
						外輪径	内輪径	重さ	
102-7 P.L.46	銅銭	不明	不明	不明	覆土	2.3	0.6	2.5	1/2
102-8 P.L.46	銅銭	寛永通寶	日本	1697~1747 1767~1781	覆土	2.3	0.7	2.0	完形(新寛永)

第37表 前田B区4号溝出土遺物観察表

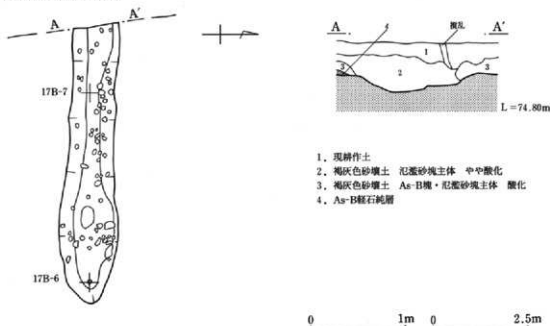
押戻番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
102-9 P.L.46	龍泉窯系 青磁 碗	覆土	厚さ 0.6 口・底・高は 不明	① ② ③明緑灰色	体部小片。残存部は無文。中世。	破片
102-10 P.L.46	在地土器 皿	覆土	口 - (9.0) 底 - 高 -	① ② ③褐色	体部から口縁部は直線的に開く。口縁部小片。端部に保付着。中世。	破片
102-11 P.L.46	軟質陶器 内耳鍋	覆土	厚さ 0.6 口・底・高は 不明	① ② ③にぶい黄褐色	口縁部小片。中世。	破片
102-12 P.L.46	軟質陶器 摺鉢	覆土	厚さ 1.3 口・底・高は 不明	① ② ③灰白色	口縁端部内側につき出す。器壁厚い。中世。	破片
102-13 P.L.46	軟質陶器 摺鉢	覆土	厚さ 1.3 口・底・高は 不明	① ② ③灰色	体部下位片。中世。	破片
102-14 P.L.46	瀬戸・美濃 陶器 即日付大皿	覆土	厚さ 0.8 口・底・高は 不明	① ② ③灰白色	内面即日。外面縦線目。灰軸。古瀬戸。14~15世紀。	破片
102-15 P.L.46	焼締陶器 薬	覆土	厚さ 1.2 口・底・高は 不明	① ② ③にぶい赤褐色	知多窯。体部下位小片。中世。	破片

第38表 前田B区5b号溝出土遺物観察表

押戻番号 P.L.No	種類	銭貨名	国名	初繰年	出土 位置	計測値 (cm・g)			残存状態・備考
						外輪径	内輪径	重さ	
102-16 P.L.46	銅銭	(皇)宋通寶	北宋	1038	覆土	2.5	0.7	1.9	2/3

14号溝 (図103、P L29)

位置は、B-6区北西、17A・B-5〜7グリッドで検出された。走行方向は、東から西への走行(N-90°-E)と想定され、東側は途中で消滅し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は7.44m、上幅0.55〜1.54m、底幅0.34〜1.06m、深さ0.23〜0.24mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、氈蓋砂塊主体で、やや酸化を帯びている褐灰色砂壤土である。出土遺物は図化しなかったが、播鉢等の陶磁器の破片28点である。本遺構の時期は、3層のAs-B混土氈蓋砂を掘り込んで作られていることから、近世〜近代と考えられる。



第103図 前田B区14号溝実測図

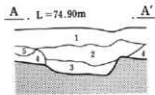
16号溝・18号溝 (図104、P L29)

調査時に、16号・18号溝は、別々の溝として調査したが、同一の溝と考えられるため、一緒に報告する。位置は、B-7区中央部、17G・H-3〜8グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定され、東側は17号溝と直交し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は23.20m、上幅0.40〜1.20m、底幅0.28〜0.78m、深さ0.09〜0.14mである。他の遺構との重複関係は、17号溝と重複しているが、ほぼ同時期の遺構と考えられる。埋設土は、氈蓋砂塊主体で、やや酸化を帯びている褐灰色砂壤土である。出土遺物は図化しなかったが、播鉢等の陶磁器の破片14点である。本遺構の時期は、4層のAs-B混土氈蓋砂を掘り込んで作られていることから、近世〜近代と考えられる。

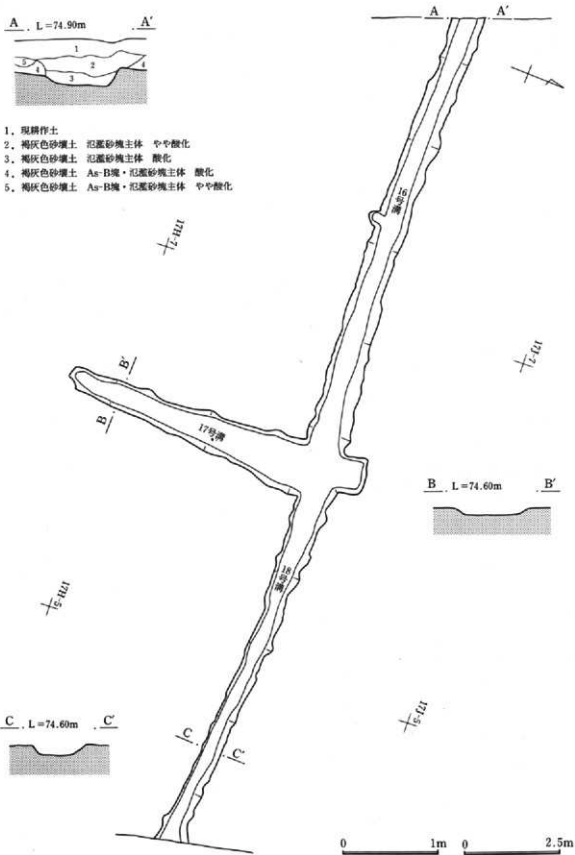
17号溝 (図104、P L30)

位置は、B-7区中央部、17F〜H-5・6グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-0°)と想定され、南側、北側ともに調査区の途中で消滅する。検出全長は8.40m、上幅0.38〜1.16m、底幅0.60〜1.50m、深さ0.06〜0.07mである。他の遺構との重複関係は、16号溝・18号溝と重複しているが、ほぼ同時期の遺構である。出土遺物はなかった。埋設土は、氈蓋砂塊主体で、やや酸化を帯びている褐灰色砂壤土で、16・18号溝の埋設土と近似している。本遺構の時期は、近世〜近代と考えられる。





1. 現耕作土
2. 褐灰色砂壤土 氾濫砂塊主体 やや酸化
3. 褐灰色砂壤土 氾濫砂塊主体 酸化
4. 褐灰色砂壤土 As-B塊・氾濫砂塊主体 酸化
5. 褐灰色砂壤土 As-B塊・氾濫砂塊主体 やや酸化



第104図 前田B区16~18号溝実測図

**19号溝** (図105、P L30)

位置は、B-7区北側、B-8区南側、17H~L-4・5グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-0°)と想定され、南側は途中で消滅し、北側は調査区外に延びていく。検出全長は22.60m、上幅0.18~0.46m、底幅0.10~0.32m、深さ0.06~0.08mである。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の畦、20号溝と重複しており、本遺構の方が後出である。また、本遺構のすぐ西側に、平行して走行する23号溝も確認されており、何らかの関連が考えられる。埋設土は茶褐色土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、近世と考えられる。

**23号溝** (図105、P L30)

位置は、B-7区北側、B-8区南側、17H~M-4・5グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-0°)と想定され、南側は途中で消滅し、北側は調査区外に延びていく。検出全長は24.0m、上幅0.22~0.40m、底幅0.12~0.30m、深さ0.06mである。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の畦、20号溝と重複しており、本遺構の方が後出である。また、本遺構のすぐ東側に、平行して走行する19号溝も確認されており、何らかの関連が考えられる。埋設土は茶褐色土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、近世と考えられる。

**20号溝** (図106、P L30)

位置は、B-8区南側、17K~N-5~9グリッドで検出された。走行方向は、北西から南東への走行(N-55°-W)と想定され、北西側は23号溝によって壊され消滅し、南東側は調査区外に延びていく。検出全長は24.0m、上幅0.22~0.40m、底幅0.12~0.30m、深さ0.06mである。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の畦、19・23号溝と重複している。新旧関係は、埋設土から、As-B下水田より新しく、19・23号溝より古いと考えられる。出土遺物はなかった。埋設土は、As-B軽石混じりの茶褐色土である。本遺構の時期は、中世と考えられる。

**22号溝** (図107、P L30)

位置は、B-8区北側、17R-8~10グリッドで、東西の走行(N-90°-E)で検出された。西側は調査区外に延びていき、東側は、調査区の途中で消滅する。検出全長は10.80m、上幅0.09~0.40m、底幅0.06~0.44m、深さ0.01~0.07mである。他の遺構との重複関係は、24号溝・30号溝とも重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はなかった。埋設土は、茶褐色土である。本遺構の時期は、近世と考えられる。

**24号溝** (図107、P L30)

位置は、B-8区北西、17P~T-10グリッドで、南北の走行(N-0°)で検出された。北側は26号溝に吸収され消滅し、南側は調査区外に延びていく。検出全長は21.00m、上幅0.24~0.86m、底幅0.10~0.66m、深さ0.03~0.09mである。他の遺構との重複関係は、22号溝・25号溝・26号溝と重複している。22号溝との新旧関係は不明だが、埋設土より、25号溝・26号溝より本遺構が後出である。出土遺物はなかった。埋設土は、茶褐色土である。本遺構の時期は、近世と考えられる。

**30号溝** (図107, P L30)

位置は、B-8区北西、17Q~S-10グリッドで、南北の走行(N-0°)で検出された。北側は調査区途中で消滅し、南側は調査区外に延びていく。検出全長は11.40m、上幅0.20~0.42m、底幅0.08~0.24m、深さ0.01~0.06mである。他の遺構との重複関係は、22号溝・25号溝と重複しているが、埋設土より、22号溝とはほぼ同時期で、25号溝より本遺構が後出である。出土遺物はなかった。埋設土は、茶褐色土である。本遺構の時期は、近世と考えられる。

**26号溝** (図108, P L30)

位置は、B-8区北側、16・17T・A-7~10グリッドで、東西の走行(N-90°-E)で検出された。東側は途中で消滅し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は(20.28)m、上幅0.24~0.44m、底幅0.14~0.20m、深さ0.09~0.12mである。他の遺構との重複関係は、24号溝とも重複しているが、埋設土から本遺構が前出である。出土遺物はなかった。埋設土は、As-B軽石混じりの暗褐色土である。本遺構の時期は、中世と考えられる。

**28号溝** (図108, P L31)

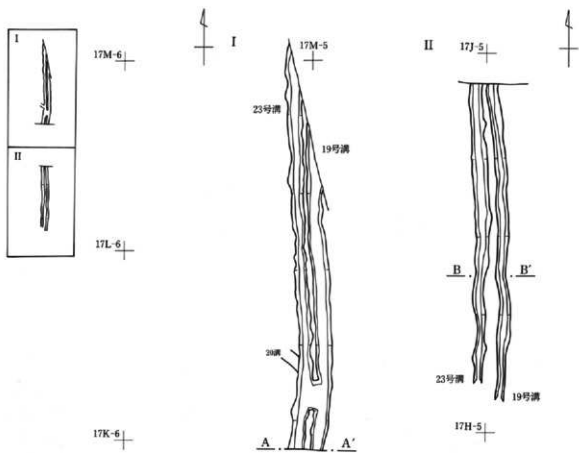
位置は、B-8区北側、16A-7~11グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定され、東側・西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は21.5m、上幅1.60~1.90m、底幅0.50~0.84m、深さ0.26~0.34mである。他の遺構との重複関係は、1号道状遺構の中央部を壊して本遺構が屈折されている。埋設土等から本遺構が後出である。地形的に西から東へ水が流れたと思われる。出土遺物は図化しなかったが、摩滅の激しい土師器片2点、焙烙等の陶器片6点である。埋設土は、As-B軽石混じりの暗褐色土である。本遺構の時期は、中世の水田等に伴う水路と考えられる。

**29号溝** (図108, P L31)

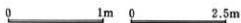
位置は、B-8区北東側、16・17T・A-7・8グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定され、西側は途中で消滅し、東側は調査区外に延びていく。検出全長は4.84m、上幅0.40~0.50m、底幅0.14~0.36m、深さ0.09~0.12mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。出土遺物はなかった。埋設土は、As-B軽石混じりの暗褐色土である。本遺構の時期は、中世と考えられる。

**25号溝** (図109, P L30)

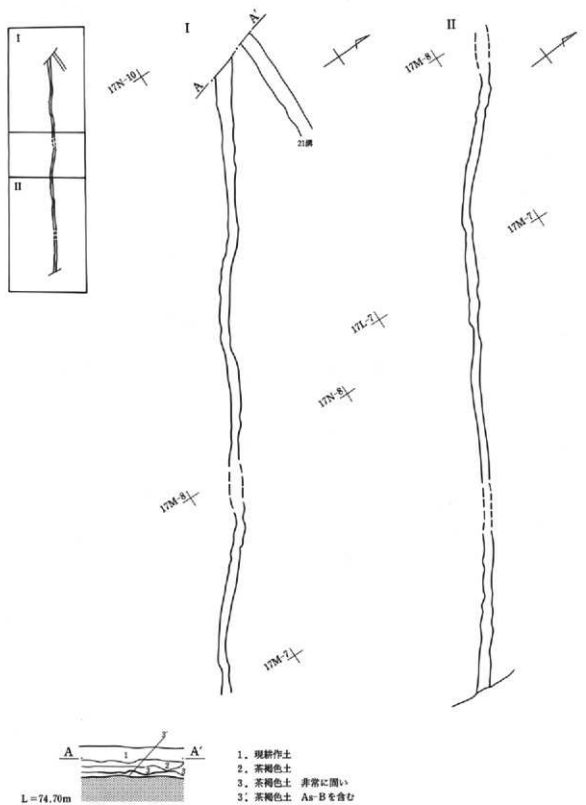
位置は、B-8区北側、17R-6~10グリッドで、東西の走行(N-86°-W)で検出された。東側・西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は22.8m、上幅0.22~0.44m、底幅0.06~0.22m、深さ0.05~0.10mである。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の畦と重複しており、本遺構が後出である。また、24号溝・30号溝とも重複しているが、埋設土から本遺構が前出である。出土遺物はなかった。埋設土は、As-B軽石混じりの茶褐色土である。本遺構の時期は、中世と考えられる。



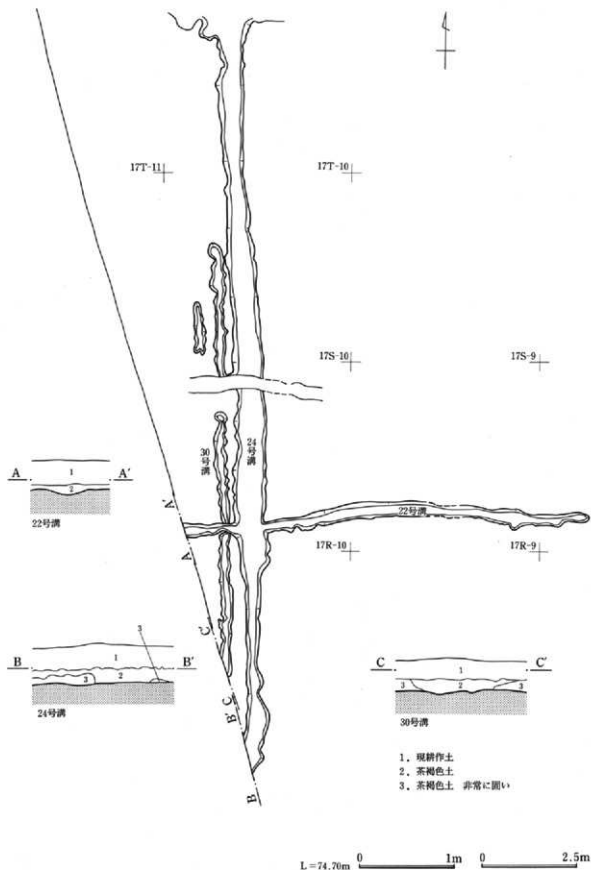
1. 現耕作土
2. 茶褐色土
3. 茶褐色土 非常に固い



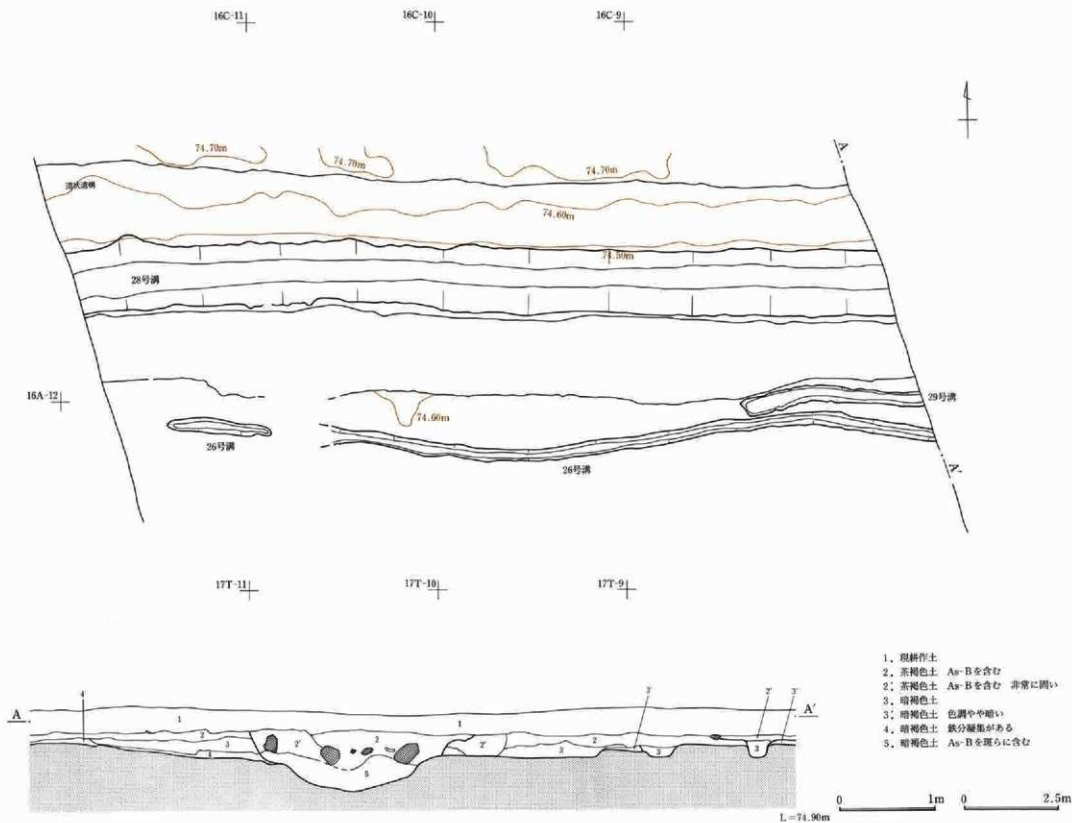
第105図 前田B区19・23号溝実測図



第106図 前田B区20号溝突測図



第107図 前田B区22・24・30号溝実測図

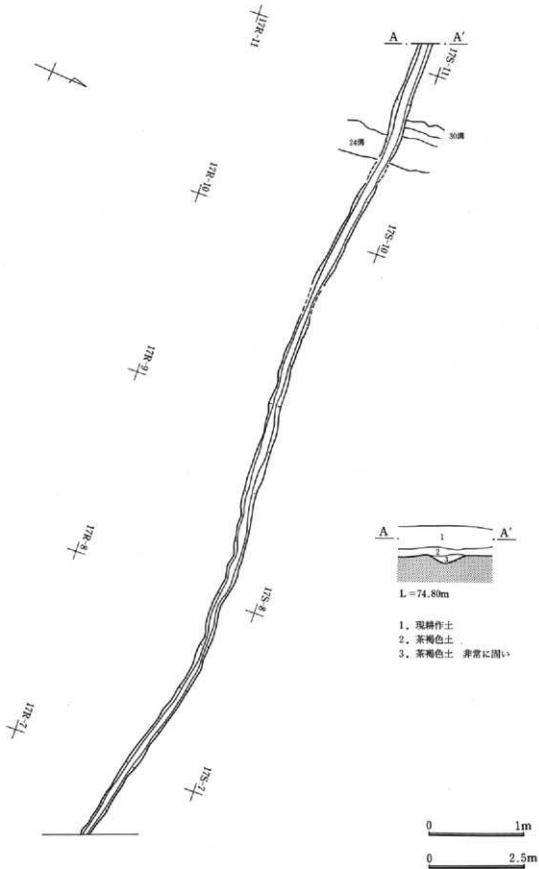


第106図 前田B区26・29号溝実測図





第3節 検出された遺構と遺物

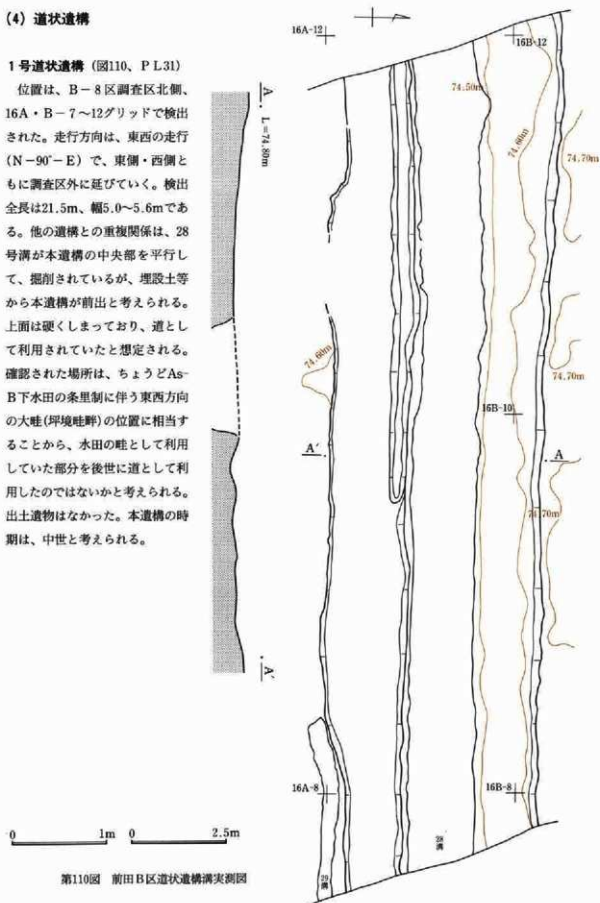


第109図 前田B区25号溝断面図

(4) 道状遺構

1号道状遺構 (図110、P L31)

位置は、B-8区調査区北側、16A・B-7~12グリッドで検出された。走行方向は、東西の走行(N-90°-E)で、東側・西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は21.5m、幅5.0~5.6mである。他の遺構との重複関係は、28号溝が本遺構の中央部を平行して、掘削されているが、埋設土等から本遺構が前出と考えられる。上面は硬くしまっており、道として利用されていたと想定される。確認された場所は、ちょうどAs-B下水田の条里制に伴う東西方向の大畦(坪境畦畔)の位置に相当することから、水田の畦として利用していた部分を後世に道として利用したのではないかと考えられる。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、中世と考えられる。



第110図 前田B区道状遺構溝実測図

## C区の調査

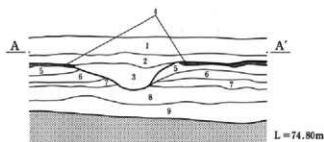
## (1) 溝

## 1号溝 (図111・112, P L31)

位置は、C-1区北側、13・14B・C-16~20・1・2グリッドで、東西の走行(N-90°-E)で検出された。東側、西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は25.70m、上幅0.18~0.64m、底幅0.08~0.34m、深さ0.02~0.07mである。他の遺構との重複関係は、1号灰掻き穴、2号灰掻き穴、As-B下水田の竅畦2本と重複しているが、As-B下水田より後出で、灰掻き穴より前出である。確認された範囲での溝の底面はほぼ水平で、水利に供されながら自然に埋没したと考えられる。埋設土は、As-B軽石を含む黄褐色土である。出土遺物はなかった。As-B下水田の竅畦を切って、1号灰掻き穴、2号灰掻き穴に切られていることから、本遺構の時期は、As-B下水田より新しく、As-A降下より古いと考えられる。

## 2号溝 (図111・112, P L31・47)

位置は、C-1区北側、13・14C-16~20・1・2グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)で検出され、東側、西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は25.80m、上幅1.00~1.80m、底幅0.50~1.00m、深さ0.20~0.30mである。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の竅畦2本と重複しているが、本遺構が後出である。確認された範囲での溝の底面はほぼ水平で、溝の斜面には土砂の崩落を防ぐためにつくられた杭列跡(杭は出土しなかったが)が確認され、水路として使われた可能性が高く、地形的に西から東へ水が流れたと考えられる。埋設土は、As-B軽石を含む黄褐色土である。出土遺物は、白磁1点、磁器・飯茶碗1点、磁器・碗1点、煙管(吸口部)1点(以上は、図化)、その他の出土遺物は、陶磁器等の破片102点である。以上のことから、本遺構は、中世~近世の水田等に伴う水路と考えられる。

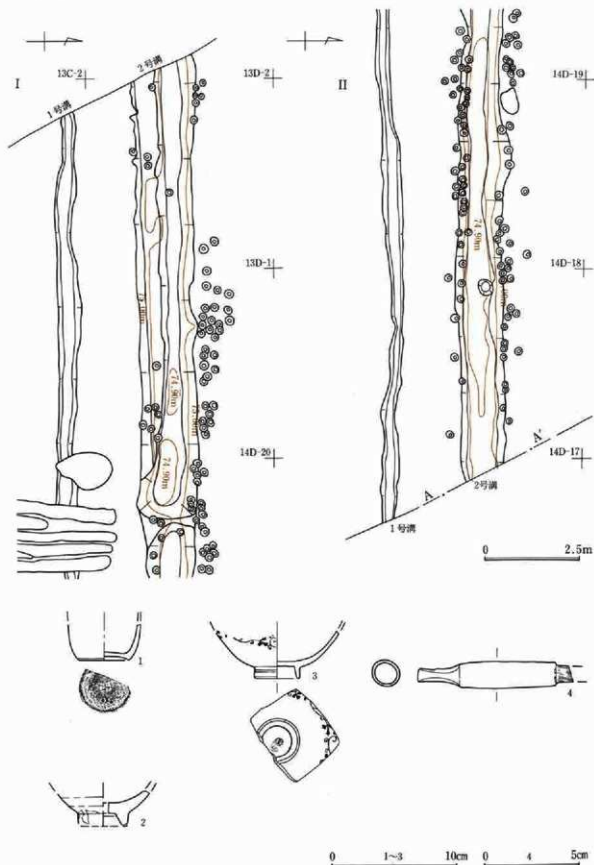


1. 現耕作土
2. 水田の床土
3. 黄褐色砂質土 As-Bを含む
4. As-B軽石純層
5. As-B水田耕土
6. 灰色粘質土 As-Cを含む
7. 黒褐色粘質土 As-Cを含む
8. 灰白色粘質土 粘土層を含む
9. 白色粘質土 粘土層を含む

0 1m

第111図 前田C区1・2号溝実測図

第4章 下阿内前田遺跡の調査



第112図 前田C区1・2号溝、2号溝出土遺物実測図

第39表 前田C区2号溝出土遺物観察表

探出番号 P.L.No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
112-1 P.L.47	美濃磁器 不詳	覆土	口- 底- 4.2 高- (2.8)	① ② ③白色	白磁。高台端部のみ無軸。高台内に「紋721」の 統制番号を押す。昭和。	破片
112-2 P.L.47	肥前磁器 碗	覆土	口- 底- (3.8) 高-	① ② ③明緑灰色	高台筋まで青味を帯びた透明釉。高台径小さく 高い。17世紀。	破片
112-3 P.L.47	瀬戸磁器 飯茶碗	覆土	口- 底- 3.6 高- (3.5) 高-	① ② ③白色	外園ゴム印跡。高台内呉須による「瀬672」の 統制番号あり。昭和。	破片
112-4 P.L.47	煙管 吸口	覆土	長さ- 8.3 厚さ- 1.4		胴が大きく長い。吸い口も太い。	吸口部

## (2) 灰掻き穴

## 1号灰掻き穴(溝状)(図113、P.L31)

位置は、C-1区北側、14B・C-19グリッドで検出された。溝状に掘られた灰掻き穴が6基(東から1a~1fと呼称)確認された。大きさは、1a灰掻き穴が長さ4.68m、幅0.30m、深さ0.07m、長軸方位は、N-3°-Wである。1b灰掻き穴は、長さ2.85m、幅0.20m、深さ0.06m、長軸方位は、N-2°-Wである。1c灰掻き穴は、長さ5.08m、幅0.25m、深さ0.08m、長軸方位は、N-1°-Eである。1d灰掻き穴は、長さ5.03m、幅0.32m、深さ0.04m、長軸方位は、N-2°-Eである。1e灰掻き穴は、長さ2.91m、幅0.28m、深さ0.06m、長軸方位は、N-7°-Eである。1f灰掻き穴は、長さ4.72m、幅0.40m、深さ0.12m、長軸方位は、N-5°-Eである。他の遺構との重複関係は、1号溝と重複しているが、本遺構が後出である。埋設土はAs-A軽石である。出土遺物はなかった。本遺構は、As-A軽石降下(1783年、天明3年)後の復旧用に掘られた跡であり、時期は近世中期以降である。

## 2号灰掻き穴(図113、P.L31)

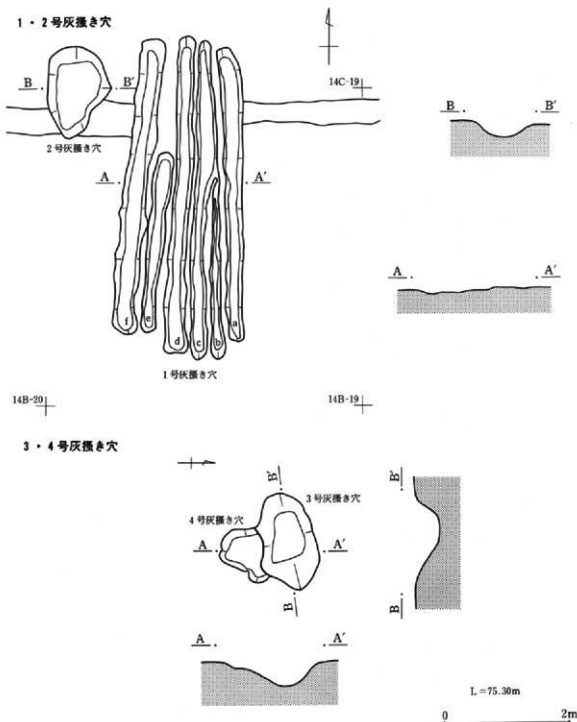
位置は、C-1区北側、14B・C-19グリッドで検出された。形状は楕円形に掘られ、大きさは長軸1.50×短軸1.00m、深さ0.28m、長軸方位は、N-0°である。他の遺構との重複関係は、1号溝と重複しているが、本遺構が後出である。埋設土はAs-A軽石である。出土遺物はなかった。本遺構も、上記1号灰掻き穴と同様、As-A軽石降下後の復旧用に掘られた跡であり、時期は近世中期以降である。

## 3号灰掻き穴(図113)

位置は、C-1区南西の隅、16P・G-17・18グリッドで検出された。形状は楕円形に掘られ、大きさは長軸1.56×短軸0.80m、深さ0.39m、長軸方位は、N-77°-Eである。他の遺構との重複関係は、4号灰掻き穴と重複しており、埋設土から同時期の遺構と考えられる。4号灰掻き穴を掘削した後に、4号の一部を壊して本遺構を掘削したと想定される。埋設土はAs-A軽石である。出土遺物はなかった。本遺構も、As-A軽石降下後の復旧用に掘られた跡であり、時期は近世中期以降である。

4号灰掻き穴 (図113)

位置は、C-1区南西の隅、16P-17グリッドで検出された。形状は不整形に掘られ、大きさは長軸(0.92)×短軸0.68m、深さ0.09mである。他の遺構との重複関係は、3号灰掻き穴と重複しており、埋設土から同時期の遺構と考えられる。本遺構を掘削した後に、本遺構の一部を壊して3号灰掻き穴が掘削されたと想定される。埋設土はAs-A軽石である。出土遺物はなかった。本遺構も、As-A軽石降下後の復旧用に掘られた跡であり、時期は近世中期以降である。



第113図 前田C区1～4号灰掻き穴実測図

## D区の調査

## (1) 溝

## 1号溝 (図114、P.L32・47)

位置は、D-2区中央、12E・F-8~14グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-84°-E)、溝の中央付近からやや走行(N-80°-E)を変えると想定され、東側、西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は29.80m、上幅1.20~2.36m、底幅0.36~1.40m、深さ0.30~0.41mである。他の遺構との重複関係は、2号溝と平行に走行して、東側で重複しており、本遺構が後出である。確認された範囲での溝の底面はほぼ水平で、溝の西端では分水のために使用されたと思われる石組・土砂の崩落を防ぐためにつくられた杭列跡も確認された。本遺構は、水路として使われた可能性が高く、地形的に西から東へ水が流れたと考えられる。埋設土はAs-A軽石を含む茶褐色土である。出土遺物は、陶器・摺鉢1点、青磁・香炉1点、(以上は、図化)、その他の出土遺物は、杭に使用されたと考えられる木製品、陶磁器等の破片173点で、ガラス瓶・ビニル製品等近現代の遺物も含まれる。出土遺物・埋設土から、本遺構の時期は、近代~圃場整備前まで使用されていた水田等に伴う水路と考えられる。

## 2a号溝 (図114、P.L32)

位置は、D-2区中央、12D・E-7~13グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-80°-E)、溝の中央付近から走行(N-62°-E)を変えると想定され、東側、西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は31.00m、上幅0.54~2.00m、底幅0.20~0.80m、深さ0.06~0.14mである。他の遺構との重複関係は、1号溝と重複しており、本遺構が前出である。確認された範囲での溝の底面はほぼ水平で、地形的に西から東へ水が流れたと考えられる。埋設土は、As-B軽石混じりの黒灰色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構は、近世~中世の水田等に伴う水路と考えられる。

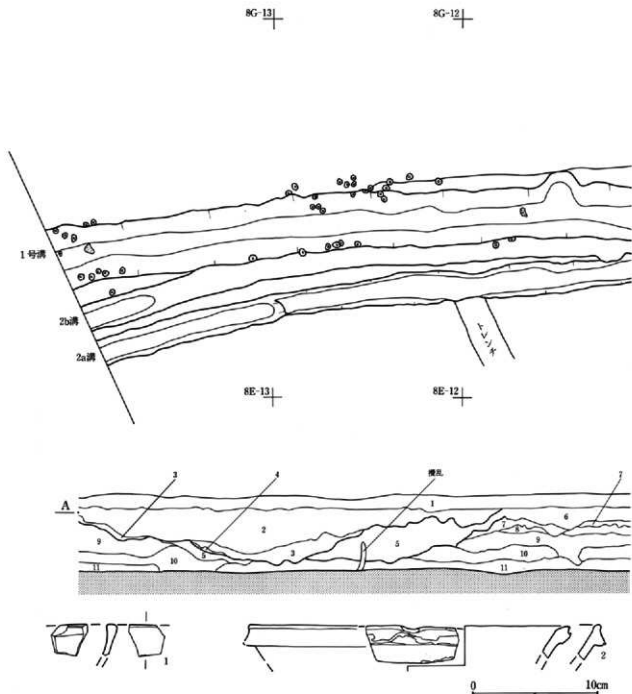
## 2b号溝 (図114、P.L32)

位置は、D-2区中央、12E-10~13グリッドで、ほぼ東西の走行(N-65°-E)で検出された。東側は、2a号溝に合流し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は17.00m、上幅0.96m、底幅0.36m、深さ0.08mである。他の遺構との重複関係は、2a号溝と重複しており、同一の遺構と考えられる。確認された範囲での溝の底面はほぼ水平で、地形的に西から東へ水が流れたと考えられる。埋設土は、As-B混土で、出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構は、近世~中世の水田等に伴う水路と考えられる。

## 3号溝 (図115)

位置は、D-1区東側、13L~Q-4グリッドで検出された。走行方向は北から南への走行(N-5°-E)と想定され、北側、南側ともに調査区の途中で消滅していく。検出全長は(28.36)m、上幅0.24~0.46m、底幅0.10~0.26m、深さ0.03~0.08mである。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の東西方向の畦と重複しており、本遺構が後出である。埋設土は、As-Bを含む茶褐色砂質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、近世~中世と考えられる。

第4章 下阿内前田遺跡の調査

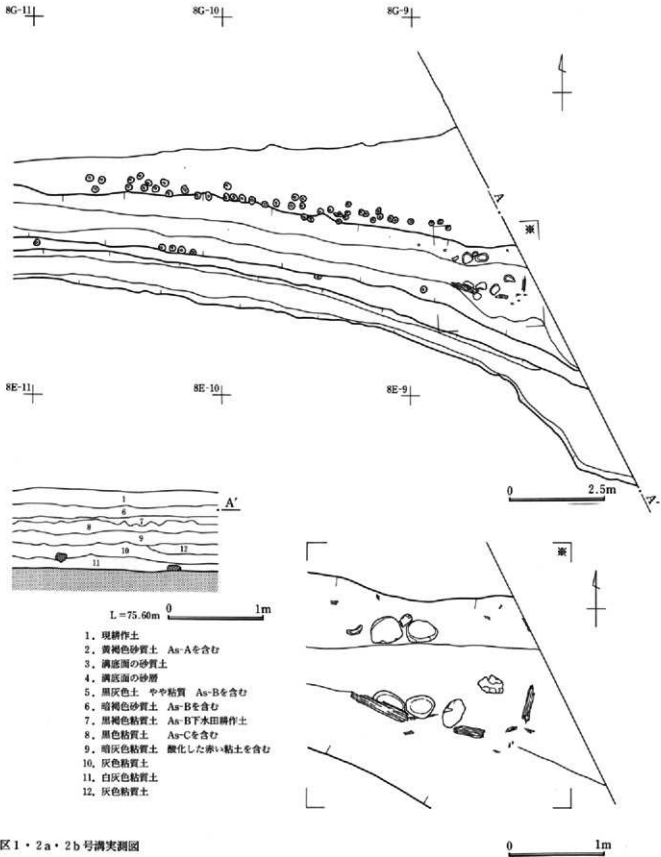


第40表 前田D区1号溝出土遺物観察表

採回番号 P.L.N.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
114-1 P.L.47	肥前磁器 青磁香炉	覆土	厚さ 0.6 口・底・高は 不明	① ② ③明緑灰色	口縁部から外面青磁釉。内面は釉は薄い。口縁部小片。	破片
114-2 P.L.47	瀬戸・美濃 陶器 細鉢	覆土	口- (25.2) 底- 高- (3.0)	① ② ③灰色	大黒。片口部小片。16世紀末~17世紀初。	破片

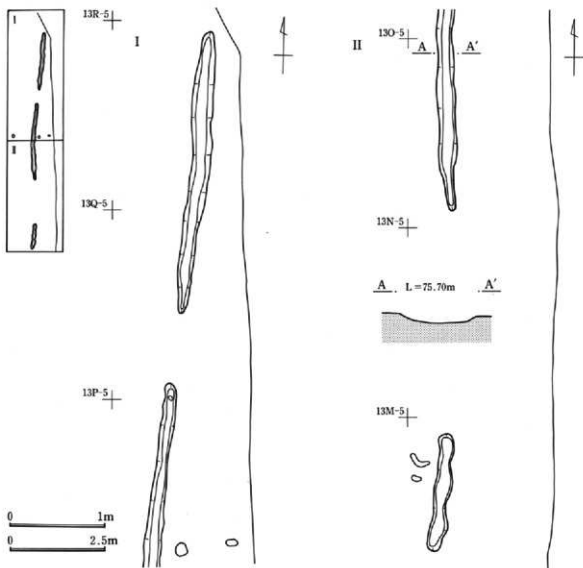
第114図 前田D





区1・2a・2b号溝実測図

第4章 下阿内前田遺跡の調査

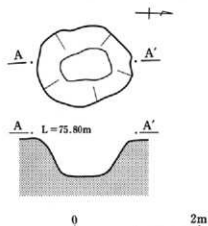


第115図 前田D区3号溝実測図

(2) 灰掻き穴

1号灰掻き穴 (図116)

位置は、D-2区北側、8G・H-11グリッドで検出された。形状は楕円形に掘られ、大きさは長軸1.50×短軸1.22m、深さ0.58m、長軸方位は、N-14'-Wである。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の畦1本と重複しているが、本遺構が後出である。埋設土はAs-A軽石である。出土遺物はなかった。本遺構は、As-A軽石降下後の復旧用に掘られた跡であり、時期は近世中期以降である。



第116図 前田D区1号灰掻き穴実測図

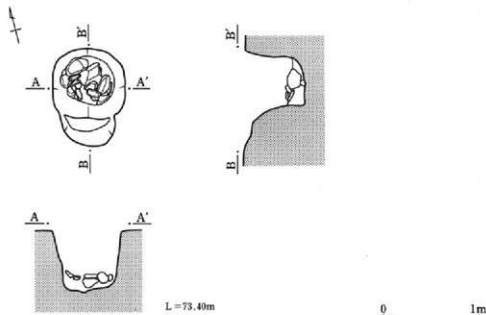
## E区の調査

1号土坑墓は、As-B下面（平安時代）の調査で確認されたが、埋設土・形状等から近世に比定される遺構と考え、ここで報告する。また、E区では、中世面としてAs-B混土面を調査したが、中世に比定される遺構は検出されなかった。

## (1) 土坑墓

## 1号土坑墓（図117、P.L32）

位置は、E区調査区北側で、26S-19グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、南北1.02×東西0.77m、深さは、0.64m、南側に浅い張り出し部分が確認された。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土に少量の骨片が含まれ、底部から15個の円礫が出土しており、掘り方の形態から座したまま（座棺）埋葬されたと想定される。埋設土は、指頭大で鉄分を含む灰黄褐色粘土質土粒を3%含み、As-B軽石を50%含む暗褐色粘質土である。出土遺物は円礫15個と少量の骨片である。以上のことから、本遺構は近世に比定される、土坑墓であると考えられる。

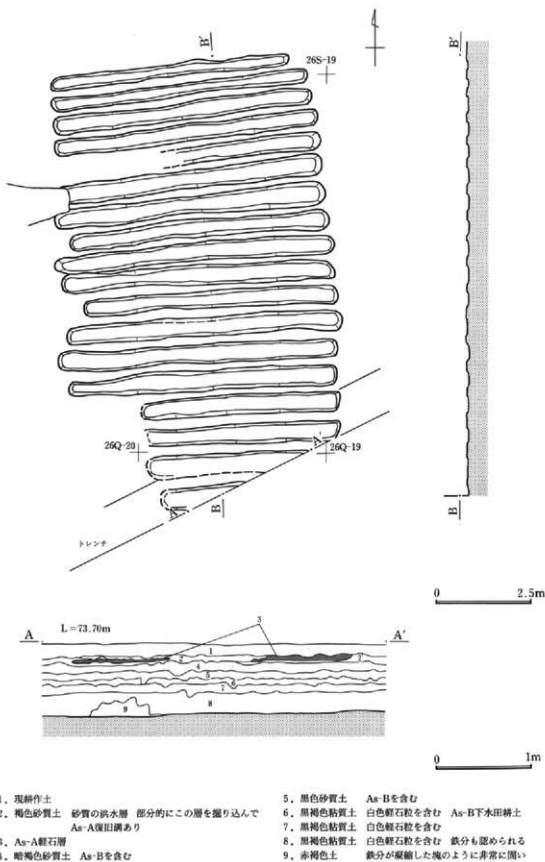


第117図 前田E区1号土坑墓実測図

## (2) 復旧溝

## 1号復旧溝（図118、P.L32）

位置は、E区、26Q～S-18～20で検出された。形状は、17条の溝状に掘られ、検出された範囲は、東西7.5m、南北11.0mで、中心部の長軸方位はN-85°-Eである。17条の復旧溝の長さは、最大7.42m、最小4.00m、平均6.54m、幅は最大0.60m、最小0.30m、平均0.43m、深さは最深0.08m、最浅0.03、平均0.05mである。後世の耕作等によって、深度が浅くなっているが、他の復旧溝の類例から考えると、掘削されたときは0.2～0.4mの深度があったと想定される。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-A軽石である。出土遺物はなかった。本遺構は、As-A軽石降下（1783年、天明3年）後の復旧用に掘られた跡であり、時期は近世中期以降である。



第118図 前田E区1号復旧溝実測図

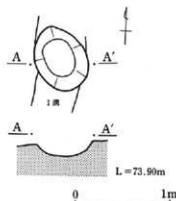
## 2、平安時代の調査

## A区の調査

## (1) 土坑

## 1号土坑 (図119、P.L33)

位置は、A-3区調査区北側の、21I-1で検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、 $0.70 \times 0.57\text{m}$ 、深さは、 $0.15\text{m}$ で、長軸方位は、 $N-20^\circ-W$ である。他の遺構との重複関係は、1号溝と重複しているが、1号溝を壊して本遺構が掘られているので、本遺構が後出である。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、埋設土等から平安時代後期と考えられる。



第119図 前田A区1号土坑実測図

## (2) 溝

水田に伴うと思われる溝（水路）は、水田の実測図と一緒に掲載するため、ここでは、平安時代に比定される、他の溝を報告する。

## 9号溝 (図78)

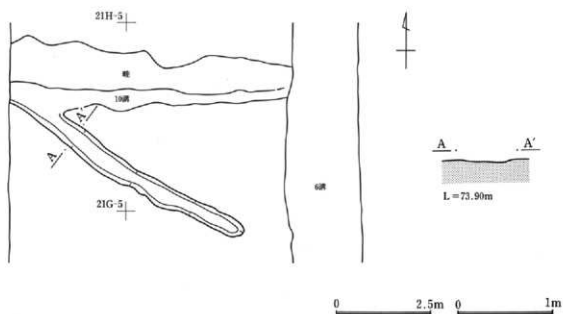
位置は、A-8調査区中央、21K-5グリッドで、東西の走行（ $N-90^\circ-E$ ）で検出された。東側と西側ともに途中で消滅する。検出全長は $1.32\text{m}$ 、上幅 $0.40\text{m}$ 、深さ $0.02\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。出土遺物はなかった。埋設土はAs-B軽石純層である。本遺構の時期は、平安時代後期（As-B降下以降、As-B下水田とほぼ同時期）である。

## 11号溝 (図120、P.L33)

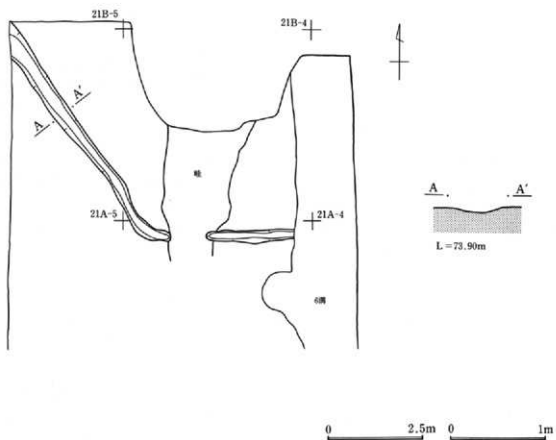
位置は、A-7調査区中央、21F・G-4・5グリッドで検出された。走行方向は、北西から南東への走行（ $N-60^\circ-W$ ）と想定され、東側は途中で消滅し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は $7.2\text{m}$ 、上幅 $0.40\sim 0.64\text{m}$ 、底幅 $0.34\sim 0.42\text{m}$ 、深さ $0.04\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、10号溝と重複しているが、時期はほぼ同時期である。出土遺物はなかった。埋設土はAs-B軽石純層である。本遺構の時期は、平安時代後期（As-B降下以降、As-B下水田とほぼ同時期）である。

## 16号溝 (図121、P.L33)

位置は、A-6調査区北側、21・23T・A・B-4・5グリッドで検出された。走行方向は、初めは、北西から南東への走行（ $N-35^\circ-W$ ）、途中から西から東への走行（ $N-90^\circ-E$ ）と想定され、東側は途中でAs-B下水田の畦を切り、6号溝に切られ消滅し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は $10.20\text{m}$ 、幅 $0.20\sim 0.56\text{m}$ 、深さ $0.03\sim 0.05\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の畦、6号溝と重複している。本遺構はAs-B下水田より後出で、6号溝より前出である。出土遺物はなかった。埋設土はAs-B軽石純層である。本遺構の時期は、平安時代後期（As-B降下以降、As-B下水田とほぼ同時期）である。



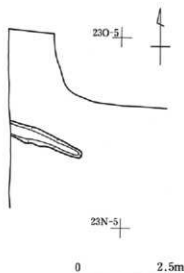
第120図 前田A区11号溝実測図



第121図 前田A区16号溝実測図

**21号溝** (図122, P L33)

位置は、A-5調査区北側、23N-5グリッドで、東西の走行(N-70°-E)で検出された。東側は途中で消滅し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は2.06m、上幅0.26~0.44m、底幅0.12~0.26m、深さ0.02mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。出土遺物はなかった。埋設土はAs-B軽石純層である。本遺構の時期は、平安時代後期(As-B降下以降で、As-B下水田とほぼ同時期)である。



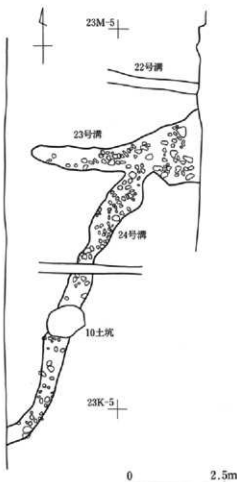
第122図 前田A区21号溝実測図

**23号溝** (図123, P L33)

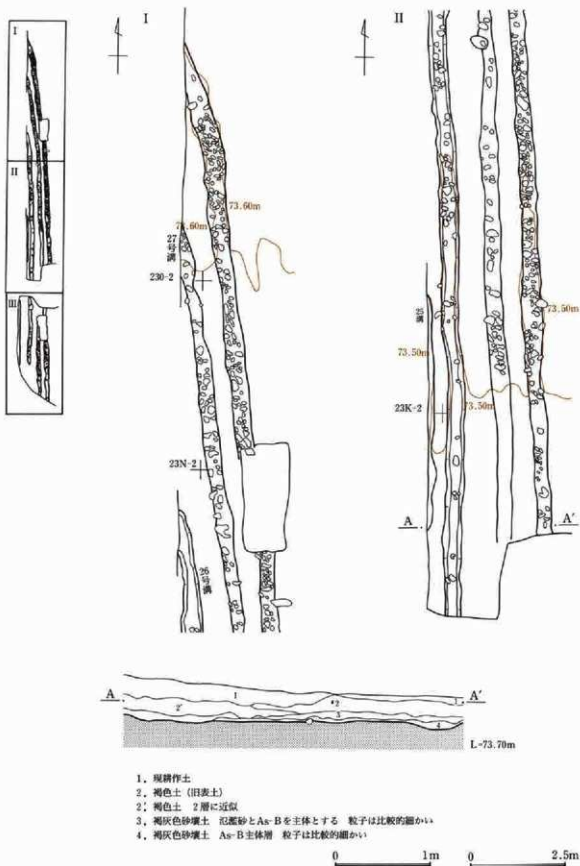
位置は、A-5調査区中央、23L-4・5グリッドで、東西の走行(N-90°-E)で検出された。東側は24号溝と合流し、その後試掘トレンチによって消滅し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は3.36m、幅0.32~1.44m、深さ0.01mである。他の遺構との重複関係は、24号溝と重複しており、埋設土から同一の遺構と想定される。埋設土はAs-B軽石純層である。本遺構の時期は、平安時代後期(As-B降下以降、As-B下水田とほぼ同時期)である。

**24号溝** (図123, P L34)

位置は、A-5調査区中央、23L-4・5グリッドで、北東から南西への走行(N-20°-E)で検出された。東側は23号溝と合流し、その後試掘トレンチによって消滅し、中央付近は10号土坑によって壊され、西側は調査区外に延びていく。検出全長は5.80m、上幅0.24~0.68m、深さ0.01~0.02mである。他の遺構との重複関係は、10号土坑・23号溝と重複している。23号溝とは埋設土から同一の遺構と想定され、本遺構より10号土坑が後出である。出土遺物はなかった。埋設土はAs-B軽石純層である。本遺構の時期は、平安時代後期(As-B降下以降、As-B下水田とほぼ同時期)である。



第123図 前田A区23・24号溝実測図



第124図 前田A区26~28号溝実測図



**26号溝** (図124・125、P.L34)

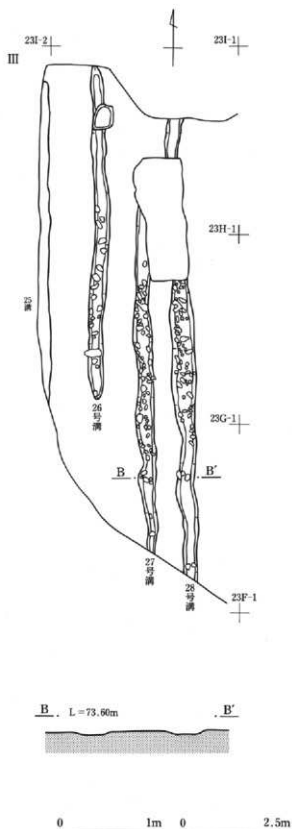
位置は、A-1・A-2調査区西側、23G~M-1・2グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-3'-W)と想定され、南側はA-1調査区の途中で消滅し、中央付近で馬入れて消滅し、北側はA-2調査区外に延びていく。検出全長は33.60m、上幅0.24~0.60m、底幅0.10~0.42m、深さ0.01~0.06mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。出土遺物はなかった。埋設土は氾濫砂とAs-B軽石を主体とする褐色砂壤土である。本遺構の時期は、平安時代後期(As-B降下以降、As-B下水田より後出)である。

**27号溝** (図124・125、P.L34)

位置は、A-1・A-2調査区西側、23F~O-1・2グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-7'-E)と想定され、中央付近で馬入れて消滅し、南側・北側ともに調査区外に延びていく。検出全長は45.20m、上幅0.20~0.56m、底幅0.12~0.32m、深さ0.01~0.03mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。出土遺物はなかった。埋設土は氾濫砂とAs-B軽石を主体とする褐色砂壤土である。本遺構の時期は、平安時代後期(As-B降下以降、As-B下水田より後出)である。

**28号溝** (図124・125、P.L34)

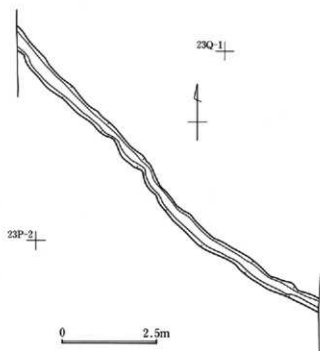
位置は、A-1・A-2調査区西側、23F~P-1・2グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-7'-E)と想定され、馬入れや試掘トレンチによって途中で消滅し、南側・北側ともに調査区外に延びていく。検出全長は50.20m、上幅0.30~0.66m、底幅0.20~0.40m、深さ0.01~0.03mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。出土遺物はなかった。埋設土はAs-B軽石を主体とする褐色砂壤土である。本遺構の時期は、平安時代後期(As-B降下以降、As-B下水田より後出)である。



第125図 前田A区26~28号溝実測図

**30号溝** (図126, P L34)

位置は、A-2調査区中央、23・24O～Q-20・1・2グリッドで検出された。走行方向は、北西から南東への走行(N-45°-W)と想定され、東側・西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は10.80m、上幅0.24～0.50m、底幅0.12～0.32m、深さ0.02～0.04mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。出土遺物はなかった。埋設土は、As-B軽石を主体とする褐色砂壤土である。本遺構の時期は、平安時代後期(As-B降下以降、As-B下水田より後出)である。



第126図 前田A区30号溝実測図

**32号溝** (図127, P L34)

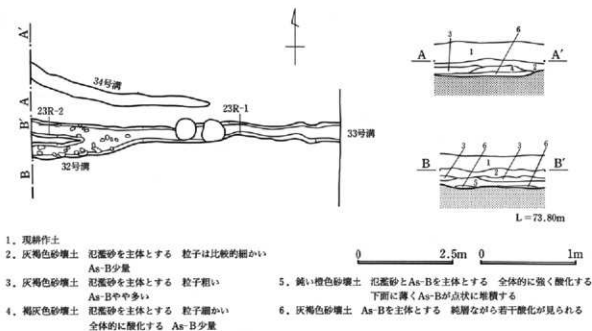
位置は、A-2調査区北側、23・24Q-20・1・2グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定され、東側は33号溝に合流し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は1.20m、上幅0.42m、底幅0.24m、深さ0.02mである。他の遺構との重複関係は、途中で33号溝に合流するが、埋設土から33号溝は同一の遺構である。出土遺物はなかった。埋設土は、氾濫砂・As-B軽石を主体とする褐色砂壤土である。本遺構の時期は、平安時代後期(As-B降下以降、As-B下水田より後出)である。

**33号溝** (図127, P L34)

位置は、A-2調査区北側、23・24Q・R-20・1・2グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定され、西側は32号溝に合流し、東側は調査区外に延びていく。検出全長は8.20m、上幅0.32～0.44m、底幅0.20～0.24m、深さ0.02～0.05mである。他の遺構との重複関係は、6号土坑・7号土坑と重複しており、本遺構が前出である。埋設土から32号溝は同一の遺構である。出土遺物はなかった。埋設土は、氾濫砂・As-B軽石を主体とする褐色砂壤土である。本遺構の時期は、平安時代後期(As-B降下以降、As-B下水田より後出)である。

**34号溝** (図127, P L34)

位置は、A-2調査区北側、23・24R-1・2グリッドで検出された。走行方向は、西北西から東南東への走行(N-78°-W)と想定され、東側は途中で消滅し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は4.60m、幅0.24～0.40m、深さ0.01～0.03mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。出土遺物はなかった。埋設土は、As-B軽石を多量に含む褐色砂壤土である。本遺構の時期は、平安時代後期(As-B降下以降、As-B下水田とはほぼ同時期)である。



第127図 前田A区32～34号溝実測図

### (3) As-B下水田跡

A区の調査区は、馬入れと現道により、A-1区～A-9区に分割されている。そのうち、A-1区・A-5区とA-2区の大部分は、後世の削平によりAs-B下水田が検出されなかった。また、1～5・10・12～15・37号溝は、As-B下水田に伴う水路と考えられるため、ここでその詳細を報告する。

V層（As-B軽石層）は、層厚5～10cmほどで、V層を取り除くと、畦で区画されたAs-B下水田が確認された。下阿内寺町畑遺跡に比べて、現耕作土からAs-B下水田までの土層の堆積が薄く、後世の耕作や圃場整備等により、水田面の残りが悪かった。南北の畦（以下、縦畦）の走行は、ほぼ座標北に向けており、縦畦にほぼ直交して、東西の畦（以下、横畦）が走行しているが、一部斜めに走行する横畦も確認された。特に、A-2～4区で確認された南北走行の大畦（1号大畦）、A-9区で確認された東西方向の大畦（7号大畦）は、条里制地割りに伴う坪境畦畔と想定される。大畦等の詳細は、A区As-B下水田のまとめで報告する。標高は73.6～74.0mで、水田耕土は、土質が均質な黒色粘質土である。確認した38区画の水田のうち完全に区画がわかるものはなかった。以下は、調査区毎のAs-B下水田の検出状況である。なお、A～D区のAs-B下水田計測表を本章の終わりに掲載したので、参照されたい。

#### A-2区水田（図128、P L35）

A-2区のほとんどの部分では、As-B軽石が現耕作土に動込まれており、As-B下水田は確認できなかった。A-2北端では、縦畦3本（うち1号大畦1本）と横畦（斜め走行）1本、水路と思われる1号溝・2号溝が検出された。水田区画は3区画、検出されたが、そのうち完全に区画がわかるものはなかった。田面の標高は73.60～73.72mで、高低差0.12mである。大畦を除く、畦の幅は、0.26～0.66mで、畦の高さは、0.01～0.04mである。縦畦の方位は、N-0°で、横畦の方位は、N-50°-Eである。水口は検出できなかったが、1号溝・2号溝を通して、用水は北から南へと各水田区画へ供給されたと想定される。

#### 第4章 下阿内前田遺跡の調査

##### A-3区水田 (図128、P.L35)

A-3区では、縦畦3本(うち1号大畦1本)と横畦(斜め走行も含む)16本、水路と思われる1号溝・2号溝・37号溝が検出された。水田区画は14区画、検出されたが、そのうち完全に区画がわかるものはなかった。田面の標高は73.69~73.87mで、高低差0.18mである。大畦を除く、畦の幅は、0.20~1.24mで、畦の高さは、0.01~0.05mである。縦畦の方位は、N-0°で、横畦の方位は、N-85°~90°-Eである。水口は3口、検出された。1号溝・2号溝・37号溝を通ってきた用水は、水口を通過して、東側・西側・南側の各水田区画へ供給されたと想定される。

##### A-4区水田 (図128、P.L35)

A-4区では、縦畦3本(うち1号大畦1本)と横畦(うち7号大畦1本)4本、水路と思われる1号溝・2号溝が検出された。水田区画は5区画、検出されたが、そのうち完全に区画がわかるものはなかった。田面の標高は73.82~73.91mで、高低差0.09mである。大畦を除く、畦の幅は、0.40~0.92mで、畦の高さは、0.01~0.05mである。縦畦の方位は、N-0°~5°-Wで、横畦の方位は、N-90°-Eである。水口は1口、検出された。1号溝・2号溝を通ってきた用水は、水口を通過して、東西側の各水田区画へ供給されたと想定される。

##### A-6区水田 (図128、P.L35)

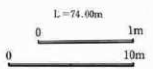
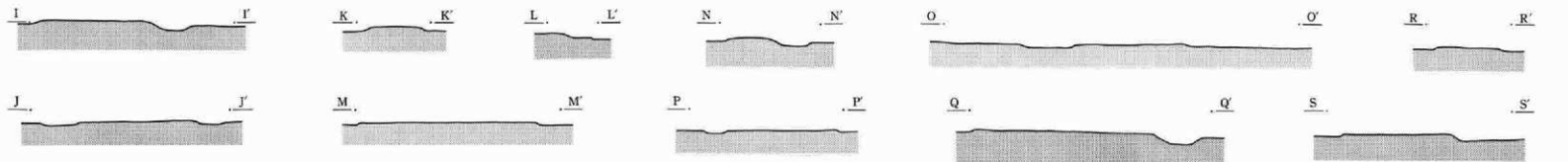
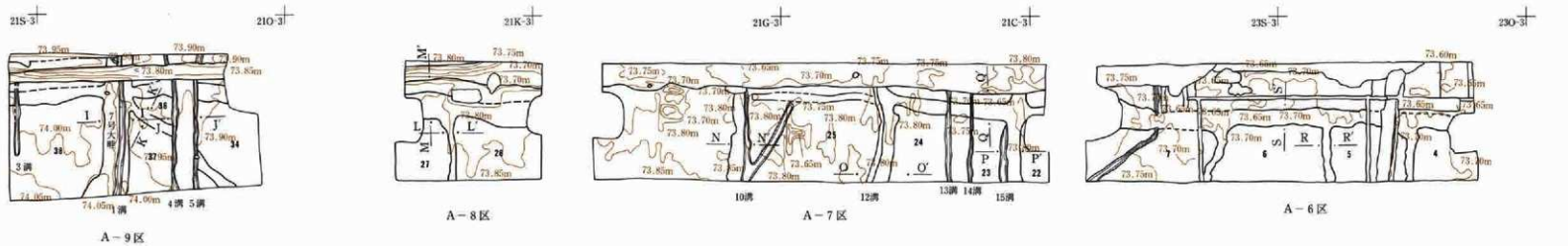
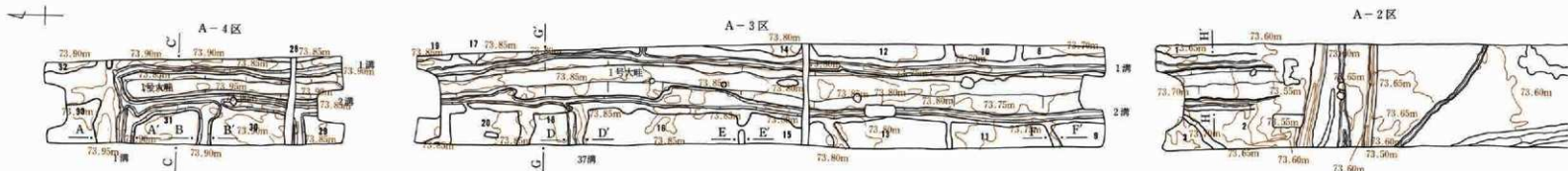
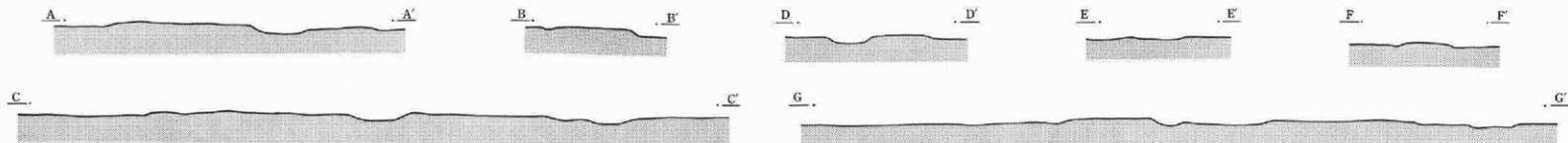
東側は、後世の削平や中世に比定される溝等により、As-B層の堆積は確認できず、水田は検出されなかった。西側では、縦畦1本と横畦3本(斜め走行1本)が検出された。水田区画は4区画検出されたが、そのうち完全に区画がわかるものはなかった。田面の標高は73.70~73.77mで、高低差0.07mである。畦の幅は、縦畦0.96~2.10m、横畦0.42~0.52mで、畦の高さは、0.01~0.03mである。縦畦の幅が広いのは、土圧によって押しつぶされたためと考えられる。縦畦の方位は、N-0°で、横畦の方位は、N-65°~90°-Wである。水口は検出できなかったため、用水は北側から南側へ「かけ流し」で供給されたと想定される。

##### A-7区水田 (図128、P.L35)

A-7区では、北側が削平されており、水田面が検出できなかった。その他の部分では、縦畦1本と横畦4本、水田に伴うと思われる10号溝・12~15号溝が検出された。水田区画は4区画検出されたが、そのうち完全に区画がわかるものはなかった。田面の標高は73.76~73.81mで、高低差0.05mである。畦の幅は、0.38~1.50mで、畦の高さは、0.01~0.03mである。縦畦の方位は、N-4°-Eで、横畦の方位は、N-80°~90°-Wである。水口は検出できなかったが、10号溝・12~15号溝を通過して、用水は各水田区画へ供給されたと想定される。

##### A-8区水田 (図128、P.L35)

東側は、後世の削平や中世に比定される溝等により、As-B層の堆積は確認できず、水田は検出されなかった。西側では、縦畦1本と横畦1本が検出された。水田区画は2区画検出されたが、そのうち完全に区画がわかるものはなかった。田面の標高は73.81~73.89mで、高低差0.08mである。畦の幅は、縦畦2.14~2.84m、横畦0.36~0.38mで、畦の高さは、0.01~0.03mである。縦畦の幅が広いのは、土圧によって押しつぶされたためと考えられる。縦畦の方位は、N-0°で、横畦の方位は、N-80°-Eである。水口は検出できなかったため、用水は北側から南側へ「かけ流し」で供給されたと想定される。



第128图 前田A区A-B地下水田实测图



**A-9区水田** (図128、P.L35)

A-9区では、縦畦1本と横畦4（うち7号大畦1本、斜め方向1本）、水路と思われる1号溝、4・5号溝が検出された。水田区画は5区画検出されたが、そのうち完全に区画がわかるものはなかった。田面の標高は73.92~74.0mで、高低差0.08mである。大畦を除く、畦の幅は、0.40~1.86mで、畦の高さは、0.01~0.05mである。縦畦の方位は、N-0°で、横畦の方位は、N-40°~90°-Eである。水口は検出できなかったが、1号溝、4号溝・5号溝を通して、用水は各水田区画へ供給されたと想定される。

**As-B下水田に伴う水路****1号溝** (図128、P.L35)

位置は、A-2~4・9区、21~24S・A~Q-20・1~5グリッドで検出された。走行方向は、初めは、西から東への走行（N-90°-E）、続いて北から南への走行（N-0°）と想定される。他の遺構との重複関係は、6号溝・36号溝・38号溝と重複しているが、本遺構が前出である。南側は、後世の削平のため途中で消滅し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は116.5m、上幅0.40~0.80m、底幅0.20~0.54m、深さ0.01~0.08mである。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。As-B下水田の東西、南北方向に走る2本の畦の間で確認され、水田に伴う水路と考えられる。

**2号溝** (図128、P.L35)

位置は、A-2~4区、21・23S・A~Q-1グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行（N-0°）と想定される。他の遺構との重複関係は、36号溝・38号溝と重複しているが、本遺構が前出である。A-4区で、1号溝から分水し、A-2区の途中で後世の削平のため消滅する。検出全長は91.0m、上幅0.30~0.60m、底幅0.14~0.34m、深さ0.01~0.06mである。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。As-B下水田の南北方向に走る大畦の間で確認され、水田に伴う水路と考えられる。

**3号溝** (図128、P.L35)

位置は、A-9区、21S-4・5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行（N-90°-E）と想定される。他の遺構との重複関係は、6号溝と重複しているが、本遺構が前出である。東側は6号溝で壊され、西側は途中で消滅する。検出全長は5.74m、上幅0.28~0.52m、底幅0.16~0.30m、深さは不明である。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。水田に伴う何らかの施設と考えられる。

**4号溝** (図128、P.L35)

位置は、A-9区、21P-3~5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行（N-90°-E）と想定される。他の遺構との重複関係は、6号溝と重複しているが、本遺構が前出である。東側、西側ともに調査区に延びていく。検出全長は10.8m、上幅0.20~0.66m、底幅0.06~0.46m、深さは0.04mである。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。横畦のすぐ北側から検出され、水田に伴う何らかの施設と考えられる。

**5号溝** (図128、P.L35)

位置は、A-9区、21P-3~5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行（N-90°-E）と想定される。他の遺構との重複関係は、6号溝と重複しているが、本遺構が前出である。東側、西側ともに調査区に延びていく。検出全長は10.7m、上幅0.18~0.44m、底幅0.06~0.46m、深さは0.04mである。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。横畦のすぐ南側から検出され、水田に伴う何らかの施設と考えられる。

**10号溝** (図128、P L35)

位置は、A-7区、21G-4・5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定される。他の遺構との重複関係は、6号溝と重複しているが、本遺構が前出である。東側は6号溝で壊され消滅し、西側は調査区に延びていく。検出全長は7.4m、上幅0.18~0.62m、底幅0.10~0.40m、深さは0.01~0.04mである。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。横畦のすぐ南側から検出され、水田に伴う何らかの施設と考えられる。

**12号溝** (図128、P L35)

位置は、A-7区、21E-4・5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定される。他の遺構との重複関係は、6号溝と重複しているが、本遺構が前出である。東側は6号溝で壊され消滅し、西側は調査区に延びていく。検出全長は7.76m、上幅0.20~0.36m、深さは0.04mである。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。横畦のすぐ北側から検出され、水田に伴う何らかの施設と考えられる。

**13号溝** (図128、P L35)

位置は、A-7区、21D-4・5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定される。他の遺構との重複関係は、6号溝と重複しているが、本遺構が前出である。東側は6号溝で壊され消滅し、西側は調査区に延びていく。検出全長は7.2m、上幅0.18~0.38m、底幅0.05~0.20m、深さは0.03~0.06mである。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。水田に伴う何らかの施設と考えられる。

**14号溝** (図128、P L35)

位置は、A-7区、21D-4・5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定される。他の遺構との重複関係は、6号溝と重複しているが、本遺構が前出である。東側は6号溝で壊され消滅し、西側は調査区に延びていく。検出全長は7.0m、上幅0.10~0.36m、底幅0.04~0.24m、深さは0.02~0.03mである。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。水田に伴う何らかの施設と考えられる。

**15号溝** (図128、P L35)

位置は、A-7区、21C-4・5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定される。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。東側途中で消滅し、西側は調査区に延びていく。検出全長は4.76m、上幅0.20~0.38m、底幅0.06~0.32m、深さは0.02mである。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。横畦のすぐ北側から検出され、水田に伴う何らかの施設と考えられる。

**37号溝** (図128、P L35)

位置は、A-3区、21・22J-1・2グリッドで検出された。走行方向は西から東への走行(N-90°-E)と想定される。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。東側は2号溝と合流し、西側は調査区に延びていく。検出全長は2.76m、上幅0.44~0.74m、底幅0.16~0.42m、深さは0.02~0.05mである。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。横畦のすぐ北側から検出され、水田に伴う何らかの施設と考えられる。



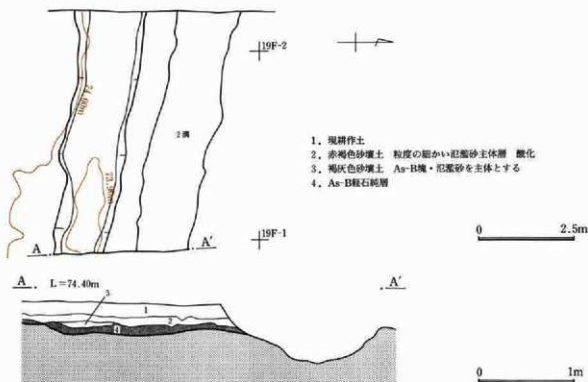
## B区の調査

## (1) 溝

水田に伴うと思われる7、11～13号溝は、水田跡と一緒に掲載するので、ここでは、平安時代に比定される、他の溝を報告する。

## 1号溝 (図129, P L36)

位置は、B-1区北側、19・20D・E-20・1・2グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-82°-W)と想定され、西側・東側ともに調査区外に延びていく。検出全長は6.50m、上幅1.34～1.66m、底幅0.86～1.58m、深さ0.10～0.14mである。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の南北方向の大畦と重複しており、東西方向の畦のすぐ北側に平行して確認された。現道を挟んで西側のB-3区では、本遺構より新しい溝(3号溝・4号溝)が掘削されており、本遺構は検出されなかった。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、溝の底部には、As-B経石純層が堆積しており、As-B下水田の時期とほぼ同時期と考えられる。本遺構は、水田の用水路として利用されていたのではないかとと思われる。



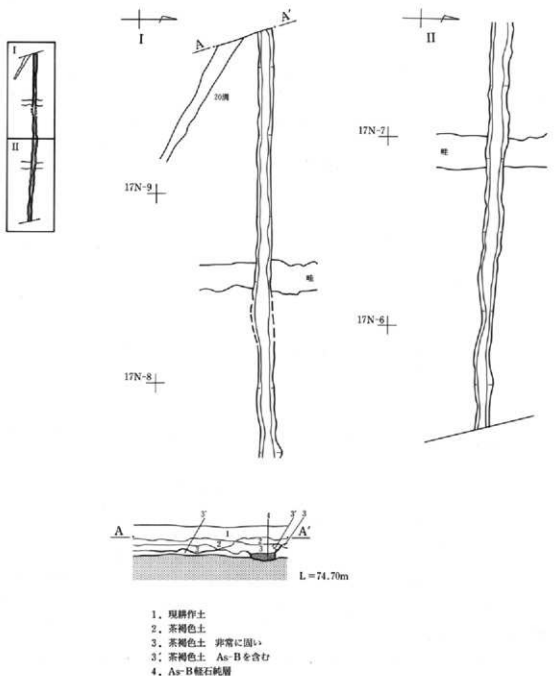
第129図 前田B区1号溝実測図

## 15号溝 (図132, P L36)

位置は、B-6区北西、17B・C-7グリッドで、南西～北東の走行(N-43°-E)で検出された。北東側は途中で消滅し、南西側は調査区外に延びていく。検出全長は1.80m、上幅0.34～0.40m、深さ0.01mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。出土遺物はなかった。埋設土は、As-B経石純層で、時期は、As-B下水田とほぼ同時期と考えられる。

21号溝 (図130、P L36)

位置は、B-8区南側、17N-5~9グリッドで、東西の走行(N-90°-E)で検出された。東側・西側ともに調査区外に延びていく。検出全長は22.08m、上幅0.26~0.58m、深さ0.01~0.10mである。他の遺構との重複関係は、As-B下水田の畦と重複しており、本遺構が後出である。埋設土は、As-B軽石純層である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、平安時代後期(As-B下水田より新しい)と考えられる。



第130図 前田B区21号溝実測図

**(2) As-B下水田**

B区の調査区は、馬入れと現道により、B-1～10区に分割して調査した。V層（As-B軽石層）は、層厚0.05～0.10mほどで、V層を取り除くと、畦で区画されたAs-B下水田が確認された。後世の耕作や圃場整備等により、B-9区東側・B-10区北側では、水田面が検出できなかった。南北の畦（以下、縦畦）の走行は、ほぼ座標北に向いており、縦畦にほぼ直交して、東西の畦（以下、横畦）が走行しているが、一部斜めに走行する横畦も確認された。田面の標高は73.92～74.97mである。確認された83区画の水田のうち区画がわかるものは16区画で、区画の面積は13.2～76.6m<sup>2</sup>、平均は43.8m<sup>2</sup>である。以下は、調査区毎のAs-B下水田の検出状況である。

**B-1区水田（図131、P L36・37）**

B-1区では、縦畦1本（1号大畦）と横畦（斜め走行）5本、水口2口が検出された。水田区画は8区画、検出されたが、そのうち区画がわかるものはなかった。標高は73.92～74.05mで、高低差0.13mである。畦の幅は、0.34～1.26mで、畦の高さは、0.01～0.05mである。縦畦の方位は、N-0°で、横畦の方位は、N-80～90°-Eである。用水の移動は、北から南へ、西から東へ水口を通して供給されたと想定される。

**B-2区水田（図131、P L36・37）**

B-2区北端では、後世の削平により、As-B下水田の畦は確認できなかった。残りのB-2区水田では、縦畦1本（1号大畦）と横畦6本、水口2口が検出された。水田区画は8区画検出されたが、そのうち区画がわかるものはなかった。田面の標高は74.05～74.15mで、高低差0.10mである。畦の幅は、0.36～1.12mで、畦の高さは、0.01～0.04mである。縦畦の方位は、N-0°で、横畦の方位は、N-85～90°-Eである。用水の移動は、北から南へ水口を通して、水口がないところは、かけ流しで供給されたと想定される。

**B-3区水田（図131、P L36）**

B-3区東側と南側では、中世～近代に比定される溝（2～6・8号溝）により田面が削平され、水田は検出できなかった。7号溝は、埋設土がAs-B軽石純層であり、水田に伴う水路ではないかと思われるが、東側を6号溝、4号溝等に壊されているため、確証は得られなかった。B-3区では、縦畦2本と横畦4本、水口1口が検出された。水田区画は6区画検出されたが、そのうち区画がわかるものはなかった。田面の標高は74.06～74.12mで、高低差0.06mである。畦の幅は、0.30～1.32mで、畦の高さは、0.01～0.05mである。縦畦の方位は、N-0°で、横畦の方位は、N-85～90°-Eである。用水の移動は、北から南へ、水口を通して、水口がないところは、かけ流しで供給されたと想定される。

**B-4区水田（図131、P L36・37）**

B-4区水田では、縦畦4本と横畦7本、水口10口が検出された。水田区画は17区画検出された。そのうち区画がわかるものは3区画で、面積は13.2～46.1m<sup>2</sup>、平均の面積は27.5m<sup>2</sup>である。田面の標高は74.08～74.19mで、高低差0.11mである。畦の幅は、0.20～1.08mで、畦の高さは、0.01～0.03mである。縦畦の方位は、N-5°-E、N-4°-Wで、横畦の方位は、N-80°-E、N-68°-Wである。用水の移動は、北から南へ水口を通して、供給されたと想定される。また、11号溝は東西方向の畦の間を走行しており、水田に伴う水路と考えられる。

**B-5区水田** (図132、P L 36)

B-5区水田では、縦畦3本と横畦5本、水口4口が検出された。水田区画は7区画検出された。そのうち区画がわかるものは1区画で、面積は54.6m<sup>2</sup>である。田面の標高は74.21~74.24m、高低差0.03mである。畦の幅は、0.26~0.92mで、畦の高さは、0.01~0.02mである。縦畦の方位は、N-0°~N-2°-Wで、横畦の方位は、N-83°-90°-Wである。用水の移動は、北から南へ水口を通して、各水田区画へ供給されたと思定される。また、12号溝は東西方向の畦の間を走行しており、水田に伴う水路と思われる。

**B-6区水田** (図132、P L 36)

B-6区水田では、縦畦4本と横畦5本(うち1本は8号大畦)、水口15口が検出された。水田区画は14区画検出された。そのうち区画がわかるものは5区画で、面積は13.5~77.0m<sup>2</sup>、平均の面積は43.2m<sup>2</sup>である。田面の標高は74.25~74.44mで、高低差0.19mである。畦の幅は、0.20~1.00mで、畦の高さは、0.01~0.07mである。縦畦の方位は、N-6°-E~N-4°-Wで、横畦の方位は、N-73°-W、N-60°-90°-Eである。用水の移動は、北から南へ、西から東へ水口を通して、各水田区画へ供給されたと思定される。また、13号溝は東西方向の畦の間を走行しており、水田に伴う水路と思われる。

**B-7区水田** (図132、P L 36・37)

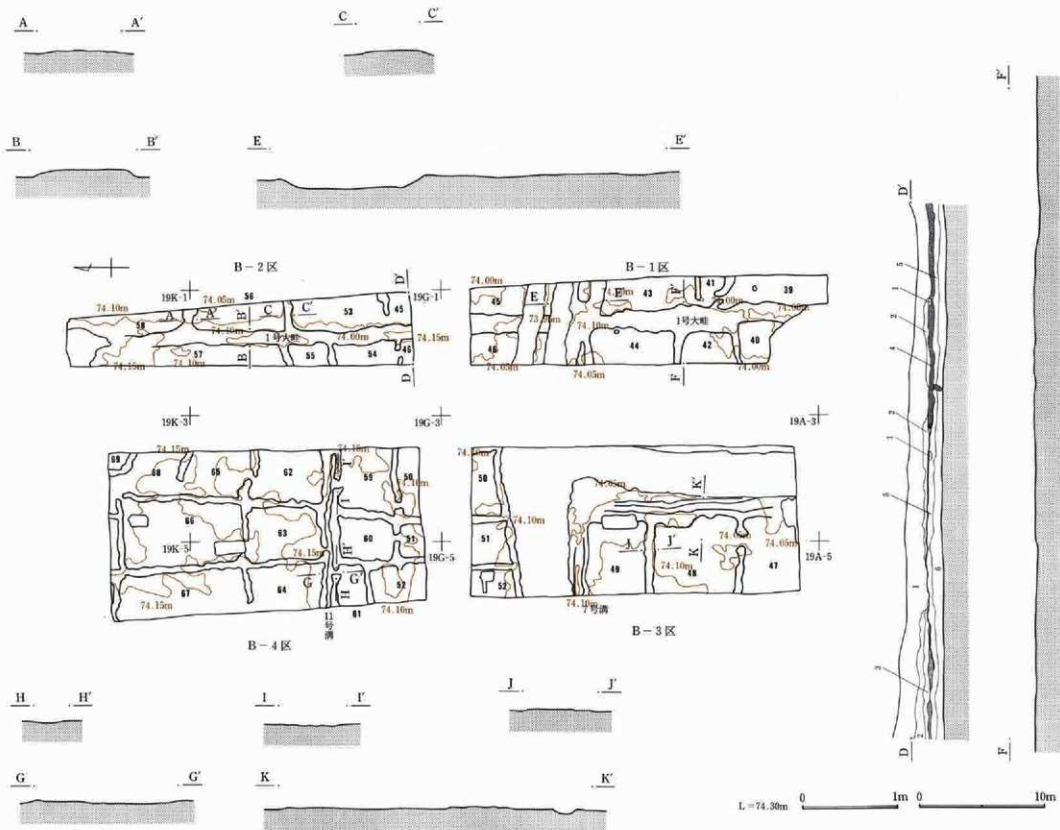
B-7区水田では、縦畦4本と横畦4本、水口6口が検出された。水田区画は11区画検出された。そのうち区画がわかるものは1区画で、面積は76.0m<sup>2</sup>である。田面の標高は74.37~74.53mで、高低差0.16mである。畦の幅は、0.34~1.26mで、畦の高さは、0.01~0.06mである。縦畦の方位は、N-0°-24°-Eで、横畦の方位は、N-73°-80°-Eである。用水の移動は、北から南へ、西から東へ水口を通して、各水田区画へ供給されたと思定される。

**B-8区水田** (図133、P L 36・37)

B-8区水田では、縦畦4本と横畦5本が検出されたが、水口は確認されなかった。北端では近世に比定される溝(28号溝)や遺状遺構によって、水田面は削平されており検出できなかった。水田区画は12区画検出された。そのうち区画がわかるものは1区画で、面積は76.6m<sup>2</sup>である。田面の標高は74.48~74.65mで、高低差0.17mである。畦の幅は、0.38~1.34mで、畦の高さは、0.01~0.06mである。縦畦の方位は、N-3°-E~N-3°-Wで、横畦の方位は、N-41°-84°-Eである。用水の移動は、北から南へ、西から東へかけ流して供給されたと思定される。

**B-9区水田** (図134、P L 36・37)

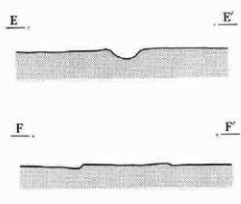
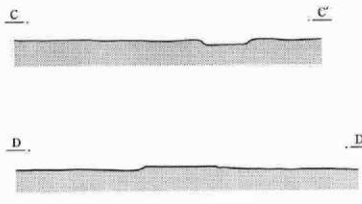
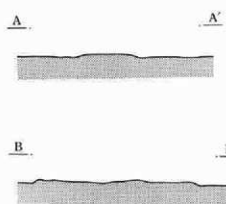
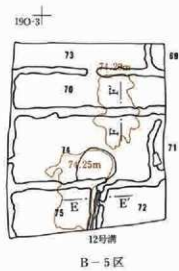
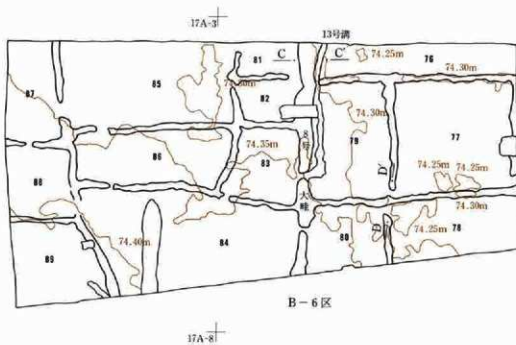
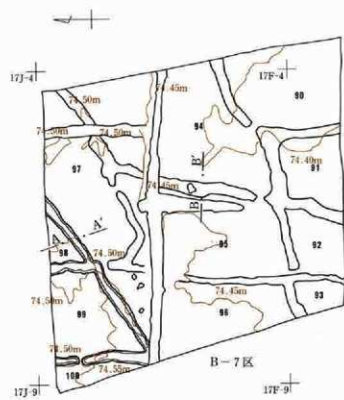
B-9区水田では、縦畦2本と横畦7本、水口3口が検出された。東側半分は、後世の削平によって、水田面は検出できなかった。水田区画は5区画検出された。そのうち区画がわかるものはなかった。田面の標高は74.73~74.85mで、高低差0.12mである。畦の幅は、0.52~1.32mで、畦の高さは、0.01~0.02mである。縦畦の方位は、N-0°-12°-Wで、横畦の方位は、N-57°-90°-Eである。用水は、北から南へ水口を通して、各水田区画へ供給されたと思定される。



1. 珪砂作土
2. 暗褐色土 As-Bを含む やや固い
3. 暗褐色土 2層よりしりがある
4. As-B軽石純層
5. 暗褐色粘質土 As-B下水田耕土
6. 暗褐色粘質土 鉄分層態が認められる

第131図 前田B-1~4区As-B下水田実測図

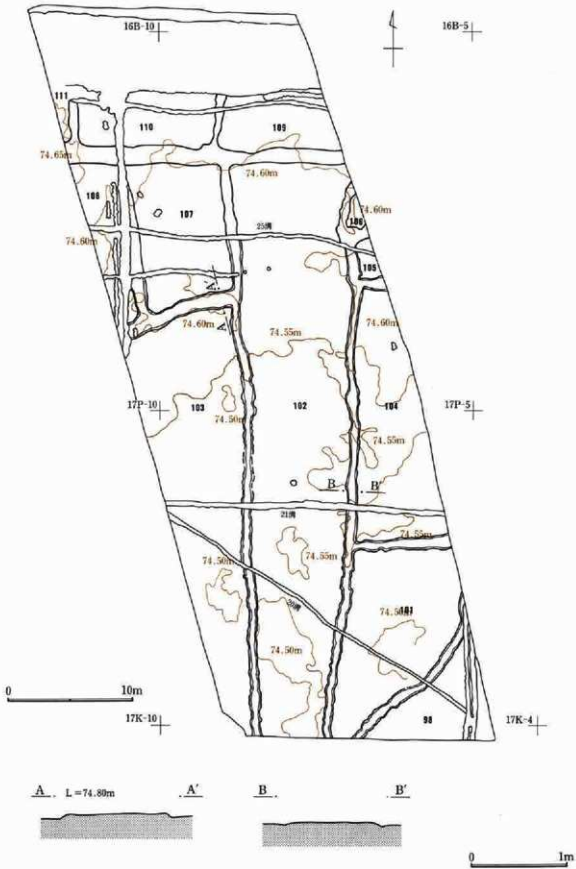




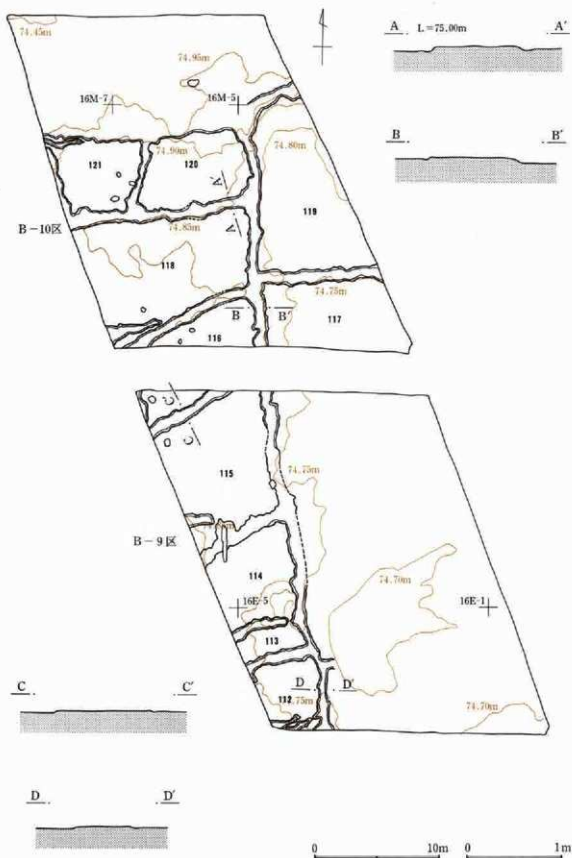
第132图 前田B-5~7区As-B下水田实测图







第133図 前田B-8区Aa-B下水田実測図



第134図 前田B-9・10区A<sub>2</sub>-B<sub>2</sub>下水田実測図

**B-10区水田** (図134、P L36・37)

B-10区水田では、縦畦2本と横畦5本、水口2口が検出された。北側半分は、後世の削平によって、水田面は検出できなかった。水田区画は6区画検出された。そのうち区画がわかるものは2区画で、平均面積は37.1㎡である。田面の標高は74.72~74.88mで、高低差0.16mである。畦の幅は、0.42~1.68mで、畦の高さは、0.01~0.08mである。縦畦の方位はN-0°~16°-Eで、横畦の方位はN-62°~90°-Eである。用水は、北から南へ水口を通して、水口がないところはかけ流して供給されたと想定される。

**As-B下水田に伴う水路****7号溝** (図131)

位置は、B-3区調査区北側、19D-4・5グリッドで、東西の走行(N-90°-E)で検出された。東側は、途中で消滅し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は5.60m、上幅0.34~0.60m、底幅0.20~0.40m、深さ0.03~0.04mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-B軽石であり、出土遺物はなかった。本遺構の時期は、溝の底部に、As-B軽石純層が堆積しており、As-B下水田の時期とほぼ同時期と考えられ、水田に伴う水路と思われる。

**11号溝** (図131、P L37)

位置は、B-4区、19H-3~5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定され、東側は、畦で消滅し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は12.10m、上幅0.24~0.50m、深さ0.01~0.03mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。水田の東西方向の2本の畦の間で確認され、As-B下水田に伴う水路と考えられる。

**12号溝** (図132)

位置は、B-5区、19N-5・6グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-85°-W)と想定され、東側は、畦で消滅し、西側は調査区外に延びていく。検出全長は3.06m、上幅0.30~0.36m、底幅0.10~0.22m、深さ0.02~0.07mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。東西方向の2本の畦の間で確認され、水田に伴う水路と考えられる。

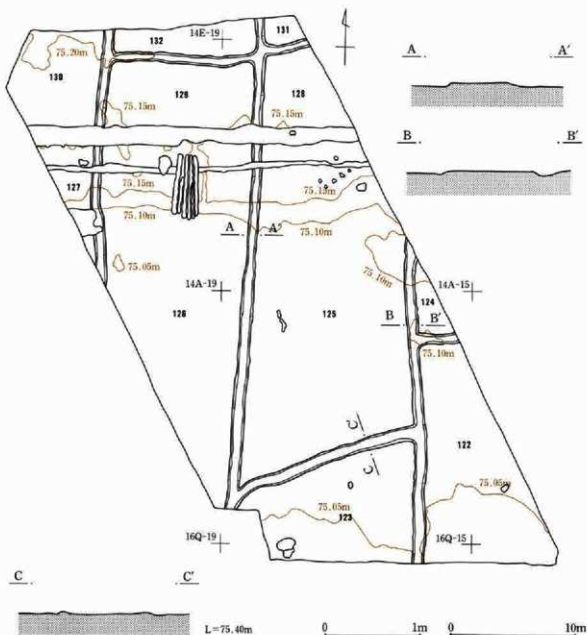
**13号溝** (図132)

位置は、B-6区、19S-3~5グリッドで検出された。走行方向は、西から東への走行(N-90°-E)と想定され、西側は、畦で消滅し、東側は調査区外に延びていく。検出全長は11.20m、上幅0.30~1.00m、深さ0.01~0.04mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-B軽石である。出土遺物はなかった。東西方向の8号大畦の間で確認され、水田に伴う水路と考えられる。

## (1) As-B下水田

C区の調査区は、馬入れにより、C-1～2区に分割して調査した。

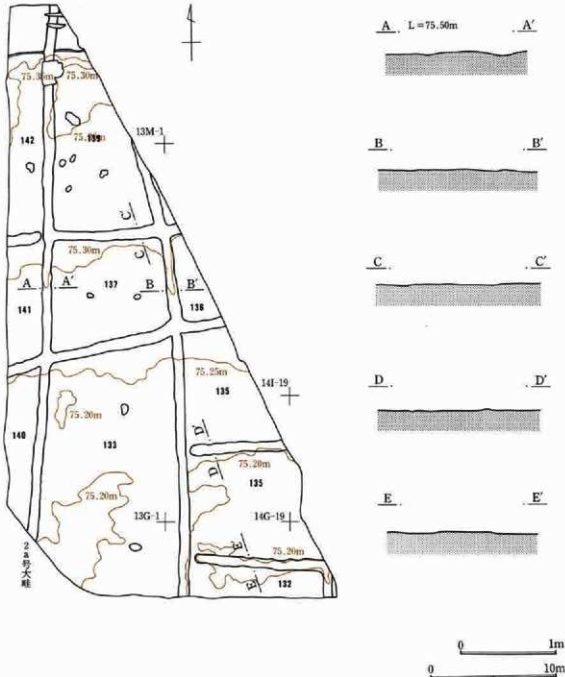
V層（As-B銼石層）は、層序0.03～0.10mほどで、V層を取り除くと、畦で区画されたAs-B下水田が確認された。南北の畦（以下、縦畦）はほぼ座標北に向いており、縦畦にほぼ直交して、東西の畦（以下、横畦）が走行しているのが看取できた。一部斜めに走行する横畦も確認された。標高は75.02～75.44mで、水田耕土は、土質が均質な黒色粘質土である。確認した21区画の水田のうち完全に区画がわかるものは1区画のみであった。その面積は71.8m<sup>2</sup>である。以下は、調査区毎のAs-B下水田の検出状況である。



第135図 前田C-1区As-B下水田実測図

C-1区水田 (図135, P L38)

C-1区水田では、縦畦3本と横畦(斜め走行も)4本が検出された。水田区画は11区画検出されたが、そのうち区画がわかるものはなかった。1号溝と2号溝に挟まれた場所に東西走行の大畦があったと想定されるが、溝や後世の耕作などによって削平されているため、確認は得られなかった。標高は75.02~75.22mで、高低差0.20mである。畦の幅は、0.62~1.14mで、畦の高さは、0.01~0.04mである。縦畦の方位はN-4°-E~N-3°-Wで、横畦の方位はN-71~90°-Eである。水口は確認できなかったので、用水の移動は、北から南へ、「かけ流し」で供給されたと想定される。



第136図 前田C-2区As-B下水田実測図

### C-2区水田 (図136, P L38)

C-2区水田では、縦畦3本(うち1本は2a号大畦)と横畦4本、水口3口が検出された。2a号大畦は、条里制に伴う坪境畦畔と思われるので、第6章第1節で考察したい。水田区画は11区画検出されたが、そのうち完全に区画がわかるものは1区画で、面積は71.8㎡である。標高は75.17~75.44mで、高低差0.27mである。畦の幅は、0.62~1.24mで、畦の高さは、0.01~0.04mである。縦畦の方位はN-7°-E~N-15°-Wで、横畦の方位はN-87°-W、N-78~87°-Eである。用水の移動は、北から南へ、水口を通して、水口のないところは「かけ流し」で供給されたと想定される。

## D区の調査

### (1) As-B下水田

D区の調査区は、馬入れにより、D-1~2区に分割して調査した。D-1区北側とD-2区南側では、後世の削平によって水田は検出できなかった。

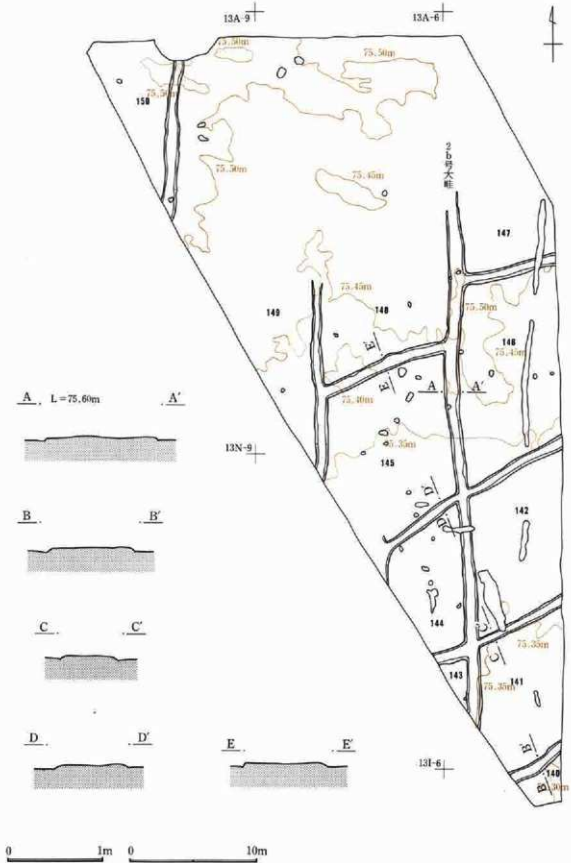
As-B軽石層(基本土層のV層)は、層厚0.03~0.08mほどで、V層を取り除くと、畦で区画されたAs-B下水田が確認された。南北の畦(以下、縦畦)はほぼ座標北に向いており、縦畦にほぼ直交して、東西の畦(以下、横畦)が走行しているのが看取できた。標高は75.27~75.75mである。確認した23区画の水田のうち区画がわかるものは4区画であった。面積は16.8~62.5㎡、平均は35.4㎡である。以下は、調査区毎のAs-B下水田の検出状況である。

#### D-1区水田 (図137, P L38)

D-1区水田では、縦畦3本(うち1本は2b号大畦)と横畦(斜め走行も)5本が検出されたが、水口は確認できなかった。2b号大畦は、条里制に伴う坪境畦畔と思われるので、第6章第1節で考察したい。北側では、後世の削平によって水田は検出できなかった。水田区画は11区画検出されたが、そのうち区画がわかるものはなかった。田面の標高は75.27~75.54mで、高低差0.27mである。畦の幅は、0.58~1.12mで、畦の高さは、0.01~0.04mである。縦畦の方位はN-5°-E~N-5°-Wで、横畦の方位はN-56~78°-Eである。用水の移動は、北から南へ、「かけ流し」で供給されたと想定される。

#### D-2区水田 (図138, P L38)

D-2区水田では、縦畦4本と横畦2本が検出されたが、水口は確認できなかった。南側では、後世の削平によって水田は検出できなかった。水田区画は12区画検出されたが、そのうち区画がわかるものは4区画で、平均面積は35.4㎡である。標高は75.61~75.75mで、高低差0.14mである。畦の幅は、0.54~2.28mで、畦の高さは、0.01~0.04mである。縦畦の方位はN-3°-E~N-4°-Wで、横畦の方位はN-85~89°-E、N-88°-Wである。用水の移動は、北から南へ、「かけ流し」で供給されたと想定される。



第137図 前田D-1区As-B地下水田実測図



A, L = 76.00m    A'



B                      B'



C                      C'



D                      D'



第138図 前田D-2区Aa-B下水田実測図



## E区の調査

## (1) 土坑

## 2号土坑 (図139、P.L.39)

位置は、E区調査区北側で、26R-19グリッドで検出された。平面形は楕円形状で、大きさは、長軸0.76×短軸0.62m、深さは、0.04mで、長軸方位は、N-37°-Eである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、As-B軽石を50%含む暗褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、平安時代後期と考えられる。

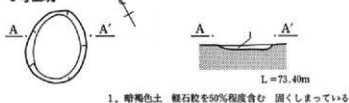
## 3号土坑 (図139、P.L.39)

位置は、E区調査区北側で、26T-19・20グリッドで検出された。平面形は楕円形状で、大きさは、長軸0.90×短軸0.68m、深さは、0.12mで、長軸方位は、N-90°-Wである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、As-B軽石を含む黒褐色土である。出土遺物は、土師器片が5点出土しているが、摩滅しているため器種は不明である。本遺構の時期は、平安時代後期と考えられる。

## 5号土坑 (図139、P.L.39・47)

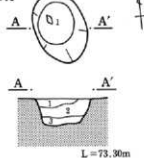
位置は、E区調査区北側で、26S-20グリッドで検出された。平面形は楕円形状で、大きさは、長軸0.74×短軸0.52m、深さは、0.59mで、長軸方位は、N-20°-Wである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、白色軽石粒・灰白色粘質土を含む黒褐色粘質土である。出土遺物は、9世紀の土師器・坏1点である。本遺構の時期は、平安時代前期と考えられる。

## 2号土坑



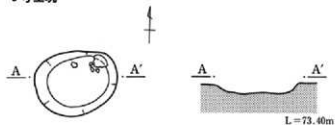
1. 暗褐色土 軽石粒を50%程度含む 固くしまっている

## 5号土坑

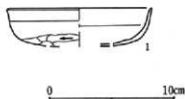


1. 黒褐色粘質土 白色軽石粒を含むためやや砂質
2. 黒褐色粘質土 硬体土(褐色土)を含む
3. 黒褐色粘質土 灰白色粘質土を含む

## 3号土坑



第139図 前田E区2・3・5号土坑実測図



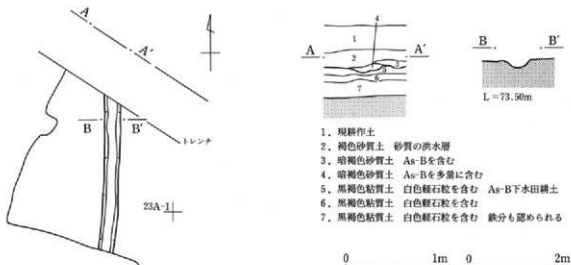
第41表 前田E区5号土坑出土遺物観察表

検出番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成形・整形技法の特徴	残存状態 備考
139-1 P.L.47	土師器 坏	底部	口一(11.4) 底一 高一(3.0)	①細砂粒 ②酸化焰・良 ③褐色	口縁部横線で、底部蹴削り。体部に整形不明瞭な部分を残す。	1/3

(2) 溝

1号溝 (図140, P.L.39)

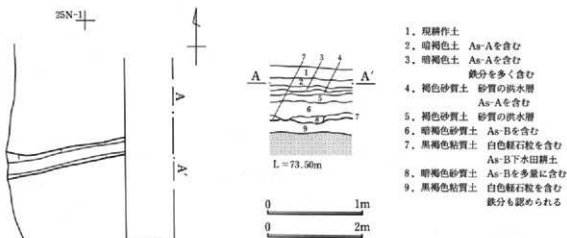
位置は、E区調査区北側で、23・25A・T-1グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-3'-E)と想定され、側は後世の削平のため消滅し、北側は調査区外へ延びていく。検出全長は、3.12m、上幅0.29~0.32m、底幅0.19~0.22m、深さ0.02~0.09mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、As-B軽石を多量に含む、洪水砂混じりの暗褐色砂質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、平安時代と考えられる。



第140図 前田E区1号溝実測図

2号溝 (図141, P.L.39)

位置は、E区調査区北側で、23・25M・20・1グリッドで、ほぼ東西の走行(N-79'-E)で検出された。西側は後世の削平のため消滅し、東側は調査区外へ延びていく。検出全長は、2.52m、上幅0.31~0.53m、底幅0.18~0.26m、深さ0.10mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、As-B軽石を多量に含む、洪水砂混じりの暗褐色砂質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、平安時代と考えられる。



第141図 前田E区2号溝実測図

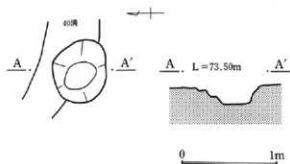
## 3、古墳時代の調査

## A区の調査

## (1) 土坑

## 12号土坑 (図142、P L39・40)

位置は、A-5区中央で、23K-4グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、 $0.70 \times 0.60\text{m}$ 、深さは、 $0.27\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、40号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。埋設土は、As-C軽石を少量含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。



第142図 前田A区12号土坑実測図

## (2) 溝

## 39号溝 (図143、P L39)

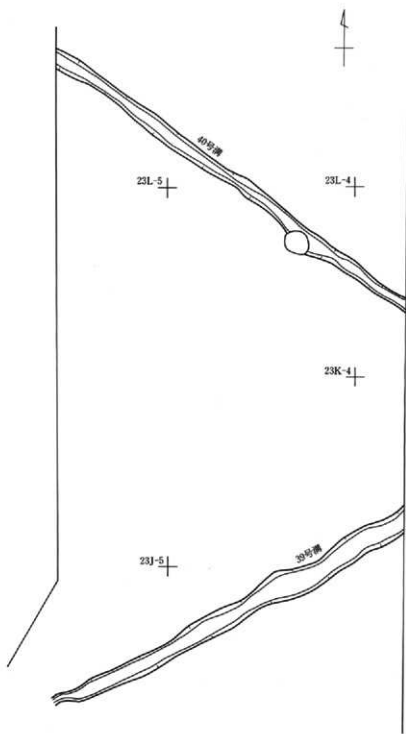
位置は、A-2区から現道を挟んでA-5区へ、23、24I~L-20・1~5グリッドで検出された。走行方向は、東北東から西南西への走行(N-60°-E)と想定され、A-2区の東北東側は調査区外へ延びていき、A-5区西南西側は調査区途中で横断により消滅する。検出全長は $19.8\text{m}$ (現道を含むと $29.6\text{m}$ )、上幅 $0.33 \sim 0.72\text{m}$ 、底幅 $0.17 \sim 0.60\text{m}$ 、深さ $0.09\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、As-C軽石を微量に含む黒褐色泥土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。

## 40号溝 (図143、P L39)

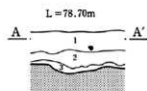
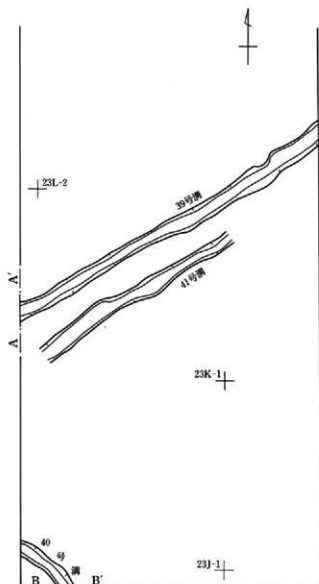
位置は、A-5区中央から現道を挟んでA-2区南側へ、23I~L-1~5グリッドで検出された。走行方向は、北西から南東への走行(N-55°-W)と想定され、A-2区の南東側、A-5区北西側ともに調査区外へ延びていく。検出全長は $12.8\text{m}$ (現道を含むと $23.25\text{m}$ )、上幅 $0.25 \sim 0.47\text{m}$ 、底幅 $0.06 \sim 0.24\text{m}$ 、深さ $0.08\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、12号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。埋設土は、As-C軽石を微量に含む黒褐色泥土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。

## 41号溝 (図144、P L39)

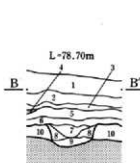
位置は、A-2区、23・24K-20・1グリッドで、北東から南西へかけて(N-62°-E)検出された。北東側・南西側ともに、調査区内で消滅する。検出全長は $5.80\text{m}$ 、上幅 $0.27 \sim 0.48\text{m}$ 、底幅 $0.15 \sim 0.38\text{m}$ 、深さは不明である。他の遺構との重複関係は、確認されなかったが、本遺構のすぐ北側を39号溝が平行して走行している。埋設土は、As-C軽石を微量に含む黒褐色泥土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。



第3節 検出された遺構と遺物



1. 現耕作土
2. 褐灰色砂壤土 肥後砂 As-B混在
3. 黒褐色泥土 シルト質 As-C粒微量含む



1. 現耕作土
2. 褐灰色砂壤土 肥後砂  
As-B混在 比較的硬く締まる
3. 褐灰色砂壤土 As-B主体となる
4. As-B軽石純層
5. 暗灰色泥土 やや明るい シルト質  
As-B下水田耕土 粘性に乏しい
6. 黒褐色泥土 シルト質  
As-Cを微量含む 粘性に乏しい
7. 暗灰色泥土 シルト質  
As-Cを微量含むが均質
8. 暗灰色泥土 シルト質  
7層より明るい 酸化泥土塊を少量含む 均質
9. 暗灰色泥土 シルト質  
暗いAs-Cを含まない 均質
10. 鈍い灰褐色泥土 シルト質  
粘性はやや強い 酸化泥土が上面に堆積

0 1m

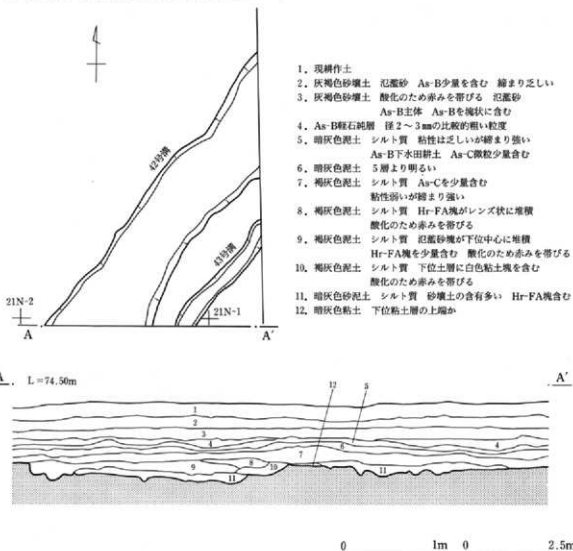
0 2.5m

42号溝 (図144, P L 40)

位置は、A-4区南側、21・22M・O-20・1グリッドで、北東から南西へかけて(N-45°-E)検出された。北東側・南西側ともに、調査区外へ延びていく。検出全長は7.50m、上幅1.70~2.20m、底幅1.36~2.00m、深さは0.20mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、少量のAs-C軽石・Hr-FA塊・氈蓋砂塊・白色粘土塊を含む褐灰色泥土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。

43号溝 (図144, P L 40)

位置は、A-4区南側で、21・22M・N-20・1グリッドで、北東から南西へかけて(N-40°-E)検出された。北東側・南西側ともに、調査区外へ延びていく。検出全長は3.28m、上幅0.40~0.57m、底幅0.20~0.40m、深さは0.06mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかったが、前場の42号溝とほぼ平行に走行して検出された。埋設土は、Hr-FA塊を含む暗灰色砂泥土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。



第144図 前田A区42・43号溝実測図

## B区の調査

## (1) 土坑

## 1号土坑 (図145、P L 40)

位置は、B-10区の北東側で、16L-12グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、 $0.77 \times 0.66\text{m}$ 、深さは、 $0.21\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はHr-FAブロックを含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

## 2号土坑 (図145、P L 40)

位置は、B-10区の北東側で、16M-12グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸 $1.06 \times 0.74\text{m}$ 、深さは、 $0.20\text{m}$ で、長軸方位は、 $N-90^{\circ}-E$ である。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-C軽石を多量を含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

## 3号土坑 (図145、P L 40)

位置は、B-10区の北東側で、16M-12グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸 $0.68 \times 0.39\text{m}$ 、深さは、 $0.22\text{m}$ で、長軸方位は、 $N-80^{\circ}-E$ である。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-C軽石・Hr-FAブロックを含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

## 4号土坑 (図145、P L 40)

位置は、B-10区の北東側で、16M-12・13グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、大きさは、 $0.38 \times 0.35\text{m}$ 、深さは、 $0.10\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-C軽石を斑状に含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

## 5号土坑 (図145、P L 41)

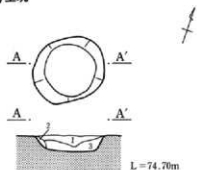
位置は、B-10区の西側で、16L-15グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸 $1.17 \times 0.90\text{m}$ 、深さは、 $0.18\text{m}$ で、長軸方位は、 $N-0^{\circ}$ である。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-C軽石・Hr-FAブロックを含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

## 6号土坑 (図145、P L 41)

位置は、B-10区の東側で、16K-11グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、全体の大きさは、 $0.90 \times 0.87\text{m}$ 、深さは、 $0.38\text{m}$ であるが、中心部にビット1基が確認され、その大きさは、 $0.23 \times 0.23\text{m}$ 、深さは、 $0.30\text{m}$ である。他の遺構との重複関係は、36号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。埋設土はAs-C軽石を少量含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

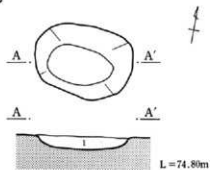
第4章 下阿内前田遺跡の調査

1号土坑



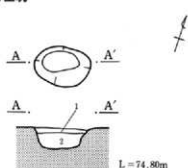
1. 黒褐色粘質土 Hr-FAを斑状に含む As-Cを少量含む
2. 黒褐色粘質土 Hr-FAを含まず
3. 黒褐色粘質土 Hr-FAの粘性が大きい

2号土坑



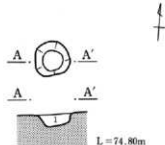
1. 黒褐色粘質土 As-Cを多量に含む

3号土坑



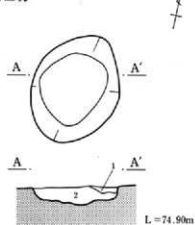
1. 黒褐色粘質土 As-Cを斑状に含む
2. 黒灰褐色粘質土 Hr-FAをブロック状に含む

4号土坑



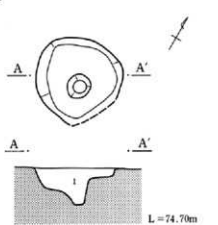
1. 黒褐色粘質土 As-Cを斑状に含む

5号土坑



1. 黒褐色粘質土 As-Cを少量含む
2. 黒灰褐色粘質土 Hr-FAをブロック状に含む

6号土坑



1. 黒褐色粘質土 As-Cを少量含む

0 1m

第145図 前田B区1～6号土坑実測図



**7号土坑** (図146、P L41)

位置は、B-10区の南東側で、16I-11グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、全体の大きさは、0.77×0.77m、深さは、0.19mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-C軽石を少量、Hr-FAブロックを含む黒灰褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

**8号土坑** (図146、P L41)

位置は、B-10区の西側で、16I-J-14グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸0.74×0.46m、深さは、0.33mで、長軸方位は、N-90°-Wである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はAs-C軽石を含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

**9号土坑** (図146、P L41)

位置は、B-9区の西側で、16F-12グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、全体の大きさは、1.30×1.28m、深さは、0.12mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土はHr-FAブロックを少量含む黒褐色粘質土である。出土遺物は、縄文土器片1点である。土器は摩滅が激しく、土坑の埋設時に混入したと思われる。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

**10号土坑** (図146、P L41)

位置は、B-9区の西側で、16F-13グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、全体の大きさは、0.38×0.37m、深さは、0.11mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、Hr-FAブロックを少量含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

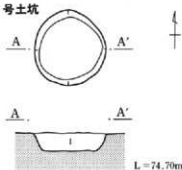
**11号土坑** (図146、P L41)

位置は、B-9区の西側で、16E-F-13グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸1.68×1.20m、深さは、0.34mで、長軸方位は、N-52°-Wである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。Hr-FAブロックを少量含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

**12号土坑** (図146、P L41)

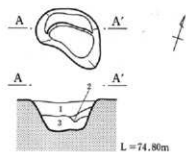
位置は、B-9区の西側で、16F-13グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸1.10×0.60m、深さは、0.09mで、長軸方位は、N-25°-Wである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、Hr-FAブロックを疎らに含む黒褐色粘質土である。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

7号土坑



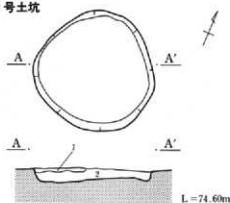
1. 黒灰褐色粘質土 Hr-FA・As-Cをともに少量含む

8号土坑



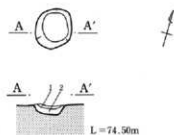
1. 黒褐色粘質土 As-Cを環状に含む  
2. 黒褐色粘質土 As-Cを少量含む  
3. 黒褐色粘質土 As-Cを微量含む

9号土坑



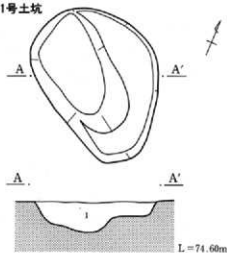
1. 黒褐色粘質土  
2. 黒褐色粘質土 Hr-FAブロックを少量含む

10号土坑



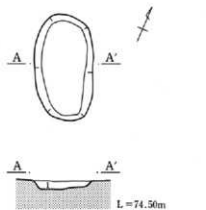
1. 黒褐色粘質土  
2. 黒褐色粘質土 Hr-FAブロックを少量含む

11号土坑



1. 黒褐色粘質土 Hr-FA塊を疎らに含む

12号土坑



1. 黒褐色粘質土 Hr-FAブロックを疎らに含む

0 1m

第146図 前田B区7～12号土坑実測図

**13号土坑** (図147、P L42)

位置は、B-9区の北西側で、16F-13グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、全体の大きさは、0.40×0.44m、深さは、0.23mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、Hr-FAブロックを少量含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

**14号土坑** (図147、P L42)

位置は、B-9区の北側で、16G-12グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸0.90×0.60m、深さは、0.35mで、長軸方位は、N-37°-Wである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、Hr-FAブロックを少量含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

**15号土坑** (図147、P L42)

位置は、B-9区の北側で、16G-12グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、全体の大きさは、0.50×0.45m、深さは、0.14mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、Hr-FAブロックを多く含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代後期と考えられる。

**16号土坑** (図147、P L42)

位置は、B-6区の北東側で、16C-4グリッドで検出された。平面形は隅丸三角形に掘られ、大きさは、長軸1.98×短軸1.00m、深さは、0.66mで、長軸方位は、N-30°-Eである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分凝集を疎らに含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。

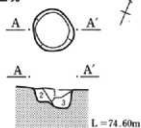
**17号土坑** (図147、P L42)

位置は、B-8区の北側で、17T-8グリッドで検出された。平面形は円形状に掘られ、全体の大きさは、0.86×0.77m、深さは、0.24mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分凝集をまばらに含む暗褐色粘質土と暗灰色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。

**18号土坑** (図147)

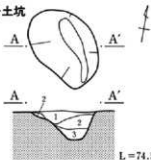
位置は、B-9区の南側で、16C-11・12グリッドで検出された。平面形は不整形に掘られ、中央部を39号溝が東西の走行で横切っている。全体の大きさは、長軸2.80×短軸2.15m、深さは一番深い場所0.14mである。他の遺構との重複関係は、39号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。埋設土は、As-C軽石を少量含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

13号土坑



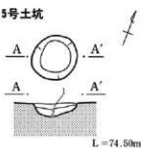
1. 黒褐色粘質土
2. 黒褐色粘質土 Hr-FAブロックを含む
3. 黒褐色粘質土 Hr-FAブロックを微量含む

14号土坑



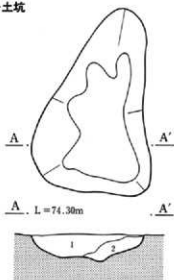
1. 黒褐色粘質土
2. 黒褐色粘質土 Hr-FAブロックを少量含む
3. 黒褐色粘質土 粘性が大

15号土坑



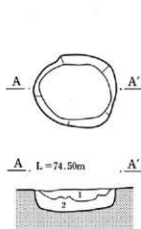
1. 黒褐色粘質土
2. 黒褐色粘質土 Hr-FAブロックを多く含む 粘性大

16号土坑



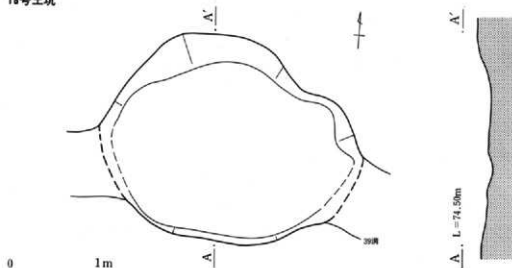
1. 黒褐色粘質土
2. 黒褐色粘質土 鉄分凝集を疎らに含む

17号土坑



1. 黒褐色粘質土 鉄分凝集を少量含む
2. 黒褐色粘質土 鉄分凝集を疎らに含む

18号土坑

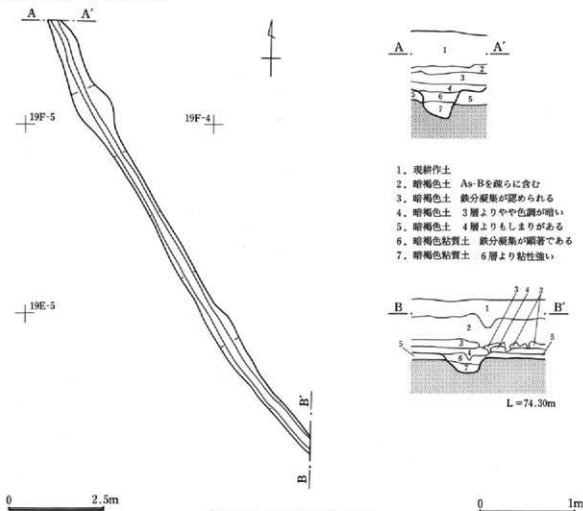


第147図 前田B区13~18号土坑実測図

## (2) 溝

## 32号溝 (図148、P L42)

位置は、B-3区北側で、19D~F-3・4グリッドで検出された。走行方向は、北北西から南南東への走行(N-30°-W)と想定され、北北西側・南南東側ともに、調査区外へ延びていく。検出全長は13.10m、上幅0.54~1.78m、底幅0.26~0.44m、深さ0.10~0.15mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分凝集を含む暗褐色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。

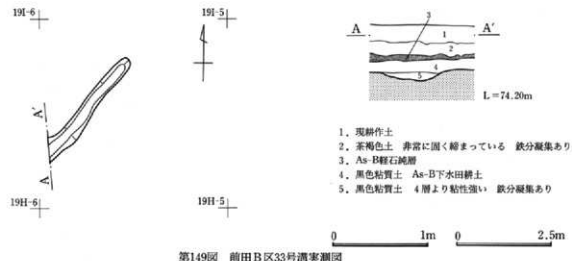


第148図 前田B区32号溝実測図

## 33号溝 (図149、P L42)

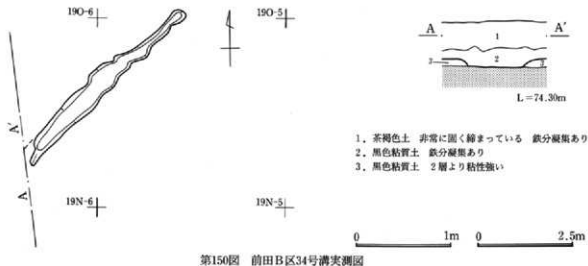
位置は、B-4区西側の19H-5グリッドで、北東から南西にかけて(N-42°-E)で検出された。北東側は調査区の途中で消滅し、南西側は調査区外へ延びていく。検出全長は3.20m、上幅0.32~0.46m、底幅0.19~0.26m、深さ0.04~0.10mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分凝集を含む黒色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。

#### 第4章 下阿内前田遺跡の調査



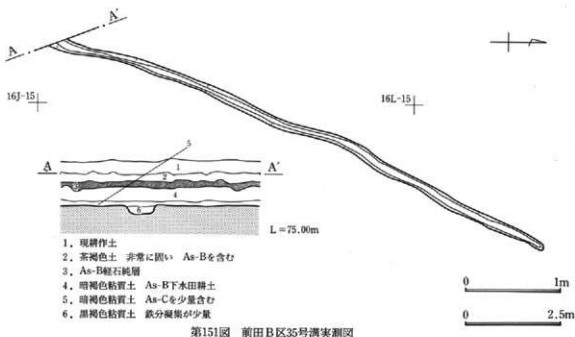
#### 34号溝 (図150, P L 42)

位置は、B-5区西側の19N・O-5・6グリッドで、北東から南西にかけて(N-45°-E)で検出された。北東側・南西側ともに調査区途中で消滅する。検出全長は5.67m、上幅0.20~0.66m、底幅0.08~0.58m、深さ0.03~0.04mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分凝集を含む黒色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。



#### 35号溝 (図151, P L 43)

位置は、B-10区西側で、16J~L-14・15グリッドで検出された。走行方向は、北北東から南南西への走行(N-20°-E)と想定され、北北東側は途中で消滅し、南南西側は調査区外へ延びていく。検出全長は13.80m、上幅0.22~0.30m、底幅0.06~0.18m、深さ0.06~0.11mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分凝集を含む黒色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。



### 36号溝 (図152、P L 43)

位置は、B-10区東側で、16I~K-11・12グリッドで検出された。走行方向は、北北東から南南西への走行(N-28°-E)と想定され、北北東側は調査区外へ延びていき、南南西側は馬入れてで消滅し、B-9区で37号溝へ続くと考えられる。したがって、本遺構と37号溝は同一の溝である。検出全長は13.30m、上幅0.38~0.70m、底幅0.20~0.38m、深さ0.07~0.20mである。他の遺構との重複関係は、6号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。埋設土は、鉄分凝集・As-C 軽石を含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

### 37号溝 (図152、P L 43)

位置は、B-9区西側で、16G・H-12~14グリッドで検出された。走行方向は、北東から南西への走行(N-42°-E)と想定され、南西側は調査区外へ延びていくが、北東側は馬入れてで消滅し、B-10区の36号溝へ続くと考えられる。したがって、本遺構と36号溝は同一の溝である。検出全長は8.50m、上幅0.30~0.52m、底幅0.22~0.28m、深さ0.10~0.14mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分凝集・As-C 軽石を含む黒色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

### 38号溝 (図153、P L 43)

位置は、B-9区北側で、16E~H-10~12グリッドで、北東から南西へかけて(N-40°-E)で検出された。北東側は調査区外へ延びていき、南西側は深度の浅い溝のため、途中で消滅したり、また出現したりして中央部で消滅する。検出全長は(4.40)m、上幅0.17~0.20m、底幅0.07~0.16m、深さ0.03~0.13mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分凝集を少量含む黒色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。

**39号溝** (図154、P L43)

位置は、B-9区南側で、16C-10~12グリッドで検出された。走行方向は、西北西から東南東への走行(N-70°-W)と想定され、西北西側は調査区外へ延びていき、南東側は馬入れで消滅し、B-8区で43号溝へ続くと考えられる。したがって、本遺構と43号溝は同一の溝である。検出全長は11.50m、上幅0.55~1.00m、底幅0.20~0.78m、深さ0.17~0.26mである。他の遺構との重複関係は、18号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。埋設土は、鉄分凝集が多い黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。

**43号溝** (図154、P L43)

位置は、B-8区北東側で、16A・B-7~9グリッドで検出された。走行方向は、北西から南東への走行(N-55°-W)と想定され、南東は調査区外へ延びていき、北西側は馬入れで消滅し、B-9区で39号溝へ続くと考えられる。したがって、本遺構と39号溝は同一の溝である。検出全長は8.50m、上幅0.43~0.77m、底幅0.22~0.48m、深さ0.10~0.20mである。他の遺構との重複関係は、確認できなかった。埋設土は、鉄分凝集が多い黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代と考えられる。

**40号溝** (図155、P L43)

位置は、B-6区南側で、19P~S-3~6グリッドで検出された。走行方向は、北西から南東への走行(N-70°-W)と想定され、北西側、南東側ともに調査区外へ延びていく。検出全長は21.40m、上幅0.48~0.72m、底幅0.12~0.52m、深さ0.12~0.20mである。他の遺構との重複関係は、19Q-4グリッドで、41号溝と重複しているが、埋設土からほぼ同時期の遺構と考えられる。埋設土は、鉄分凝集があり、As-C軽石を含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

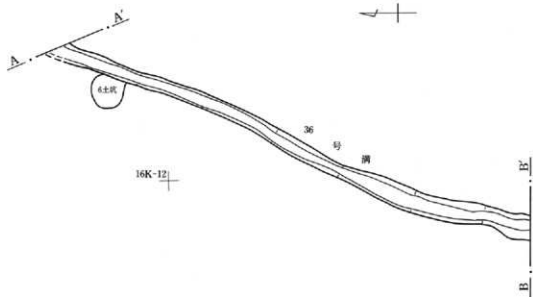
**41号溝** (図155、P L43)

位置は、B-6区南側で、19Q~S-3・4グリッドで検出された。走行方向は、北北東から南南西への走行(N-30°-E)と想定され、北北東側は調査区外へ延びていき、南南西側は40号溝に合流する。検出全長は12.30m、上幅0.46~0.74m、底幅0.30~0.51m、深さ0.09~0.11mである。他の遺構との重複関係は、19Q-4グリッドで、40号溝と重複しているが、埋設土からほぼ同時期の遺構と考えられる。埋設土は、鉄分凝集がある黒色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

**42号溝** (図156、P L43)

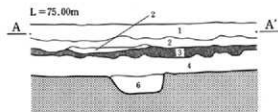
位置は、B-7区で、17E~I-3~7グリッドで検出された。走行方向は、北西から南東への走行(N-30°-W)と想定され、北西側、南東側ともに調査区外へ延びていく。検出全長は29.30m、上幅0.30~0.80m、底幅0.12~0.58m、深さ0.11~0.18mである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、鉄分凝集があり、As-C軽石を含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。以上のことから、本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。



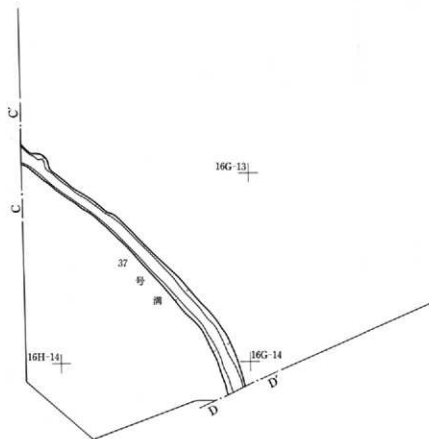
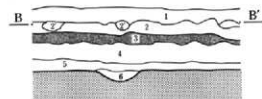


16K-12

16J-13



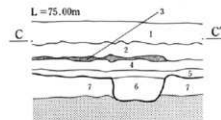
1. 塊耕作土
2. 茶褐色土 非常に固い As-Bを含む
- 2'. 茶褐色土 2層に近似
3. As-B粒石純層
4. 暗褐色粘質土 As-B下水田耕土
5. 暗褐色粘質土 As-Cを少量含む
6. 黒褐色粘質土 鉄分凝集が少量



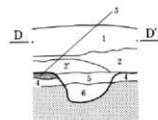
16G-13

16H-14

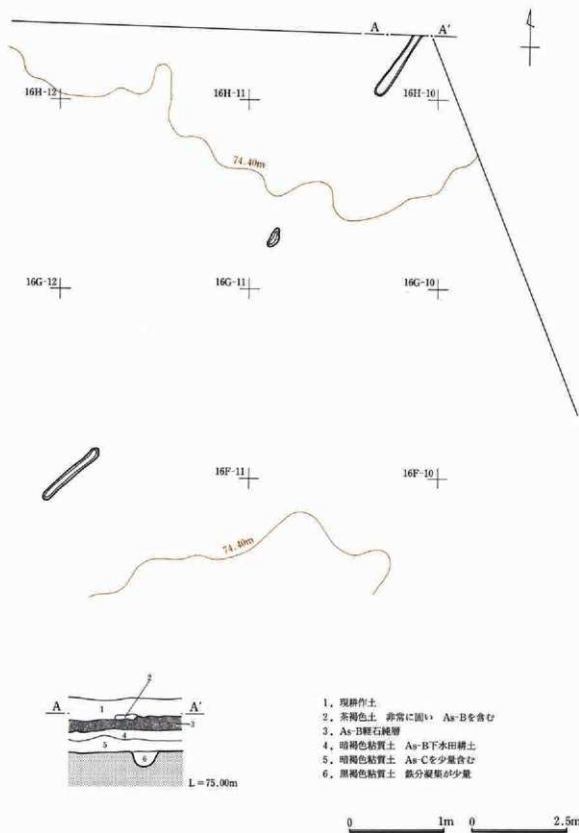
16G-14



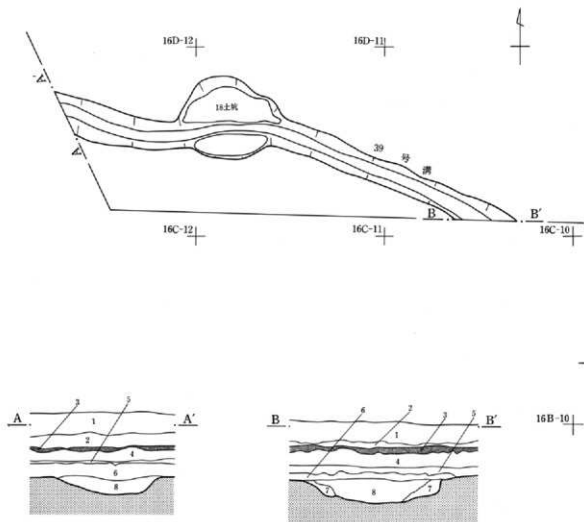
1. 塊耕作土
2. 茶褐色土 非常に固い As-Bを含む
- 2'. 茶褐色土 2層に近似
3. As-B粒石純層
4. 暗褐色粘質土 As-B下水田耕土
5. 暗褐色粘質土 As-Cを少量含む
6. 黒褐色粘質土 鉄分凝集が少量
7. 黒褐色粘質土 6層より色調やや明るい





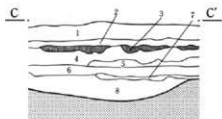


第153図 前田B区38号溝穴測図

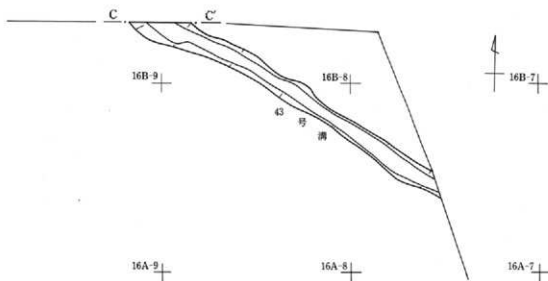


1. 現耕作土
2. 茶褐色土 非常に固い As-Bを含む
3. As-B軽石純層
4. 暗褐色粘質土 As-B下水田耕土
5. 暗褐色粘質土 As-Cを少量含む
6. 黒褐色粘質土 鉄分凝集が少量
7. 黒褐色粘質土 6層より色濃くや明るい
8. 黒褐色粘質土 鉄分凝集が顕著

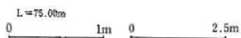
第154図 前田B区

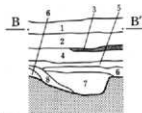
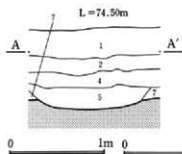
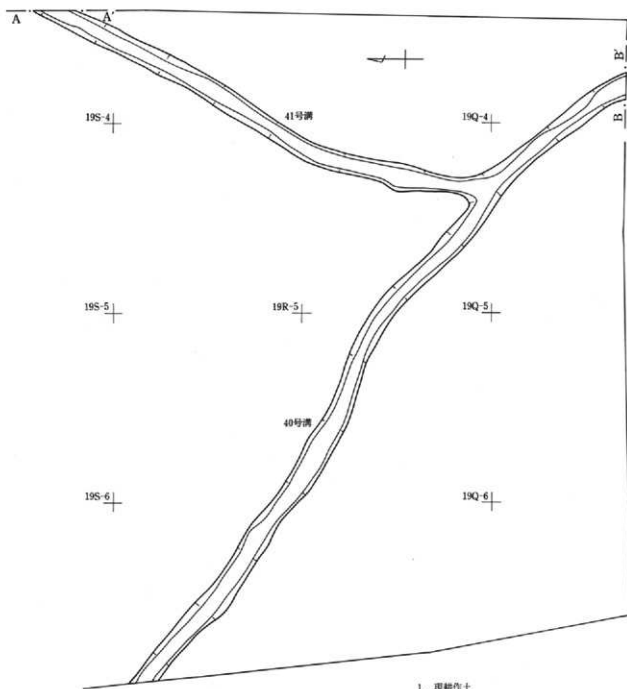


1. 現耕作土
2. 茶褐色土 非常に固い As-Bを含む
3. As-B軽石純層
4. 暗褐色粘質土 As-B下水田耕土
5. 暗褐色粘質土 As-Cを少量含む
6. 黒褐色粘質土 鉄分凝集が少量
7. 黒褐色粘質土 6層より色調やや明るい
8. 黒褐色粘質土 鉄分凝集が顕著



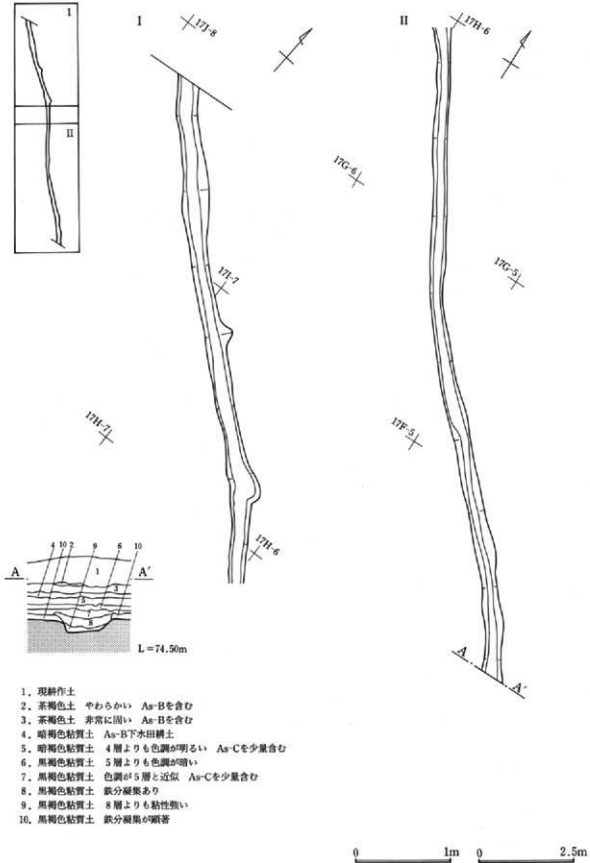
39・43号溝実測図





1. 現耕作土
2. 茶褐色土 非常に固い 鉄分凝集あり  
As-Bを下層に含む
3. As-B軽石純層
4. 黒色粘質土 As-B下水田耕土
5. 黒色粘質土 4層よりも粘性強い  
鉄分凝集あり
6. 黒色粘質土 5層よりも色調が暗い
7. 黒褐色粘質土 As-Cを含む  
鉄分凝集あり
8. 黒褐色粘質土 7層よりも固い

第155図 前田B区40・41号溝実測図



1. 現耕作土
2. 茶褐色土 やわらかい As-Bを含む
3. 茶褐色土 非常に固い As-Bを含む
4. 暗褐色粘質土 As-B下水田耕土
5. 暗褐色粘質土 4層よりも色調が明るい As-Cを少量含む
6. 黒褐色粘質土 5層よりも色調が暗い
7. 黒褐色粘質土 色調が5層と近似 As-Cを少量含む
8. 黒褐色粘質土 鉄分凝集あり
9. 黒褐色粘質土 8層よりも粘性強い
10. 黒褐色粘質土 鉄分凝集が顕著

第156図 前田B区42号溝実測図

## C・D区の調査

C・D区では、Hr-FA層の堆積は確認できなかった。また、As-C混土面で古墳時代～古墳時代以前に比定される遺構の確認作業を行ったが、検出された遺構はC区でピット21基、D区でピット8基であった。ピットは計測表のみを掲載し報告する。

## E区の調査

## (1) 土坑

## 4号土坑 (図157、P L44)

位置は、E区調査区北側で、26Q-19グリッドで検出された。平面形は楕円形状に掘られ、大きさは、長軸0.80×0.68m、深さは、0.29mで、長軸方位は、N-35°-Eである。他の遺構との重複関係は、確認されなかった。埋設土は、As-C軽石粒・灰白色粘質土を含む黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。本遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。



第157図 前田E区4号土坑実測図

## (2) As-C混土上水田

## As-C混土上水田 (図158、P L44)

E区調査区北側部分で、洪水層に覆われたAs-C軽石を含む黒褐色粘質土上面の水田を検出した。地形が北西から南東へ傾斜しており、その地形の転換点に北西から南東へ走行する縦畦1本(大畦)に沿って、ほぼ直交する方向に横畦(小畦)3本と南東隅に横畦1本が確認された。縦畦の西端には、縦畦と平行に走行する、埋設土から水田とほぼ同時期に使用されたと思われる3号溝が確認された。水口は確認できなかった。西側では、後世の削平によって水田は検出できなかった。水田区画は7区画検出されたが、そのうち完全に区画がわかるものはなかった。確認された区画の面積は2.2~42.2m<sup>2</sup>である。田面の標高は73.25~73.18mで、高低差0.07mである。縦畦の幅は0.65~1.40m、高さは0.01~0.03m、方位は、N-37°-Wである。横畦の幅は0.55~1.00m、高さは0.01~0.03m、縦畦にほぼ直交する3本の横畦の方位は、N-54~56°-Eである。南東隅の横畦の方位はN-26°-Eである。用水の移動は、北西から南東への「かけ流し」の方法で、供給されたと想定される。水田区画の詳細については、計測表を参照されたい。

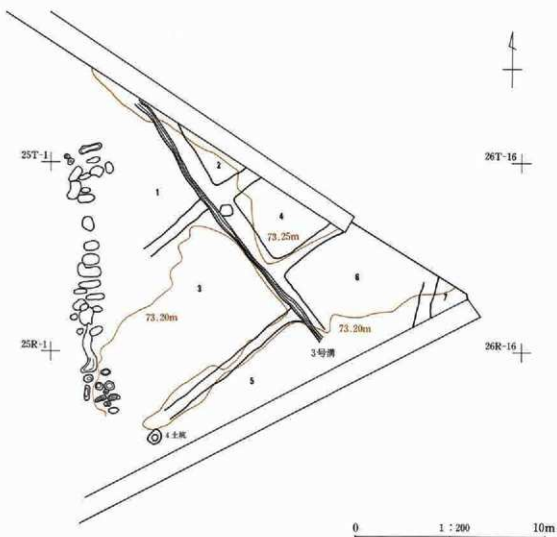


As-C混土上水田の検出された西側では、As-C混土が後世の削平によって、確認できなかった。そのため、水田面も検出できなかったが、南北に続く耕作痕と想定される遺構が検出された。耕作痕の検出された範囲は南北14.2m、東西0.8~2.5m、深さは0.01~0.08m、長軸方位はN-3'-Wである。この耕作痕の時期は、As-B軽石降下期よりも古く、As-C混土上水田が経営された時期よりも新しいと考えられる。

### (3) 溝

#### 3号溝 (図158、P.L.44)

位置は、E区調査区北側で、26R~T-18~20グリッド、北西から南東の走行(N-37'-W)で検出された。南東側は調査区の途中で消滅し、北西側は調査区外へ延びていく。検出全長は15.9m、上幅0.20~0.40m、底幅0.05~0.19m、深さ0.02~0.07mである。他の遺構との重複関係は、本遺構がAs-C混土上水田の畦を壊して走行しており、本遺構が後出である。出土遺物はなかった。本遺構は、埋設土からAs-C混土上水田が経営された時期とほぼ同時期の溝と考えられる。



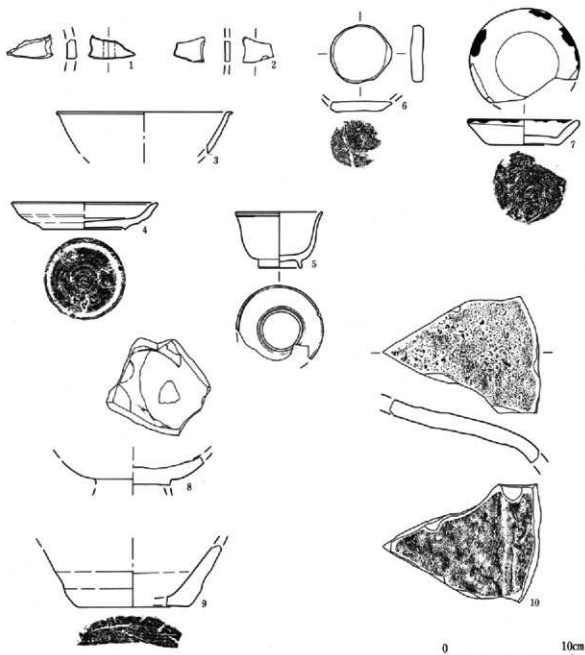
第158図 前田E区As-C混土上水田実測図

#### 4、遺構外出土遺物

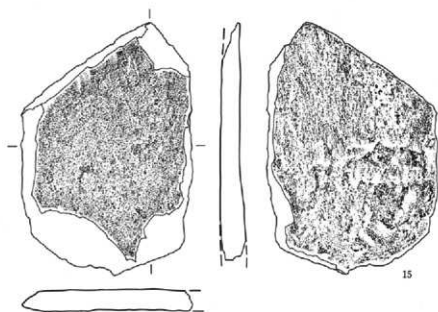
下阿内前田遺跡で出土した、遺構に伴わない遺物を時代別（中近世、平安時代、古墳時代、縄文時代）に、ここで報告する。

##### (1) 中近世（近現代も含む）（図159・160、P L47）

ここで報告する遺物は、第1面（中近世）と第2面（平安時代）の調査（表土掘削・遺構確認）時、主にAs-B下水田の遺構確認・検出時に出土したものである。



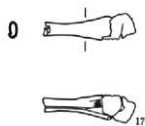
第159図 前田遺跡遺構外出土遺物実測図（1）



0 10cm



0 3cm



0 10cm

第160図 前田遺跡遺構外出土遺物実測図(2)

## (2) 平安時代

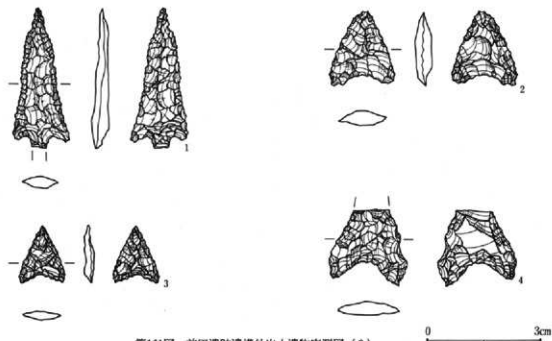
平安時代に比定される遺物は、土師器・須恵器片等が出土しているが、絶対量が少ない上に摩滅も激しく、報告するものはない。

## (3) 古墳時代

古墳時代の土師器・須恵器等の遺物の出土数は全体的に少なく、しかも摩滅しているため報告するものはない。

## (4) 縄文時代 (図161、P L 47)

B区の第3面(古墳時代)の調査時に、遺構外から縄文時代中期の土器片5点が出土しているが、摩滅が激しく不明瞭のため、図化しなかった。以下に報告する4点の石器は第3面(古墳時代)の調査時に検出されたものである。



第161図 前田遺跡遺構外出土物実測図(3)

第42表 前田遺跡遺構外(中近世)出土物観察表

探出番号 P L No.	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)	①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
159-1 P L 47	龍泉窯系 青磁 碗	B区 As-B下	厚さ 0.75 口・底・高は 不明	① ② ③オリブ灰色	軸圓はにがり、不良である。外面に片彫りによる饅頭弁文。13世紀。	破片
159-2 P L 47	龍泉窯系 青磁 碗	表探	厚さ 0.4 口・底・高は 不明	① ② ③明緑灰色	体部小片。13世紀か。外面に片彫りによる蓮弁文様の一部が認められる。	破片
159-3 P L 47	中国白磁 碗	B区 As-B下	口 - (13.9) 底 - 高 - (3.3)	① ② ③白色	ややオリブ灰色味を帯びた白磁胎。口縁端部は外方に折り曲げる。12世紀。	破片
159-4 P L 47	瀬戸・美濃 陶器 皿	A区 As-B下	口 - (11.5) 底 - 6.5 高 - 2.1	① ② ③灰白色	高台内の一部まで長石釉を施す。高台内と内底に円錐紋痕3ヶ所。	1/3

第42表 前田遺跡遺構外(中近世)出土遺物観察表の続き

押戻番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)				①胎土②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	残存状態 備考
			長さ	幅	厚さ	重量			
159-5 P.L.47	製作地不詳 磁器 小杯	B区 表探	口- 6.7 底- 3.3 高- 4.4				① ② ③白色	口縁部外面と高台縁に長須で接線を引く。明治 ～昭和。	3/4
159-6 P.L.47	土器 皿	A区 As-B下	厚さ- 0.9 底- 3.5				① ② ③にぶい褐色	底部外面左回転糸切り無調整。全体に厚減する が、周辺は打ち欠いている可能性高い。	底部片
159-7 P.L.47	在土土器 皿	B区 表探	口- 8.8 底- 5.8 高- 2.0				① ② ③にぶい黄褐色	器表厚減する。底部外面左回転糸切り。無調整 江戸。	3/4
159-8 P.L.47	龍泉窯系 青磁 碗	A区 As-B下	口- 底- (6.0) 高-				① ② ③灰オリーブ色	内底片彫りによる施文。高台内を除き施軸。一 部に貫入があり、磁化も不十分である。12～13 世紀。	底部片
159-9 P.L.47	軟質陶器 酒鉢	E区 25S-2	口- 底- (8.8) 高-				① ② ③灰色	体部下位～底部片。器表厚減。中世。	破片
159-10 P.L.47	焼締陶器 甕	表探	厚さ1.1 口・底・高は 不明				① ② ③にぶい黄褐色	知多窯の甕部片。外面自然輪付着。中世。	破片
160-11 P.L.47	焼締陶器 甕	A区 As-B下	厚さ1.2 口・底・高は 不明				① ② ③暗灰色	榑実窯。体部小片。12世紀。	破片
160-12 P.L.47	焼締陶器 甕か壺	A区 As-B下	厚さ1.4 口・底・高は 不明				③外側灰白色 内側にぶい褐色	知多窯。甕部小片。外面に自然輪がかかる。中 世。	破片
押戻番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm・kg)				石 材	特 徴	残存状態
長さ	幅	厚さ	重量						
160-13 P.L.47	石製品 砥石	B区 表探	6.6	2.3	1.8	42	流紋岩	4面使用。	完形
160-14 P.L.47	石製品 砥石	B区 表探	7.1	4.0	1.9	75	紙沢石	4面使用。	1/2
160-15 P.L.47	石製品 板碑	B区 表探	(19.8)	(13.5)	2.0	856	緑色片岩	石材から板碑片と考えられる。	破片
押戻番号 P.L.No	種類	銭貨名	国名	初鑄年	出土 位置	計測値 (cm・g)			残存状態・備考
外輪径	内輪径	重さ							
160-16 P.L.47	銅銭	天福通寶	北宋	1017	B区 As-B下	2.6	0.6	1.9	4/5
押戻番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm)				成・整形技法の特徴	残存状態 備考	
長さ	幅	厚さ	重量						
160-17 P.L.47	煙管 吸口部	A区 As-B下	長さ- 4.9 厚さ- 0.4				吸口。	吸口部	
160-18 P.L.47	煙管 履首部	A区 As-B下	長さ- 4.1				火皿約1/2欠損。江戸後期。	履首部	

第43表 前田遺跡遺構外(縄文時代)出土遺物観察表

押戻番号 P.L.No	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm・g)				石 材	特 徴	残存状態
			長さ	幅	厚さ	重量			
161-1 P.L.47	石器 有茎尖頭器	D区 As-C混	3.2	1.5	0.4	1.47	黒色頁岩	基部を欠損。	ほぼ完形
161-2 P.L.47	石器 石鏃	A区 As-C混下	2.0	1.7	0.4	1.05	黒曜石	凹器無茎。	完形
161-3 P.L.47	石器 石鏃	D区 As-C混	1.5	1.2	0.25	0.24	黒曜石	凹器無茎。	完形
161-4 P.L.47	石器 石鏃	C区 As-C混	(2.1)	2.0	0.35	1.00	黒曜石	凹器無茎。先端部を欠損。	3/4

## 5、計測表

(1) 下阿内前田遺跡 As-B下水田計測表 (第44表)

調査区	区画No	面積(m <sup>2</sup> )	長軸(m)	短軸(m)	田面の 高低差	水口の 有無	畦の様子		備考(重複関係等)
							高さ(m)	幅(m)	
A-2	1	(6.4)	(8.0)	(6.8)	0.04		0.01~0.04	0.44~0.86	
	2	(12.8)	(5.8)	(3.4)	0.03		0.02~0.04	0.26~0.66	
	3	(6.1)	(4.3)	(1.5)	0.03		0.00~0.01	0.28~0.66	
A-6	4	(21.6)	(5.5)	(4.2)	0.05		-	0.52~0.96	
	5	(24.6)	5.8	(4.4)	0.03		0.02~0.03	0.52~1.30	
	6	(35.1)	9.4	(4.4)	0.03		0.01~0.02	0.52~1.54	
	7	(39.0)	(9.3)	(3.2)	0.10		0.01~0.03	0.42~(2.10)	
A-3	8	(5.8)	(6.5)	(1.2)	0.02		0.01~0.03	0.52~0.84	
	9	(7.5)	(3.7)	(2.0)	0.01		0.01~0.04	0.34~0.62	
	10	(5.7)	4.9	(1.3)	0.00		0.00~0.01	0.40~0.90	
	11	(13.7)	8.0	(2.0)	0.01		0.01~0.02	0.34~0.56	
	12	(10.8)	10.3	(1.2)	0.06		0.01~0.02	0.20~0.58	
	13	(18.3)	9.0	(2.3)	0.02		0.01~0.02	0.40~0.94	
	14	(4.8)	12.3	-	0.01		0.01~0.02	0.35~0.78	
	15	(12.7)	7.0	(2.0)	0.05	○	0.01~0.03	0.40~1.10	
	16	(32.2)	12.2	(2.1)	0.02		0.02~0.06	0.52~1.04	
	17	(0.4)	1.6	-	-		0.00~0.01	0.40~0.42	
	18	(6.6)	3.4	2.6	0.04	○	0.02~0.05	0.72~1.04	
	19	(1.1)	2.9	-	0.01		0.02~0.03	0.42~0.72	
	20	(15.5)	5.6	(2.7)	0.05	○	0.03~0.04	0.62~1.24	
	21	(3.3)	(2.0)	(1.8)	0.02		0.02~0.04	0.32~0.75	
A-7	22	(5.9)	(2.4)	(1.8)	0.00		-	1.04~1.46	
	23	(11.2)	(5.2)	2.3	0.02		-	1.12~1.50	
	24	(23.0)	(6.1)	4.5	0.06		0.00~0.03	0.72~1.42	
	25	(63.7)	10.3	(6.4)	0.04		0.00~0.01	0.38~1.38	
A-8	26	(14.3)	6.9	(3.6)	0.04		0.02~0.03	0.38~(2.84)	
	27	(16.0)	(4.2)	(3.0)	0.03		-	0.36~(2.14)	
A-4	28	(1.5)	-	-	0.04		0.01~0.02	0.40~0.74	
	29	(6.2)	(3.0)	(2.5)	0.01		0.02~0.04	0.62~0.80	
	30	(17.8)	7.0	(2.1)	0.05	○	0.03~0.05	0.74~0.81	
	31	(12.1)	6.2	(1.4)	0.03		0.01~0.03	0.62~0.92	
	32	(2.7)	-	-	0.05		0.03~0.06	0.30~0.92	
	33	(8.3)	(3.7)	(2.7)	0.04		0.00~0.02	0.86~1.10	
A-9	34	(26.8)	(6.0)	(4.7)	0.04		0.02~0.03	0.78~1.50	
	35	(1.4)	-	-	-		-	0.74~1.34	
	36	(4.6)	3.1	-	0.00		0.00~0.06	0.48~0.82	
	37	(18.3)	(6.6)	3.7	0.09		0.00~0.05	0.40~1.48	
	38	(53.2)	(7.9)	(5.8)	0.05		0.01~0.03	1.10~(1.86)	
B-1	39	(17.8)	(8.7)	(2.2)	0.01	○	0.00~0.03	0.40~0.76	
	40	(8.5)	(3.3)	(2.0)	0.05		0.00~0.05	0.54~0.76	
	41	(3.3)	(2.5)	1.9	-	○	0.00~0.02	0.46~0.74	
	42	(9.6)	4.4	(2.3)	0.02		0.00~0.01	0.44~0.80	
	43	(17.9)	7.4	(2.7)	0.03		0.00~0.05	1.06~1.26	
	44	(17.9)	7.5	(2.5)	0.03		0.01~0.04	0.44~0.66	
	45	(26.2)	13.1	(1.9)	0.05	○	0.00~0.01	0.34~0.94	B-4区に同一区画あり
	46	(26.6)	11.5	(2.4)	0.06	○	-	0.32~0.40	B-4区に同一区画あり
B-3	47	(24.8)	(5.9)	4.6	0.02	○	0.02~0.03	0.30~0.84	
	48	(37.1)	6.3	(5.2)	0.03		0.03~0.05	0.30~1.32	
	49	(25.5)	(5.7)	4.5	0.02		0.00~0.03	0.54~0.80	
	50	(39.8)	7.8	(5.3)	0.05	○	0.00~0.04	0.42~0.70	B-4区に同一区画あり
	51	25.2	9.0	2.3	0.03	○	0.01~0.03	0.32~0.56	B-4区に同一区画あり
	52	(27.6)	11.3	(2.3)	0.01		0.00~0.03	0.44~0.88	B-4区に同一区画あり
B-2	53	(18.7)	7.6	(2.0)	0.04		0.01~0.04	0.56~0.68	
	54	(8.3)	4.8	(1.7)	-		0.00~0.02	0.36~0.64	
	55	(5.2)	3.3	(1.8)	0.02		0.01~0.02	0.42~0.75	

## 第3節 検出された遺構と遺物

調査区	区画No	面積(m <sup>2</sup> )	長軸(m)	短軸(m)	田面の 高低差	水口の 有無	畦の様子		備考(重複関係等)
							高さ(m)	幅(m)	
B-2	56	(14.1)	6.7	(1.6)	0.08		0.00~0.03	0.58~1.12	
	57	(17.1)	(10.4)	(1.6)	0.01		—	0.42~0.66	
	58	(7.1)	(4.5)	(1.0)	0.04		—	0.58~1.10	
B-4	59	(20.1)	5.4	(4.1)	0.04	○	0.01~0.03	0.30~0.84	
	60	13.2	4.3	2.9	—		—	0.42~0.91	
	61	(6.9)	(3.2)	2.1	—	○	0.01~0.02	0.31~0.62	
	62	(20.8)	4.8	(3.8)	0.03	○	0.02~0.03	0.28~0.74	
	63	23.1	6.0	3.8	0.01	○	0.01~0.02	0.28~0.88	
	64	(19.7)	6.2	(3.4)	0.03	○	—	0.20~0.58	
	65	(17.2)	4.5	(3.6)	0.02	○	0.01~0.02	0.34~0.70	
	66	46.1	9.4	4.2	0.01	○	0.01~0.03	0.38~0.72	
	67	(33.8)	10.2	(3.3)	0.02	○	0.01~0.02	0.34~0.72	
	68	(13.2)	(5.9)	(3.2)	0.05	○	0.00~0.01	0.32~0.64	
	69	(11.5)	7.4	(1.3)	0.04		—	0.34~0.64	B-5区に同一区画あり
	70	42.1	17.1	2.3	0.03	○	0.00~0.01	0.48~0.94	B-5区に同一区画あり
71	24.1	6.0	4.0	0.03		—	0.30~1.06	B-5区に同一区画あり	
72	(31.0)	9.9	(3.0)	0.01		—	0.24~1.08	B-5区に同一区画あり	
B-5	73	(20.2)	(10.4)	(1.9)	0.03	○	0.00~0.01	0.32~0.70	
	74	54.6	11.2	5.2	0.02		0.01~0.02	0.26~0.92	
	75	(20.8)	6.2	(3.3)	0.04		—	0.36~0.78	
B-6	76	(36.9)	14.7	(2.4)	0.04	○	0.02~0.03	0.38~0.70	
	77	77.0	9.7	8.3	0.04	○	0.01~0.07	0.38~1.00	
	78	(46.3)	(10.1)	(4.1)	0.03	○	0.02~0.04	0.38~0.80	
	79	47.9	9.0	5.0	0.05	○	0.01~0.05	0.40~1.00	
	80	(29.2)	6.4	(4.4)	0.06	○	0.01~0.02	0.40~0.64	
	81	(11.5)	4.9	(2.7)	—	○	0.00~0.01	0.32~0.50	
	82	13.5	5.3	3.1	0.01	○	—	0.28~0.74	
	83	29.2	6.0	5.3	0.06	○	0.01~0.02	0.22~0.62	
	84	(111.6)	17.4	(5.2)	0.04	○	0.00~0.01	0.20~0.75	
	85	(87.8)	13.9	(6.3)	0.03	○	0.01~0.02	0.32~0.62	
	86	48.5	12.3	3.6	0.04	○	0.02~0.04	0.23~0.60	
	87	(29.5)	(7.7)	(3.5)	0.01		0.01~0.02	0.28~0.60	
88	(27.3)	5.5	(5.0)	0.02		0.00~0.02	0.28~0.60		
89	(39.4)	(7.2)	(6.6)	0.03		0.01	0.22~0.74		
B-7	90	(53.7)	(9.4)	(6.0)	0.02		0.02~0.03	0.63~1.10	
	91	(23.8)	6.1	(4.4)	0.05		—	0.74~1.26	
	92	(19.1)	(4.7)	4.3	0.02		0.02	0.34~0.80	
	93	(8.7)	(4.0)	(1.5)	0.01		0.00~0.01	0.38~0.96	
	94	(100.6)	12.3	(7.5)	0.09		0.03~0.06	0.60~1.12	
	95	76.0	12.5	6.0	0.06		0.01	0.38~0.76	
	96	(58.7)	(14.2)	(3.0)	0.05		0.00~0.01	0.36~0.90	
	97	(53.2)	(13.5)	4.0	0.02		0.01~0.04	0.54~0.78	
	98	(91.4)	(15.0)	6.0	0.03		0.01~0.03	0.47~0.86	B-8区に同一区画あり
	99	(32.9)	7.7	(3.5)	0.05		0.01~0.05	0.50~0.90	
100	(9.3)	(8.2)	—	0.04		0.02~0.04	0.52~0.94		
B-8	101	(102.1)	(14.7)	(7.8)	0.03		0.01~0.02	0.50~1.26	
	102	(323.6)	(45.0)	9.0	0.04		0.01~0.06	0.56~0.92	
	103	(189.7)	(31.5)	(9.0)	0.02		0.01~0.05	0.56~1.34	
	104	(98.6)	19.8	(1.9)	0.01		0.01~0.03	0.46~1.16	
	105	(4.1)	3.0	(1.4)	0.04		—	0.88~1.42	
	106	(2.2)	—	—	—		0.03	0.52~0.84	
	107	76.6	12.2	6.8	0.03		0.00~0.03	0.90~1.15	
	108	(37.0)	13.2	(2.0)	0.05		0.01~0.05	0.90~1.18	
	109	(36.4)	(9.4)	(4.0)	0.03		—	0.38~0.62	
	110	(42.4)	10.8	3.3	0.01		0.01	0.38~0.88	
	111	(2.9)	—	—	0.06		—	0.52~0.64	
B-9	112	(23.8)	(5.9)	4.8	0.03		0.01~0.02	0.52~1.08	
	113	(9.6)	(5.0)	1.8	0.02	○	0.00~0.01	0.56~1.06	
	114	(41.2)	7.6	(5.4)	0.04		0.01	0.74~1.32	
	115	(74.8)	9.8	(7.3)	0.07	○	0.01~0.02	0.82~1.30	

第4章 下阿内前田遺跡の調査

調査区	区画No.	面積(m <sup>2</sup> )	長軸(m)	短軸(m)	田圃の 高低差	水口の 有無	畦の様子		備考(重複関係等)
							高さ(m)	幅(m)	
B-9	116	52.9	10.5	5.0	0.02	○	0.1	0.68~1.22	B-10区に同一区画あり
B-10	117	(56.2)	(11.2)	(5.0)	0.03		0.04~0.06	0.68~1.16	
	118	(92.1)	(13.6)	6.3	0.06	○	0.01~0.02	0.66~1.23	
	119	(85.2)	13.2	(5.0)	0.05		0.04~0.08	0.60~1.40	
	120	42.6	8.8	5.3	0.05		0.01	0.60~1.52	
	121	31.5	7.0	5.0	0.04		0.01	0.42~1.68	
C-1	122	(120.5)	(17.0)	(7.0)	0.05		0.01~0.03	0.72~1.00	
	123	(95.5)	(13.8)	(8.0)	0.03		0.01~0.02	0.82~1.14	
	124	(10.1)	(5.8)	(1.8)	0.04		0.02	0.72~0.92	
	125	(270.5)	22.5	12.0	0.11		0.00~0.02	0.72~0.92	
	126	(208.7)	(19.5)	(9.5)	0.11		0.01	0.68~1.10	
	127	(12.0)	(4.0)	(1.7)	0.10		0.00~0.02	0.70~0.90	
	128	(33.2)	(7.2)	(5.6)	0.02		0.01~0.03	0.68~0.90	
	129	(56.8)	(11.4)	(4.7)	0.02		0.01~0.04	0.62~0.82	
	130	(49.1)	(7.5)	(5.1)	0.03		0.01~0.04	0.66~0.82	
	131	(10.6)	(3.5)	(2.3)	0.03		0.01	0.66~0.76	C-2区に同一区画あり
	132	(88.4)	(10.9)	8.7	0.05		0.02~0.05	0.64~0.86	C-2区に同一区画あり
C-2	133	(197.1)	(20.2)	9.7	0.08		0.01~0.03	0.66~0.98	
	134	(75.2)	10.5	8.0	0.03		0.03~0.04	0.68~0.90	
	135	(50.0)	(8.7)	3.6	0.02		0.01~0.03	0.70~0.92	
	136	(13.8)	6.6	(1.9)	0.03		0.01~0.02	0.86~0.98	
	137	71.8	9.6	6.4	0.04		0.01~0.04	0.66~0.98	
	138	(8.9)	-	-	-		-	0.86~0.90	
	139	(84.5)	(13.5)	(6.6)	0.10		0.00~0.03	0.64~0.90	
	140	(64.8)	(9.0)	(6.8)	0.04		0.01~0.04	0.68~0.96	D-1区に同一区画あり
	141	130.2	12.3	9.0	0.06		0.02~0.03	0.62~1.24	D-1区に同一区画あり
	142	172.3	17.5	12.7	0.07		0.02	0.70~1.04	D-1区に同一区画あり
D-1	143	(4.8)	(2.5)	(1.6)	0.01		0.01~0.02	0.98~1.12	
	144	(47.9)	10.9	4.3	0.01		0.02	0.80~1.12	
	145	(114.8)	11.0	9.7	0.07		0.02	0.80~1.14	
	146	(112.7)	15.8	(7.3)	0.05		0.01~0.04	0.70~0.94	
	147	(49.5)	(7.1)	(6.2)	0.02		0.01~0.04	0.80~0.92	
	148	(97.3)	10.3	(9.8)	0.04		0.01	0.60~1.12	
	149	(54.8)	(9.7)	(4.9)	0.06		-	0.58~0.94	
	150	(43.2)	(7.6)	(4.0)	0.04		0.01~0.02	0.72~1.16	
D-2	151	(35.8)	(7.3)	(5.0)	0.03		0.01~0.03	0.56~2.26	
	152	(35.4)	9.5	(8.0)	0.08		0.01~0.02	0.54~0.84	
	153	(119.2)	(14.1)	(8.5)	0.05		0.01~0.04	0.70~1.00	
	154	(2.5)	(2.2)	(1.1)	-		0.00~0.03	0.78~2.28	
	155	36.9	10.1	3.2	0.03		0.01~0.02	0.62~1.06	
	156	25.4	9.5	3.2	0.04		0.01~0.03	0.64~0.84	
	157	62.5	10.8	6.0	0.03		0.02~0.04	0.66~0.98	
	158	16.8	6.5	2.5	0.03		0.01~0.03	0.70~0.86	
	159	(7.4)	(3.8)	(1.8)	0.01		0.00~0.01	0.72~0.86	
	160	(33.2)	(8.7)	(4.3)	0.04		0.00~0.01	0.66~1.12	
	161	(64.4)	13.7	(4.6)	0.04		0.01~0.02	0.74~1.14	
	162	(15.4)	(4.2)	(2.9)	0.03		0.00~0.03	0.70~0.94	



## (2) 下阿内前田遺跡 As-C混土上水田計測表 (第45表)

調査区	区画No	面積(m <sup>2</sup> )	長軸(m)	短軸(m)	田面の高低差	水口の有無	堀の様子		備考(重複関係等)
							高さ(m)	幅(m)	
E区	1	(18.2)	(6.1)	(4.2)	0.02		0.01~0.03	0.55~1.15	
	2	(8.1)	(3.8)	(1.8)	0.02		0.01~0.03	0.85~1.15	
	3	(42.2)	(8.8)	6.8	0.02		0.01~0.03	0.50~1.40	
	4	(13.3)	3.9	(1.8)	0.03		0.01~0.03	0.55~1.40	
	5	(15.8)	(8.8)	(1.6)	0.02		0.01~0.03	0.50~0.62	
	6	(32.7)	(3.9)	(3.5)	0.03		0.01~0.02	0.59~0.80	
	7	(2.2)	—	—	—		—	0.65~0.85	

## (3) 下阿内前田遺跡C区ビット計測表 (第46表)

番号	位置(グリッド)	形状	長軸方位	規模(長さ・幅・深さ)	埋設土	時期	出土遺物	備考(重複関係等)
1	13D-1	円形	—	0.40×0.45×0.10	As-C混土	古墳時代	なし	
2	13C・D-1	円形	—	0.45×0.30×0.12	As-C混土	古墳時代	なし	
3	14C・D-19	楕円形	N-50°-E	0.40×0.30×0.11	As-C混土	古墳時代	なし	
4	14B-19	円形	—	0.45×0.30×0.08	As-C混土	古墳時代	なし	
5	14B-19	円形	—	0.40×0.40×0.19	As-C混土	古墳時代	なし	
6	14A-19	円形	—	0.30×0.30×0.08	As-C混土	古墳時代	なし	
7	16S-18	円形	—	0.55×0.55×0.20	As-C混土	古墳時代	なし	
8	16R-19	円形	—	0.55×0.50×0.13	As-C混土	古墳時代	なし	
9	16R-19	円形	—	0.50×0.35×0.15	As-C混土	古墳時代	なし	
10	16Q-15	円形	—	0.30×0.35×0.06	As-C混土	古墳時代	なし	
11	13・14B-20・1	不整形	—	2.40×1.50×0.18	As-C混土	古墳時代	なし	
12	13M・N-2	円形	—	0.40×0.30×0.10	As-C混土	古墳時代	なし	
13	13M-2	円形	—	0.40×0.30×0.12	As-C混土	古墳時代	なし	
14	13K-1	円形	—	0.30×0.30×0.09	As-C混土	古墳時代	なし	
15	13J-1	円形	—	0.30×0.30×0.08	As-C混土	古墳時代	なし	
16	13J-1	楕円形	—	0.40×0.35×0.13	As-C混土	古墳時代	なし	
17	13・14I-1・20	楕円形	—	0.25×0.25×0.10	As-C混土	古墳時代	なし	
18	13H・I-1	楕円形	—	0.30×0.30×0.05	As-C混土	古墳時代	なし	
19	13H・I-20	楕円形	N-0°	1.00×0.50×0.17	As-C混土	古墳時代	なし	
20	13H-1	楕円形	N-0°	0.25×0.30×0.08	As-C混土	古墳時代	なし	
21	14G・H-20	円形	—	0.50×0.40×0.15	As-C混土	古墳時代	なし	

## (4) 下阿内前田遺跡D区ビット計測表 (第47表)

番号	位置(グリッド)	形状	長軸方位	規模(長さ・幅・深さ)	埋設土	時期	出土遺物	備考(重複関係等)
1	13T-8	円形	—	0.75×0.75×0.11	As-C混土	古墳時代	なし	
2	13S-8	円形	—	0.75×0.50×0.39	As-C混土	古墳時代	なし	
3	13R-5	円形	—	0.50×0.55×0.14	As-C混土	古墳時代	なし	
4	13R-6	円形	—	0.60×0.40×0.09	As-C混土	古墳時代	なし	
5	13O-6	円形	—	0.30×0.30×0.10	As-C混土	古墳時代	なし	
6	13L-6	円形	—	0.38×0.28×0.12	As-C混土	古墳時代	なし	
7	13J-5	円形	—	0.40×0.35×0.16	As-C混土	古墳時代	なし	
8	13J-4	円形	—	0.28×0.20×0.10	As-C混土	古墳時代	なし	

# 第 5 章

## 自然科学分析



下阿内宅町畑遺跡1区 1号土坑墓実測風景（北東より）

## 第1節 下阿内町畑遺跡1号土坑墓出土人骨

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

橋崎修一郎

はじめに

下阿内町畑遺跡は、群馬県前橋市新堀町・下阿内町に位置し、平成10(1998)年6月1日より12月31日まで(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により調査された。今回、報告する出土人骨は、平成10(1998)年7月27日に1区の1号土坑墓より発見されている。伴出遺物は、土坑内より漆器が1点、土坑墓の直上より須恵器坏2点の合計3点が発見されている。時代は、出土遺物の内の一つである須恵器坏より10世紀の平安時代に比定されている。人骨は、歯の歯冠部のみしか出土しておらず、非常に保存状態は悪いが、水洗後、可能な限り破片を接着して復元を試みた。以下に、出土人骨について報告する。

なお、歯の計測は、藤田(1949b)に従った。また、歯の比較データは、古代人のは MATSUMURA(1995)を用い、現代人のは榎田(1959)を用いた。

## 1. 人骨の出土状況

人骨は、長径約1m、幅約60cm、深さ約30cmの土坑墓より出土している。



写真1：人骨(歯)出土状況  
(北から)

## 2. 出土人骨の残存状況

すべて、歯の歯冠部のみである。全部で、16本出土している。以下に、残存表及び、残存図を示した。

		上 顎															
右								左									
		M1	P2	P1	C	I2							C	P1	P2	M1	M2
		M3	M2	M1	P2							M1	M2				
右								左									
		下 顎															

3. 頭位及び埋葬形態

頭位は、歯の出土状況より、北向きである。また、歯しか出土していないが、埋葬形態は土坑墓の形状及び大きさより伸展葬ではなく、屈葬であったと推定される。さらに、歯には火を受けた痕跡が見られないため、火葬ではなく、土葬であったと推定される。このことは、歯がまとまった箇所から出土していることから裏付けられる。

4. 被葬者の個体数

歯の歯冠部に、重複部位が認められないことより、被葬者の個体数は1体と考えられる。このことは、土坑墓の大きさからも裏付けられる。

5. 被葬者の性別

歯の歯冠部計測値より、歯の大きさは全体的に小さく、女性である可能性が高い。

6. 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗は、エナメル質のみであり象牙質にまでは達しておらず、咬耗度は、16本の歯すべてがブローカ(BROCA)の1度である。そのため、被葬者の死亡年齢は、成人で、約21歳から30歳と推定される。さらに、下顎右第3大臼歯の咬耗がほとんどないため、この第3大臼歯は萌出して間もない時期と推定されるので、約21歳から25歳と推定される。

7. 歯の病変

俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は、16本の歯の歯冠部には認められなかった。また、歯石も認められなかった。

まとめ

下阿内宅町畑遺跡から、16本の歯の歯冠部が出土した。出土人骨は、10世紀の平安時代の1区1号土坑墓より発見されたが、頭位を北向きにした屈葬で土葬により埋葬されたと推定される。被葬者は、死亡年齢約21歳から25歳の成人女性1体である。時代の推定は、平安時代出土人骨の例数がほとんどないため比較資料がなく、特定できない。

謝辞

本出土人骨を記載する機会を与えていただき、出土人骨に関する様々な情報をいただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の今井和久氏に感謝します。

参考文献及び引用文献 (ABC順)

藤田恒太郎 1965 『歯の話』、岩波書店

藤田恒太郎 1949 a 『歯の解剖学』、金原出版

藤田恒太郎 1949 b 歯の計測規準について、『人類学雑誌』、61: 1-6,

権田和良 1959 歯の大きさの性差について、『人類学雑誌』、67: 151-163,

上條雍彦 1962 『日本人永久歯解剖学』、アナトーム社

MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology. National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum.

白水美輝雄・中村正雄・古橋九平 1970 『歯の形態学』、医歯薬出版

TURNER II, Christy G., NICHOL, Christian R., SCOTT, G.Richard 1991 Scoring procedures for key morphological traits of the permanent dentition: Arizona State University Dental Anthropology System (KELLEY, Marc A. & LARSEN, C Lark Spencer eds.), Advances in Dental Anthropology, Wiley-Liss, pp.13-31.

表1：出土歯の計測値及び比較

歯種	本資料				鎌倉時代人*				江戸時代人*				現代日本人**				
					男性		女性		男性		女性		男性		女性		
	MD		B L		MD	B L	MD	B L	MD	B L	MD	B L	MD	B L			
	右	左	右	左													
上顎	I 2	7.0	×	-	×	6.98	6.55	6.85	6.26	7.16	6.74	6.97	6.33	7.13	6.62	7.05	6.51
	C	7.6	-	8.0	-	7.96	8.50	7.43	7.94	8.01	8.66	7.60	8.03	7.94	8.52	7.71	8.13
	P 1	-	7.4	-	10.0	7.25	9.46	7.02	9.03	7.41	9.67	7.23	9.33	7.38	9.59	7.37	9.43
	P 2	6.4	6.9	8.6	9.0	6.87	9.39	6.69	8.88	7.00	9.55	6.82	9.29	7.02	9.41	6.94	9.23
	M 1	11.0	-	11.4	11.6	10.45	11.81	10.09	11.30	10.61	11.87	10.18	11.39	10.68	11.75	10.47	11.40
	M 2	×	-	×	-	9.65	11.72	9.42	11.19	9.88	12.00	9.48	11.52	9.91	11.85	9.74	11.31
下顎	P 2	6.2	×	7.1	×	7.12	8.49	7.00	8.06	7.45	8.68	7.12	8.30	7.42	8.53	7.29	8.26
	M 1	11.2	11.4	11.4	10.5	11.56	11.00	11.06	10.49	11.72	11.15	11.14	10.62	11.72	10.89	11.32	10.55
	M 2	9.8	10.2	9.0	9.2	11.06	10.55	10.65	9.97	11.39	10.75	10.78	10.21	11.30	10.53	10.89	10.20
	M 3	9.4	×	9.2	×	-	-	-	-	-	-	-	-	10.96	10.28	10.65	10.02

註1：計測値の単位は、すべてmmである。

註2：「×」は、その歯が出土していないことを示す。「-」は、その歯が出土しているが、破損により計測が不可能であることを示す。

註3：歯種は、それぞれ、I 2（第2切歯）・C（犬歯）・P 1（第1小白歯）・P 2（第2小白歯）・M 1（第1大白歯）・M 2（第2大白歯）・M 3（第3大白歯）を意味する。

註4：MD（歯冠近遠心径）・B L（歯冠唇舌径）を意味する。

註5：比較用データは、\*Matsumura (1995)、\*\*榎田 (1959) より引用。なお、Matsumura (1995) には、第3大白歯のデータは、含まれていない。

第5章 自然科学分析

表2：出土歯の非計測的形質

上下	歯種	左右	観察項目	観察結果	備考
上	I 2	右	シャベル型	3度	Turner・Nichol・Scott (1991)による
			棘突起	破損により観察不能	
			盲孔	破損により観察不能	
	C	右	犬歯結節	無し	
		左	犬歯結節	無し	
	P 1	右	中心結節	無し	
			介在結節	無し	
	P 1	左	中心結節	無し	
			介在結節	無し	
	P 2	右	中心結節	無し	
			介在結節	無し	
	P 2	左	中心結節	無し	
			介在結節	無し	
	M 1	右	カラベリ結節	無し	
M 1	左	カラベリ結節	無し		
M 2	左	臼傍結節	無し		
下	P 2	右	中心結節	無し	
	M 1	右	屈曲隆線	無し	
		左	屈曲隆線	無し	
	M 2	右	臼傍結節	無し	
			咬合面の溝型	X 4	
	M 2	左	臼傍結節	無し	
			咬合面の溝型	X 4	
M 3	右	臼後結節	無し		

註1：歯種は、それぞれ I 2 (第2切歯)・C (犬歯)・P 1 (第1小臼歯)・P 2 (第2小臼歯)・M 1 (第1大臼歯)・M 2 (第2大臼歯)・M 3 (第3大臼歯)を意味する。

註2：Turner II, C.G., Nichol, C.R., Scott, G.R. (1991) Scoring procedures for key morphological traits of the permanent dentition, In Advances in Dental Anthropology (Kelley, M.A. & Larsen, C.S. eds.), Wiley-Liss, 13-31.

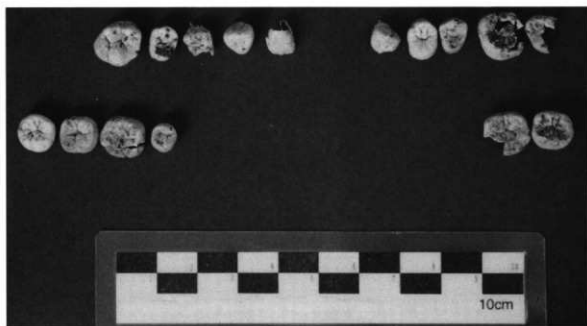


写真2：歯の咬合面観

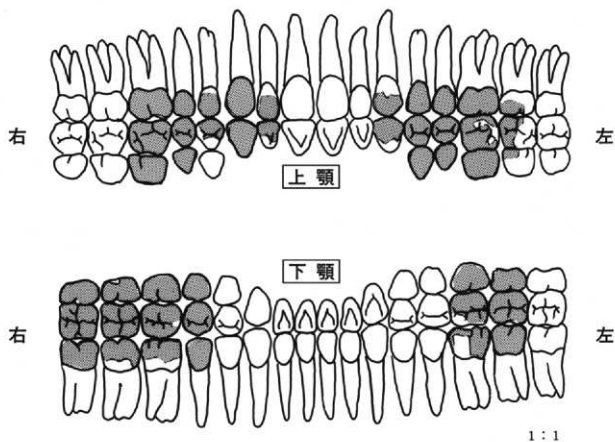


図2：出土歯の残存図

## 第2節 下阿内町畑遺跡1号土坑墓出土漆片付着木質の観察

バリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

下阿内町畑遺跡の1区1号土坑墓から出土した漆器は、木質部が失われていて漆片のみが皿の形状を保った状態であった。木地が付着していた部分を観察すると、保存状態は悪いが木地の一部が残存している様子が認められた。

本報告では、漆片に付着している木地の一部を観察し、種類を同定する。

### 1. 試料

試料は、1区1号土坑墓から出土した漆片2点である。2点の漆片は、同一個体の内面と外面の漆塗膜である。内面の一部を切り取って試料とした。

### 2. 方法

漆塗片をよく乾燥させた後、木地面が上面になるように試料台に固定し、走査型電子顕微鏡で表面の木質を観察し、種類を同定する。

### 3. 結果

木地は、漆塗膜の裏側に僅かに付着しているのみ。道管が認められることから広葉樹林と判断できる。道管は大型のものと小型のものがあり、大型の道管は接戦方向にほぼ一列で配列する。小型の道管の内壁にはらせん肥厚がかすかに認められる。

以上の特徴から、木地は広葉樹林で、環孔材の組織配列を有し、孔圍部はほぼ1列で、小道管にらせん肥厚を有する種類である。同様の形質を有する種類はいくつかあるが、漆器の木地であることを考慮すると、ニレ科の落葉広葉樹のケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) の可能性が高い。

### 4. 考察

1区1号土坑墓から出土した漆器は、木地にケヤキを利用していた可能性がある。これまで県内で行われた調査では、ブナ属やトチノキが比較的多く出土しているが、ケヤキは漆器の木地としてはブナ属やトチノキよりも上等な部類に入る(農商務省山林局, 1912)。特徴としては、韌性があり薄手物に適するとされる(橋本, 1979)。したがって、ケヤキとブナ属やトチノキは同じ漆器でもランク等が異なっている可能性がある。

漆器については、塗塗りの方法にいくつかの種類があり、剥片作成・観察を行うことで塗りの工程が明らかにできる(岡田, 1995)。今後、県内から出土した漆器の塗塗りの手法についても観察を行い、樹種と塗塗りの関係についても検討したい。



図版1 下阿内壱町畑遺跡の漆片



1. 木質部分 (1区1号土坑墓)

200 $\mu$ m

50 $\mu$ m

引用文献

橋本鉄男 (1979) ものと人間の文化史31 ろくろ, 444p., 法政大学出版局.

農商務省山林局編 (1912) 木材ノ工藝的利用, 1308p., 大日本山林會.

岡田文男 (1995) 古代出土漆器の研究 一顕微鏡で探る材質と技法一, 190p., 京都書院.

## 第3節 下阿内前田遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

## I. 下阿内前田遺跡の土層とテフラ

## 1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、浅間、榛名、赤城など北関東地方とその周辺の火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を求めることで、地層の堆積年代や地形の形成年代を知ることができるようになっていく。そこで年代の不明な土層や遺構が検出された下阿内前田遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ分析を行って示標テフラの層位から土層や遺構の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、B区1号井戸壁面、B-9区39号溝セクション、B-2区大畦畔東地点の3地点である。

## 2. 地質層序

## (1) B区1号井戸壁面

B区1号井戸壁面では、下位より亜角礫を多く含む灰白色土（層厚30cm以上、礫の最大径74mm）、亜角礫を含む灰白色粘質土（層厚35cm、礫の最大径57mm）、粒径のよく揃った灰色粗粒火山灰層（層厚29cm）、若干灰色がかかった黄色砂質土（層厚17cm）、暗灰色土（層厚7cm）、灰白色軽石混じり暗灰色土（層厚4cm、軽石の最大径2mm）、白色軽石混じりで黄色がかかった灰色土（層厚7cm、軽石の最大径3mm）、黒灰色土（層厚5cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚2cm以上）が認められる（図1）。

これらのうち灰色粗粒火山灰層は、その層相から約1.3~1.4万年前<sup>\*)</sup>に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992）に同定される。また、最上位の黄灰色粗粒火山灰層は、層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979）に同定される。

## (2) B-9区39号溝セクション

B-9区39号溝の覆土は、下位より暗灰色土（層厚24cm）、灰色粗粒火山灰に富む灰色砂質土（層厚5cm）、黒色土（層厚7cm）、白色軽石混じり灰色土（層厚8cm、軽石の最大径7mm）、黒灰色土（層厚5cm）、成層したテフラ層（層厚3.2cm）、黄褐色砂質土（層厚3cm）、灰褐色粗粒火山灰混じり灰色土（層厚12cm）、灰白色軽石混じり灰褐色土（層厚13cm、軽石の最大径4mm）からなる（図2）。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より灰色粗粒火山灰（層厚0.2cm）と基底部に灰褐色軽石（最大径5mm）を含む灰色粗粒火山灰層（層厚3cm）からなる。このテフラ層は、その層相からAs-Bに同定される。

## (3) B-2区大畦畔東地点

B-2区大畦畔東地点では、白色軽石混じり灰色土（層厚7cm、軽石の最大径7mm）、黒色土（層厚4cm）、成層したテフラ層（層厚4cm）、灰褐色土（層厚14cm）が認められる（図3）。

### 第3節 下阿内前田遺跡における自然科学分析

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より灰色粗粒火山灰（層厚0.2cm）と基底部に灰褐色軽石（最大径5mm）を含む黄灰色粗粒火山灰層（層厚1cm）、褐色粗粒火山灰層（層厚0.8cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）からなる。このテフラ層も、その層相からAs-Bに同定される。ここでは、このAs-Bの直下から畦畔遺構が検出されている。

#### 3. テフラ検出分析

##### (1) 分析試料と分析方法

B-9区39号溝セクションにおいて採取された試料のうち、7点についてテフラ検出分析を行い、テフラ粒子の特徴およびテフラの降灰層準の把握を行った。分析の手順は、次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や特徴を観察。

##### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。B-9区39号溝セクションでは、試料5以上の試料から軽石粒子が検出された。試料5や3には、白色や灰白色の軽石が比較的多く含まれている。前者の軽石の最大径は1.8mmで、班晶には角閃石や斜方輝石が認められる。この軽石については、その特徴から、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳決川テフラ（Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992）に由来すると考えられる。また後者の軽石の最大径は1.1mmで、班晶には斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石については、その特徴から4世紀中葉\*に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979）に由来すると考えられる。

このことから、B区1号井戸壁面の灰色土や、B-2区大畦畔東地点の灰色土中に含まれる軽石も、Hr-FAやAs-Cに由来すると考えられる。なお、これらの軽石を含む土層は、奈良・平安時代の土層片が含まれていることから、層相を合わせ、奈良・平安に発生した洪水堆積物を主な母材として形成された土層の可能性が考えられている。

試料1には、光沢をもつ灰白色軽石や淡褐色軽石が多く含まれている。前者の軽石の最大径は2.9mmで、班晶には斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石については、その特徴から、1783（天明3）年に浅間火山から噴出した浅間A軽石（As-A, 荒牧, 1968, 新井, 1979）に由来すると可能性が高い。また後者の軽石の最大径は2.3mmで、班晶には斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石については、その特徴からAs-Bに由来すると考えられる。

#### 4. 屈折率測定

##### (1) 測定試料と測定方法

B-9区39号溝セクションにおいて、発掘調査担当者によりテフラの降灰層準の可能性が指摘された層準から採取された試料7に含まれるテフラ粒子について、温度一定型位相差法（新井, 1972, 1993）により屈折率の測定を行い、示標テフラとの同定を試みた。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。試料7には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率( $\gamma$ )は、1.705-1.710である。重鉱物の組み合わせや斜方輝石の屈折率は、この試料に浅間火山に由来するテフラ粒子が含まれていることを示唆している。対比されるテフラとしては、As-Cの可能性がもっとも高いと思われる。したがって、試料7付近にAs-Cの降灰層準があり、B-9区39号溝の構築がAs-C降灰前に行われた可能性が指摘される。

ただし、B-9区39号溝セクションが凹地にあり、テフラにとって比較的良好な保存条件をもつにもかかわらず、As-Cに特徴的な軽石の明確な濃集層準は認められず、分析でも軽石粒子は検出されなかった。したがって、総合的に判断すると、B-9区39号溝セクションの試料7付近にAs-Cの降灰層準があると明言できない状況にある。とくに、As-CやHr-FA起源の粒子を含む土層が、奈良平安時代に発生した洪水堆積物を主な母材と考えられているにもかかわらず、その下位の土層中からこれらのテフラに由来する軽石粒子が検出されなかったことは、この溝の構築がHr-FA降灰以後かなり時間が経過した後に行われた可能性が残されているように思える。さらに、年代が明らかな他の遺構との関係などから、B-9区39号溝の年代について検討されることが望まれる。

5. 小結

下阿内前田遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、および屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前\*)、浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、浅間A軽石(As-A, 1783年)の降灰層準を検出することができた。

\*1 放射性炭素( $^{14}\text{C}$ )年代。

\*2 西暦300年前後とする見方もある(友廣, 1987など)。

文献

新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年, 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.

新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究, 第四紀研究, 11, p.254-269.

新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層, 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.

新井房夫(1993)温度一定屈折率測定法, 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p.138-148.

荒牧重雄(1968)浅間火山の地質, 地団研専報, no.14, p.1-45.

町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス, 東京大学出版会, 276p.

坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器, 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.

早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害, 第四紀研究, 27, p.297-312.

友廣哲也(1988)古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石, 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.

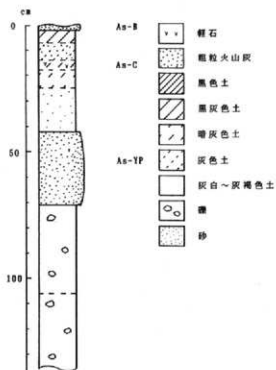


図1 B区1号井戸壁面の土層柱状図

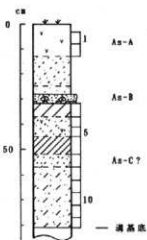


図2 B-9区39号溝セクションの土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

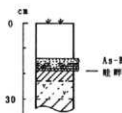


図3 B-2区2号大畦畔東地点の土層柱状図

表1 B-9区39号溝セクションにおけるテフラ抽出分析結果

試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
1	++++	灰白>淡褐	2.9, 2.3
3	++	白>灰	1.6, 1.1
5	++	白>灰白	1.8, 1.1
6	-	-	-
7	-	-	-
9	-	-	-
11	-	-	-

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度,  
+: 少ない, -: 認められない。最大径の単位は, mm.

表2 下阿内前田遺跡における屈折率測定結果

地点	試料	重鉱物	斜方輝石 ( $\gamma$ )
B-9区39号溝セクション	7	opx>cpx	1.705-1.710

屈折率の測定は, 温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993) による。opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石。

## II. 下阿内前田遺跡におけるプラント・オパール分析

### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（ $\text{SiO}_2$ ）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である（藤原・杉山, 1984）。

下阿内前田遺跡の発掘調査では、As-B直下から畦畔遺構が検出された。ここでは、同遺構における稲作の検証を主目的として分析を行った。

### 2. 試料

試料は、B-2区大畦畔東地点から採取された2点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

### 3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原, 1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに対し直径約40 $\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550°C・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキッ）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： $10^{-5}\text{g}$ ）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24である。

### 4. 分析結果

水田跡（稲作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。

### 5. 考察

#### (1) 水田跡の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探索を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

B-2区大畦畔東地点では、As-B直下層(試料1)とその下層(試料2)について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、試料2では密度が3,300個/gと比較的高い値である。試料1では、密度が2,900個/gとやや低い値であるが、同層は直上をテフラ層で覆われていることから上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

## (2) 堆積環境の推定

ヨシ属は比較的湿ったところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。おもな分類群の推定生産量によると、イネ以外ではヨシ属が卓越していることが分かる。

以上のことから、当時の調査地点周辺はヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。

## 6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、畦畔遺構が検出された浅間Bテフラ(As-B, 1108年)直下層ではイネが比較的多量に検出され、同層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、その下層でも稲作が行われていた可能性が認められた。当時の調査地点周辺はヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。

## 文献

- 藤原宏志(1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 一、考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二(1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査 一、考古学と自然科学, 17, p.73-85.

表1 群馬県、下阿内前田遺跡におけるプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位:  $\times 100$ 個/g)

分類群	学名	B-2区大畦畔東	
		1	2
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	29	33
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	21	13
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	50	13

推定生産量 (単位:  $\text{kg}/\text{m}^2\cdot\text{cm}$ )

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.84	0.98
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	1.36	0.84
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.62	0.17

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

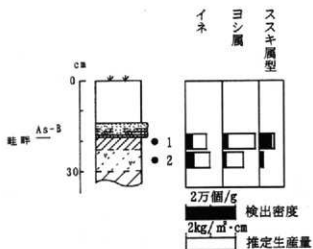


図1 下阿内前田遺跡B-2区大畦畔東におけるプラント・オパール分析結果



### III. 下阿内前田遺跡における花粉分析

#### 1. 試料

試料は、B-2区大陸群東地点から採取された2点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

#### 2. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村(1973)を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で籾などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈澱に石灰酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離(1500rpm、2分間)の後、上澄みを捨てるといった操作を3回繰り返して行った。検鏡は、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。

結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。

#### 3. 結果

##### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉14、草本花粉5、シダ植物胞子2形態の計21である。これらの学名と和名および粒数を表1に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を記す。

##### [樹木花粉]

モミ属、ツガ属、マツ属複雑維管束亜属、スギ、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属—アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属—ムクノキ

##### [草本花粉]

ガマ属—ミクリ属、イネ科、カヤツリグサ科、キク亜科、ヨモギ属

##### [シダ植物胞子]

単条溝胞子、三条溝胞子

##### (2) 花粉群集の特徴

試料1は、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、カヤツリグサ科、イネ科が優占する。他にヨモギ属、ガマ属—ミクリ属が出現する。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、シイ属、クマシデ属—アサダなどが低率に出現する。試料2は、花粉が極めて少なく、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、イネ科などが出現する。

## 4. 花粉分析からみた植生と環境

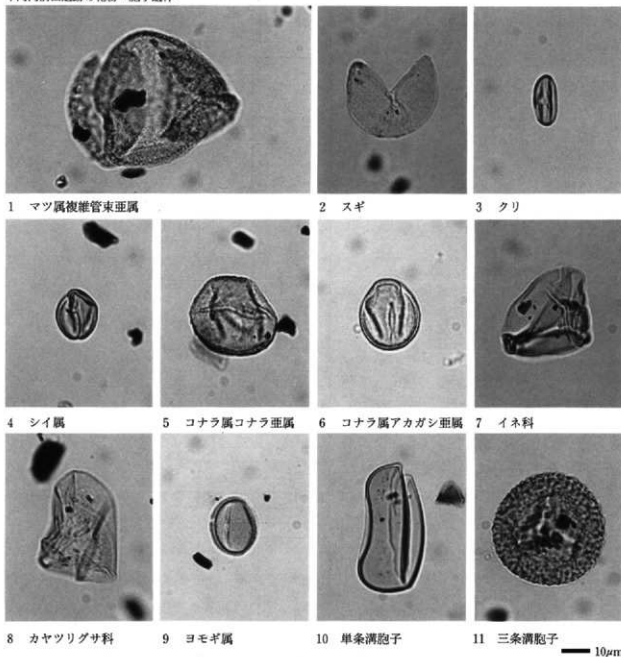
浅間Bテフラ (As-B, 1108年) 直下層の堆積当時は、カヤツリグサ科やイネ科などの草本が主に生育していたと推定される。カヤツリグサ科は生態上から抽水植物と考えられ、明らかな抽水植物であるガマ属—ミクリ属も見られることから、湿地から浅水域の環境が推定される。ヨモギ属は微高なやや乾燥したところに生育していたとみなされる。樹木は周囲には少なく、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、シイ属、クマシダ属—アサダなどが、孤立木かやや遠方で森林を形成していたと推定される。

表1 下阿内前田遺跡における花粉分析結果

学名	分類群	B-2区大睦畔東地点	
		1	2
Arboreal Pollen	樹木花粉		
Abies	モミ属	2	
Tsuga	ツガ属	1	
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複雑管東亜属	1	
Cryptomeria Japonica	スギ	3	
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科・イスガヤ科・ヒノキ科	1	
Alnus	ハンノキ属	2	1
Betula	カバノキ属	2	1
Carpinus-Ostrya japonica	クマシダ属—アサダ	5	1
Castanea crenata	クリ	2	2
Castanopsis	シイ属	4	1
Fagus	ブナ属	1	
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	7	4
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	12	2
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属—ムクノキ	1	
Nonarboreal pollen	草本花粉		
Typha-Sparganium	ガマ属—ミクリ属	3	
Gramineae	イネ科	29	4
Cyperaceae	カヤツリグサ科	61	
Asteroidae	キク亜科	1	
Artemisia	ヨモギ属	19	1
Fern spore	シダ植物胞子		
Monolate type spore	単条溝胞子	3	1
Trilate type spore	三条溝胞子	2	
Arboreal pollen	樹木花粉	44	12
Nonarboreal pollen	草本花粉	113	5
Total pollen	花粉総数	157	17
Unknown pollen	未同定花粉	3	1
Fern spore	シダ植物胞子	5	1
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)
	明らかな消化残渣	(-)	(-)



第5章 自然科学分析  
下阿内前田遺跡の花粉・孢子遺体



文献

中村純 (1973) 花粉分析. 古今書院, p.82-110.

金原正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p. 248-262.

島倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.

中村純 (1980) 日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.

中村純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.

中村純 (1977) 稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.

# 第 6 章

## ま と め



下阿内前田遺跡A区 As-B下水田1号大畦（北より）

## 第1節 As-B下水田跡と条里制地割りについて

### 1. As-B下水田について

#### (1) 面積について

下阿内老町畑遺跡の調査区の地形を等高線に注目して観察すると全体的に平坦ではあるが、北側の1区の微高地部分から2区へ向かい緩やかに傾斜し、3区中央部分から7区中央部分は低く、しかも高低差が少なくなる。そして、7区南東から8区と標高が緩やかに高くなっていく。以上のような地形の変化に即して、1区、2区、3区西側、7区南東側、8区の緩やかな傾斜地では、水田区画を中区画(約100~150m<sup>2</sup>)に造成し、3区東側、4区、5区、6区、7区西側では大区画(約150~300m<sup>2</sup>)に造成するという工夫が看取できた。特に、4区4号大畦と6区3号大畦間の水田では、300m<sup>2</sup>を超える広さの区画も確認された。このように、水田区画を緩やかな傾斜地では狭く、平坦地では広く造成するのは、各水田区画への水まわり(保水性)を良好にするための工夫であろうと想定される。このような水田区画の造成方法は、本遺跡の北側に接する西田遺跡(事業団調査)のAs-B下水田にも看取できた。

下阿内前田遺跡では、As-B軽石層の残存度が悪く、As-B下水田耕土まで後世の耕作等による削平が及んでいた。そのため、A・B・D区の一部とE区では、水田跡が検出できなかった。下阿内前田遺跡のAs-B下水田の区画を概観してみると、A区・B-1~7区D-2区では、小区画(約20~100m<sup>2</sup>)に、B-8~10区・C区・D-1区では、中~大区画(約100~300m<sup>2</sup>)に造成されていることが看取できた。このように、下阿内前田遺跡のAs-B下水田は、全体的には地形が北から南へ緩やかに傾斜しているが、所々に凹凸のある地形の起伏に応じて、区画を小~大区画に造成したものと想定される。

#### (2) 配水について

水田を造成するときに、各水田区画にいかん用水をスムーズに引き入れるかが重要になる。ところが、下阿内老町畑遺跡では、畦や水口は検出されたが、水田に伴う水路が確認できなかった。そこで、北側の西田遺跡のAs-B下水田の実測図を調べてみると、南北走行の3号大畦と5号大畦推定ライン上の北側に、水田に伴う水路が北から南への走行で検出されていることがわかった。また、東西方向の12号大畦推定ラインの約109m北側の西田遺跡の大畦の間には、西から東へ走行する水路が確認されている。このことから、下阿内老町畑遺跡1区では、西田遺跡の東西方向の大畦の間を西から東へ走行する水路から配水したと想定される。2~8区は、5号大畦推定ライン上の水路を北から南へ、12号大畦推定ライン上にあっと思われる水路を西から東へ流れてきた水を各水田区画に配水していたと想定される。

下阿内前田遺跡では、C・D区では、水路と思われる遺構は検出できなかったが、A・B区では、水田に伴う溝が計16条検出された。A区1号溝は、西から東へ(7号大畦北側)、北から南へ(1号大畦東側)の走行で、2号溝は、西から東へ(7号大畦南側)、北から南へ(1号大畦西側)の走行で確認された水路である。また、B区13号溝は、8号大畦の間で検出され、西から東へ走行する水路である。以上のように、下阿内前田遺跡のAs-B下水田では、大畦の間や間端を水路が走行しながら、配水していたことが看取できた。

このように、両遺跡のAs-B下水田の配水方法は、地形の変化に即して、まず北から南へ、次に西から東へ走行する水路によって、各水田区画へ配水していたと想定される。

## 2. 下阿内老町畑・下阿内前田遺跡の条里制地割りについて

## (1) 条里制について

大化2(646)年に律令制実施に伴い、公地公民制を基本とする班田收受法が施行され、民衆・土地の把握・管理が図られた。この法は、一定年齢に達したものに一定面積の土地(口分田)を与え租税を納めさせることを定めたもので、戸籍・計帳を作成することで具体化された。条里制は、この班田制を円滑に遂行するために施行され、班田の統一化・賦課均等化を目的とした古代における土地区画システムであり、一定の基準で土地を区画、利用しようとしたもので、新田開発並びに土地の再編成を促した。具体的には、1図のように、一辺の長さを大町とする方形の区画とし、南北を一条・二条・三条……、東西を一里・二里・三里……とし、さらにこの中を方一町を単位として1~36坪に区画している。これらの境界は道・畦・溝などによって示され、碁盤目状に区画された土地は何条何里何坪と表示することができる。また、条里制の一町を10段に分けるとき、図1のように「半折型」と「長地型」とがある。このように、条里制施行は方格地割りに基づく土地所在表示のシステムであり、その主たる目的は、土地管理・租税徴収にあったと考えられる<sup>1)</sup>。

## (2) 条里制地割りと小字名

前橋台地における条里制地割りは、現在の道路区画からも読み取れ、堀気川の台地への流入地点を起点にしてほぼ碁盤目状に配置されており、前橋台地での条里制地割りによる耕地の再開発が同一の区画でなされていたといえる<sup>2)</sup>。また、「老町畑」「前田」という遺跡の地名からも、本遺跡周辺に条里制地割りが残っていることが想定される。地名が歴史的な資料としていかに高い価値を持つかは周知の事実である。そこで、明治14年地理雑件「小字名調査」で調べてみると、本地域には、他にも下記のような、水田に関係する小字名が多数存在することがわかった。太字は、遺跡名となった小字名である。

鶴光路村……**西田**、前田、伊勢田、老町畑

新潮村……北田、九反田、七反田、前田

下阿内村……八反田、下田、八ッ田

また、地理雑件「小字名調査」の総索引として、平成8年に作成された、「群馬県小字名索引」(群馬地名研究会)によれば、群馬県内に「老町畑(いっちょうはた、いっちょうはた)」という小字名は本遺跡を含め5ヶ所、「老町田、一町田、老丁田、一丁田」(いっ

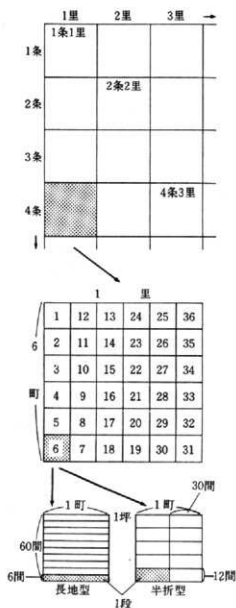


図1 条里模式図(群馬県史より)

ようた、いっちょうだ、いっちょだ)は30ヶ所ある。本遺跡の小字名「宍町畑」は、条里制に基づく一町方格(一坪)を単位とする地割りが地名の由来になったと思われる。

### (3) 検出された大畦(坪境畦畔)と条里制地割り

下阿内宍町畑・下阿内前田遺跡でも坪境畦畔と想定される大畦が検出され、条里制地割りが看取できた。図2は、調査で検出された、As-B下水田の実測図の大畦上に、方一町(109m)のライン(色刷り)及び国家座標に基づくグリッドライン(20m方眼)を重ね合わせた図である。その結果、国家座標に基づくグリッドに比べて、109mのライン(条里制地割り)の南北軸がやや西に傾いていることがわかった。このことから、南北方向の大畦が座標北に対してやや西に傾いていることが明らかとなった。また、調査によって、方一町を区切る大畦(坪境畦畔)が5本(1・3・4・7・8号大畦)検出され、7本の大畦推定ライン上には、中世の遺状遺構・近世～近代の溝(水路)等が確認された。1～5号大畦は南北走行、6～12号大畦は東西走行の方一町を区切る坪境畦畔であると想定される。検出された大畦の詳細は以下の通りである。

#### 南北走行の大畦

1号大畦は、前田遺跡A-2～4区・B-1・2区で、検出され、規模は幅1.00～3.00m、高さ0.01～0.05m、方位はN-0°～N-3°-Wである。2号大畦は、C-2区(2a号畦)とD-1区(2b号畦)で検出された2本の縦畦のうちの一つと推定されるが、この問題は後述したい。3号大畦は、宍町畑遺跡6区で検出され、規模は幅0.78～1.54m、高さ0.01～0.05m、方位はN-0°である。4号大畦は、宍町畑遺跡4区で検出され、規模は幅0.62～1.34m、高さ0.01～0.07m、方位はN-5°-Wである。5号大畦は、4号大畦から西へ約109mの付近にあったと推定される。検出された大畦は、ほぼ座標北を向いている。

#### 東西走行の大畦

6号大畦は、下阿内前田遺跡A-2区中央部とA-6区南端にあったと推定されるが、後世の掘乱のため溝等の遺構も検出できなかった。7号大畦は、下阿内前田遺跡A-4・9区で検出され、規模は幅1.00～2.12m、高さ0.03～0.04m、方位はN-90°である。8号大畦は、下阿内前田遺跡B-6区で検出され、規模は幅0.66～1.78m、高さ0.01～0.06m、方位はN-90°である。9号大畦は、B-8区の中世に比定される遺状遺構付近にあったと推定される。10号大畦は、C-1区の中世に比定される1号溝と2号溝の間にあったと推定される。11号大畦は、D-2区の中世に比定される1号溝付近にあったと推定される。12号大畦は、下阿内宍町畑遺跡2区と8区北側にあったと推定されるが、後世の掘乱のため溝等の遺構も検出できなかった。

初めに、南北走行の2号大畦がどの位置にあったか考えてみたい。南北方向の大畦は、1号・3号・4号と3本検出された。3・4号大畦については、北側の西田遺跡でも検出されているので、方一町を区切る坪境畦畔であるのは間違いないと考える。1号大畦については、南側の下阿内前田遺跡E区、北側の鶴光路榎橋遺跡の調査では、後世の削平を受けていてAs-B下水田が検出できず、1号大畦が坪境畦畔であるかどうかの確認は得られなかった。しかし、1号大畦は幅も広く、両端には水路(下阿内前田遺跡A区1・2号溝)も検出され、坪境畦畔である可能性が高い。2号大畦と想定されるのは、2a号畦か2b号畦であるが、ともに幅・高さなどの規模がほぼ同じで、1号大畦同様、北側・南側の他の遺跡でも検出されていない。もう一つ問題となる点は、1号大畦と3号大畦から2号大畦までの距離である。1号大畦～2a号畦の距離は約109m、1号大畦～2b号畦推定の距離は約120m、3号大畦～2b号畦の距離は約109m、3号大畦～2a号畦の距離は約120mになっているのである。2a号畦と2b号畦の間には、現在は圃場整備時に造られた農業用水路があり、方一町を区切る大畦が溝がその位置にあったとも考えられるが、2a号畦と2b号畦の距離が短ず



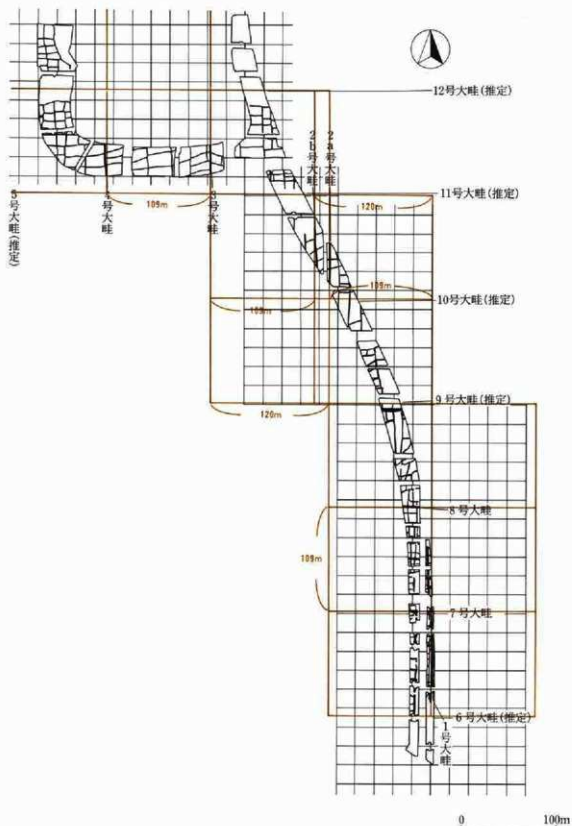


図2 下阿内志町畑道跡・前田道跡のAs-B下水田と条里制地割り

ぎるので、この点も疑問が残る。筆者は、2号大畦は、2a号畦か2b号畦かのどちらかであると考え。では、どうして、このように大畦の距離にずれが生じたのだろうか？その理由としては以下の3点が考えられる。1点目としては、当時の水路・畦等は、造成当初のものが変わらずにそのまま残っているというのではなく、新たに造り替えながら存続していくために、大畦・水路の位置にもずれが生じてきていること。2点目には、条里地割りの造成時に、土地の起伏等の地形的な制約を受けて、距離・方位に僅かなずれが生じた可能性。3点目には、条里制地割りの施行する時に、同時期に同一の区画で実施されたと考えるのが一般的だが、施行時の時期のずれ、起点のずれがあった可能性が考えられる。

次に、東西方向の大畦について考えてみたい。検出された3号大畦～4号大畦の距離、7号大畦～8号大畦の距離は、約109mであり、5・6号・9～12号大畦推定ラインは、検出された大畦から約109mの距離を測るライン上に想定してみた。その結果、3本の大畦推定ライン上には、中世の遺状遺構（9号大畦）・近世～近代の溝（10・11号大畦）が検出された。このことは、条里制地割りの方一町を区切る場合に、水田の大畦以外に、道・水路を基準にしたのか、水田の大畦だった場所を、後世の水路や道路に造り替えたのだろうと考えられる。

## 第2節 調査のまとめ

### 1. 下阿内老町畑遺跡

下阿内老町畑遺跡では、1区微高地から古墳時代の円形建物跡・竪穴状遺構・土坑・井戸・溝、2区からは古墳時代後期の水田跡、1～8区からは平安時代の水田跡、10区からは中世の館に伴う区画溝、7区からは灰掻き穴、1～3区・5～7区からは近世～近現代の溝が検出された。調査の結果、1区東側調査区は、微高地が広がり、1区西側～10区は低地部分であることが明らかとなった。また、本遺跡では、遺構外から縄文時代の石鏃が出土しているが、旧石器時代から弥生時代までの遺構は確認できなかった。

検出できた最も古い遺構は、1区微高地で検出された古墳時代前期の土器集積・土坑・井戸・溝であり、各遺構からはS字状口縁台付甕等の土師器が多数出土した。特に、1号土器集積では、台付甕・高坏等の十数点の土師器が人為的に壊され、集積されていた。また、17号土坑からは、ミニチュア土器・農具と思われる木製品、3号井戸からは胴部に人為的に穿孔した跡の残る小型のS字状口縁台付甕、土坑や井戸の密集するグリッド近くの遺物包含層からは4点の石製模造品が出土した。さらに、付図4に図化したように、異なる遺構（1号土器集積と5号土坑、2号土坑と15号土坑、12号土坑と17号土坑）から出土した遺物が接合しており、出土位置から考えて、人為的に同一の土器を壊して別々の遺構に納めたとと思われる。「人為的に壊され集積された土器」「土坑に納められたミニチュア土器・農具」「井戸に納められた、胴部に穿孔のある小型台付甕」「遺物包含層から出土した石製模造品」「異なる遺構に納められた土器」等、以上のことから、この付近で何らかの祭祀が行われた可能性が想定される。古墳時代後期の遺構では、2区でHr-Fa下水田が検出された。平安時代の遺構では、As-B下水田が調査区のほぼ全域で検出された。また、1区微高地の1号土坑墓からは人骨と漆器（漆片）が出土した。人骨は、歯の歯冠部（16本）のみで、被害者は死亡年齢約21歳から25歳の成人女性1体であると鑑定結果（第5章第1節参照）が出ている。また、漆器の木地には、漆器でも上等な部類に入る「ケヤキ」を利用していた可能性があるという同定結果（第5章第2節参照）が出ている。中世では、館の区画溝が、近世～近現代では水田等に伴う水路と思われる溝・灰掻き穴が検出された。特に、灰掻き穴は、1783年（天明3年）As-A軽石降下後、耕地（水田・畠）を復旧するためにAs-A

軽石を集めて埋めるために掘られた遺構であり、この時代にも本地域に水田地帯が広がっていたことを物語っている。

## 2. 下阿内前田遺跡

下阿内前田遺跡では、E区から古墳時代前期の水田跡、A・B区から古墳時代前期の溝・土坑、C・D区から古墳時代のピット、A～D区からは平安時代の水田跡、A・B区からは中世に比定される溝・井戸・道状遺構、C・D・E区からは灰掻き穴（復旧溝）、A～D区からは近世～近現代の溝が検出された。調査の結果、本遺跡のほとんどが低地部分であることが明らかとなった。また、本遺跡でも、遺構外から縄文時代中期の土器片、石鏃が出土しているが、旧石器時代から弥生時代までの遺構は確認できなかった。

検出できた最も古い遺構は、古墳時代前期でA・B区の溝・土坑、E区のAs-C混土上水田跡である。平安時代の遺構では、As-B下水田がE区を除く調査区のほぼ全域で検出された。また、B区で実施したプラントオパール分析の結果（第5章第3節参照）から、当時の調査区周辺はヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われたことが検証されている。中世では、水田等に伴う溝・井戸が、近世～近現代では水田等に伴う水路と思われる溝・灰掻き穴（復旧溝）が検出された。特に、C・E区で検出された灰掻き穴では、C区1号灰掻き穴は6条、E区は17条の溝状を呈して規則的に掘削されており、当時（江戸時代）の農民たちの災害復旧の方法の違いが看取できる遺構である。

このように、下阿内壱町畑遺跡・下阿内前田遺跡の両遺跡はともに、現利根川と旧利根川に挟まれた、前橋台地上の後背湿地に立地し、古墳時代（As-C混土上水田・Hr-FA水田）～平安時代（As-B下水田）～江戸時代（As-A軽石灰掻き穴・復旧溝）、そして近・現代とこの地域の稲作を中心とする生産域としての役割を果たしてきたといえる。特に、As-B下水田は、周辺の低地部分のほとんどの遺跡で確認されており、条里水田という古代土地制度の解明と、古代社会の景観復元の有効な資料となりつつある。なお、下阿内壱町畑遺跡1区微高地には古墳時代前期の祭祀域とも想定される遺構群（土器集積・土坑・井戸）が確認され、下阿内前田遺跡E区ではAs-C混土上水田（生産域）が検出されており、この時代の集落域がどこにあったのかの解明が残された課題である。

本遺跡の位置する前橋南部周辺地域では、北関東自動車道に伴う事前調査である西田遺跡・横手湯田遺跡・鶴光路榎橋遺跡・徳丸仲田遺跡（すべて当事業団調査）等の調査が終了しており、さらに、この地域の歴史が明らかになることを期待して、本稿のまとめとしたい。

【引用文献】 1) 玉村町の遺跡 玉村町教育委員会 1992年  
 【参考文献】 群馬県史 通史編（原始古代2） 1991年  
 地理雑件「小字名調査」 1880年（明治14年）  
 宮地中田遺跡 前橋市埋蔵文化財調査団 1997年

2) 横手湯田遺跡Ⅲ 前橋市埋蔵文化財調査団 1998年  
 新編 高崎市史 資料編2（原始古代Ⅱ） 2000年  
 群馬県小字名索引 群馬地名研究会 1996年

## 発掘調査報告書抄録

ふりがな	しもあうちいーちょうほたいせき、しもあうちまんだいせき
書名	下阿内壱町畑遺跡、下阿内前田遺跡
副書名	主要地方道前橋玉村線改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第278集
編著者名	今井 和久
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北横村大字下箱田784-2 Tel 0279 (52) 2511
発行年月日	平成13 (2001) 年3月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもあうちいーちょうほた 下阿内壱町畑	ぐんまけんまんだいせき しし 群馬県前橋市 にいほりまら しもあうちまら 新堀町・下阿内町	10201	00524	36°19'40"	139°06'09"	19980601	18,746	道路建設
						19981231		
しもあうちまんだい 下阿内前田	ぐんまけんまんだいせき しし 群馬県前橋市 しもあうちまら 下阿内町	10201	00556	36°19'24"	139°06'26"	19990101	18,633	道路建設
						19990630		
						20000201		
						20000331		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
下阿内壱町畑	住居	古墳時代	円形建物1棟、土器集積1基 土坑24基、溝15条、井戸4基	古式土師器、 石製模造品	祭祀遺構 Hr-FA下水田	
			生産	古墳時代 水田		土師器
	墓	平安時代	土坑墓1基、土坑1基	須恵器、木器	As-A軽石灰掻き 穴	
			生産	平安時代 水田		陶磁器
			中近世	灰掻き穴7基、溝8条		
下阿内前田	生産	古墳時代	水田、土坑20基、溝18条	土師器 銅銭、陶磁器 板碑	As-C混土上水田  As-B下水田 As-A軽石復旧溝	
	生産	平安時代	水田、土坑4基、溝33条			
	墓	中近世	土坑墓1基、土坑14基、井戸1基 溝45条、灰掻き穴4基・復旧溝1 条			

下阿内壺町畑  
写真図版





下阿内老町畑遺跡遠景（南上空より）



下阿内老町畑遺跡遠景（東上空より）



老町畑5区11号溝 (西より)



老町畑5区11号溝セクション (北より)



老町畑2区15・16号溝 (上空より)



老町畑3区16号溝 (北西より)



老町畑5区17号溝 (上空より)





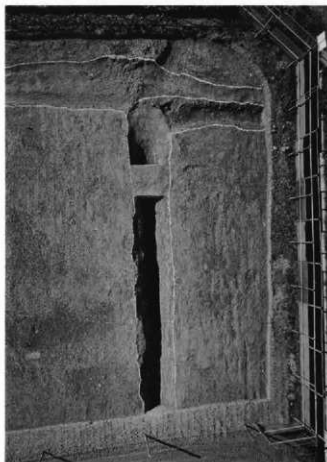
志町畑6区18号溝 (上空より)



志町畑7区19号溝 (上空より)



志町畑10区20号溝 (上空より)



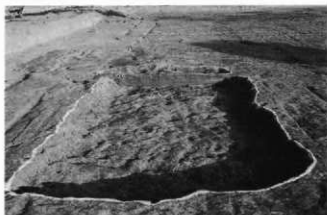
志町畑10区21号溝 (上空より)



志町畑10区21号溝 (東より)



志町畑7区1～6号灰掻き穴 (北より)



志町畑7区7号灰掻き穴 (西より)



志町畑1区6号土坑 (南より)



志町畑1区1号土坑墓 (北より)



志町畑1区As-B除去作業 (南より)



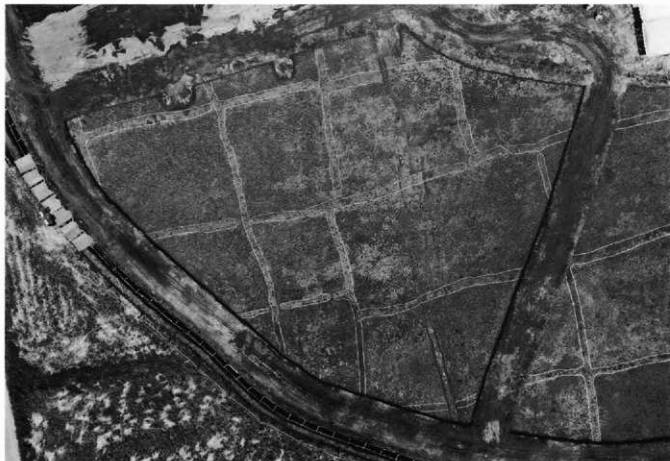
志町畑4区As-B除去作業 (西より)



宅町畑1区As-B下水田全景（上空より）



宅町畑2区As-B下水田全景（上空より）



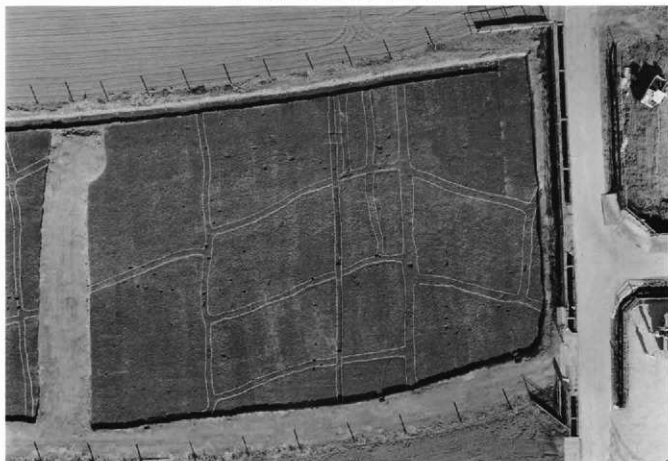
沓町畑3区As-B下水田全景（上空より）



沓町畑4区As-B下水田全景（上空より）



志町畑5区As-B下水田全景（上空より）



志町畑6区As-B下水田全景（上空より）



志町細 7 区As-B 下水田全景 (上空より)



志町細 8 区As-B 下水田全景 (上空より)



沓町畑1・2区As-B下水田(南より)



沓町畑3・4区As-B下水田(東より)



沓町畑3区As-B下水田水口(南より)



沓町畑5・6区As-B下水田(東より)



沓町畑6区As-B下水田3号大畦(南より)



沓町畑5区1号足跡列(南西より)



沓町畑 8区 2号足跡列 (北東より)



沓町畑 7・8区As-B下水田 (南より)



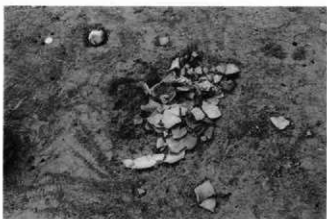
沓町畑 1区 1号円形建物跡 (南東より)



沓町畑 1区 1号土器集積全景 (北より)



沓町畑 1区 1号土器集積部分No 1 (北より)



沓町畑 1区 1号土器集積部分No 2 (北より)



沓町畑 1区 1号土器集積部分No 3 (北より)





志町畑1区1号土坑遺物出土状況(東より)



志町畑1区2号土坑遺物出土状況(南東より)



志町畑1区4号土坑全景(南より)



志町畑1区5号土坑遺物出土状況(南より)



志町畑1区7号土坑セクション(南より)



志町畑1区8号土坑セクション(南より)



志町畑1区9号土坑セクション(北より)



志町畑1区10号土坑セクション(南より)



老町畑1区11号土坑セクション(西より)



老町畑1区14号土坑セクション(西より)



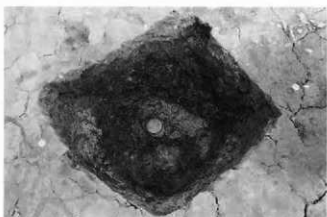
老町畑1区15号土坑セクション(南より)



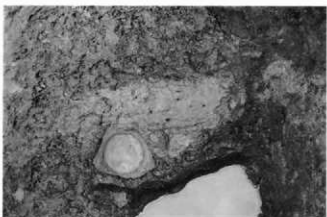
老町畑1区16号土坑セクション(南より)



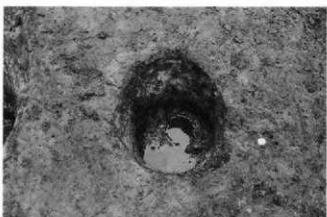
老町畑1区17号土坑セクション(北より)



老町畑1区17号土坑全景(北より)



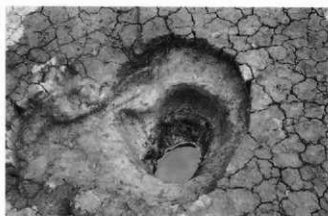
老町畑1区17号土坑遺物出土状況(北より)



老町畑1区18号土坑全景(北より)



沓町畑1区1号井戸全景（東より）



沓町畑1区2号井戸全景（東より）



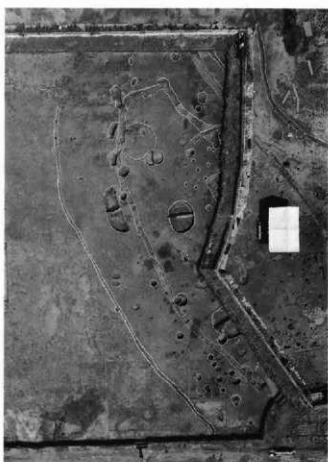
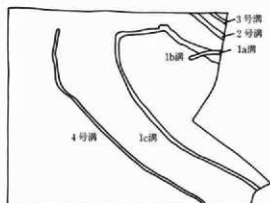
沓町畑1区3号井戸全景（南より）



沓町畑1区3号井戸遺物出土状況（北より）



沓町畑1区4号井戸全景（北より）



沓町畑1区微高地1a・b・c、2～4号溝全景（上空より）



志町畑2区5号溝全景 (西より)



志町畑2区7号溝全景 (東より)



志町畑2区7号溝遺物出土状況 (南東より)



志町畑3区8号溝全景 (北より)



志町畑4区9・10号溝全景 (北より)



志町畑5区12号溝全景 (西より)



志町畑6区13・14・22号溝全景 (東より)



老町畑1区1号風倒木痕セクション (東より)



老町畑1区2号風倒木痕セクション (北より)



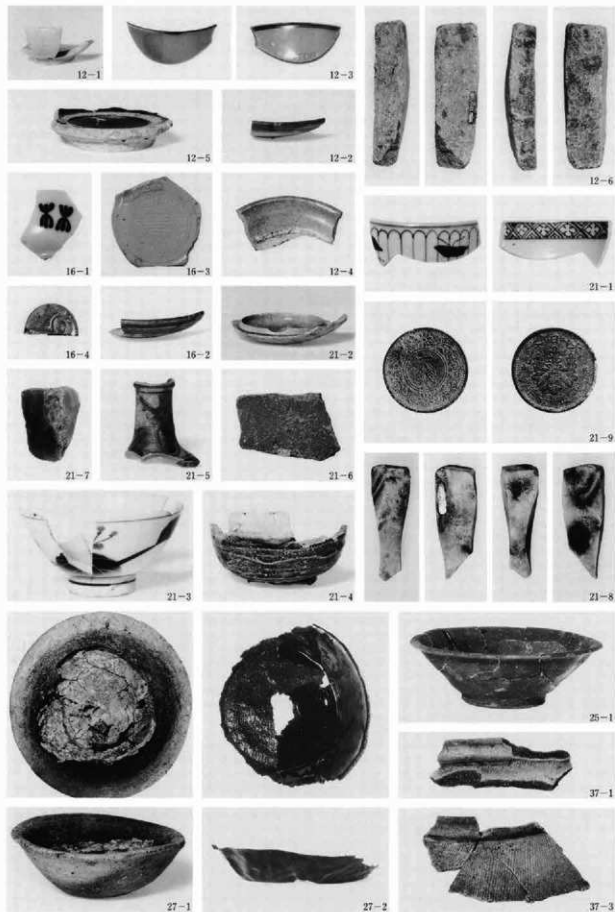
老町畑1区3号風倒木痕セクション (西より)



老町畑1区4号風倒木痕セクション (北西より)



老町畑2区Hr-FA下水田全景 (東より)



皂町畑11・16・20号溝、6号土坑、1号土坑墓、1号土器集積出土遺物



37-4



37-2



38-5



38-6



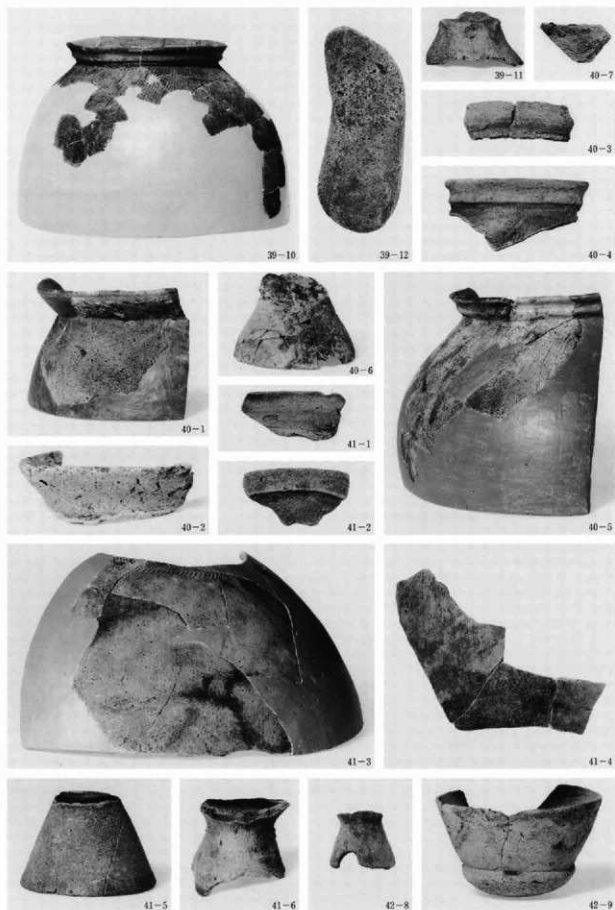
38-7



38-8



38-9



志町畑1号土器集積、1・2号土坑出土遺物

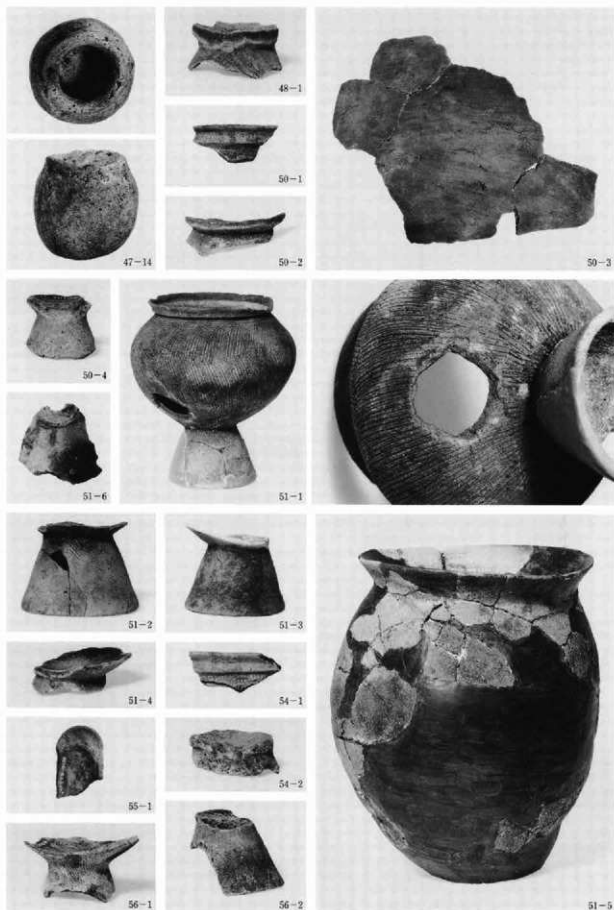




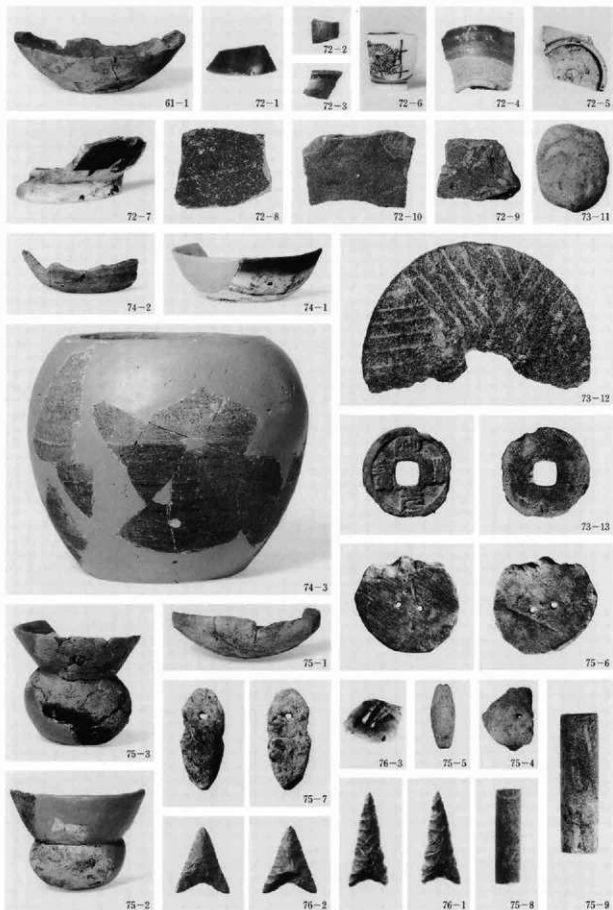
宅町畑 2・4・5・7・10・12・14~16号土坑出土遺物



志町畑17号土坑出土遺物



志町畑17・18号土坑、1c・2・4号溝、2・3号井戸出土遺物



老町畑7号溝・遺構外出土遺物

田 前 内 阿 下  
版 图 真 写





下阿内前田遺跡遠景（北西上空より）



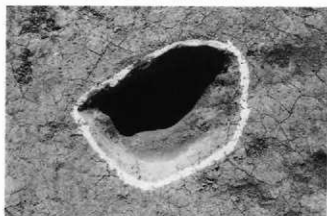
下阿内前田遺跡遠景（西上空より）



前田A区2号土坑全景（北より）



前田A区3号土坑全景（北より）



前田A区4号土坑全景（北より）



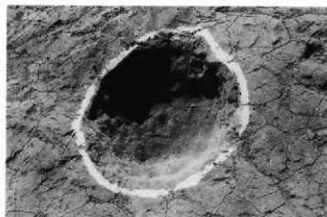
前田A区5号土坑全景（北より）



前田A区6・7号土坑全景（北より）



前田A区8号土坑全景（北より）



前田A区9号土坑全景（北より）

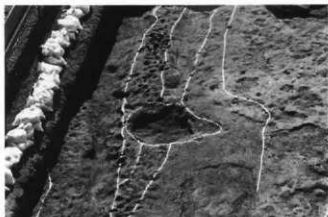


前田A区10号土坑全景（北より）





前田A区11号土坑全景（北より）



前田A区13号土坑全景（北より）



前田A区14号土坑全景（東より）



前田A区6号溝セクション（南より）



前田A区6号溝全景（南より）



前田A区6号溝円礫出土状況（西より）



前田A区6号溝遺物出土状況（北より）



前田A区7号溝全景（北より）



前田A区8号溝全景（北より）



前田A区19・20号溝全景（西より）



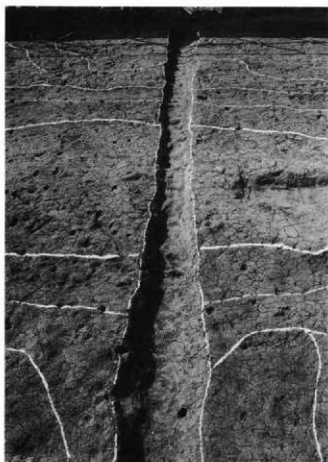
前田A区29号溝全景（南より）



前田A区31号溝全景（東より）



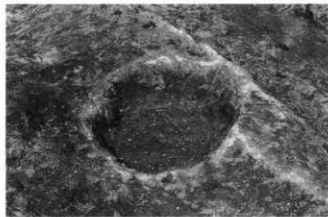
前田A区35号溝全景（東より）



前田A区36号溝全景（東より）



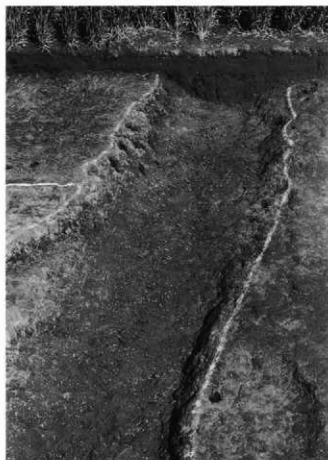
前田A区38号溝全景（東より）



前田B区20号土坑全景（南より）



前田B区1号井戸全景（南より）



前田B区2a号溝全景（西より）



前田B区2b・c号溝全景（西より）



前田B区3号溝石組全景（北より）



前田B区3号溝石組全景（東より）



前田B区2c・5a・5b・6～8号溝全景（東より）



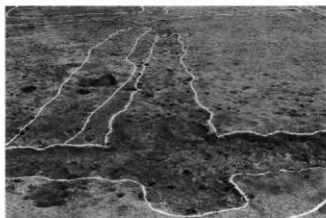
前田B区3・4・9・10号溝全景（南より）



前田B区14号溝全景（東より）



前田B区16・18号溝全景（西より）



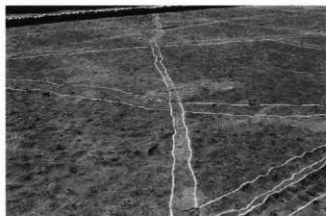
前田B区17号全景（北より）



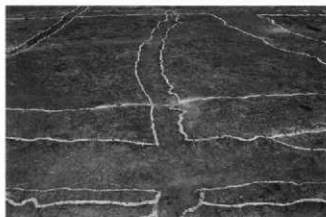
前田B区19・23号全景（北より）



前田B区19・23号全景（南より）



前田B区20号全景（南東より）



前田B区22号全景（西より）



前田B区24・30号全景（南西より）



前田B区25号全景（西より）



前田B区26号全景（西より）



前田B区28号溝全景 (西より)



前田B区29号溝全景 (東より)



前田B区道状遺構全景 (西より)



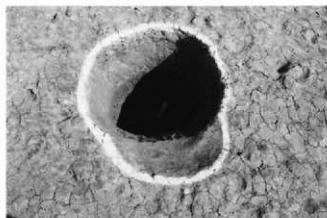
前田C区1・2号溝、1・2号灰播き穴全景 (北西より)



前田D区1・2a・2b号溝全景 (西より)



前田D区1号溝全景 (東より)



前田E区1号土坑墓全景 (南より)



前田E区1号土坑墓出土状況 (西より)



前田E区1号復旧溝全景 (西より)



前田E区1号復旧溝セクション





前田A区1号土坑全景（北より）



前田A区11号溝全景（東より）



前田A区16号溝全景（南東より）



前田A区21号溝全景（東より）



前田A区23号溝全景（東より）



前田A区24号溝全景（北より）



前田A区26・27・28号溝全景（南より）



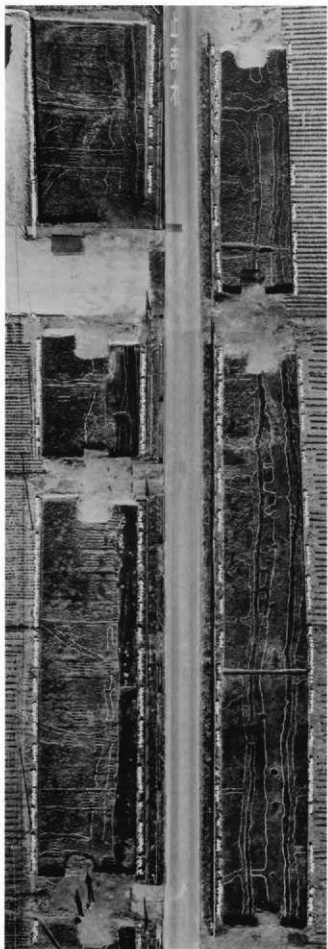
前田A区30号溝全景（東より）



前田A区32・33号溝全景（東より）



前田A区34号溝全景（東より）



前田A区As-B下水田全景 (天・北)



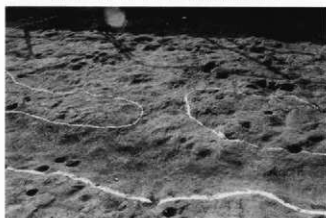
前田A区As-B下水田全景 (北より)



前田A-9区As-B下水田5号大畦 (北より)



前田A-3区As-B下水田1号大畦 (南より)



前田A-3区As-B下水田水口 (東より)



前田B区1号溝全景（西より）



前田B区15号溝全景（北より）



前田B区21号溝全景（西より）



前田B区As-B下水田全景（天・北）



前田B区As-B下水田全景（北より）



前田B区As-B下水田全景（南より）



前田B-1区As-B下水田1号大畦（南より）



前田B-4区As-B下水田（南より）



前田B-2区As-B下水田1号大畦（南より）



前田B-4区As-B下水田水口・11号溝（東より）



前田C-1区As-B下水田全景(天・北)



前田C-2区As-B下水田全景(天・北)



前田D-1区As-B下水田全景(天・北)



前田D-2区As-B下水田全景(天・北)



前田E区2号土坑全景（西より）



前田E区3号土坑全景（東より）



前田E区5号土坑全景（東より）



前田E区1号溝全景（北より）



前田E区2号溝全景（西より）



前田E区As-B下面全景（東より）



前田A区2号土坑全景（北より）



前田A区39~41号溝全景（北より）



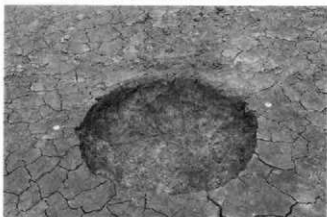
前田A区40号溝・12号土坑全景（東より）



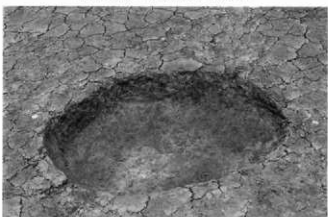
前田A区39・41号溝全景（南より）



前田A区42・43号溝全景（北より）



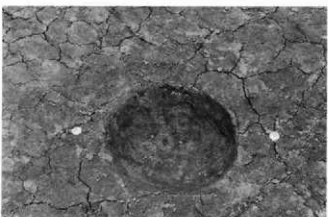
前田B区1号土坑全景（南より）



前田B区2号土坑全景（南より）

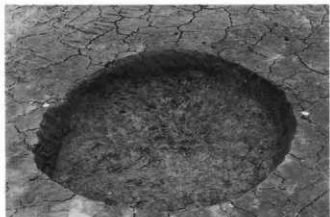


前田B区3号土坑全景（南より）

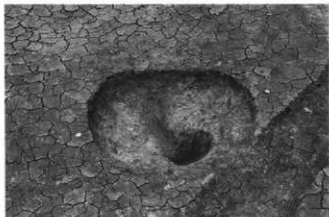


前田B区4号土坑全景（南より）





前田B区5号土坑全景 (南より)



前田B区6号土坑全景 (南より)



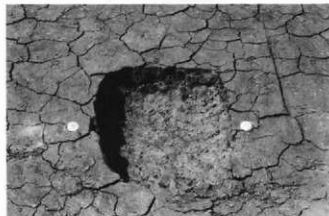
前田B区7号土坑全景 (南より)



前田B区8号土坑全景 (南より)



前田B区9号土坑全景 (南より)



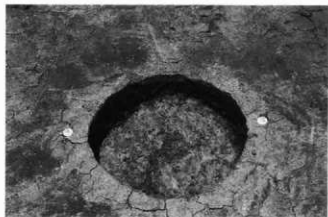
前田B区10号土坑全景 (南より)



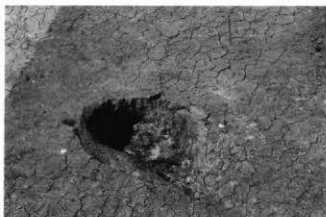
前田B区11号土坑全景 (南より)



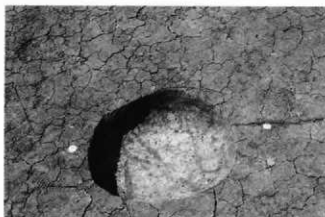
前田B区12号土坑全景 (南より)



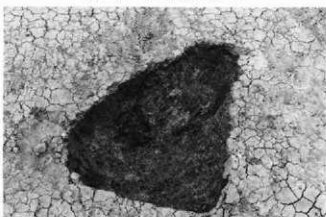
前田B区13号土坑全景 (南より)



前田B区14号土坑全景 (南より)



前田B区15号土坑全景 (南より)



前田B区16号土坑全景 (南より)



前田B区17号土坑全景 (南より)



前田B区32号溝全景 (北西より)



前田B区33号溝全景 (北東より)



前田B区34号溝全景 (北東より)



前田B区35号溝全景（北東より）



前田B区36号溝全景（南西より）



前田B区37号溝全景（南西より）



前田B区38号溝全景（南西より）



前田B区39号溝・18号土坑全景（南東より）



前田B区40・41号溝全景（東より）



前田B区42号溝全景（北西より）



前田B区43号溝全景（南東より）



前田E区4号土坑セクション (南より)



前田E区4号土坑全景 (南より)



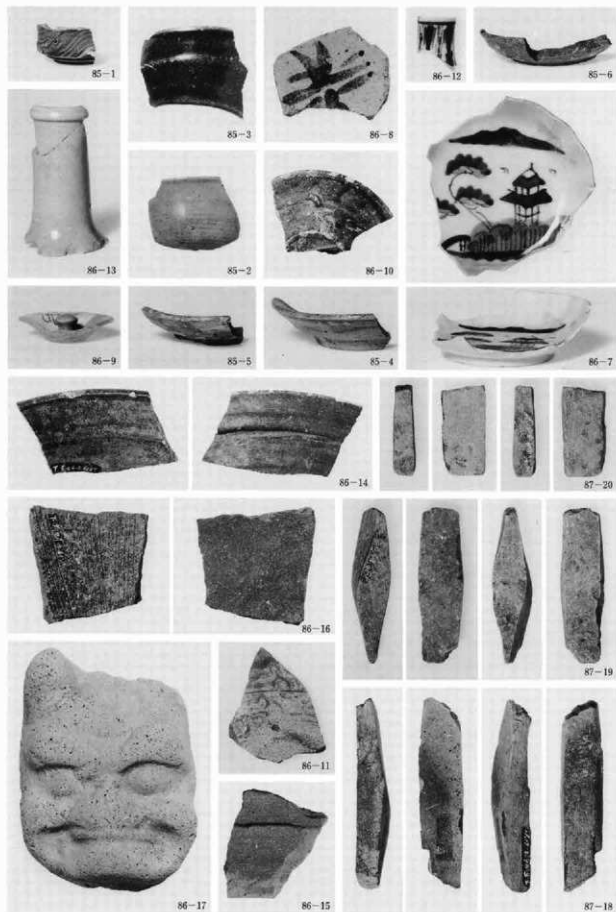
前田E区As-C混土上水田全景 (南西より)



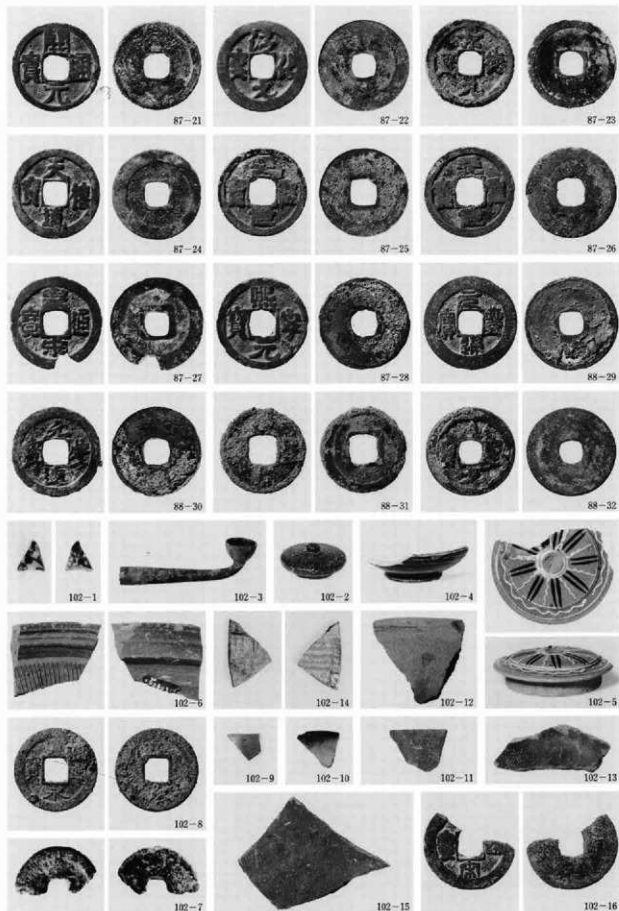
前田E区As-C混土上水田全景 (東より)



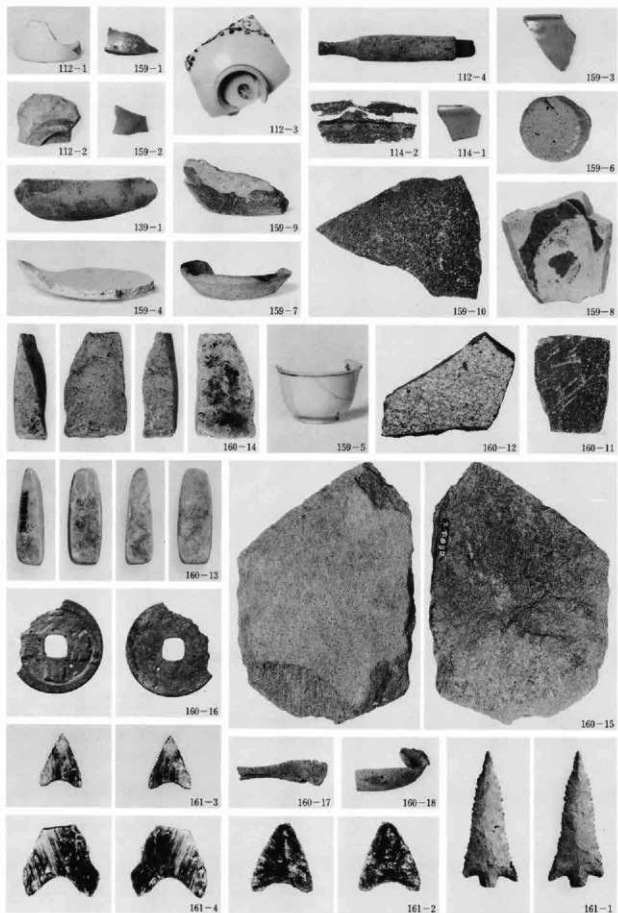
前田E区As-C混土上水田全景 (北より)



前田A区6号溝出土遺物



前田A区6号溝、B区2b・3・4・5b号溝出土遺物



前田C区2号溝、D区1号溝、E区5号土坑、遺構外出土遺物

群馬県埋蔵文化財調査事業団  
発掘調査報告第278集

下阿内宍町畑遺跡  
下阿内前田遺跡

北陸新幹線建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第278集

平成13年(2001年)3月21日印刷

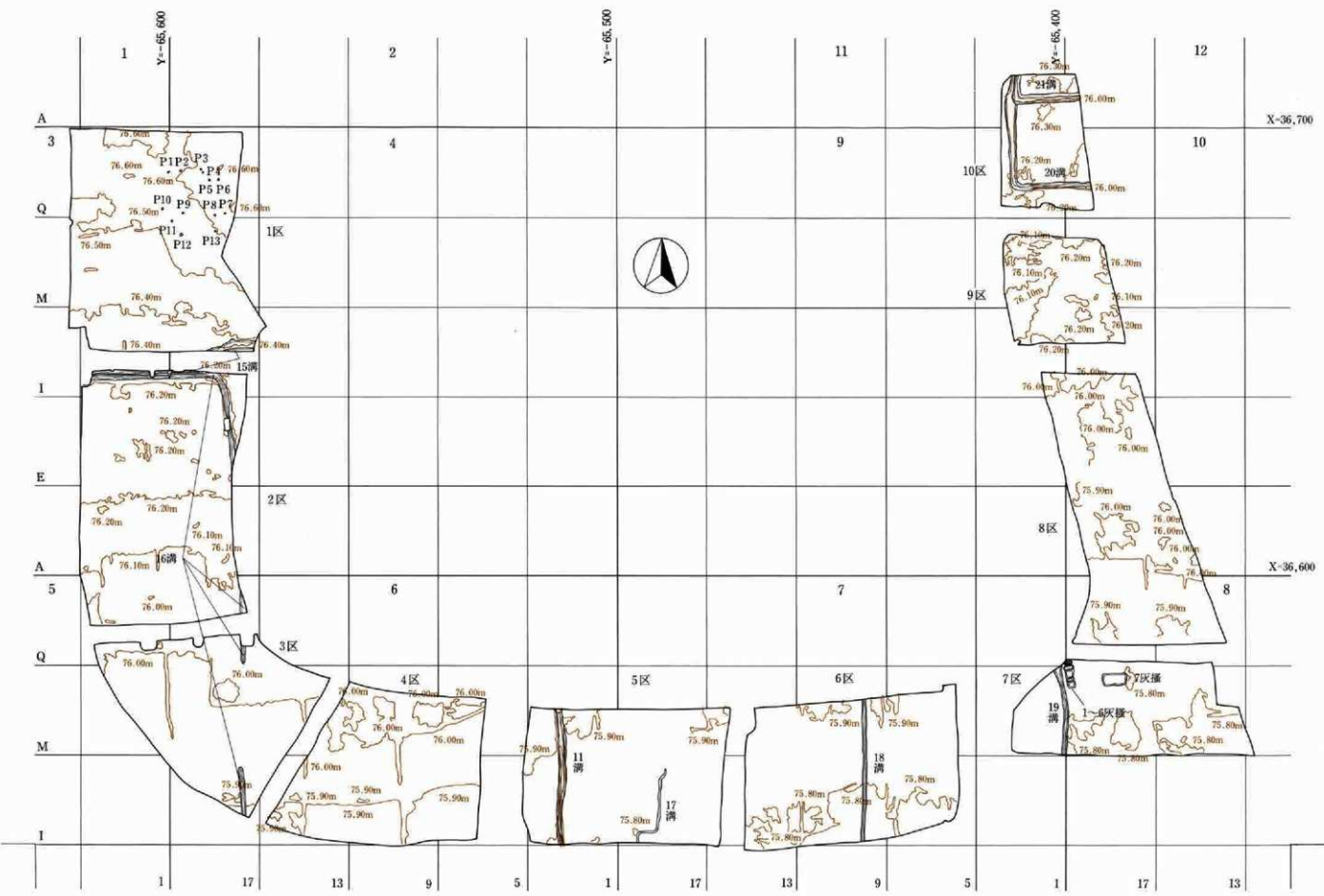
平成13年(2001年)3月30日発行

編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団  
発行／群馬県考古資料普及会

〒377-8535 群馬県勢多郡北碓村大字下稲田784番地02  
電話(0279)52-2511(代表)

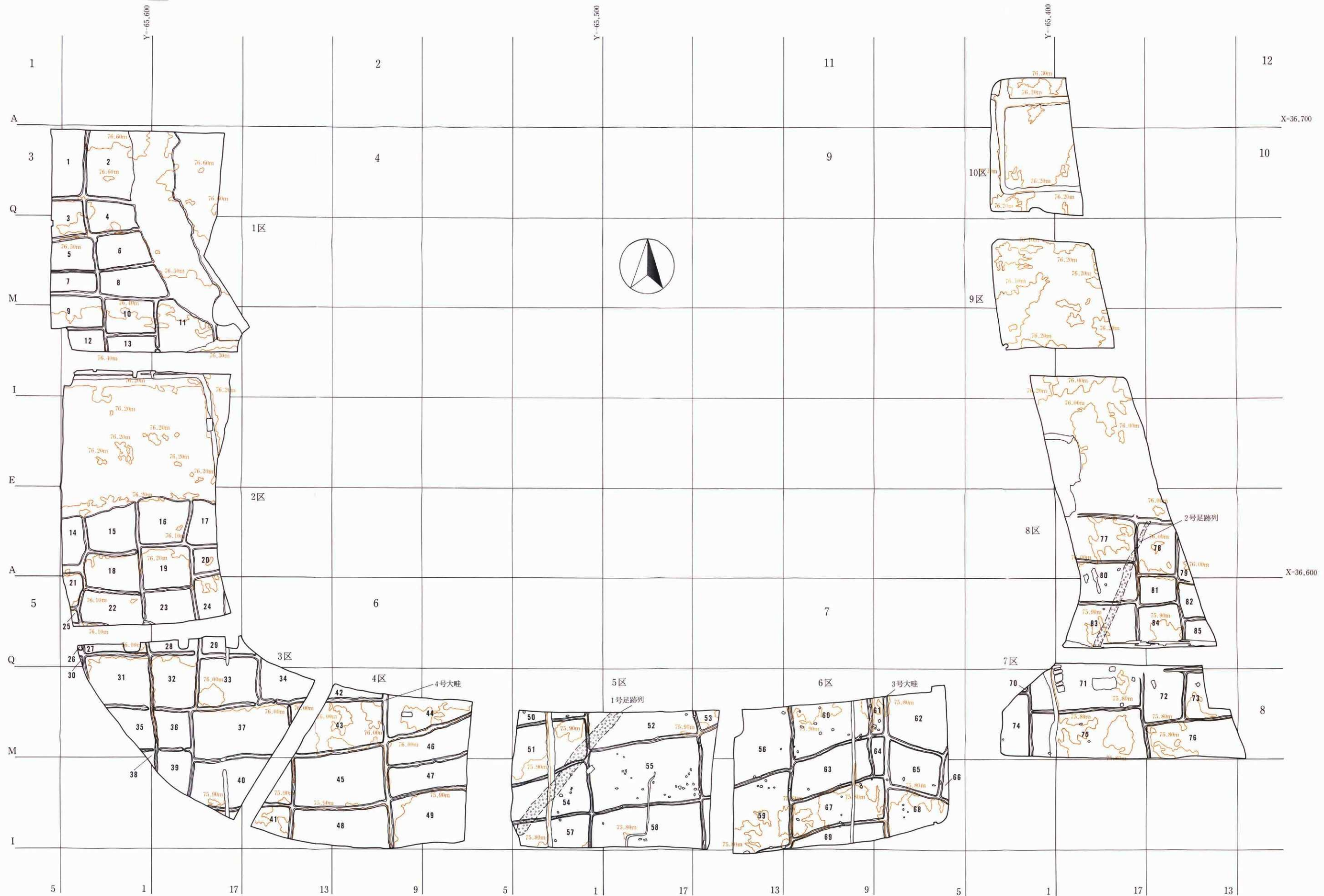
印刷／上毎印刷工業株式会社





付图1 下阿内町町烟道跡 中近世面全体图

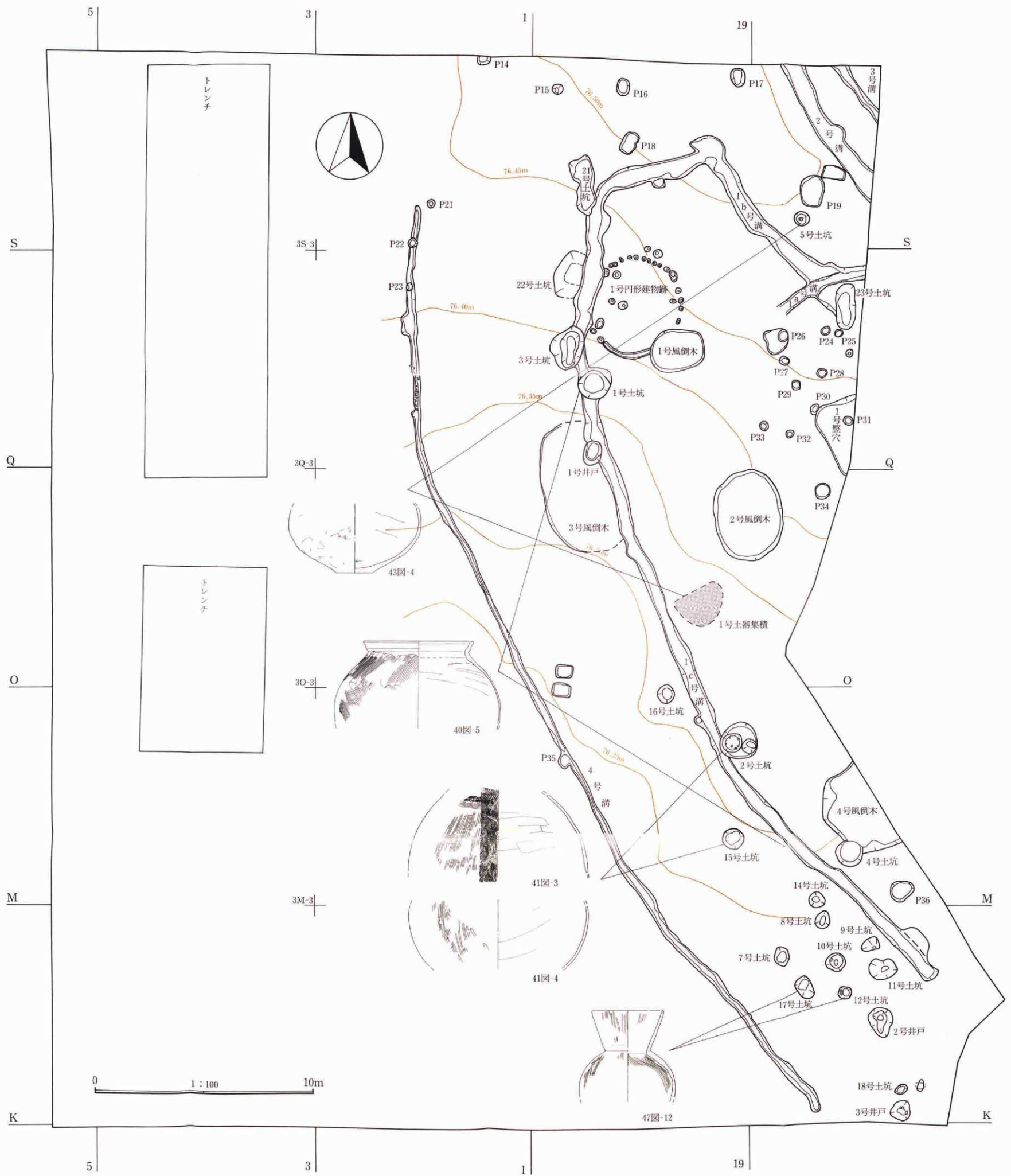
0 1 : 800 40m



付図2 下阿内壺町畑遺跡 As-B下(平安時代)面全体図



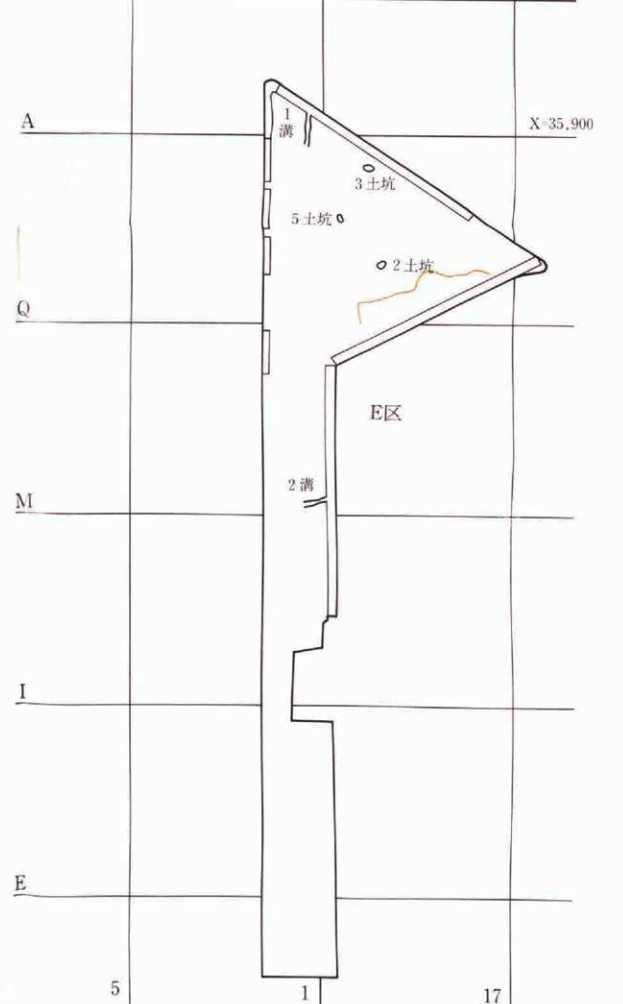
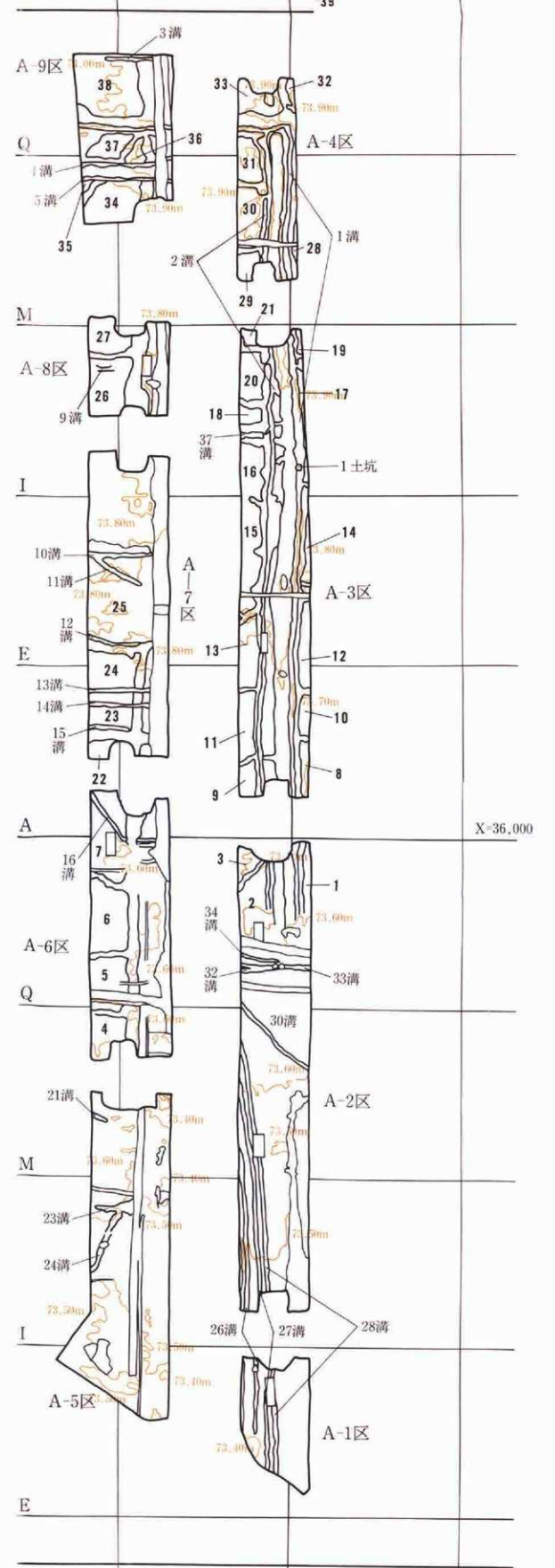
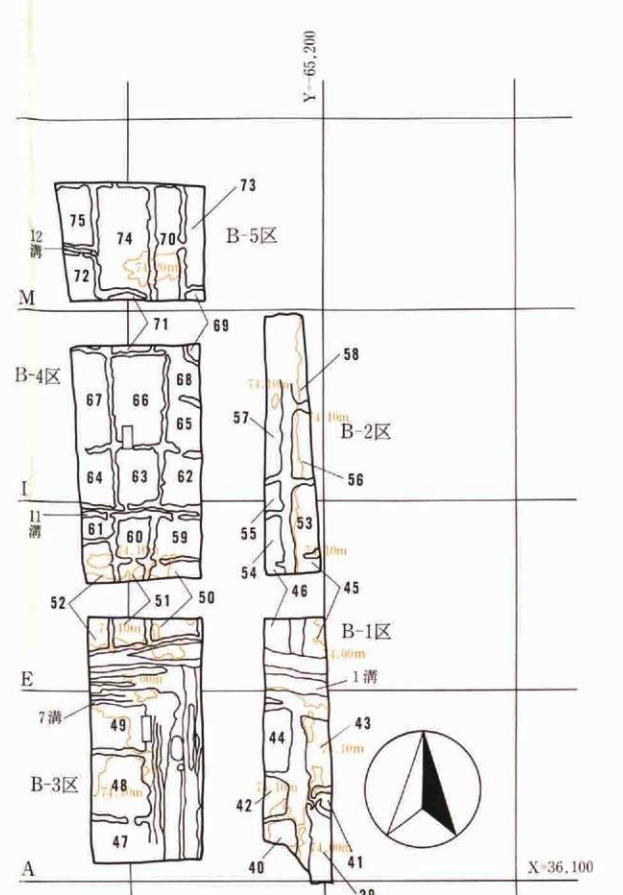
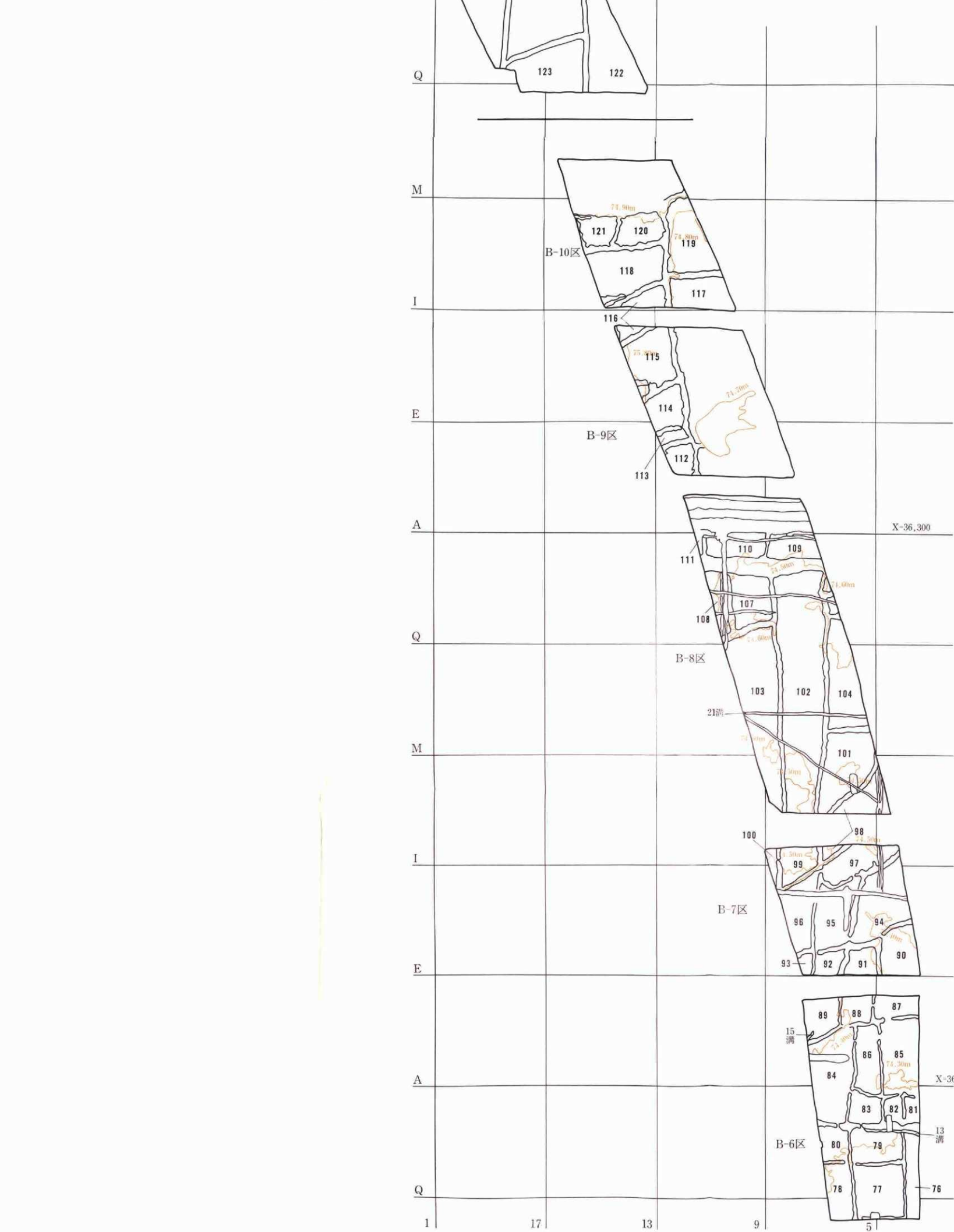


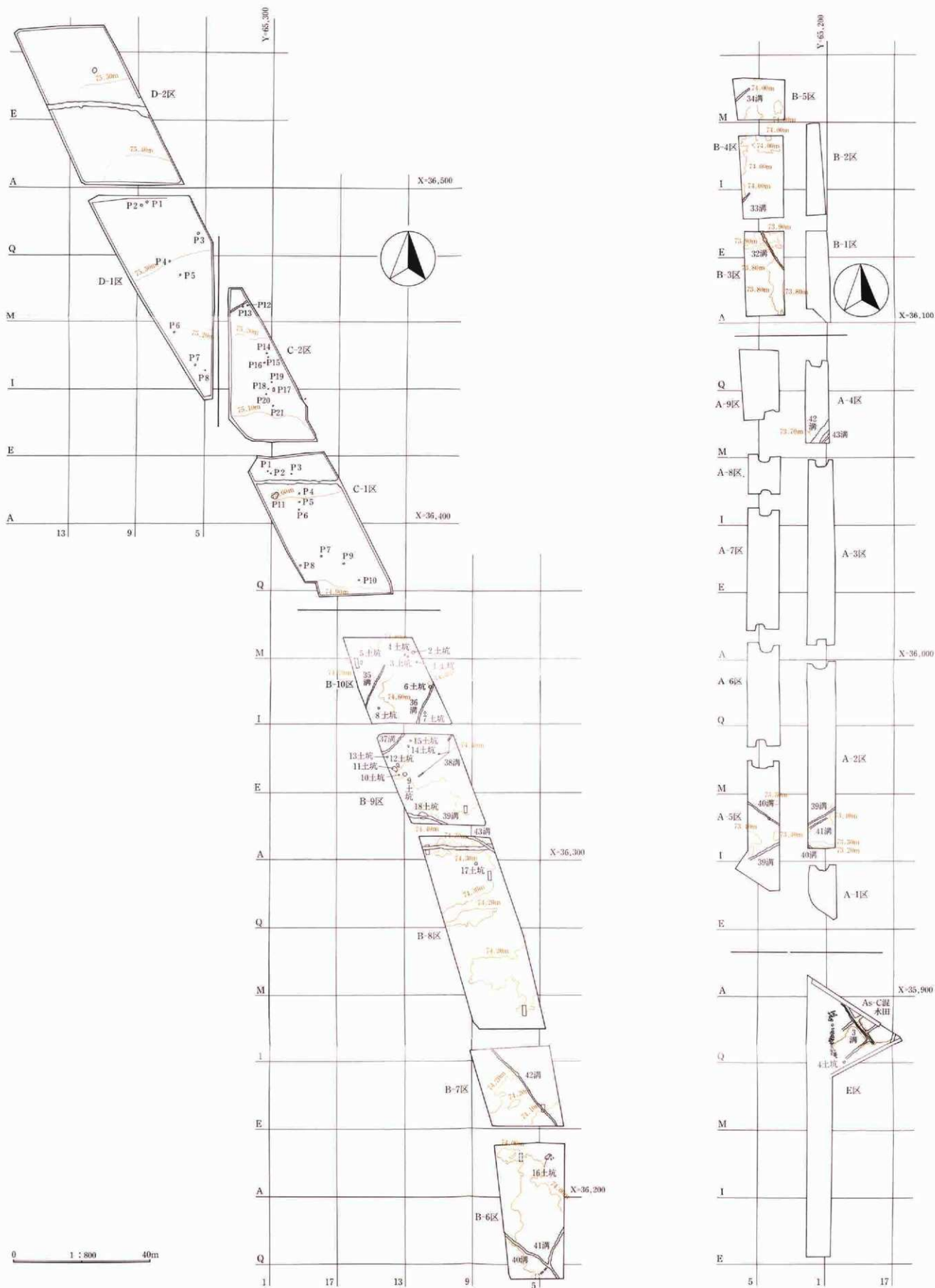


付図4 下阿内壱町畑遺跡1区As-C混(古墳時代)面全体図









付图7 下阿内前田遺跡 As-C混(古墳時代)面全体図